桜庭さん、あなたが負けたのは「新ルール」のせいですか？

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成13年4月26日発行（毎月第2・第4木曜日発行）第3巻・8号・通巻44号

4月1日、オープン!

フジテレビ『SRS』ご一行様もご来店!

	サダハルンバ谷川	グレート・アントニオ
モチベーション（猪木流テンション）	7	10
猪木流プロレス心	7	10
猪木流キラースピリット	6	10
猪木流場の論理	8	10
全体的な印象・インパクト（猪木流余韻）	9	10
合　計	37	50

古本屋やスポーツ用品店が建ち並ぶ神田の街に、にわかにオープンしてしまった『グレート・アントニオ』。4月6日には、フジテレビ『SRS』の収録も行われ、はせキョーや浅草キッドのお2人、大槻ケンヂさんも来店したぞ！

▲オープン直後、多くのお客様で賑わう店内。幸いお天気にも恵まれ、オープン前には１００人近くの行列もできるほどだった

キミたちは誰のファンなの？

ハイロウズぅ!!

『ＳＲＳ・ＤＸ』オフィシャルSHOPと銘打っているにも関わらず、オープン前に並んでいたのはなんと“ザ・ハイロウズ”ファン！これには思わずサダハルンバも「ん、ん、んあっ！」だ！

▲「工作キット SAKUベルト」（2,500円）をお父さんに買ってもらって嬉しそうな男の子。桜庭みたいにたくましく育ってね！

◀オープン初日には、バトラーツのアレクサンダー大塚さんも駆け付けてくれました。さっそくファンからサイン責めを喰らってます。奥様へのおみやげは当店限定の「アントニオ猪木VSザ・ハイロウズTシャツ」（２８００円）

サダハルンバ渾身の食いだおれ人形のコスプレで「いらっしゃいませ〜！」。ハイロウズ・ファンの心は掴むことはできなくても、いいさ、俺たちプロレス専科がついてるぞ！！　なッ?

“神田に異変発生!!”

と言っても、神田うのの顔面骨折の話ではない。

いつもはアウトドア用品を買いに来る若者や、古本屋街に来る人で賑わう街、東京・神田。大規模な都市開発が進みつつあるが、一歩路地を入れば風情のある街並みが残っている。そんな神田の街の均衡を狂わす出来事が起こった。『SRS・DX』のオフィシャルショップである『グレート・アントニオ』がオープンしたのだ！

本誌でもたびたび告知してきたとおり、このショップは生涯をプロレス馬鹿として貫くと決めた、熱い漢（おとこ）たちによって開店準備が進められてきた。今日は待ちに待った開店当日。しかし直前になって、その狂おしいほどの情熱でいつもみんなを引っ張ってきた井上きびだんごグッズ番長が、「ヒトはホントに来るのか……?」と、急に不安に襲われ、近所のジョナサンへ逃亡&ろう城。

だが、そんな心配をよそにオープン直前には100人近くの行列が!!　ホッ。

そこで、朝早くから並んでくれたファンの皆様に、食いだおれ人形のコスプレでキメた（なぜだ!?）サダハルンバ編集長がお礼のご挨拶。が、反応が鈍い。「はて?」と思いインタビューしてみれば、ほとんどの人が「アントニオ猪木VSザ・ハイロウズTシャツ」目当てのハイロウズファンだったのだ。すっかり無名のサダハルンバは「凄いなぁ、パイレーツは」と絶妙な聞き違えをするので精一杯。

そんなアクシデントもあったが、とりあえずショップの扉は開き、

見よっ！
魅惑のオープニング・ラインナップ！

▶佐竹雅昭さんの「怪獣王国」グッズも揃ってます。安田戦で見せたあのグッドシェイプは、「ファスティング・ダイエット」（18,000円）の賜物。この商品が買えるのもココだけ！通販もあるぞ！（詳細は別枠参照）

素顔のPRIDEファイターもフラリと立ち寄る小粋なお店……それが『グレート・アントニオ』

▲右から、まだまだ手に入る3900体限定「サクラバマシン・フィギュア」（5,000円）、早い者勝ちの1000体限定「桜庭和志フィギュア」（5,000円）、本物はブラジルへ流出しちゃったけど「工作キット SAKUベルト」（2,500円）、その上にあるのが当店オリジナルの「アントニオ猪木VSザ・ハイロウズTシャツ」（2,800円）

▲怪獣王国の宇宙デブこと、ジャイアント落合さんもご来店。全国のデブたちに夢を見せることはできるのか？（隣の女性は彼女ではありません）

◀DIET BUTCHER SLIM SKINと、本誌『SRS・DX』39号の大好評特集とのコラボレーションで作られた「NO MORE DEADLOCK! Tシャツ」（6,500円）

▼ショップ奥の壁には一面、ゴキータ作「猪木見出し」が！！　また、『PRIDE.13』でフェイクなしの男の生き様を見せ、素晴らしい感動を呼んだ安田忠夫の「ヤスベガスTシャツ」（3,000円）も守備を固めているぞ！

▲アレクサンダー大塚さんが実際に試合で着ていたコスチュームも多数展示してあるぞ。右の三代目魚武濱田成夫さんの「俺 OR DIE Tシャツ」（男子サイズ:6,800円／女子サイズ:5,800円）も好評販売中！

▶「俺 or DIE Tシャツ」で参戦中の、詩人の三代目魚武濱田成夫さんも遊びに来てくれました。そんなに見つめられると妊娠しちゃいそう……

んあ〜、こんなにたくさんのお客さんに来てもらえるなんて感無量ですぅ。とうふパンは、猪木さんが推薦するだけあってメチャクチャ美味しいんですよぉ。皆さんもぜひ一度食べてみてくださいね！次はファスティングで肉体改造にも挑戦したいなぁ。僕も毎日顔を出していますので、プロレス・格闘技ファンの皆様も、ザ・ハイロウズファンの皆様も、ぜひぜひご来店くださ〜い！！

店内はアッという間に満員になってしまった。その光景を見て、このショップ開店の大英断を下した社長がポツリとつぶやいた。

「ま、満員御礼……」

にわかには信じ難かったのかもしれない。「やれや、ほんなら!!」と雄々しく言い放ってはみたものの、実際にこうして開店して初めて実感が湧いたようだった。

その当店自慢のオープニング・ラインナップでは、「アントニオ猪木VSザ・ハイロウズTシャツ」を筆頭に、桜庭和志グッズ各種、「ヤスベガスTシャツ」がどれも絶好調な売れ行きを記録。で、忘れちゃいけないのが、アントニオ猪木さん猛烈推奨の「とうふパン」と「ファスティング・ダイエット」！

30％が豆腐でできているというとうふパンは、食べてみると豆腐の味はそんなにせず、普通の食パン風。でも含まれる栄養素はケタ違い。しかも、そのまま食べてもトーストしてもかなり美味！

それから、オーちゃんや佐竹さんが肉体改造して噂になった「ファスティング・ダイエット」は、発酵野菜ジュースが3本ついてて、3日間のプログラムで平均で5キロも痩せるんだって！（破壊王は1日で10キロ痩せた）。しかも、科学的に開発されたものだから、ダイエットしたい人にはもちろん、体の調子を整えたい人にももってこい。歌手の美川憲一さんや、作家の村松友視さんも愛飲してて、かなりのヘビーユーザーだとか。

店先には、アントニオ猪木さんはじめ、髙田延彦さん、K－1の石井館長、極真の松井館長などなど、そうそうたる方々から贈られ

フジテレビ『SRS』軍団も来襲！

▲表紙撮影中のはせキョー。ん～、キャワイイッ！！　ちなみに、はせキョーのお気に入りはなんと「猪木顔面Tシャツ」(3,000円)！

◀熱烈な猪木信者であられる水道橋博士さんは、もちろん「とうふパン」(1000円)と、「アントニオ猪木の闘魂御守」(1000円)を手にご満悦♥

▲『SRS』の人気コーナー「格闘ビデオ道」でお馴染み、大槻ケンヂさんも「工作キット SAKUベルト」がお気に入り！　みんなで楽しく作ろうネッ！

フジテレビ『SRS』の番組収録が『グレート・アントニオ』の店先で行われた。左から浅草キッドのお2人、長谷川京子チャン、大槻ケンヂさん、本誌編集長・谷川貞治　野次馬も大勢集まり、神田の街はパニック寸前！！

カワイイよ～
京子チャン♥

『SRS』収録後には、はせきょ表紙撮影が行われた。ヨラッ！！　サダハルンバ！　はせキョーの笑顔を見る目つきが怪しーゾ！

た花輪が並び、思わず足を止めてしまった道行く人に「なんのお店？」と聞かれることもしばしば。

また、アレクサンダー大塚さんや佐竹雅昭さん、ジャイアント落合さん、詩人の三代目魚武濱田成夫さん、作家の百瀬博教さんなどなど、お祝いに駆け付けてくれた皆様も豪華絢爛！　お店の中を見て回り、自分のグッズが売れてるかどうかをチェックしようかと思う間もなく、ファンにサイン責めを喰らっていた。

こうして、どうにか幸先の良いスタートを切ることができた『グレート・アントニオ』。しかし、幸運はこれだけではなかった。

4月6日、フジテレビ『SRS』の番組収録で、長谷川京子チャンや浅草キッドのご両人、大槻ケンヂさんらが来店してくれたのだ。水道橋博士さんは来るなりなぜか悔しがり、さっそくきび兄と地元・倉敷での支店オープンの密約を交わしていた。

無事収録も終わり、サダハルンバの脳みそが突然ひらめいた。

「そうだ！　表紙は京子チャンにモデルになってもらおう!!」

そうと決まれば話は早い。さっそく、マネジャーさんとカメラマンさんに熱願し、店内での撮影が始まった。その時の模様は上の写真のとおりだが、はせキョーのあまりのキュートさに、撮影を見守る本誌の野郎どもは、それぞれがそれぞれに緩みっぱなしだった。

そんなこんなで、ついに船出した『グレート・アントニオ』。これからも楽しいグッズをどんどん作っていくので、皆様ぜひ遊びに来てくださいね。カマ～ン!!（日比）

グレート・アントニオ

イソフラボン、マグネシウムを豊富に含んだ とうふパン（1,000円）

ズバリ言って、現代人はマグネシウム不足！「とうふパン」には日本人に必須のミネラル「マグネシウム」が100g中に50mg強も含まれていて、心臓病をはじめ血管の病気に効果が期待されている。また「イソフラボン」とは、大豆の芽（胚芽）に多く含まれる成分で、骨の代謝調節機能があることから、骨粗鬆症の予防効果が確認されている。要するに、栄養満点で美味しくて、しかもなぜか元気になる奇蹟のパンなのだ!!

ANTONIO INOKI
とうふパン
NU SCIENCE CO.,LTD
TOFU BREAD
世界中が元気になりますように！

▲当店が自信を持ってオススメするのが、お豆腐でできた栄養満点のパン「とうふパン」（1,000円）と、オーちゃんや佐竹さんが肉体改造をして話題になった「ファスティング・ダイエット」（18,000円）の2つ！

燃える闘魂・アントニオ猪木大推薦!!

とうふパン＆ファスティング・ダイエット

佐竹雅昭、小川直也も肉体改造に成功！ ファスティング・ダイエット（18,000円） 通信販売開始!!

※価格は全て税別価格です

あのオーちゃんが肉体改造に成功してから、一気にその名を知られるようになった「ファスティング・ダイエット」。80種類の野草野菜を使って作られた発酵野菜ジュース3日分が1セットになっている。このジュースを1日4杯飲んで3日間の断食をすると、平均5キロも減量でき、しかも体の中の老廃物を取り除いてくれる。このジュースには、ビタミン、ミネラル等の必要栄養素のほか、1日に必要なカロリーも含まれているから、おなかも空かないのだ。今回、この「ファスティング・ダイエット」の通信販売が『グレート・アントニオ』でできることが決定した（ご注文方法は、118ページ「通信販売」と同様）。これでキミもワタシも体の中からキレイ＆健康になろうっ！

『グレート・アントニオ』だけの『PRIDE.14』チケット先行店頭発売！

4月15日（日）11:00～ 当店だけのオリジナル特典付き！

破竹の勢いで快進撃を続けて行きたい『グレート・アントニオ』では、4月15日（日）11:00～、5・27「PRIDE.14」横浜アリーナ大会のチケット先行店頭発売をやるぞ！！ 購入できるチケットは、もちろん全席種。その上、当店だけのオリジナル特典付き（何にするかは考え中）。どこよりも早く、チケットの現物が手に入るチャンスなのだ！ 良い席は当然すぐになくなってしまうぞ。早くその手に握るのだ～！！

◆先行店頭発売期間
4月15日（日）～4月21日（土）

◆一斉発売
4月22日（日）～

※販売は店頭のみとさせていただきます。お電話でのご予約はできませんので、ご了承ください。

『PRIDE.14』5月27日（日）
神奈川・横浜アリーナ
開場/13:00　試合開始/15:00（予定）

席種（全席指定）	入場料（消費税込）
VIP席	100,000円
RRS席	23,000円
スタンドS席	13,000円
スタンドA席	7,000円

プロレス専科『グレート・アントニオ』
住所：東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル1F
営業時間：11:00～20:00（毎週月曜定休）
TEL：03-3219-9550

桜庭敗れて、話題騒然！
今、格闘技界最大の問題点！

PRIDE
ルール改正は
是か、非か？

桜庭は本当にルールが変わったから負けたのか？
4点ポジションの打撃解禁は危険すぎるのか？

桜庭の敗北が大きな波紋を呼んでいる。ヒクソン戦が噂されるこの大事な時期に負けたこともショッキングだったが、それに輪をかけて浮上したのが、「プライド」のルール改正問題だった。

　たしかに、桜庭はタックルを潰されて、サッカーボールキックを顔面にもらい、さらに4点ポジションで上から押さえつけられヒザ蹴りの連打をあびて敗れた。それらのヴァンダレイ・シウバの攻撃は、以前の「プライド」ルールでは全て反則だった。

　その光景は、バーリ・トゥードが定着した最近の試合の中でも残酷に見えた。ゾッとするような危険なシーンでもあった。

　では、桜庭は本当にルール改正が原因で敗れたのだろうか。そして、「プライド13」から認められた4点ポジションでの打撃攻撃〈キック、ヒザ蹴り〉の解禁は是だったのか、非だったのか。それを今号では特集として考えていきたいと思う。

　桜庭はご存知のように、試合翌日に都内の病院に緊急入院した。当初は「内臓疾患」とか「眼底骨折」といった様々な噂が飛んだが、ホントのところは診断の結果「インフルエンザ」と「顔面打撲」だったということが判明した。

　特にひどかったのは、試合前日には38・5度の熱があったインフルエンザのほうだった。顔面打撲のほうは試合後1週間くらいで腫れが引いたが、インフルエンザのほうは微熱が続き、咳が止まらなかったという。

　それでも本人はいたって元気で、久しぶりに取材から解放され、毎日ゲームボーイに一日中没頭していたようだ。しかし、それも2週間でさすがに飽きてしまい、4月8日に無理に退院。4月10日には、高田道場で記者会見を開くことになった。

　残念ながらその会見の模様は、今号には間に合わないが、たぶん桜庭のことだ。こんなふうに試合を振り返っていることだろう。

「シウバの顔を見ていたら、ムカついちゃって、殴り合いにいっちゃいました。たぶん、それが一番の敗因じゃないかと思います」

　もちろん、体調のこともあっただろうが、桜庭自身が一番感じているのは自分がムキになりすぎたことだろう。

　試合後、会場で桜庭と会った時は、まったく落ち込んでいる様子もなく、拳を握り締めながら「あ〜、殴りてぇ、殴りてぇ、人が殴りてぇ」と興奮していたほどだ。

「ホブチャンチンに負けた時は、ホイス戦のダメージもあったんだけど、冷静に闘って、自分の持っているものを全部出して負けたんですよ。だから、納得もしているし、悔しいと思いました。でも、今回はシウバの顔しか見えませんでしたからねぇ。むしろ、一発いいのが当たったのが嬉しかったです（笑）」と桜庭。

　たしかに、あの試合は桜庭がファンのために負けたんじゃないかと思える内容だった。じゃなかったら、桜庭がシウバと殴り合う必要なんてまったくなかったはずだ。

　しかし、冷静だったら、桜庭は本当に勝てていたのか——。そう心配するのは、桜庭の得意技がカメになりやすい、低空タックルだからである。　（谷川）

ルール無用の座談会ここに復活！
ヒザでもサッカーボールでも蹴ってきやがれっ！

出席者
◎山口日昇（紙のプロレスRADICAL編集長）
◎サダハルンバ谷川（本誌編集長）
◎"Ｓｈｏｗ"大谷泰顕（ワンダフル）
司会◎柳沢忠之（本誌発行人）

『紙プロ』山口編集長、電撃参戦！

技術を出し切れ！本能を出し切れ！頭が割れるまで全てを吐き出すんだっ！

谷川　はい、じゃあ今回は『プライド13』を振り返るということで、ルール問題について語り合おうと思います。

山口　ルール問題ぃ!?（笑）。なぜ？聞いてないよ、そんなの。

谷川　ルールについて皆さん考えてくださいよ。

山口　考えてくださいよって（笑）。俺が考える筋合いのもんじゃないじゃないですか。

谷川　いやいや、それをちょっと考えないとダメでしょう。

山口　それは島田裕二の仕事でしょう。

大谷　ハハハ、ホントだ。

谷川　ということで、まずＳｈｏｗから。

大谷　え～っ！

――ダーッハッハッハ。

大谷　ルールについて……。何を語ればいいんですかね？

山口　俺に聞いたって知らないよ（笑）。初参加なんだから。はい、ボクちゃん、意見を聞かせてよ？（笑）。

大谷　う～ん……危ない……。

――ダ～ッハハハハ！

大谷　そ、それに桜庭も休養が取れたから良かったんじゃないですか？

山口　ボクちゃん、地震で頭が割れてるの？（笑）。

谷川　だからさあ、なんかいろいろあるじゃん。「あのルールはやめたほうがいい」とか「もっとやるべきだ」とか「つまんなかった」とか。

――ぷぷぷぷぷ。

大谷　だから危ない。へへへ。

谷川　え、危ないっていうのはやめたほうがいいってこと？

大谷　そんな、俺に聞いたってそれ以上のことは出てこないって（笑）。

山口　おまえは相変わらず凄いね（笑）。

大検証 PRIDE ルール改正は是か、非か？

俺、思わず桜庭の奥さんに電話したんですよ。「俺がリベンジする」って（山口）

大谷　分かってるじゃないですかぁ。そんなこと。

谷川　なぁんでだよぉ。もうちょっと考えろよ。……じゃあ次、会長（山口）。

山口　ここで俺？（笑）。

谷川　だってもうイライラするんだもん。

山口　ルールは俺が考える問題じゃないんだけどなぁ（笑）。

谷川　そこをちょっと考えてくださいよ。

山口　ルールうんぬんっていうより、俺はホントに悔しい！　あの日は。桜庭が負けて悔しい！（笑）。

谷川　でもそれはルールで負けたんじゃないですか？

山口　いや、違いますよぉぉぉ！

谷川　なんで負けたんですか？

山口　……ルールかな（笑）。

谷川　んあ〜！

山口　でもホント、ミーハー的に悔しいっていう思いしか出てこなかったですね、あの日は。

谷川　うんうん。

山口　だからビデオ何回も何回も見直した。

谷川　でも、いい試合でしたよね。

山口　ホントにメチャメチャ面白い試合。

谷川　後でテレビで見たら、びっくりするほどいい試合なんですよお。

山口　だってちゃんと後半もね、打たれてると思いきや頬でブロックしてるしね。

谷川　で、足取りにいくとこなんか涙出そうになりますよね。

山口　やっぱ桜庭はステキだなって思いますよ。でも何回も見てると、シウバが憎たらしくて憎たらしくて。もう、俺、思わず桜庭の奥さんに電話しちゃったもんね。

谷川　うん。

山口　「俺がリベンジする」って。

――ガッハハハハハ！　ホント地震で頭割れてるよ（笑）。

大谷　いいなぁ。

山口　「シウバの野郎、俺が叩きのめしてやる！」っていう気持ちにさせる悪役が出てきたっていうことは、あのルールは「良し」としなきゃいけない（笑）。

大谷　あ、それは言えるかもしれない。

山口　久々のヒールが出ましたよ、俺にとっての。

谷川　なるほどぉ。

山口　「それで勝ったと思うなよ」と思ってね。で、肝心の谷川さんはどうだったの、ルールは！

谷川　ルールは……なんか、他のところで全部語っちゃったからなぁ。

――ぶぶぶぶ！

谷川　語るべきことがないんですよ。

山口　じゃあこんな座談会やるなよ！

谷川　いやいや、ルールがねぇ、悪いって言ってる人が非常に多いんですよ。ルール批判をしている人、まず「危険」だとか、それからあとは「あんなルールにしたから技が出なくなる」とか。

山口　うん。

谷川　あとは「桜庭は新ルールで負けたんだ」って。あと、グラウンドの攻防が見れなくなったと。

大谷　でも、こないだ早く終わって良かったけどなぁ。そういう問題じゃないの？

山口　オマエ、何しに来たんだよ（笑）。

――タダメシ食ってんじゃねえぞ、この野郎！（笑）。

山口　さあ、社長（柳沢のアダ名）、俺はこんな頭の割れた連中とグダ巻いてる時間はないんで、とっとと進めて！

――まあ今回のルール改正は、かなり反響があったよね。桜庭が負けたってことに対する意味づけを、ルールに結びつけてるっていうことだと思うんだけど。

山口　うんうん。

――でね、桜庭の負けはともかく、あのルールを見ていて今回みんなが騒いでいるのは、大雑把に言えば2つだと思うんだよね。

山口　2つ（笑）。

――うん。一つは試合が淡泊で物足りなく見えちゃったこと。ようは面白くないと。

山口　全体的に言ったら、今までの興行の中で上・中・下付けるとしたら下だよね。

――ようはあのルールによって、攻防がなくなったと。

山口　たしかになくなりました。

谷川　出会い頭にしか見えないんだよね。

――それはプロレスで言うと、ボディスラム一発で決まっちゃったみたいなもんでしょ？　でもイメージ的にフィニッシュに説得力がないんだよね。見えにくいというか。その反作用としてみんな「危険だ」って言ってるような気がする。

谷川　いやぁ、コールマンのヒザ蹴りなんてメチャクチャ説得力あったけどなぁ。

――いや、だから「身もフタもない」っていうことでしょ。説得されたくないっていうか（笑）。ボディスラムで頭から落とすのはよくないよっていうことでしょ。

大谷　あぁっ、そっかぁ。

――でも、頭から落とされると分かっててボディスラム食うバカはいないわけでしょ。必死に防御するよね。

山口　それでも食らいそうなバカはたくさんいるけどね。

――ただ今回、本当にそのバカがいたのよ（笑）。言い方は悪いけど、たまたまそのうかつなシチュエーションになっちゃったわけでしょ。そんなうかつなシーンを見られたっていうのが凄いよね。だってプロレスで俺たち、ボディスラムで頭から落とされたヤツなんて見たことないでしょ？

◀ゾッとするほど説得力があったコールマンのフィニッシュのヒザ蹴り。島田レフェリーの必死な形相を見れば、効き目の凄さが分かる

▶4ポイントでのヒザや蹴りを入れられて負けた桜庭。桜庭が敗れはしたが、「試合としては「最高に面白かった」」と山口、サダハルンバ両編集長とも大絶賛

『プライド』では打撃系の選手のほうがまだちょっと損。ヒジ打ちも頭突きも禁止なわけだから（谷川）

大谷　ないない。

――そういう意味では、このルールになったら必ずああなるって思っている人が多いけど、それは選手をバカにしてると思うけどね。

谷川　当然、次の試合からは、みんなボディスラムは食うまい、って思ってるよね。

――ルールが変わるっていうのはそういうことだからね。石澤だってルールが変わったからボコボコにされたんだから。それでも見る人によっては、KOされても「石澤はこれからですよっ!」って言う人もいるわけでしょ（笑）。そういう人にとっては、パンチ連打そのものが物足りなかったんだろうね。説得力がなかったっていうか。

山口　そういうことだよね。

――でも昔、猪木さんが腕ひしぎで試合を決めるのも、かなりの冒険だったと思うよ。説得力を持たせるためには、だから重要なのは、技の破壊力と見栄えのバランスというか、価値観を普及させなきゃダメだよね。

谷川　うん、物足りなかったっていうことは、それに尽きるでしょ。

――そういう意味ではあのルールにチャレンジした選手っていうのは、プロレスのリングから「プライド」に出てくるのと同じくらい、勇気があることでしょ。逆に言えば、あのルールは危険だからやめろっていう意見は、プロレスラーに「プライド」のリングは殴られるからやめろって言うのと同じことだと思うけどね。

谷川　そうだね。ただ、格闘技なんでもちろん最低限の安全性っていうのは検討しなきゃダメだろうけどね。

大谷　ふ～ん。そうなんだぁ。

――で、もう一つは、ルール改正の方向性というか、「プライド」っていうリングはKOKのようないわゆる「総合格闘技」の場なのかどうか。もしそうだとしたら今回のルール改正は時代に逆行しているわけでしょ？

大谷　ああ、ああ、ああ、そっかそっか。

山口　うるさいよ、オマエ（笑）。

谷川　それは根本的に、「プライド」のリングで何が見たいかっていうことですよ。本当にルールを取っ払った中での強いヤツを見たいのか、それともK-1みたいな感じでスポーツとしての、ジャンルの中でのチャンピオンを見たいのか。何を見たいのかってことですよね。

山口　う～ん、でも、そこになんか落とし穴があるような気がするんだよね。

大谷　落とし穴。ふ～ん。

谷川　だから桜庭の人たちは

山口　「桜庭の人たち」い？（笑）。なんだそりゃ。桜庭一家？（笑）。

谷川　い、いや、桜庭みたいな人たちは、これまでルールに守られて勝ってただけの話じゃないかっていう。

山口　いや、それを言ったらルールに守られて勝ったんですよ、シウバは、今回。

大谷　ああ、そうだ、それはそのとおりだ。

山口　だってルールの枠を広げるとか、ルールの制限を取っ払うっていう名の「制限」じゃない、あれ。あのルールの中でしか強くない選手なんていくらでもいるわけでしょ。

谷川　でも「規制をなくす」ってことはより公平になるってことじゃないの？

山口　いや、それは……。

大谷　それはまた違うんじゃないですか。

山口　オマエがなんで答えんだよ、このバカ野郎！（笑）。俺に聞いてるのに。

大谷　ああ、ごめんなさ～い。

谷川　いやいや、だってルールをなくせば、より公平になるじゃん。

山口　いや、ルールをなくしてるようには見えるけれども、あれはルールに制限をつけてるのと同じだと俺は思うんですよね。「4ポイントでヒザも蹴りも出していいですよ」っていう名のルールでしょ？「グレイシー」＝「ルールの制限がない」＝「究極の闘い」＝「決闘」みたいなイメージがあるじゃない。俺はそのイメージは、もう捨てなきゃダメだと思ってるから。だから「あのルールこそが、最強を決定するルールですよ」っていう打ち出し方に頼るのは考え直したほうがいいと思うんだよ。

谷川　ああ、ああ。

――でも「最強」っていう言葉にこだわらずに冷静に見れば、「技術を制限しない」っていうことがたしかに一番公平なんだよね。

大谷　それはそうだ。でも、ようはアレじゃないですか。「どんな技でも出していいですよ」＝「公平ですよ」って言ってますけど、それは競技者側に対して公平だって言ってるんですよね？

――……え？

大谷　やる側に対して「公平だよ」って言ってるってことじゃないですかぁ。

谷川　そう。

大谷　じゃあ見る側はべつにいいんですよ。公平だろうが不公平だろうが、ヘッタクレは関係ないんですよ。面白ければ。

山口　ヘッタクレは関係ないんだ？（笑）。

谷川　言っている意味がまったく分からんよ、キミは。

――ルールっていうのは制限することだと思うんだけど、「禁止事項を減らしていく」っていうベクトルは「強さ」を求める上では正しいと思うけどな。

山口　うん、それは分かる。

――「物を持っちゃいけない」っていう禁止事項を取っ払ったら、清原がバット持って出てきてもいいんだから、夢があるよね（笑）。

山口　うん、それは夢がありすぎるけど、でもそれって公平なの？（笑）。

――ガハハハハッ。たしかに公平には見えない（笑）。

谷川　でも、理論上は公平ですよね？

――ま、理論上は公平だね。相手が日本刀持ってもいいんだから（笑）。

谷川　そうそう。今、一番「プライド」なんかに出てきて損なのは打撃系の選手

『プライド』のベクトルが見えないというのが一番の問題なんだよね（山口）

なんだよね。ヒジ打ちも頭突きも禁止なわけだから。グレイシーの人たちは自分たちが今まで身に付けてきた技を自由に出せてるけど、打撃の選手は出せてないわけだから。

大谷 え、でも新しくルールが変わってちょっとは変わったじゃないですか。それでもダメですか？

谷川 いやだから、まだちょっと打撃のほうが損だよね。

――「打撃系が有利になった」って言うけど、ヒジと頭突きがない分、まだ損だよね。

谷川 まだ損だよ。ヒジ打ちとかやれたら――。

――安田VS佐竹みたいになった時に、佐竹がヒジを使えれば、あの膠着状態はなくなってるかもしれない。

谷川 逆に言えば、あの安田VS佐竹の試合の時に、頭突きがあったら安田がもっとね、ぶちかましが出るし。

山口 だから公平っていう意味で言うなら、頭突きもヒジも全部オープンにしちゃったほうが公平にはより近づくよね。

――そうそう。

山口 俺が物足りなさを感じるとしたらそこなんだよね。4ポイントでの頭部への蹴り、ヒザを解禁しただけだったら、ようはルールをオープンにしたように見せかけて、制限をつけただけなんじゃないの？っていうことなんだよね。今のまんまで止まったら、俺はホントに公平じゃないと思う、どっちにとっても。

大谷 そうですね。それはそのとおり。でも今言われている危険だとか、あとは野蛮だっていう意見はどうなんですか？

谷川 それはでも、ちょうどアルティメット大会が始まって、馬乗りパンチが出た時点で「もうこれはやめたほうがいい」っていう意見が凄かったもんね。

大谷 あぁ～。

谷川 でも今、マウントパンチなんて誰でも防御できるもんねぇ。

山口 Snowにマウントとられたダーサンにもできるからね（笑）。

――たしかにアルティメットが始まった頃は、馬乗りになられたら、もうやられるっていうイメージだったもんね。実際にそれでみんな病院送りになってたし。

谷川 だから今回のヒザと同じなんだよ。「プライド」に出ている選手のレベルだったら、あんな状況はすぐにクリアする気がする。

山口 だから、今回桜庭がこういうやられ方をした中で、次からの桜庭は当然違うわけでしょ？

大谷 そうですよね。

――だから、より見応えがあるんだよ。でも、ルールを元に戻して桜庭が勝ちましたっつったって、誰が納得すんの？

山口 そりゃあ納得しないよね。

大谷 そうだ、それはそのとおり。

谷川 でも、桜庭の負けがよほどショックだったと思うんだけど、「やっぱり技の攻防が見られる総合格闘技のほうがいい」って思う人が圧倒的に多かったっていうのは驚きだよね。

山口 ああ、なんかインターネットの書き込みであったよね。「前田日明はやっぱり正しい」っていうのが（笑）。

――そりゃあ、KOKは競技としては正しいよ。

谷川 全然正しいですよ、それは。K-1だってボクシングだって正しいでしょう。極真だって。

山口 でもまあ、やっぱり「プライド」のベクトルが見えないというのが一番の問題なんだよね。

谷川 そうそうそうそうそうそう。

山口 今なら、ZERO-ONEがなんで面白いかって言うと、[illegible]、村松さんがコンパスの軸を真ん中に突き刺して、このコンパスの円をどれだけ広げていけるかが、猪木プロレスの凄味だって言ったわけよね。今、橋本って大衆演劇、に思いっきりコンパスの軸を刺してるでしょ。で、大衆演劇なんだけども、歌舞伎にもブロードウェイにも負けないものをやってやるという円の広げ方が面白いわけじゃない。橋本の場合、情念というより、脳天気さのほうが際立ってるそういう部分が見過ごされがちだけど（笑）。でも、「プライド」の軸はいったいどこにあるの？ということが、桜庭対グレイシーという構図がなくなってから、特に見えないんだよね。総合格闘技としてグレードを上げていく方向なのか、喧嘩のオリンピックとしてグレードを上げていく方向なのか、それとも格闘エンターテインメントとして、イベントをレベルアップしていく方向なのか、どれも中途半端に見えてきてるんですよ。

谷川 [illegible]難しいことを言うね。

――ぶふふふふ。

山口 谷川さん！コンパスって分かりますか？

谷川 わ、分かります分かります。丸っこいヤツね。

山口 コンパスは丸っこくないですよ（笑）。

谷川 ああ、そうだそうだ（笑）。

山口 だからね、その軸足が見えないから、ルールが是か非かっていっても答えが見えにくいんですよ。

――うん、そういうことだろうね。

山口 「プライド」ってそういう軸足の部分や方向性を誰も言語化できてないんたよね。

大谷 そういえばマスコミも言語化してませんよね。

――まあおまえは一生できないだろうな（笑）。

俺の中では定義があるんだけどね。

山口 聞きましょう。

――飛び級を狙う男たちの賭場

山口 ああ、なるほどね。でも客は賭場

ルールが公平だろうが不公平だろうが そんなヘッタクレは 見る側に関係ないんですよ（大谷）

たと思ってないでしょ？

――そうそう。最近の客は特にそうなんだよね。賭場として見たら、安田対佐竹なんて最高なんだけどね（笑）。佐竹対安田は凡戦だったけども、異種格闘技戦としてはバツグンに面白かったと思うんだよね。

谷川 解説していて、ホントに面白かったもんなぁ。

大谷 面白かったですよね。

谷川 解説でも、僕は「面白いですね」って力を込めて言ってましたよぉ（小鼻を膨らませながら）。あれは面白かったよ。

大谷 なんでブーイングしていたんですかね、観客は。

――競技としたらあんなに不細工な試合はないわけじゃない。

大谷 ふ～ん。

山口 図らずもホントの異種格闘技戦、リアルな異種格闘技戦が見れたという部分では全然OKでしょう。

谷川 人間ドラマ付きのね。

――猪木－アリと同じ状況だと思うよ。だから「世紀の」とは言わないけども、なんかの凡戦」だよね（笑）。

山口 「世紀の茶番劇」とは言わないけど、「世紀の……」だね（笑）。

――言われてもいいくらいの見え方だけどね（笑）。でも、俺らにとっては面白かったんだよね。

谷川 あれは面白いよぉ。

山口 ようは今回の「プライド」が単純に短絡的につまんないって言っている人たちは、格闘技の試合として面白くないと言っているわけでしょ。でも俺にとっては「格闘技」の試合ってのはどうでもいいことだから（笑）。ホントに「プロレス」として面白いかどうかという話であってさぁ。そういう意味では安田の試合は面白かったけどなぁ。

――だからね、賭場って言ったけど、俺は賭場を眺めてる立場から言うと、全財産賭けてほしいのよ（笑）。

山口 それ、分かる分かる（笑）。

――安田はあれで、あの時点での全財産だったと思うよ（笑）。

大谷 そうだろうなぁ。

――つまりルール問題でもね、賭場っていう満足だとしたら、全財産賭けるところを見たい。能力の全てを出してほしいんだよ。そういう意味で今回のルール改正は、俺の中でベクトルは正しいんだよね。

大谷 ああ、そっか。

山口 うん。そっちの方向で行くんだったら、俺はもうそっちの方向で行くべきだと思う。

――でね、その全財産っていう意味では結局のところ、技術の先に「本能」という財産があるんだよね。

大谷 いや、俺は技術よりもそっちのほうが見たいですよ。本能のほうが。

谷川 Show、ご飯粒ついてるよ、ホッペに。

山口 わっはははは、本能的だなぁ、オマエは。

――真のシウバだね、キミは（笑）。でも、全てを吐き出してる姿っていうのが「プライド」では大事で、そういう試合が面白いってことだよね。

大谷 いやいや、そういうことですよ。

――で、桜庭とシウバの試合はなんで面白かったんだろうって考えた時に、ルールはあんまり関係なかったんだよね。

谷川 うん、ルールの問題じゃないでしょ。

――イメージと逆にね、シウバの技術が出て、桜庭の本能が出たからじゃないかっていう気がしたんだよね。

山口 桜庭の今回の闘いを、俺が良しとしているのは、ホントにムキになった部分が見えたということと、負けず嫌いな部分が見えたなぁと。

大谷 はいはい、見えた見えた。

谷川 僕の中で、桜庭の敗因はそこなんだよね。ルールなんて関係ないと思っているから。

山口 ぶはっはははは。

大谷 でしょう。だから言ってるじゃん、最初からぁ。

――桜庭に関してはね。

谷川 そう、桜庭に関しては、ルールなんて関係ないと思う、ホントに。

――でもあのルールによって桜庭の本能が出たとしたら、やっぱりルール改正は是だよね（笑）。

山口 あのさぁ、岸辺四郎だったっけ。いや、岸辺四郎じゃねえなぁ（笑）。

大谷 岸辺四郎は西遊記のカッパですよね。

山口 岸辺四郎じゃねぇや岸田秀だ（笑）。

――ガーッハッハッハ！　岸田秀と岸辺四郎を間違えるか（笑）。4ポイントのヒザ蹴りで見事に頭が割れてるとしか思えないね（笑）。

山口 最近、割れ気味なんだよ（笑）。岸田秀がね、人間とは本能の壊れた動物だと。本能の壊れた代わりに文化を作り出したんだということをなんかで言っていたんだよね。

――ルックルックで？（笑）。

山口 いや、書物で（笑）。で、動物というのは、例えば犬と犬が闘ったとしたら、相手の犬が腹を向けたらトドメは刺さないと。で、人間だけが本能が壊れているから、人間同士で殺戮を繰り返す、殺し合いをするんだと。熊と熊でもいいんだけど、相手が参ったと意志表示をすればトドメは絶対に刺さないんだよね、

▶桜庭の本能が出たシウバ戦。桜庭には珍しくムキになって、打撃の選手であるシウバに対し真っ向から殴り合いにいった

しゃべり足りないことがあったら、また次号ということで（谷川）

ああ、レギュラーなんだ（大谷）

オマエらの思いどおりにはさせねえよっ!（山口）

動物同士の闘いでは。だから、本能でという意味で言えば、動物的な本能のほうが、お互いのプライドがルールって部分があるわけだよね。

谷川 それをやっているのはグレイシーでしょう。

山口 そう。グレイシーであり桜庭だよね。で、人間だけがその本能がブチ壊れているから戦争をやって殺し合いをする。どっちの本能が見たいのかって言ったら、俺は今言った意味での、動物的な本能、相手が腹を見せたらトドメを刺さないっていうほうが見たいね。

谷川 ダン・ヘンダーソンとかシウバなんてそうなんだけど、元々は本能の人じゃなくて、凄い優秀なアスリートだと思うんですよ。で、優秀なアスリートの人たちは残酷な気持ちになるんじゃなくて、ここまでやっていいという幅が広がっているだけだと思うんですよね。だから、より残酷なんですよ。

山口 あるルールのもとに、シウバなりの文化を作り出しているだけだから。

谷川 ダン・ヘンダーソンはレスリングでは絶対に反則しない人なんだけど、「プライド」はここまでやっていいから躊躇せずに頭とか蹴れるんですよね。でも、桜庭とかグレイシーとかは蹴れないというか、蹴らないですよね。

山口 でも、桜庭は1発蹴られたら2発蹴り返す男だからね。ああ見えて（笑）。

谷川 そうなんですけども、でも最初から蹴って勝とうという意識がない人たちだから、そういう差ですよ。

山口 ようは、桜庭とグレイシーは動物同士の闘いで言えば、ノド笛への噛み付き方を知っている人たちだよね。相手を絶対に殺しはしないけども、一撃でノド笛に噛みついて参ったをさせる方法を知っている人たちですよね。ノド笛への噛み付き方が効果的で美しいから、殺戮に走る必要はないというさ。

谷川 桜庭もグレイシーも常にそういう闘いですよね。

山口 だから美しさが絡んでくると思うんですよね。シウバとかあのへんになってくると、猪木さん的に言うと「美しくねえ」というか（笑）。暴はするけど、あればっかじゃ困るでしょ（笑）。

谷川 僕も4点ポジションの蹴りOKで、シウバVSシウバなんか見たくないもんなあ。シウバばっかりの大会を誰が見たいかと思うよ（笑）。

山口 だから、そういう意味でも、今回のルール改正は「是」なんだよね。今後、この方向性を突き詰めていくという条件付きで。桜庭のそういう部分が見えたわけだから。桜庭は今入院しているけれども、絶対に「どう仕返ししてくれようか」って考えているはずだよね。ただ、俺らが考えているような仕返しの仕方はしないだろうなというところに桜庭の奥行きがあるわけであってね。

谷川 そうそう。

山口 だって、ホントに負けず嫌いだもんね、桜庭は。

谷川 だからやっぱり最強を決めるとか制限をなくして公平にするとかなんかっていう、制限をなくしたほうがより公平になるとかって、理屈上はそれは絶対に僕は正しいと思うんだけど、やっぱり桜庭とかグレイシーが必要なんですよね、そういう世界には。いなければ見向きもしないもんなぁ。

——もしかして技術のほうがよっぽどえげつなくて、本能のほうが全然美しく見えるのかもしれないね。会長の言ってる岸辺四郎の言葉も（笑）。人間は本能が壊れちゃったから、えげつない社会を作っているって意味かもしれない。

山口 いま言った意味での、動物的な本能なら見たいけど、俺は"戦争"や殺戮は見たくないんで。このルールでも技術を上げていける環境を作れるかどうかがカギだなぁ。

大谷 なんか難しい話だなぁ。

——オマエはずっとノド笛に噛みつかれてるのに、それに気が付かない男だもんなぁ（笑）。

谷川 じゃあ、会長、今日の結論として、とりあえずルール改正はだいたい「是」ということでよろしいですか？

山口 もう結論？ なんかサダハルンバやShow相手だと物足りないなぁ（笑）。

谷川 しゃべり足りないことがあったらまた次号ということで。

山口 は？「そういうわけで次回も参加が決まったようです」って猪木さんじゃないんだから（笑）。

大谷 ああ、レギュラーなんだ（笑）。

——サダハルンバは、なんなら「SRS・DX」の台割を会長に決めてもらってもいいって言ってるよ（笑）。

山口 俺は三沢か～（笑）。

——まあ俺らが「紙プロ」の座談会に出てもいいし（笑）。

谷川 僕はいくらでも原稿書きますよぉ。

全員

山口 「オマエらの思いどおりにはさせねえよっ!!」（三沢調）。

谷川 えぇ～（ニヤリ）。 ■

▲笑顔でシウバにサクベルトを巻いてあげる桜庭。しかし負けず嫌いの桜庭のこと、頭の中は仕返ししたい気持ちでいっぱいのハズ? 果たしてどんなリベンジをするのか?

桜庭和志をボコボコにした“狂気の男”ヴァンダレイ・シウバ

本誌が次に見たいのは、ホイスとの試合だ！

「プライド」の新ルールについては、是か非かと様々な意見があるだろうが、できるだけルールの制限をなくし、どの格闘技でも公平に戦える他流試合が「バーリ・トゥード」の理想だとするならば、本誌が一番見たいのはヴァンダレイ・シウバのような狂気のファイターを技術で制するような闘いだ。その意味で、桜庭と同じくらい見てみたいのが、ホイスVSシウバの一戦である。元祖UFCのなんでも有りで闘ってきたホイス、そして過激なルールにもかかわらず、相手を傷つけず、自分も傷つかず、闘ってきたグレイシー柔術は、このような非情なストライカーに対してどう闘うのか？　そう考えていたら、「プライド」新ルールについて、また桜庭やヘンゾの敗戦についてホイスがどう考えているのか、聞いてみたくなった。

聞き手◎サーモジェン山本
（本誌アメリカ通信員）

—ホイス、昨年キミと歴史に残る名勝負を繰り広げた桜庭選手が、ヴァンダレイ・シウバに敗れてしまったけど、その映像はもう見た？

ホイス うん、見たよ。

—この敗戦を受けて、日本ではホイスがどういう感想を持ったのかということが非常に話題になっているんだけど…。

ホイス まず言えることは、ヴァンダレイはうまく自分のゲームプランで闘ったということだ。サクラバを相手にする時は、アグレッシブにいかないと勝てない。その意味で、彼のアグレッシブなファイトスタイルが、功を奏したんじゃないかな。

—逆に桜庭選手の敗因はなんだったと思う？

ホイス それは僕には分からないよ。敗因がどこにあったかは、サクラバだけが分かっているんじゃないかな。ただ言えることは、サクラバは本当はヴァンダレイにクリンチしてテイクダウンしなきゃいけなかったってことだ。ヴァンダレイみたいなヤツとまともに打撃の応戦をしちゃいけない。やっぱり、ヴァンダレイのほうがスタンドでの打撃は得意なんだからね。寝技も少しやるみたいだけど、グラウンドに関してはサクラバのほうが数段上だろう。僕が言えるのは、サクラバはあまりにもそのことを無視しすぎていたということだ。

—たしかに桜庭選手はムキになって打ち合っていたよね。

ホイス サクラバがああいう闘い方をしなかったら、勝敗はまったく違うものになっていただろう。そういう意味でも、あの試合は最初から最後までヴァンダレイのものだったね。

—なるほど。ところで今回から「プライド」は新しいルールになった。特にその中で問題になっているのが、4点ポジションでの頭部へのヒザ蹴り、そしてサッカーボールキックが認められたことなんだけど、それについては？

ホイス ハハハハ。僕は初期のUFCに出ていた男だよ、サーモジェン！　何も問題はないさ。初期のUFCは本当になんでも有りのルールだった。目突きと噛みつき、髪の毛を引っぱること以外全てが認められていた。金的攻撃まで許されていたんだからね。あの頃のUFCこそ、真のバーリ・トゥードだよ。

—新しいルールで4点ポジションでの打撃が認められることによって、打撃系の選手と寝技系の選手、どっちが有利になると思う？

ホイス それは難しい質問だね。う〜ん、このルールではとにかく手足をマットに着く選手が不利になることは間違いない。でも、初期のUFCじゃ自分から故意にそんなポジションをとる選手は誰一人いなかったはずだ。それなのにこの4年間で4点ポジションの状態の相手の頭を、ルールで蹴ることをできなくして誰もが安易にそのポジションに逃げるようになったのさ。ルールを傘に4点ポジションになって相手の攻撃から逃れようとするのは決してクリーンな闘い方だとは言えない。それは単にルールに守られて勝っているだけだ。

—なるほど。

ホイス だから、新しいルールによって今後、ファイターはより正しい技術を使わざるを得なくなるだろう。もうそのポジションをとっても、相手に蹴られると分かったら誰もそういう闘い方はしなくなるはずだからね。

元祖UFCを闘ってきた男ホイスは、『プライド』新ルールをどう見たか？

—でも、このルールは危険だと思わないかい？

ホイス　ノー、だ。僕はこのルールができる前からずっと闘っている。何も問題はないよ。

—じゃあ、「プライド」のルールに対して、ホイス自身、何か提案はないのかい？

ホイス　いや、このルールは非常にいいルールだと思う。我々は何度も言っているが、規制のないルールほど、誰が本当に一番強くて、優れた技術を持っているかを証明するいいルールだと考えている。真の決闘というのは、そういうものさ。しかも引き分けなしの完全決着型のルールが一番正しい。

—では、ホイス自身はこのルールで闘い方は何も変わらない、と。

ホイス　ノー、全然だね。

—じゃあ、もしヴァンダレイと闘うことになったら、桜庭選手とは別の闘い方をするということ？

ホイス　だから、サクラバはヴァンダレイをテイクダウンしなかったよね。僕なら彼と打撃を交わし合うなんて無謀なことはしない。ヴァンダレイは、恐ろしいヒザ、そしてパンチとキックを持っている。サクラバはきっと、ルールが変わったことを忘れていたんじゃないか？

—では、グレイシー柔術の闘い方から考えると、このルールになるとよりガードポジションが今後重要になっていくということだね。

ホイス　そのとおりだ。ガードポジションというのは常に僕にとって重要な技術だった。新しいルールでは4点ポジションには、もう誰も逃げられない。立ち上がってスタンドで打撃の勝負をするか、ガードポジションをとるか、このどちらかのスタイルが多くなるだろう。

—ところで、その新しいルールと関係があるのかもしれないけど、キミの従兄弟であるヘンゾがKOされたよね。これについてはどう思った？

ホイス　僕はその試合のビデオを何度も何度も繰り返して見た。けれども、何が起こったのか、いまだによく分からないんだよ。試合を決めたのは、右のパンチだと聞いたんだけど、それほど一瞬の攻防が重要な試合だったんだろう。

—ヘンゾの敗因はなんだったと思う？　やっぱり新しいルールが影響しているんだろうか？

ホイス　まったく関係がない。ヘンゾが今回負けてしまったのは、闘いには付き物である"偶然"だ。長い間試合をしていれば、ああいうアクシデントは起こることもある。だから、あの試合を見て、新ルールが影響したとか、ヘンゾが何か技術的なミスを犯したというのはまったく感じられなかったね。

—ところで、ホイスはいつ、「プライド」のリングに帰ってくるんだい？

ホイス　それは、プロモーター次第だよ（笑）。

—「プライド」のリングで闘いたいという意志はまだ持っているんだよね。

ホイス　もちろん（笑）。

—日本ではシウバが桜庭選手に勝ったこともあって、ホイスとシウバの試合が見たいという意見もあるけど、特別に闘いたい相手は誰かいるのかい？

ホイス　とにかくトップの選手と闘いたいね。これまでの闘いを見れば、みんな、僕が弱い相手と闘いたくないってことは知っているだろう。5年間、試合から離れていたけど、昨年はサクラバのようなトップのファイターと闘うことができた。もう一度、そんなトップファイターと闘っていきたい。

—では、その桜庭選手に、今回の敗戦を受けて何か言いたいことはあるかい？

ホイス　サクラバ、キミは非常にいい選手だ。そして非常に頭のいいファイターだと僕は思っている。今回の敗戦でキミが落胆しないことを願うよ。キミはいまだにトップの中の一人だ。たぶん、この敗戦によって、キミはより強いファイターになって帰ってくるだろう。それを僕は楽しみにしているよ。

—では最後に日本のファンにメッセージを！

ホイス　僕はファイターだ。だから近いうちに帰ってくる。それと、新しくインターネットのホームページを開いたんだ。アドレスはwww.roycegracie.tvだ。あと2週間ほどでお披露目できるが、ここにはみんながびっくりするようなことがたくさん紹介されているんで、必ずチェックしてくれ（笑）。■

ール、関係者はこう見た！

聞き手◎"Show"大谷泰顕

藤田和之（猪木事務所）

危険かどうかなんて関係ない。やるとなったらやる、それだけですよ

〔前号で「プライド13」を「やる側にとっては最悪の雰囲気だけど、見る側にとっては最高の興行」という興味深いコメントを残した藤田。その藤田に、今回は一歩突っ込んでルールに関しての見解を聞こうとケータイに連絡を入れた。藤田といえば、4月9日の大阪ドームでスコット・ノートンとIWGPヘビー級統一戦でのルール問題が騒がれていただけに、それも含めて慎重に話を進めようとしたのだが……〕

――もしも～し。藤田さん、ちょっと教えてほしいことがあるんですけど。

藤田 なんですか？　今忙しいんですよ、俺は。

――ええーッ、そう言わずにちょっとだけですから、お願いしますよ。

藤田 なんです？

――えーっと、今日はですね。前号で「プライド13」の全体的な印象について聞いたじゃないですか。

藤田 はいはい。

――で、今回はルールに関して、ちょっと話を聞きたいんですよ。

藤田 そんなの、俺に聞いてもしょうがないじゃないですか。

――ええーッ、なんでです？

藤田 俺なんかよりも、実際にそのルールで試合した選手に聞いたほうがいいですよ。桜庭さんとか、シウバとか。

――いやいやいや、そう言わずに教えてほしいんですよ。例えば、危険かどうかとか。やっぱり知りたいじゃないですか。

藤田 そんなのは関係ないですよ。やるとなったらやる。それだけなんですから。

――やるとなったらやる！

藤田 お客さんが集まって、それで俺にギャラが入るならやるしね、フフフッ。

――分かりやすいなぁ（苦笑）。

藤田 その前に、まだ「プライド」に出るかどうかも決まってないんだから、そんなの分からないですよ。

――そんなぁ……。

藤田 だから今の俺にとってはまだ他人事だから。俺が出るって決まったら、ちゃんと考えますから心配しないで、フフフッ。

――まあ、藤田さんの言うように、決まってもいないものは答えられないっていうのも分かるんですけど……。

藤田 そんなことよりも、これから日焼けをしに行かなきゃいけないんだから。

――日焼け？　あ、4月9日の大阪ドームに向けて？

藤田 そうそう。新日本にいる時に「プロレスラーは日焼けも仕事なんだ」って長州さんに言われたんですから（笑）。

――団長に言われたんなら、それは守らないとダメですよ。

藤田 だからジャマしないでくださいよ。

――あ、すみません（苦笑）。プロレスラーっていろいろと大変なんだなぁ……。■

ヘンゾ・グレイシー（グレイシー柔術）

新ルールなんて関係ない。なんにでも対応できるのがグレイシー柔術だ！

――ヘンゾさん、この前の試合は残念な結果に終わってしまいましたけど、「プライド」の新しいルールについてはどう考えていらっしゃるんですか？

ヘンゾ べつにいいんじゃないの。全然構わないよ。僕はどんなルールでもいいルールだと思っているから。

――では、ヘンゾさんはヘンダーソンに負けた原因は新しいルールにあるとは思ってないのですか？

ヘンゾ 僕は新しいルールが原因で、ヘンダーソンに負けたなんて思ってないよ。あの時、ヘンダーソンが勝って、僕が負けた。ただそれだけなんだよ。新しいルールなんて関係ないよ。

――う～ん、ルールは関係ないと。でも、今後「プライド」で勝つには、このルールに対応していかなくちゃいけないですよね？

ヘンゾ いや、対応していこうとか、そんなことはまったく考えてないよ。いつもどおり変わらずにやるだけだよ。だから、さっきも言ったけど、僕はこのルールに関してはまったく問題ないよ。それに、僕はルールがそんなに大きく変わったなんて思ってないよ。

――えっ、そうなんですか？

ヘンゾ そうだよ。それに僕たちグレイシー一族はもう何十年もいろいろなことをやってきているんだ。なんにでも対応できるのがグレイシー柔術なんだから、改めてどう対応しよう、なんて考えてないよ。そんなことを聞くこと自体ナンセンスだよ。僕たちが、なんで「プライド」とかで闘うのかというと、グレイシー柔術が一番強いということを証明するために、出ていって闘っているんだよ。だから、どんなものにでも対応していかなくちゃいけないし、グレイシー柔術はどんなものにでも対応できるんだということを、見せていくつもりだよ。

――ところで、そのグレイシー一族に連勝していた桜庭選手が、今回の「プライド13」でヴァンダレイ・シウバ選手に負けてしまいました。そのことについては、新ルールに変わったことが影響していると思いますか？

ヘンゾ う～ん、そうかもしれないね。シウバが蹴っていった時、桜庭はグラウンドで手を前に出しながら動いていたよね。あのシーンを見ると、桜庭はああいう場合のガードの仕方が分かってなかったんじゃないかと思ったよ。立つチャンスもないまま蹴られっぱなしだったしね。

――そうですか。それでは最後にお聞きしたいんですけど、この新ルールは危険だと思いますか？

ヘンゾ べつに。僕は全然そうだとは思ってないよ。ルールについてはあれこれ言いたくないしね。他の選手で、危険だとか言う選手もいるけど、僕はまったくそう思ってないよ。■

大検証 PRIDEルール改正は是か、非か？

膠着打破から一気に生の喧嘩に近付いた PRIDE新ルー

桜庭さんとシウバは両極端な2人 ルール変更に大きな影響はないはずです

菊田早苗（パンクラス・GRABAKA）

—今回は菊田さんに、「プライド」のルール変更についてお聞きしたいんですよ。特に問題になってるのが4点ポジションの打撃なんですけど。

菊田 あ〜。あれは危ないッスよねぇ。

—やっぱり危ないんですか。パンクラスの新ルールでは禁止でしたよね。

菊田 そうですね。まぁパンクラスでは蹴り自体が禁止だったんで、それは有効にしたんですよ。ただヒザまで（ありにするの）はやめておこうと。

—危険だっていう理由は……？

菊田 そりゃあやっぱり、当たれば危険ですよ。でも僕個人の考えで言うと、だったら当たらないようにすればいいっていうだけなんですけどね。

—え、そんなもんなんですか？

菊田 タックルを切られたら、すぐに仰向けになって、ガードポジションを取ればいいんですよ。柔術の動きを知っていれば、できることだと思います。それが柔術の"ポジショニング"というものなんです。

—タックルを切る技術が重要になるので、レスラーが有利とも言われてますが。

菊田 一概には言えないんじゃないですか。タックルを切る技術は大事ですけど、逆にレスラーがタックルを切られた時のことを考えてみてくださいよ。彼らは仰向けになることを嫌うじゃないですか。

—ガードポジションから攻めるのが苦手な傾向がありますよね。

菊田 そうそう。足を効かすこともできないし。それはレスリングにはない技術ですからね。だからこのルールは、レスラーにとっても一長一短があるんです。

—じゃあルール変更の影響は……。

菊田 それほどないと思います。決して対処できない攻防じゃないですから。危ないのはカメになる選手ですね。やっぱりカメっていうのは、VTの技術としては"？"なんですよ。

—となると桜庭選手は不利？

菊田 いやいや。あれはシウバが強かったんです。他の選手がみんな、シウバほど4点打撃がうまいわけじゃないから。あの対戦は、ルール変更の影響が出やすい両極端の選手同士だったんですよ。桜庭さんのカメの技術なら、シウバ以外には簡単に4点打撃を許さないと思うし。

—じゃあ菊田さん的には、あのルールは"あり"だと。

菊田 いや、う〜ん……。危険っていうより、4点打撃は見栄えがねぇ。見た時の衝撃は強いけど、鮮やかさ、エンターテインメント性が薄いじゃないですか。固まってゴツゴツやるだけだから。だったらヒジも頭突きもありにしていいんじゃないかと。ヒジ・頭突きありの完全VTか、でなければ4点打撃も禁止。そのどっちかがいいと思います。■

ルールよりも怖いのは体重差 顔面キック解禁のVTJでケガ続出

中井祐樹（パレストラ代表）

—今回の「プライド」のルール変更について、どんなふうに感じました？

中井 まあ、やっぱり過激なルールになったなと思いますし、怖いですよね。

—こういうルールになったことで、闘い方は変わっていきますかねぇ？

中井 まず、最初に言っておかなくてはならないのは、今回は体重差のある試合が多かったと思います。これを言うと批判になってしまうんだけど、体重差があるマッチメイクはちょっと怖いです。正直言って。医学的に見ても、桜庭選手にしても体重差はありすぎだと思うし。

—新しいルールになって、より体重差というものも影響する感じですか？

中井 それはあるでしょうね。グラウンドでの足での攻撃は非常に大きなダメージになりますからね。蹴りがあることで具体的に闘い方がどう変わっていくか、ちょっと見えない面もあるんですけど、タックルを潰された時点で危ないということが一つあげられますよね。だから、タックルにいかなくなるかもしれない。そうすると、もっと今の薄いグローブでの打撃戦が多くなるかもしれないですね。

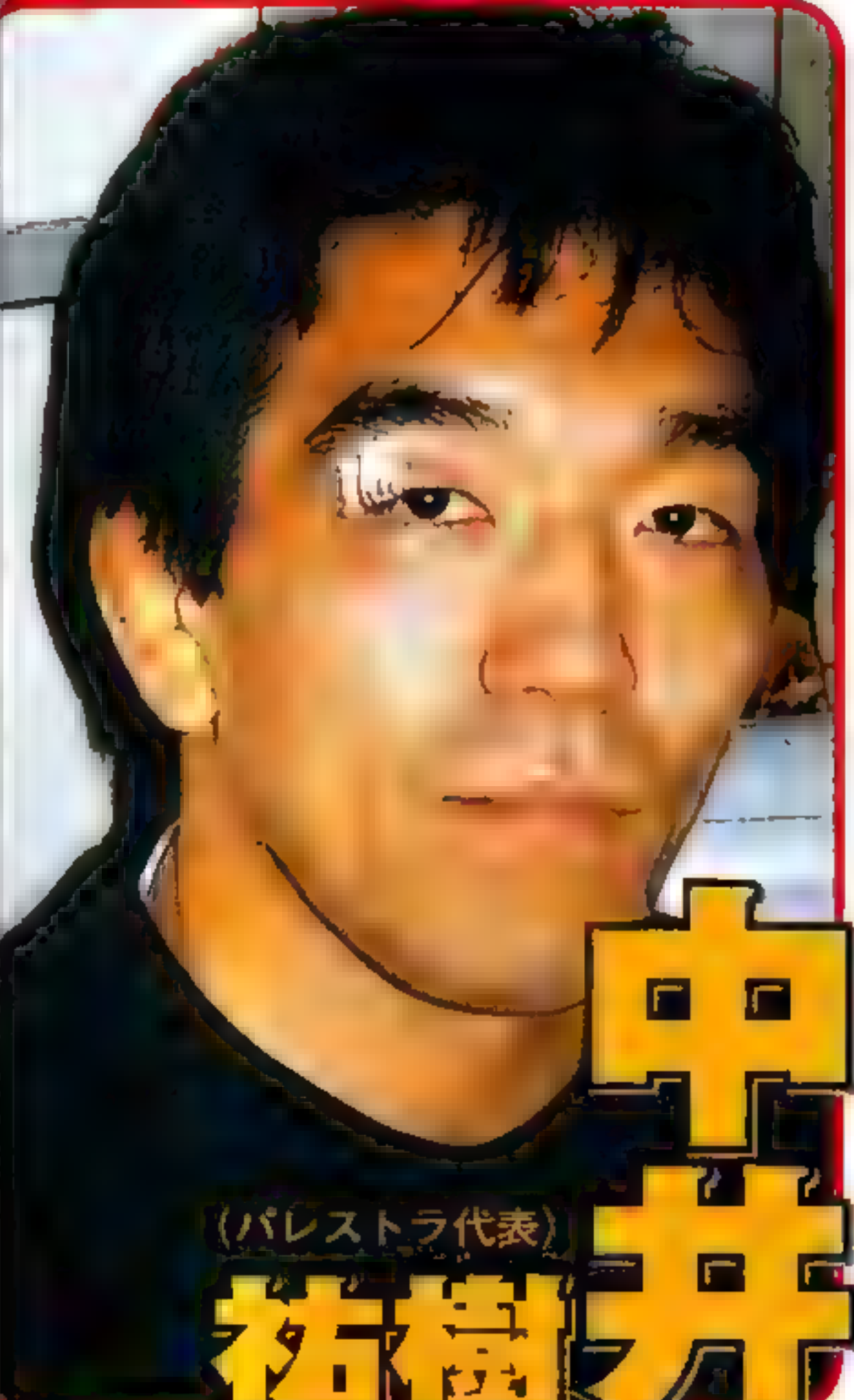
—スタンドでの闘いが多くなる？

中井 そうですね。でも、逆にスタンドでの膠着が増える可能性もありますよね。組み合ったままで、コーナーで止まるとか。ガードポジションもむしろ増えるかもしれない。タックル切られたらヤバイわけですから、すぐ相手に足を向けるほうが安全なわけじゃないですか。ホイス的な闘い方というか。あの戦法だとやっぱり大きなダメージは食わないですからね。それで、それを嫌って立つ、その繰り返しとか。そういうような、状況としての膠着が生まれやすいかもしれないですよね。

—なるほどなるほど。

中井 僕は修斗の人間なんで、修斗をずっと見てきて、修斗ルールのほかに年末にVTJをやってたじゃないですか。もうなくなりましたけど。あの大会だけ顔面キックを解禁していたわけなんですよ。

—はい、そうでしたね。

中井 だけど、そのグラウンドのキックで佐藤ルミナがアンドレ・ペデネイラスに負けたり、巽宇宙選手がジョン・ホーキ戦で横四方からのヒザで眼下底骨折したり、大きなダメージを負ってケガも多かった。それで、今回「プライド」さんがルールを変えた時に、何か起こるんじゃないかというのが正直なところでした。ただ、選手もまた新たな技術を考えてくると思いますけどね。たしかに競技を面白くすることは考えなきゃいけないとは思うんですよ。見ている人のことも考えなきゃいけない。でも、選手の安全ということがあるんで、その折衷点をどこに見つけるかが大事な点だと思いますね。■

ール、関係者はこう見た！

もうタックルは簡単に通用しない　やっぱり総合でも打撃の時代が来た！

佐山聡（掣圏道・創始者）

―佐山さん大変です！　桜庭とヘンゾが負けちゃいました。

佐山　見ました、見ました、テレビで見ましたよぉ。

―やっぱり、あの4点ポジションのルールで勝敗が大きく変わっちゃったんですかね？

佐山　いやいや、それ以前の問題ですよ。4点ポジションうんぬんの前に、彼らは立ち技で負けちゃったんです。結局、対戦相手が2人とも、タックルを意識した打撃が非常にうまくなっているということですよ。

―ルール改正は関係ない、と。

佐山　いや、別問題ですねぇ。桜庭クンにしても、ヘンゾにしても、従来のタックルじゃもうダメだということです。そうなると、打撃を使って、ある程度の打ち合いをしながら、タックルにいかないと通用しない。打撃にはニセモノの打撃と本物の打撃があって、もうフェイント用のニセモノの打撃の時にタックルいったら必ず潰されちゃうんですよ。だから、そういう時はこっちが本物の打撃を打ち返してやる。そうしたら、相手も本物の打撃で応戦しますからね。その時がタックルのチャンスなんですよ。もっと相手に打たせて引き付けてからタックルしないとかからないですよ。

―じゃあ、もうヒクソンやホイスのタックルも通用しない、と。

佐山　通用しませんねぇ、ハイ。

―はぁ～。でも、4点ポジションの時に、上から押さえつけられてヒザ蹴りを入れられていましたよね。

佐山　ハイ、だからその前に桜庭クンもヘンゾも立ち技でパンチやヒザが効いていたんですね。だから、あぁいう状態になっちゃったんだと思いますよ。ヘンゾがやられたパンチは"未来のパンチ"なんですよ。僕はタックルに合わせてパンチやヒザを当てるのは無理だと言ってたでしょ。合わせるんじゃなく、未来を予測して"空を叩く"つもりで打つと当たるんですよ。ヘンゾはそのパンチで見事にアゴを打ち抜かれちゃったんです。

―でも、4点ポジションで上から押さえつけられたら、どう逃げるんですか？

佐山　頭をもっと前に押してくっつくか、すぐにガードポジションをとるかですかね。頭を前に出しながら、左右に逃げるのもOKです。でも、それ以前にもうヘンゾも桜庭クンもフラフラでしたでしょ？　だから逃げられなかったんです。

―佐山さんは新ルールは危険だと思いますか？

佐山　僕は4点ポジションのキックは大丈夫だと思いますけど、ヒザ蹴りで脳天を蹴るのは危険だと思いました。いずれにせよ、やっぱり総合は打撃の時代ですよぉ。■

地上波テレビでバイオレンス性は×　ぜひ元のルールに戻してほしい！

清原邦夫（フジテレビ『プライド』中継プロデューサー）

―清原さんはテレビマンとして、新ルールをどうご覧になったんですか？

清原　あのー、テレビマンと言っても、いろんな立場の人がいると思いますが、我々のような地上波で「プライド」を中継している立場から言いますと、ルールが変更したことで生まれた陰惨なシーンというのは、まさに放送しにくい映像だと感じました。これは実際、DSEの森下社長にも再検討していただくべく、提言させてもらいましたけどね。

―残酷すぎる、と。

清原　そうですね。これがまたPPVなんかでは立場が違うのかもしれませんけど、やっぱり私どもは近い将来、「プライド」をゴールデンタイムで流したいという目標に向かって進んでいるわけですよ。ですから、せっかく素晴らしいソフトである「プライド」が過激になったり、バイオレンス性が強くなっていくのは絶対に反対です。

―もう大反対って感じですね。

清原　というのは、地上波のゴールデンタイムというのは、K―1ですら最初は凄く大変なことで、初期の頃は意識的にバイオレンス性の高いシーンをカットしてきたんですね。そうやって、徐々に時間をかけて社会的な認知を受けていくという作業が、我々にはあるんですよ。

―K―1でさえも？

清原　それは本当に苦労しました。だから、K―1でも石井館長が、平直行VSヤン・ロムルダー戦のようなバーリ・トゥードの試合をやったじゃないですか。あれなんかは完全に封印しましたからね。

―あぁ、あれはたしかに凄惨でしたね。

清原　流血シーンも極力使わないようにしたんですよ。それで私は元々、マウントからの馬乗りパンチは地上波のテレビ向きではないと考えていたんですね。でも、技術レベルが上がったり、桜庭選手やヒクソンのような素晴らしい選手が出てきて、社会的に認知もされてくるようになった。だから「プライド」を放送してからも、批判は皆無だったんですよ。そういう意味では、時間をかけて市民権を得ることが重要なんです。「プライド」のように、選手に高いファイトマネーを払っていくには、より大会場で試合を行ったり、優良なスポンサーをつけたり、マーケットを大きくしていかないといけない。今の「プライド」はそういう大事な時期ですからね。

―なるほど。

清原　地上波のテレビというのは、基本的に家族で見るものだし、女性や子供も見るケースも多い。例えば30代のお父さんが、寝ている人間の頭を上から押さえて蹴ったり、ヒザ蹴りを入れるのは現時点では子供に見せられないと思うんですよ。ですから、ぜひ4点ポジションのルールは元に戻してほしいですね。■

大検証 PRIDE ルール改正は是か、非か？

膠着打破から一気に生の喧嘩に近付いた
PRIDE新ルー

ルールは生き物。常に進化するから、レフェリーも選手ももっと進化しなきゃね

（レフェリー、プライド・ルールディレクター）
島田裕二

――この間、「プライド13」で数々の惨劇が起こったんですが、島田さん、これはルール改正が引き起こしたんですか？

島田 いや、これはたまたまルール改正に則った試合になっただけであって、この間のように短時間で終わることもあれば、むしろ膠着することもあるから、あれが全てではないよね。ルールってもんは生き物だから、コレだ！っていうのはないんだよ。ルールはどんどん進化していくから、レフエリーも選手もそれに遅れないようにしなきゃね。むしろヘンゾなんて、バーリ・トゥードの闘い方忘れてたよね。だから次の進化したヘンゾなんて恐いんじゃないの？今回のルール改正で明暗を分けたのはヘンゾとイゴール。あと佐竹さんだね。

――佐竹さんもそうですか？

島田 そう。やっぱり安田さんは体重差でコーナーに押し付けて、あのルールではコーナーブレイクは減点にならないから。そういう意味では、安田さんは攻めてたし、ポイントは取ってたね。

――そうだったんですか？

島田 うん、……「そうだった？」って、ルール読んだのかこの野郎〜！

――は、はい、読んでます読んでます！

島田 まぁでも、これだけ世間的な関心度が上がってきている中で、興行のことや選手生命を考えると、もっとスポーツライクにしなきゃいけないのかなっていう気はするけどね。頭部への攻撃を制限するとか、ニーパッドをつけるとか。でも、ルールに慣れてくれれば、ああいう四つん這いの体勢はなくなってくると思うよ。そうしたらさぁ、仰向けになろうとして、今度蹴り足掴んだりするから、よりグラウンドでの攻防が見られる可能性があるんだよね。

――はい。ルールって分かりにくいところもありますからね。

島田 だからさ、教習所みたいに講習会とか、ビデオ上映会やりたいね。あとは公式ルールブックを作る！　キミちょっと編集して作れよ！　音声付きのガイドブックにしてさ、会場でもFMで飛ばして俺がレフエリーしながら「この位置が危ないんですよ、お客さん!!」って解説すれば、初心者でも分かるよね。マニアだけじゃなくって、みんなが楽しめるようにね。そうすればさ、おばあさんとか子供が歩いてて、コケて四つん這いになったら思わず「危ない！」って叫んだり。そういうのが重要だよ。だから「SRS・DX」で俺の連載始めろよ！

――は、はい！　あと、中山ドクターはレフェリーが見極める力を持たないとって言われてたんですが？

島田 たしかに凄い難しい問題だね。でもそれは真摯に受け止めて、アマチュアの大会とかでもどんどんレフェリングしながら、勉強していきたいと思うね。■

医者としては絶対反対！レフェリーの見極める力が必要

（リングドクター）
中山健児

――今回の「プライド13」、ドクターから見てどうでしたか？

中山 我々サイドから見たら、今回のルール改正については大会前からかなり危惧を持っていましたね。そして実際にやってみてやっぱり危ないな、と。4点ポジションでのヒザ蹴りっていうのは、やっぱりやめてほしいです。試合後の反省会でも、ドクター全員が危険であると明言しましたね。

やはり危険だと。

中山 はい。今回は試合が終わった後、我々は大わらわでしたね。ゴエス選手は、一時危険だと判断されて救急車を要請したんですよ。結果的には脳しんとうだったんですが、検査してみないと、例えば脳出血や脳挫傷なのかというのは区別のつかないところもありますから。脳しんとうだったら一過性のものなので、安静にすることで治りますが、脳出血だったら手術をしなければならない。脳挫傷だったら、脳の腫れを引かすための厳密な治療をしなきゃいけないんですね。だからドクターサイドからの勧告として「あのルールは排除すべきだ」と、そう言いました。で、もしこのルールを続けるならば、やはりレフェリーの技量というか、見極める力を持っているかどうかが問題になってきますね。

――レフェリーの技量ですか？

中山 はい、ゴエス選手の試合の時も、私は最初の1発目か2発目の時にはもう立ち上がって「ダメだ〜！」って止めてたんですけど、その後に3発入りましたね。だから、打たれているところではなく全身を見て、レフェリングをしてほしいですね。あの3発前に止められる、僕らと同じ判断力をつけていただいた上であれば、かまわないと思います。我々ができるのは、あるひとつのルールがあって、その中で選手の安全を守るために全力を尽くすということですから。

――頭頂部にヒザ蹴りっていうのは、どのくらい危険なんですか？

中山 そうですね、やはり手で頭とか体を押さえて、至近距離からヒザで反動つけてガンッと蹴るっていうのはもの凄い力がかかります。もちろん手のパンチよりはるかに強い力ですので、脳へのダメージも大きいと思いますね。

――アゴを殴られるより効くんですか？

中山 その場合も脳は揺れるんですけど、こう頭や体を固定された状態でやられれば当然揺れも大きくなります。地面につけた状態とほぼ同じですから。また、アゴに入るのは脳が回転するように揺れるんですが、脳天に入ると今度は上下方向に揺れがあるわけです。どっちが危ないってことは言えないんですが、固定された頭を蹴るっていうほうが危ないかもしれません。だから医者の立場としては反対と言わざるをえません。■

格闘技界の論客

堀辺正史先生、出番ですぅ！

〈日本武道傳骨法・創始師範〉

PRIDEは〝最強〟を決めたいのか？ 〝総合格闘技〟をやりたいのか？ はっきりさせろ!!

今回の『プライド』新ルール・大検証にあたって、格闘技界の論客・堀辺正史師範にも意見をうかがった。堀辺先生は私が格通編集長時代、アルティメット大会というノールールの大会が登場した時、その意味を一番分かりやすく説明してくれた恩人だ。では、その堀辺先生は『プライド』の新ルールをどう見たのか？　久しぶりに話を聞いてみた――。

聞き手◎谷川貞治　　撮影◎山口比佐夫

——堀辺先生、ごぶさたしています。今日は「プライド13」で起こったルール問題をもとに「格闘技とルール」というテーマでいろいろ教えてもらいたいと思って来ました。

堀辺　はい。

——先生も実際に「プライド13」は映像でご覧になっていると思いますが……。

堀辺　ええ。まず自分の印象は「プライド」が本当のノールールの試合場になったという印象を受けましたね。やっぱり、ルール改正で大きく変貌したな、と。というのも、自分は「総合格闘技」と「ノールールの大会」は厳密に言うと別モノだと考えているんですよ。で、リングスのKOKルールというのは、これは「総合格闘技」です。で、「プライド」というのはこれまで、主催者が「総合格闘技」をやりたいのか、「ノールールの大会」をやりたいのか、曖昧のままだった。むしろ、「総合格闘技」のほうに形態は近かったと思います。今こそ、主催者は「ノールール」をやりたいのか、「総合格闘技」をやりたいのかはっきりと立場を決める時だと思うんです。今回の問題は、そこのところが問われているわけですよ。

——先生が言う「総合格闘技」というのは、ルールを設定して、そのルール内での勝敗を競い合うスポーツということですよね。僕は以前、ルールがある競技が〝スポーツ〟で、ルールのない他流試合が〝武道〟だということをさんざん先生に聞かされてきたんですけど。

堀辺　そうです。で、初期のアルティメット大会というのは、ノールールの大会であり、武道の大会だった。けれども、今のUFCというのは、明らかに総合格闘技に変貌している。今、世界中のほと

グレイシーがノールールの大会をはじめたのは、公正な他流試合をやろうとしていたからです

んどがそうですね。ところが逆に、『プライド』の新ルールというのは、ノールール大会に近付いているんですよ。

――はいはいはい。

堀辺 逆にリングスのKOKというのは、人工的にルールで〝ブレイク〟させたり、寝技での顔面パンチを禁止したり、いろんな意味でルールを設定して「総合格闘技」という、ボクシングと同じようなひとつのジャンルを作った。もちろん、KOKルールでやっていれば、ノールールの大会でも強くなるでしょう。でも、KOKというのは、あれはノールールの大会でもなければ、公正な他流試合でもない。KOK内での最強を決める闘いだということです。

――そこなんです。そこで僕は前号の総評で「やる側は何をしたいのか?」「見る側は何を見たいのか?」という問いかけをしたんですよ。やっぱり、ルールが変われば、勝敗だって変わりますよね。

堀辺 これは、はっきり言って変わります。ルールというのは我々の目には見えませんよね。山とか、川とか形のあるものじゃないから。でも、ルールっていうものはね、厳然として存在していて格闘環境を大きく変化させるということをまず押さえておかなきゃいけないんです。ルールを少し変えるだけで、試合の勝敗は大きく変わるものなんです。

――その格闘環境が変わるということをもう少し詳しく説明してほしいんですけど……。

堀辺 たとえばキックやレスリング行為のできないパンチだけで勝負するボクシングというのは、同じ打撃系の中でもパンチングの技術が極度に発展するわけですね。なぜなら、攻撃手段はパンチしかないわけですから。ところが、ムエタイやキックボクシングのように、そこに足技が加われば、パンチでのKO率はボクシングに比べて低くなる。その分、キックでのKOが増えるわけですよ。そういうふうに、ルールが格闘環境を変えていく。で、格闘技のルールの本質というのは、「禁止事項」なんですよ。

――はぁはぁ、禁止事項。

堀辺 「何々をしてはいけない」ってね、そういう「禁止事項」の設定なんです。手以外の攻撃は一切禁止すること で、ボクシングというジャンルが生まれる。パンチとキック以外の「禁止事項」を設定することでK－1やキックボクシングのようなジャンルが生まれる。そして、選手はそのルールに添った中でひたすら勝利を求めることが、一番分かりやすい格闘環境だったわけですよ。

――禁止事項を設定して、そのジャンルでのチャンピオンを決める闘いをしているわけですね、なるほど、なるほど。

堀辺 ところが、格闘技には〝最強〟という言葉がある。〝最強の男は誰なのか?〟〝最強の格闘技はなんなのか?〟を求めるロマンがあるんですよね。それは、ボクシング内のチャンピオンでもなく、総合格闘技内のチャンピオンでもない。つまり、特定の格闘環境を最初から設定して一番を競い合うんじゃなく、最大限の格闘環境を作ろうとする要求なんですよ。そこが、初期のアルティメット大会が世界中の格闘技に衝撃を与えた理由であり、今の『プライド』人気の根本にあることをまず見逃してはならないんです。

――はいはい。

堀辺 バーリ・トゥードという〝なんでも有りルール〟の原点を思い出してほしいんですけど、これは目突き、金的攻撃、噛みつき、髪の毛を引っぱるとか、それしか禁止事項はなかったわけですよね。4点ポジションでの蹴りはダメだとか、そういうのはなかった。これはどういう意味だったかというと、禁止事項を極力少なくして、公正な他流試合をやろうという姿勢なんですよ。その「ノールールの大会」をはじめたグレイシー柔術の人たちは、一応組み技系の人たちなんだけど、打撃系の人たちにも「あなたたちが日頃使っている打撃技はほとんど禁止していないんだから、これは公正な他流試合なんですよ。だから、文句はないはずですよ」と言ってるわけです。

――禁止事項によって、本来そのジャンルが持っている技術を阻害しないようにしようということですね。

堀辺 そうですね。そうしたら、社会的に見ても、誰もが〝最強〟と納得するわけです。ところが、グレイシーが出てくる前の他流試合というのは〝異種格闘技戦〟と呼ばれていたんですけど、いっつもルール問題で揉めていたわけですよ。猪木さんなんて結局、何しちゃいけない、あれしちゃいけないって、いつも手枷足枷があったわけでしょ。これはね、もう他流試合と言えないし、最強の男は誰かなんて決められてなかったわけですよ。だって、試合に負けたとしても「俺はパンチが使えなかったから負けたんだ」っていう、言い訳がいくらでもできた。じゃあ、見ているほうは「どっちがホントの最強だったの?」と納得できないわけですよ。

――その話は凄く納得できます。でも、実際に『プライド』がよりノールールの大会に近付いたことで、インターネット

▲『プライド』とリングスのKOKルールはまさに表裏一体。やる側はどっちがやりたいのか、見る側はどっちが見たいかという問題なのだ

新ルールで技術がなくなったというのは誤解。あれは立派な打撃系の技術ですよ

なんか見ると、凄く批判があるわけですよ。そこを具体的に検証していきたいんですけど……。

堀辺　批判が多いというのは、それだけ今回の「プライド」が提示した問題が大きかったということですよ。特に新しい試みを行った時、「SRS・DX」風に言えば、是の人と非の人が半々くらいいて大騒ぎになったら、これは大成功ということです。反響がないということは、これは逆に失敗ということですよ。

――成功ですか。

堀辺　成功です。人間は英知があるから、是と非が半々で大騒ぎするくらいのほうが、いい方向に向かうはずですよ。

――心強いですねぇ（笑）。では、話を戻して整理しますと、4点ポジションでの打撃技（蹴り）を認めたことで、闘いはどう変わったわけですか？

堀辺　これはもうね、谷川編集長が総評でも書いてたように、〝タックル〟が絶対的なものではなくなったという傾向がまず出てきたということですね。

――やっぱり！

堀辺　それはすでに、ボブチャンチンとマーク・ケアーの最初の試合で起こっているんですね。それまでケアーは怪物的に〝霊長類最強〟なんて呼ばれていたんですけど、それがボブチャンチンのように打撃がうまくて、タックルを切る技術を持っていれば、ボブチャンチンのような男でも、ケアーみたいな怪物を一瞬で仕留められることが証明された。その時はノーコンテストになったわけですけど、あれは誰が見ても、ボブチャンチンのほうが強いと思ったわけです。でも、ルールで負けた。しかし、ルールが変われば勝敗も変わるし、安易にタックルなんてできないことが分かってしまった。それが今回から公に反則じゃなくなったってことですね。

――ああ、あの時はそれが反則なのかどうなのかもよく分かっていませんでしたよね。

堀辺　あのー、4点ポジションのヒザ蹴りは反則だったんだと、ファンも初めて知ったと思うんですね。で、これは原則からいうとルールというのは、我々の社会と同じなんですよ。戦前の大日本帝国憲法下と、新憲法下の社会というのは、自ずから生き方が変わってくる。その新しい環境に順応しやすい人も出れば、「この環境はイヤだなぁ～」と思いながら、必死でそれを克服しようとする人も出てくるんですね。まぁ、格闘技の場合は「俺はイヤだ」とはっきりやめちゃう人も出てくるわけですよ。

――だからこそ、主催者ははっきりと「どんな格闘環境を作ろうとしているのか」を決めろ、ってことですね。

堀辺　そうです。で、自分は「プライド」が「ノールールの大会」をめざすんなら、それはそれで選手はそれを克服していくと思うんですよ。特に「プライド」のレベルなら、それは早いでしょう。もうすでに選手は必死に考えてるわけです。たとえば、極端なことを言うと、4点ポジションの打撃がOKということならば、一番簡単な方法は、タックルにいかないことですね。

――タックルにいかない！　そんな簡単なことなんですか？

堀辺　ボブチャンチンが今回、テリグマンに勝てなかったのは、テリグマンがタックルに行かなかったからです。もし、タックルに行っていたら、桜庭選手のようになっていたかもしれない。

――はぁはぁはぁ、なるほど。

堀辺　タックルが切られて、そういう4点ポジションの打撃を受けてしまうとしたら、それはタックルにいかないほうがいいってことです。でも、ここでタックルっていうものがそもそもなんだったかということを考えるべきなんですよ。タックルっていうのは、抽象的に言えば「スタンドからグラウンドに移行する技術」なんですね。

――はぁ～、そうですね。

堀辺　だから、現在のタックルじゃなくても、テイクダウンさせる技術というのはいくらでも出てくるわけですよ。

――はぁはぁはぁ。

堀辺　たとえばですね、すでに世間に知られているような例で言えば、ブラジリアン柔術では寝技にいく時、〝引き込み〟という技を使う。柔道家の場合は、引き込みは使わずに豪快な投げ技を使って寝技に持ち込みますよね。これだけを例にとっても、タックルという技がグラウンドに移行するための全てじゃないわけです。まず、選手にはそういう発想が生まれてくる。

――安田忠夫のように、思いっきり突進して、ワキを差しにいくのも、ひとつの方法ですよね。

堀辺　そういう胴タックルをした場合も、4点ポジションにはなりにくいわけです。桜庭選手やヘンゾのような低空タックルは、これは危険です。さらに、シウバのようにムエタイの首相撲と同じ要領で相手を崩してガブる選手もいる。アメリカのサバキ・チャレンジ（円心会館）なんか見ていても、打撃の攻防の中でタックルじゃない技術で相手を崩し、テイクダウンさせているシーンをいっぱい見ることができる。また、中国の散打という競技も、打撃戦の中でテイクダウンを取ると得点が高いんですよね。レスリングのタックルだけだと考えなければ、別な方法で寝技にいく技術はいっぱいある

▲堀辺師範が指導する骨法とは、路上の現実を想定した、ノールール大会を前提としたものだ

大検証 PRIDEルール改正は是か、非か?

▼ヘンゾは、4点ポジションで上からガブられたあと、次の攻撃を想定したディフェンスを少し見せた

たしかに危険と言えば危険。私の考えは、ヒザ蹴りの回数を制限するということです

わけですよ。そうやって、新しい格闘環境に慣れて、ルールを逆に利用して有利になってくる選手が出てくる可能性は十分ありますね。

――なるほど、なるほど。ただ、その過程の中で、こういう意見もあるんです。ノールールにしたことで、技術の攻防がなくなっちゃったじゃないか、と。だから、出合い頭のKO決着じゃなく、本当はリングスのKOKみたいに関節の取り合いっこが見たいというファンも多いと思うんですよ。頭押さえて、ヒザ蹴りでボコッとやって決まるような試合なんて見たくない、と。

堀辺 ああ、いますね。でも、これははっきり言って誤解ですね(笑)。技術が出ないといっても、相手の上からガブって、蹴りを決めるというのはかなり高等な技術なんですよ。タックルを切ることと自体、難しいことだし、切ってなおかつ相手が動かないようにコントロールするというのは、そんなに簡単なことじゃないです。本能に直結した攻撃に見えるんですけど、立派な技術のひとつなんですよ。あれを「技術じゃない！」と断言するのは、科学的に見ると、打撃系の技術に対する大きな誤解ですね。

――でも、あっさり終わっちゃいましたよね、今回。あれで終わったことに対する不満は多いんですよ。

堀辺 それはね、このルールがもし繰り返されていくと、それは絶対になくなると思いますよ。次の展開が必ず見られるはずです。たとえば今回、ヘンゾが4点ポジションでガブられた時、彼はすぐに次のヒザ蹴りが来るのが分かっていて、腕を伸ばしてディフェンスしようとしていましたよね。そこは他の選手と違って「あ、グレイシー柔術はやっぱり素晴らしいなぁ」と思いましたから。また、ちょっと失敗しましたけど、上からガブられようとした時、ヘンゾはすぐにガードポジションを取ろうとしていた。これも素晴らしいことです。

――あれで大丈夫なんですか?

堀辺 かなり防げます。だから、もしこのルールが永続的に継続していくと、どんどん選手がそれをディフェンスする技術を身に付けて、新しい格闘技術が生まれることになる。格闘技術というのは、そうやってどんどん回転していくわけです。特にね、今回の場合大きかったのは、そのルールで桜庭選手とヘンゾという世界に冠たる名前を持った選手が犠牲になったことですよね。これは凄く効果も大きい。

――よりによって、桜庭とヘンゾが負けちゃいましたからね。

堀辺 そうです。桜庭選手とヘンゾが負けたことで、見ている観客だけじゃなくて、選手に与えたショックというのも計り知れないほど大きいんですよ。こういう戦法を取ったら、あの桜庭選手でもヘンゾでも負けちゃうのかという衝撃は、選手のハートの奥の奥まで染み込んだはずです。「プライド」に出てくる一流選手だったら、対策を立てない人はまずいませんよ、選手の立場になったら。

――そういう意味じゃ、桜庭とヘンゾの敗北というのは、「プライド」にとって運が良かったわけですね。一気に問題点が浮上したというか。

堀辺 いや、これが桜庭選手じゃなかったら、4点ポジションの問題なんて起こらなかったと思いますよ。無名の選手だったら「あ、そうか。こういうこともあるんだな」で終わっていたはずです。

――なるほど、なるほど。でも先生、そうなると、逆にもっと大きな事故につながったという可能性もありますよね。やっぱり、そこで一番難しいのは、あの4点ポジションの打撃は危険かどうかということだと思うんですよ。

堀辺 はい。危険だということに関しては、まったくの危険です。それは間違いなく危険です。

――はぁ〜、やっぱり。僕はあの攻撃は立ち技のヒジ打ちより危険なんじゃないかと思っているんですけど。

堀辺 そうですね。ヒジよりヒザのほうが固いわけですし、相手の頭を固定して脳天を蹴るというのは、もうこれは首にもきますからね。しかも、逃げられない。これは、やっぱり危険です。

――じゃあ、どーすればいいんでしょうか？ 技術で身を守ると言っても、あの状態でのヒザ蹴りがルールで禁止されていない以上、起こる可能性はあるわけじゃないですか。

堀辺 それはですね、私の考えたひとつの解決策というのは、あのガブった状態でヒザ蹴りが何発か当たった時点でレフエリーが止めてしまうとか、そういう方法がいいんじゃないか、と。

――あ〜、2回くらい蹴ったらもう止めちゃってTKO負けにするとか。

堀辺 あるいは、TKOにしなくても4回以上は蹴っちゃダメだということを段階的に設定していくというやり方ですね。もうね、あの状態で蹴られることがいかに危険なことかというのは、今回の「プライド」でファンも納得したと思うんですよ。だから、そこで止めること自体、危険だということで、決して「止めるのが早い」とは思わないはずです。また、見る側にはそういう意識を当然持っ

桜庭選手が負けた理由はやっぱりルールです。彼がカメを得意としている以上、また起こる！

てほしいわけです。

――はぁ～ん、なるほど。

堀辺 で、コールマンとアラン・ゴエスのように体重差があるのはやっぱり危険ですね。あれ、もう一発目で失神していたと思うんですよ。だから、ちょっとレフェリーの死角になっていたというか、レフェリーもマットにピタッと手をつけて、水平になって横から見ないとダメですね。上から見下ろしていたら、もうこれは絶対にダメなわけです。

――レフェリングも難しくなってきますよね。一時UFCでも、止めるのが早過ぎるという話もありましたし。

堀辺 いや、だからそれはもう止めてもみんな納得しなければいけないんですよ。

――ただ先生、先生のように4点ポジションの状態でヒザ蹴りの回数を決めたりすると、ますます桜庭にとっては不利になりませんか？ 桜庭はビクトー戦の時も、UFC－Jで優勝したコナン戦の時も、相手の打撃に対してカメの状態で我慢して、逆転するタイプですからね。今回のシウバ戦についても「止めるのが少し早いと思いました」と言ってるくらいですから。

堀辺 いや、そりゃあ不利ですよ。でもそれは仕方がないです。

――仕方がない……ですか。

堀辺 段階的には、そうするしかないでしょうね。いくら桜庭選手が不利になっても。自分は今回の試合が組まれた時、このルールならはっきり言って「かなり危ないなぁ」と思ったんです。桜庭選手がやられる可能性は80％。でも、彼のことだから、そう危ないと言われていても、最後はうまく帳尻を合わせて、酷いことにはなんないだろうなとも思いましたけどね。まあ、最悪でも判定で負けるんじゃないかとね。

――ということは、桜庭が負けたのは、やっぱりルールのせいですか？

堀辺 いや、ルールのせいです。もちろん、体調の問題とかいろいろありますけど、桜庭選手の闘い方のスタイルがカメになるのが特徴である以上、新ルールでは何回やっても同じことになる可能性は高いです。

――体調の問題だけじゃない！

堀辺 自分がね、なぜ今回は桜庭選手が危ないと思ったかというと、ガイ・メッツァー戦があったからですよ。ガイ・メッツァーの特徴というのは、桜庭選手より打撃が強いということですね。それとタックルを切るのが非常にうまい。この2つは桜庭選手にとって理論上、一番相性が悪い相手なんですよ。実はこれ、グレイシーよりも桜庭選手にとって危険な相手なんです。

――たしかに、桜庭はガイ・メッツァーの時も、タックルを潰されて、かなり手こずりましたよね。

堀辺 あの時も、それこそ4点ポジションでの打撃があったら、桜庭選手はもっと危険だったはずです。まして、シウバというのは、そのメッツァーよりも打撃と、タックルを切る技術に優れていますからね。本質的に、桜庭選手のようなカメになる選手は、このルールだと不利ですよ。

――それで、途中でレフェリーストップもありだったら、これはちょっとリベンジ戦も危ないですね。

堀辺 いや、まったく危ないと思います。だからその桜庭選手に今後期待するのは、このルールでシウバのような選手を見事に破ってほしいということですね。その時こそ「ああ、やっぱり彼は凄いなぁ。このルールになったら、こんなことを考えてきた」ってね、それこそIQレスラーの真価を発揮できると思うんですよ。逆に格闘環境がこのように激変した時にこそ、それを克服すれば、格闘選手としての偉大さが証明されるわけです。そんな桜庭選手が見たいし、彼だったらできると信じたいわけですよ！

――いやぁ～、次に桜庭がシウバに勝つというのは、それほど大変なことなんですね。

堀辺 そうです。だから、もっとマスコミ取材の規制をしてあげて、十分休養をとって、トレーニングする時間を与えてあげてほしいですね。

――ああ……。

堀辺 そして観客というのは、リングに上がっている格闘家に対して、そういう困難を克服していく姿に英雄性を見ているわけですよ。だって、我々の社会だって今ね、サラリーマンだって国際化だとか、IT革命だとか言われて、環境が激変しているわけじゃないですか。その中で、働いている人たちは四苦八苦しながら、それを克服しようとしている。そういう人たちが実際、「プライド」を見に来ているんですよ。で、そういうファンは、自分と身近なキャラクターである桜庭選手が、同じように環境が変わって四苦八苦している姿を今回見た。それを短期間に克服したとしたら、これはまさしく現代の英雄なわけですよ。隣のお兄ちゃんみたいな桜庭選手だけど、現代の理想的な英雄像として再生産されるわけです。だからね、これを前のルールに戻して、桜庭選手が勝ったとしても、ファンも本人も納得しないでしょう。

――いやぁ、先生の話を聞いていたら、ますます再戦が楽しみになってきました。本当に桜庭が次のステップに上がる意味でも、ここが正念場なんですね。

堀辺 そうファンも深刻に受け止めるべきなんです。その意味でも、今回のルール改正は、改悪じゃなく〝是〟だと自分は言っておきます。■

▲堀辺師範の意見は、「プライド」の方向性としては、今回のルール改正は是。しかし、若干の修正が必要という立場だった

次回『プライド14』ではここを見ろ！ 技術編

ルール改正でPRIDEはど〜なる？？？

ルール改正で果たして「プライド」はどうなるのか？　このコーナーでは、分かりやすく写真で解説してみよう。講師はご存知、平直行先生。類稀な格闘センスと様々な格闘技から吸収したテクニック。さらに型や流派にとらわれない柔軟な思考回路を持ち、最近はプロレスラーとしてリングに立ったり、リングスで滝太郎に完勝したり、あるいは柔術のインストラクターとして懇切丁寧な指導をしていたりと多岐多様な活躍をしている平先生に「プライド」新ルールを鋭く検証してもらった。

構成◎林毅
撮影◎中島ミノル

検証1 4点ポジションでの攻撃解禁！これってどういうこと？

今までは……、タックル潰れ → カメ状態でちょっとひと休み ＝ 膠着

今回のルール改正で最もクローズアップされているのが、4点ポジションの相手へのキック攻撃の解禁。具体的に実際に考えられる攻撃を挙げてみよう。後頭部・延髄・脊髄への攻撃はNGだが、こうやって実際に写真で見ると、ヒザ攻撃にしてもサッカーボールキックにしてもかなり過激な印象を受けるのはたしか。こんなのをまともに食らったら大変だ！

「たしかにグラウンドでの足での攻撃は、まともに受けたらダメージは大きいと思います。空手の経験のある選手が、バット折りの要領で頭を蹴り上げたらそれこそ大変なことになるでしょうね。でも、試合の中でそこまで完璧に、そこまで非情に蹴り上げることはまずないと思います。当然、受けるほうも防御しようとするわけですしね。でも、確実に言えることは、今まで以上にタックルの失敗が命取りになりやすいので、安易にタックルにいくことはできなくなるでしょうね（平）」■

タックルをがぶってヒザ蹴り

カメ状態の相手の頭を押さえてヒザ攻撃

カメ状態の相手の横面にカカト落とし

カメ状態の相手を側頭部を踏みつける

カメ状態の相手にサッカーボールキック

サイドポジションからのヒザ攻撃

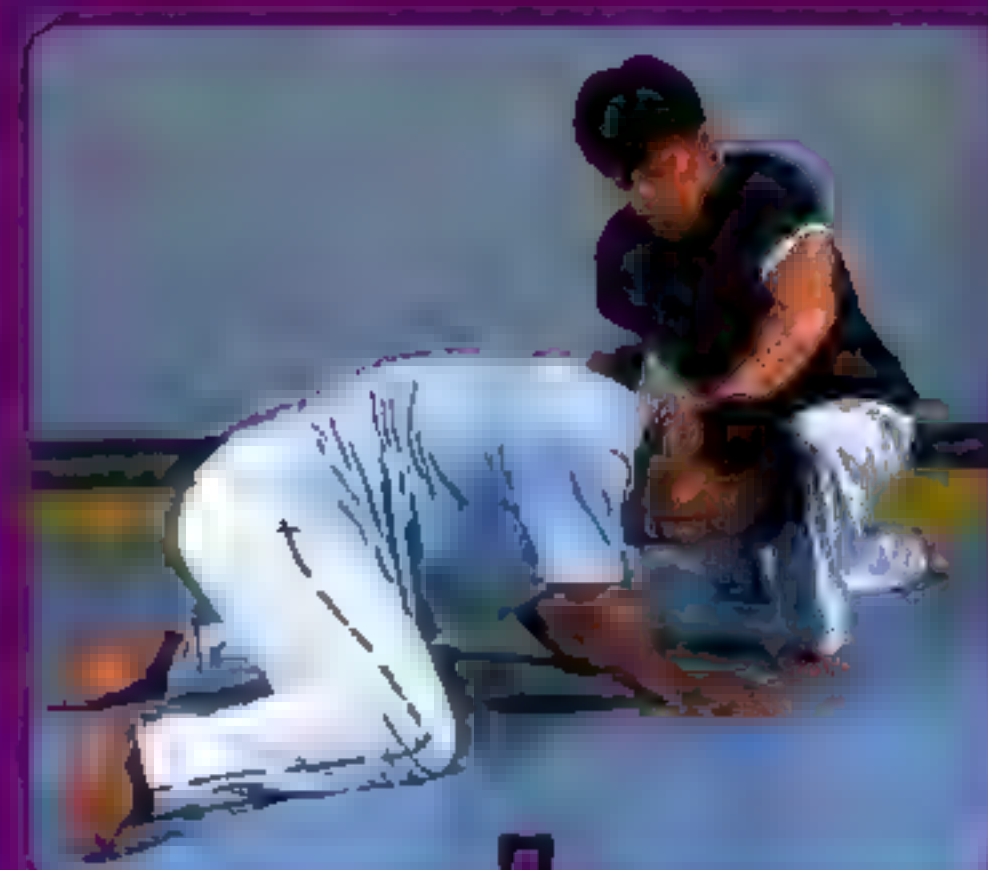
検証2 どうして4点ポジションでのキック攻撃を受けてしまうのか？

タックル失敗！こうなったら危険度大

4点ポジションになってしまうケースで圧倒的に多いのはタックルの失敗。特に低いタックルは頭部を押さえつけられたり、がぶられて潰されたりして、そのまま相手の強烈なヒザ攻撃のエジキになってしまう可能性も大きい。「プライド13」でのシウバvs桜庭戦を思い出してもらえば分かるが、あの状態になった場合、防御するほうは迂闊に頭を上げられないため手探り状態になり、逆に攻撃するほうは上から狙いすまして攻撃できる。今まではだったらカメの状態でガードを固めていれば、ある程度の攻撃までは致命的なダメージを被らずに受けることができた。しかし、今後はカメの状態は致命的なダメージを受けやすい超危険な体勢と言える。■

タックルをがぶられたら……意表を突いて相手の脇の下から脱出一気に形勢逆転！

検証3 どうやったら逃げられる？攻撃を受けないためにはどうすればいいの？

「プライド13」では、カメ状態やタックルをがぶられた状態で、相手のヒザ攻撃をまともに受けるシーンがありましたが、次回は、そういった場面は少なくなると思います。今回は対応できてなかったけど、「プライド」の選手はレベルが高いから、すぐに対応してくると思いますよ。頭を押さえつけられた時に頭を振るのは、ボクシングの防御と同じで、勘というかセンスだと思います。がぶられた時の対処方法は人によって違うし、状況によっても違うので、あくまで一例です。試合という状況下で、このくらい思い切って対処できれば、一気に形勢逆転のチャンスもありえます（平一）■

頭を押さえられたら……頭を振って相手に狙いを定めさせない

▲頭を押さえつけられそうになったら、まず、頭を左右に振って、相手の攻撃の狙いを定めさせないことが大切。最初は顔面をガードしながら小さく動き、それから一気に大胆に、相手がついてこられないくらい素早く動く

検証4

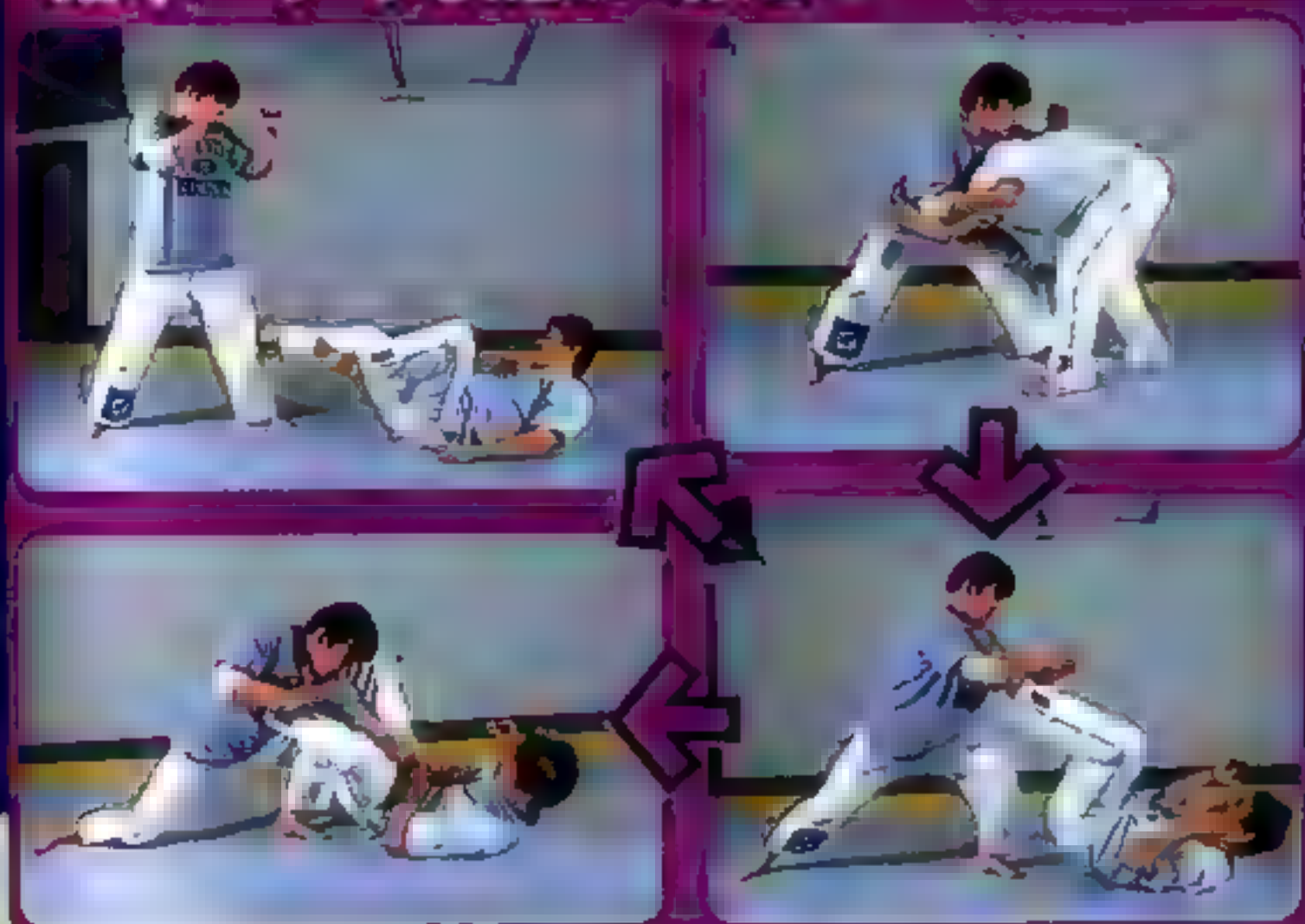
ルール改正で闘い方はどう変わる? どんな攻撃が有効なの?

今まで以上にガードポジション、猪木ーアリ状態が増える!?

フェイントを使って一気に相手のサイドに

▲低いタックルは危険度が高いため、かぶられる心配の少ない胴タックルを、蹴り技などのフェイントを織りまぜながら仕掛ける。これも組み付くタイミングが重要であることに変わりはない。打撃に威力があればよりフェイントも有効なものになる

やはりヒクソン戦法は有効

▲ヒクソンがよく使う戦法。相手のヒザの辺りを狙った前蹴りで牽制して相手との距離を保ち、タイミングを計って一気にタックルを仕掛ける。タックルに入ってからは高田戦で見せたように持ち上げるか、サイドについて足をとって相手のバランスを崩す

こんな闘い方も増える可能性大!

スタンドでのお見合い

胴タックルからの差し合い

ルール改正により闘い方はどのように変わるのだろうか?「やはりタックルなどの攻撃に対して、より慎重になるとは思いますね。だから、スタンドでのお見合いも増えるかもしれないし、潰されないように高いタックルにいき、指し合いのような状態になったりするケースも増えるかもしれない。まあ本来、タックルというのは、失敗したら死んでしまうくらい危険と背中合わせだったと思うんですよ。だからこそ確実に一発で決められる技術を身に付けようとしていたわけです。タックルにいってテイクダウンをとる。タックルに失敗したらすぐガードポジションをとる。結局、個人のテクニックというかセンスの問題だとは思いますが、瞬時に的確な判断ができなければ勝てないでしょうね(平)」■

技を使うタイミングを知らないとダメ リアルなほどミスが自分に返ってくる

——平さん自身が闘うとして、このルールはどうですか?

平 まず、僕がカーリー・グレイシーに教わったのは、闘いの時には、いけるタイミングを知らないとダメだということなんですよね。そのタイミングを逃すと勝てないし、タイミングじゃない時にいくとやられる。そういうハイパーセンテージなことができないとダメだと。闘いがリアルになればなるほど、失敗は自分に返ってくるから、ということなんですよね。

——なるほど。

平 ヘンゾが今回の闘いの中でそれができていなかったのは、忘れたのかどうか分からないですけど、元々は習っていたはずなんで、その技術はあったと思うんですよ。グレイシーは昔、タックルの練習はしてないですけど、ナイフでついてくるのを避ける練習とか、引くところにくっつく練習とかしていたからできるはずなんですよね。

——へぇ~。

平 それなのに、なんでヘンゾがそれができなかったのか不思議なんですよね。柔術が競技化して、それ用の稽古をしているうちに忘れちゃたんでしょうかね。僕は、ミスしたら、リアルであればあるほど自分の命が危なくなると教わっていたんですよ。で、失敗しないために何が必要かと言ったら、まず相手の攻撃を確実にディフェンスできないとダメ。それと打撃ができないヤツはタックルにもいけないでしょうね。使える技は一つでも二つでもいいと思うんですけどね。逆に技をたくさん持っていても、使うタイミングを知らなければ、結局、それは自分がミスをする機会をたくさん持っているだけだということなんですよ。そのへんが〝リアル〟の中での、グレイシー的なヒントだと思うんですよね。でも、プロとして観客論を考えるとどうかとは思いますよね。ガードポジションにしても、あれは最強のポジションだとは思うんですけど、時間内に相手を仕留めようとか、勝とうとするにはちょっとキツイですからね。カーリーは、「プロのリングに立つのは自分で望んだことなんだから、その時は前に出ないとダメ。ガードポジションはあくまでセルフディフェンスだから、それは路上でやるもんでリング上で使うもんじゃない。ホイスはダメだ」と言ってましたよ。

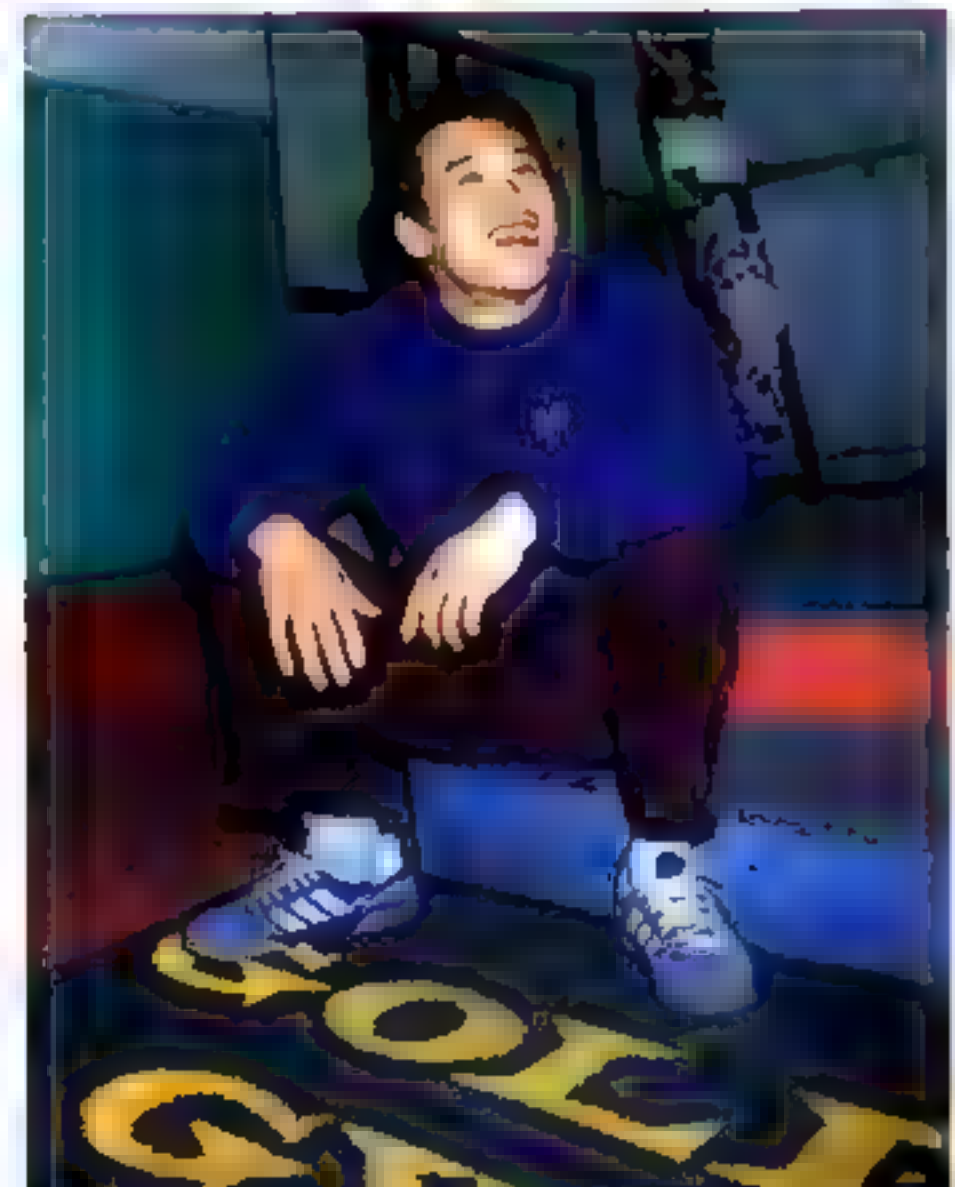
——なるほど。ところで、今回のルール改正で有利になるのはどんな選手ですかね?

平 ダン・ヘンダーソンみたいな打撃もできるレスラーには有利でしょうね。でも、必ずしもレスラーは総合格闘技向きではないと思うんですよ。レスリングは総合の優秀なアイテムではあるんですけどね。

——平さんはヒジ、頭突きもありの経験があるじゃないですか。それと比べると……。

平 それを経験すると、ヒジや頭突きがダメになると安全でいいというより、自分の武器が使えないことが逆につらいですね。

——そうなんですか。新ルールではグラウンドでの攻防が少なくなってしまうのでは、とも言われてますが。

平 いやぁ、グラウンドでの攻防はまた生まれてくると思いますけどね。選手のセンスが問われてくると思いますよ、勝つだけではお客さんは集まってきませんから。技術を見せてほしいですよね、プロとして。■

協力/GOLD GYM 行徳

右がどんな格闘技の試合を見に行っても、相撲にしか見えない小松記者。編集部内ではビジュアル面でも期待されていたが、安田のキャラクターの前では、こんなにもしょっぱく見えてしまうのは計算外のことだった

カタブツ君　安田さん、こんにちは。今日インタビューする彼なんですけど、「SRS・DX」の編集部では唯一の相撲出身の記者で、どうしても安田さんのインタビューをしたいということなんですが、まだ新弟子で不安なので僕がお守りに付いて来ました。

――よ、よ、よろしくお願いします。お聞きのとおり、僕は学生相撲をやっていた者なんです。

安田　（そっぽを向きながら）まあ、それは一緒にされたくないなぁ。

――と、当然です。小結までいった安田さんと一緒にされるなんて、おそれ多いです。でも、今日は自分のまわしを持ってきたので、後でまわし姿の僕と写真を撮っていただきたいんですけど……。

安田　ダメだよ。俺は借金が売りなんだから。

――ああ……。まあ、それは後のお楽しみということで、まずは「プライド13」での佐竹戦での勝利おめでとうございます。相撲の勝利ということで、とても感激してしまいました。

安田　ありがとっ。

――終わってみての周りの反響というのはいかがでしょうか？

安田　まあ、反響はまあ、みんな凄いびっくりしてますけど、いかんせん言われたことの……、要するに1・2・3を言われてて1しかできなかったというのが、凄い残念で。自分に腹が立つ！　悔しくてしょうがなかったね。こっち帰ってきて藤田君とジョンストンが練習見てくれて。で、22日の練習の時に「ロサンゼルスは忘れろ」って言われてね（笑）。

――「ロサンゼルスは忘れろ」ー（笑）。

安田　ねぇ。「ロサンゼルスでやってきたことをやったら佐竹には勝てない」ってジョンストンが言い出して（笑）。

――ハハハハハハ。

安田　「そりゃあねえよ～」って思いながら。でもジョンストンが言うわけですよね、「俺が佐竹でもこういうふうに攻めるよ」って。「いくらパンチを覚えてきたって、1カ月半ぐらいで何ができるんだ」って言われたら、「そうだよな」って。少しは自信を持って帰ってきたつもりではいたんですけど、そう言われてジョンストンとちょっとやったら、自分が情けないのが分かりましたから。「じゃあ、勝てる最善を尽くそう」みたいに言われて。で、どうしても押し込んでから倒すっていうふうになっちゃったんですけどね。

向こうのセコンドが「ラスト30秒」って言っていたのに、藤田君は「ラスト1分」って（笑）

――その押し込むという部分が、1のところですか？

安田　ですね。蹴られる間合いになったら前に出てしまって、捕まえにいくと。

――なるほど。終わってからも結構取材なんか多かったと思うんですけど。

安田　いや、全然ないです。

――そうなんですか（笑）。

安田　次の日だけです。じゃあ、「なんで来るの？」って言ったら、「勝ったからです」って「じゃあ、負けたら来ないの？」って言ったら、「はい」って言われたから。勝った喜びをかみしめました（笑）。

――ハハハハハハ。

安田　いや、なんでもやっぱり勝たなきゃ意味がないんだなあっていうのは、なんとなく分かってましたから。勝つことによって前を向いていけるじゃないですか？　だから凄いそれはありましたよね。で、その日は興奮して全然あれだったんですけど、次の日になったら体中痛いんですよね（笑）。ヒザというか太ももが痛いなって思ってたんですけど、1週間ぐらい動けなかったですね。動けないというか、足引きずって歩いていましたから。

――へぇ～、じゃあ、安田さんと言えども結構ダメージあったんですね。

安田　効いてたんですね、たぶん。効いてない振りしてただけですよ。

――かっこいいなぁ（笑）。

安田　俺も痛けりゃ、相手も痛いだろうみたいな（笑）。

――おおーッ！

安田　そういうふうにしか思ってないですから。前に出るしかないみたいに。とにかく捕まえてしまえば、相手の攻撃はないわけですから。そっから俺が料理するみたいに思ってたら、なんちゅうんですかね、コーナーに詰めてやってる時に、

▲藤田が時間を間違えていたのか、それとも佐竹のセコンドが間違えていたのか。とにかく藤田は、「いけいけ」という指示を出しまくっていた

うちのセコンドが「いけいけ」とか「腰を下ろせ」とかって言うのをみんな聞いているんですよ、佐竹は。だから、やろうとすることがバレているんですよね（笑）。あと、向こうのセコンドは「ラスト30秒」って言ったんですよね。そうしたら、こっちで藤田君が「ラスト1分」とか言ってんですよ。あれ、どっちなんだよって。

――ガッハハハハハ。セコンド同士で、時間が違う（笑）。

安田　そういうところありましたね。だから、うちのセコンドはみんなできますから、「こういけ」とか「ああいけ」とか言われるんですけど。それと、一番試合で悔しかったのは、金的を取られたのが凄い悔しかったですね。もうあれによって、またやったらイエローカードみたいな気がしたんで、なかなか足が出なくなっちゃって。それに、本当に金玉に入っていたら、その次の試合でボブチャンチンの蹴ったのあるじゃないですか。あれぐらい痛がりますよね。なんもなってないっていうことは、当たってないってことですよ。はっきり言ってヒザ蹴りも、練習してたわけじゃないんですね。詰めてコーナーに行ったら倒せるぐらいにしか思っていなかったですから。

――意外と佐竹選手の腰は重かったですよね。

安田　重かったというか、ビデオで見るとですね、あれだけ腰を引かれたら本来もっと違う倒し方をしたら、すぐ倒せるんですよね。もう頭の中に、要するに相撲が出ちゃってるんです、あん時。

――おお、やっぱり相撲ですか！

安田　もう、あのまま引っぱり込んで、外掛けで倒すというのが俺のベストって思ってますから、それしか頭にないんです。っていうか、始めのほうで足をしゃくりにいったんですよ。

――やってましたね、場内がどよめきましたよ、あれには。

安田　あれを3回。あれ、えらい疲れたんですよ、僕。あれ、だって駄々っ子をこうやってるのを思いっきり力で上げてるわけですよね。あれがもし6回だったら、要するに2回でイエローカードが1枚なら、6回やっていたでしょうね、間違いなく。そうすれば、絶対倒れてます。でも、3回やって1枚じゃあ、これはまずいなあって。だから、その後の組んだ時、1発もらってるんですよね。自分でも、せっかく詰めてやっているのに、自分で疲れただけじゃんって。佐竹は、こうやってぶら下がっているだけだから楽ですよね。

――僕ら相撲者なら分かるんですけど、1Rの時にサバ折りも極めそうになったじゃないですか、すぐにブレイクされてしまいましたけど。

安田　ロープから体が出たら、真ん中に持ってくるって言ってたんだよ、ルールミーティングで。あの体勢で俺は真ん中に持ってきてほしいよ！

――そりゃそうですよね（笑）。サバ折りは相撲の中でも危険な荒技の一つですからね。そうしたら決まりですもんね。

「藤田君にガードが甘いって言われてたくない」って言ったら、藤田君黙ってしまいましたけど（笑）

▲この強烈なぶちかましが、安田の大きな武器となった。佐竹は安田の相撲に対して、何もさせてもらえなかった

安田　うん。で、あと試合が終わって一番腹が立ったのは、自分は一生懸命、あの日に限ってはできる限りのことをやったつもりではいるんですよ。それに対して、佐竹選手はなんか、「なんにもしなかった」とかって言うから。なんにもしないならもっと仕掛けてこいよっていうのが僕の本音ですよね。体勢が反対になった時もあるわけですから、そん時に振り解いて逃げてもいいわけじゃないですか。そういうこと何もしないで、「なんにもしなかった」って、そりゃないよ！

――佐竹選手は、「もっと打ち合ってくれれば良かった」って言ってましたけど、佐竹選手こそ、もっと「押し合って」ほしかったですよね（笑）。

安田　俺はパンチないし。とにかくガードが甘いって言われてたから。こっち帰ってきて、藤田君ともジョンストンとかとやっている時に、藤田君にガードが甘いって言われたんですね、俺もう頭に来たから、「藤田君にガード甘いって言われたくない」とか言っちゃって（笑）。だって藤田君だっていつももらっているじゃないですか（笑）。そうしたら、藤田君黙っていましたけど。

――ハハハハハ。でも、20分間闘えたというのは、相撲時代の賜物ですね。

安田　違いますよ（キッパリ）。それはもう、ロサンゼルスのおかげですよね。そこは、ロサンゼルスの練習が20分闘わせてくれたんだなあっていう。それを日本でやれって言われても、たぶんできないと思うんですけどね（笑）。結局、甘えちゃうじゃないですか。言葉の壁っていうのは凄いですよね。1人で置いてかれて。この人たちを怒らせたら、どうすんの俺みたいな（笑）。

――ハハハハハ。向こうに行っている時に散歩して、道に迷って6時間ぐらいさまよっていたことがあったと聞いたんですけど（笑）。

安田　あっ、そうです。同じ家ばっかり出てくるんですよ。それと向こうになんか、犬の公園みたいなのがあるんですよ。

――犬の公園？　なんですか、それ？

お袋とかは全然冷たいし、「お前、何やってきたの？」って な感じで（笑）

安田　犬がバーッといるんですよ。で、黒い犬が吠えているから、「何、この野郎！」と思って睨んでいたら、その同じような犬が4匹になっちゃって、柵飛び越えようとしているんですよ。それでどうしようと思って。そうしたら、犬の飼い主さんみたいな人が現れて、伏せさせられていましたけどね（笑）。車の免許ないんで、歩くしかなかったから、歩いていたら全然……。

——そんなところでも、スタミナがついたんですかね（笑）。それでも、1R終わった時に倒れ込みながら座ってましたけど。

安田　あれ、椅子が悪いんですよ、椅子が（笑）。椅子です、椅子。藤田君も立て、立てって言うんですよね。印象悪いからとかって。なんでオメー立てって言うんだよ。疲れてんだよ、休もうよって（笑）。でも、もうダメだなあって思って出る時に、橋本さんに「失くす物ないんだから、自分から参った言うなよ」って言われたら、そうだと思ってなんとかやってみようって。それで、凄い佐竹は余裕を持っていたじゃないですか。でも、1回目当たった瞬間に、「あっ、こいつも疲れている」って思った瞬間に凄い気が楽になりましたね。これなら俺から参ったしないぞと思ってましたけどね。

——それで、あの相撲仕込みの突進力が出てきたんですね。

安田　でも、ビデオで見たら、もさもさしてるよ（笑）。ただ、前に出てるだけだもん。体がデカいから通用しているだけで、体が同じぐらいなら通用しねえんだろうなって思いますもん。それにはもっと前に出るスピードだとかから変えていかないと。

——でも、ただ前に出るだけでも、有効ですよね。

安田　アメリカで「キング・オブ・ザ・ケイジ」を見に行った時も負ける人は下がってるなあって感じたんで。あれ見て、凄い変わりましたね。ヒクソンのビデオとか見ても、捕まえにいく時は前に出てるしね。

——安田さん、ヒクソンのビデオまで見ていたんですか。

安田　僕は研究熱心なんですよ、君と違って。

——はぁ〜。でも前に出るのは相撲そのものですもんね。

安田　（とぼけながら）いや、俺、はたき込みしかやったことないもん。黄金の引き足だから。

——ハハハハハ。今回は電車道でしたね。

安田　みんなびっくりしてるんじゃないですか？

——相撲界が、ですか？

安田　あれぐらい、かましていけばいいのにって。なんで今、やってんだって（笑）。辞めてからやるなって（笑）。

——そういえば、試合の前から高田選手とやりたいと言ってましたよね。試合後のコメントで、「高田さんは北尾に1回勝ってるけど、俺は2回勝ってるよ」って言っていましたけど、当然僕らの相撲の敵討ちという意味合いがあるんでしょう？

安田　敵討ちっていうよりも、出る前に取材を受けると、「お相撲さんが出るとみんなダメですよね」って言われるのが心の中で悔しかったんですよ。

——そりゃ、悔しいです！

安田　相撲出身者としては。でも、みんな出た奴を見れば、北尾なんか相撲しかやってないわけですから。「俺はでも新日本でやってるんだよなあ」っていうのがあったんで。でも負けた時困るからそれは言わなかったんだけど（笑）。

——ハハハハハハ。

安田　勝ったから言えますけど、全て付いて回りますよ。終わって次の日は新日本とかに挨拶に行って、まだ気が張ってたんで良かったですけど。家に帰ってからはそこら中痛くなっちゃって、首は痛いは足は痛いはで。お袋とかは全然冷たいし。「お前何やってきたの？」みたいな感じで（笑）。

——ハハハハハ。

安田　布団敷いてすぐ寝ちゃいましたからね。それで次の日にぼけっとしながら、いたんですよ。もし、「負けていたらどうなってるのかな」とか、「負けてたら今頃何してるのかな」とか思いながらも、でも、勝ったからこうやっていられるんだろうなあって幸せ堪能していましたよ、俺。今だから言えますけど。「ああ、勝って良かった」みたいな。「勝てたんだ」って。それで、そういう気持ちでビデオを見ますよね。そうすると、やっぱりあのブーイングきつかったですよね。きついっていうか、見てると精神的にきついですよね。

——自分自身に対しても。

安田　「ああ、できなかったんだからしょうがない」って思いながら見てましたけどね。でも、本当多いですね。やってる時、あのブーイングは全然聞こえてなか

娘に「おめでとう」って言われた時に、トロフィーをあげたら喜んでいたから それで十分ですよ

ったんですよ。だから、ブーイング多かったって言ってるけど、なんのことかなと思って（笑）。ビデオで見て、「あちゃー」とか思いましたけどね。勝って手が挙がった時も、ブーイングありましたよね。

——あれも聞こえなかったんですか？

安田　あれ、聞こえてないです。舞い上がってましたから（笑）。

——ブーイングはテレビで見て、ショックでしたか？　僕は会場で見ていて、ブーイングした奴等を蹴ちらしてやろうかと思ったんですけど（怒）。

安田　ショックはあったんですけど、次はそうはいかないよっていうのは、やってすぐに思ったし、そのビデオを見てなおさら今度はもっと強くなって、あの体勢になったら倒してやるよという気持ちはあります。

——前向きだなあ～。僕はあれこそ相撲の勝ち方だと思って感激していたんですけど。

安田　ファンの人の立場になれば、金出して見に来てるわけですから、やっぱりKOとかやっつけるところを見たいんだろうし、ブーイング出してもしょうがないかなあと僕は思いますけどね。お金をもらって試合しているわけだし、ちょっと情けないかなと思ってるんですけどね。

——でも、あの勝ち方によって相撲がバーリ・トゥードに通用するっていうのが証明できましたよぉ。

安田　通用はするんじゃないですか。でも、相撲ってルールが固定されて単純明快じゃないですか。バーリ・トゥードっていうのはそんな単純なものよりも、もっと奥が深いですから。相撲は外に出すか、先に地に着けたら勝ちですから。それだったら、コーナーに詰めてるんだから、それで俺の勝ちですよ。

——何十回も勝ってますよー

安田　だから、そういう部分で比べるのは悪いって思いますよね。だって、それだけでやれば、やっぱお相撲さんが一番強いんですから。

——あ、悪い！　そうですかぁ……。ところで試合後のことなんですけど、娘さんが控室にいたということなんですが、橋本さんが呼ばれたんですか？

安田　猪木さんが言って、橋本さんが呼んだんじゃないですか。そこまで聞いてないですけど。なんかで書いてありましたよ。会長が呼べみたいに橋本さんに言って、橋本さんが呼んだって。

——それはいい話ですねぇ。

安田　試合をやって疲れて帰ってきて、「おめでとう」って言われた時にトロフィーをあげたら喜んでたから。それだけで十分みたいな。やったかいがあったなあって感じがしましたよね。

——見に来ていたのは知らなかったんですか？

安田　知らなくて、試合に行く前に橋本さんに「来てるぞ」って言われて、「嫌だなあ」と思って。

——「嫌だなあ」って？

安田　要するに相撲の時を思い出したから。これで終わりっていう引退の日に、来てたんですよね。近くだから。そうしたら、目の前にいるんですよ。もうダメですよ。塩取りに行って見えたら。もう、力なんか出ないですよ。

——試合中は見えました、娘さんは？

安田　全然、うんなんう～ん……。僕はセコンドの3人だけ、あとは佐竹しか見えてないです。

——じゃあ、本当に試合後に会って……。

安田　そうですね。「パパ、おめでとう」って言われた時に、それだけでもう「やったかいがあったなあ」みたいな。疲れてたけど「やってよかったあ」みたいな感じになりましたけどね。

——猪木さんと控室の前で抱き合って、号泣したと聞いたんですけど。

安田　（トボけながら）さあ。もうそういうのはやめましょう、みっともない。だいたい借金が売りなのに泣いたらおかしいよね（笑）。あれ、ビデオで見てそれもおかしいなあと思ったんだけど、でもあの時ね、ジョンストン見たらアメリカ思い出しちゃって、「ああ～」っていう感じで。外人苦手だから（笑）。

——あ、そうそう、ご自分でも売りにされている借金のことなんですけど、「プライド」のギャラで全部返せました？

安田　（しばらく、沈黙のあと可愛い声で）まだ返せません。まだ、全然もの足りません。無理でしょう。

——ガッハハハハハ！　じゃあ、まだ「プライド」で見られるわけですね。

安田　どうですかねえ？　もう1回は絶対出ますよ。今回の反省を元に。

——奥さんから電話は掛かってきました？

安田　全然ないです。俺はもう恨まれてるだけですから。

妻から電話？全然ないです。男は意外と引きずるんだよねぇ

――ハハハハハハハ。

安田　女の人のほうが、そういう部分においては、はっきりしてるんじゃないですか？

カタブツ君　あのぉ、実は、僕も離婚したことあるんですよ。

安田　でしょう。男は意外と引きずるんですよね。でも今回ので前向きになったんで、その引きずりはないですね。だから、子供だけはという気持ちの裏には女房も付いていた時期もありますよね。子供取り戻したい＝女房も取り戻したいっていう気持ちはありましたけど、何しても連絡あるわけじゃないし、それだったらこういうふうにいい感じになったら、俺も前向きに考えてみようかなって。第2の人生みたいなのがあってもいいんじゃないかなって。そのためには、まず1回キレイにしなくちゃいけないものがあるんで、それが先ですけどね。

――ハハハハハハ。

安田　男なんて単純じゃないですか。寂しくなっちゃうんですよねぇ。

カタブツ君　寂しがりますよねぇ。ちょうど僕も2年前だったんですけど、自然に涙が出てくることがたまにあったんですよ。

安田　いや、そこまではないんですけど。

――ガッハハハハハハハハ。じゃあ、新しい出発ということなんですけど、今度「ZERO-ONE」に出ますよね、兄弟子の橋本さんと組んで。

安田　そうですね、全てにおいてお世話になっちゃいましたから。恩返しのつもりでやります。恩返しがほとんどですけど（笑）。

――ハハハハハハ。今回の「ZERO-ONE」第2弾はだいぶカードが決まってなかったりで。

安田　そうですね、僕のところは発表されたけど、所詮プロレスでは幕下だから。

――「NOAH」には同じ相撲出身の田上さんがいますよね。やりたくはないですか？

安田　いいんじゃないですか。お相撲さんとはやりたくない。やりたくない。

――えっ、やりたくない。

安田　相撲取っただけで十分ですよ。その後まで会社が違うんだからやる必要はないじゃないですか。

――会社が違うから見たいんじゃないですか（笑）。相撲対決見たいんですけどねぇ。

安田　プロレスのセンスは彼のほうが上だからねぇ。

――そんなことはないですよ。相撲の番付は安田さんのほうが上だったんだし。

安田　それは関係ないよ（笑）。元付き人にも負けてるからなあ、俺。プロレスのセンスがないんですよ（笑）。

――「ZERO-ONE」以降は何も決まってないんですか？

安田　7月に「プライド」に出ますけど、それまでは漠然としか決まってないです。その間は、ロサンゼルスに会長が帰られてれば行って、お世話になった人にお礼をしたいなあと思ってますから。それをしながら、向こうに行っている期間、LAで練習してもいいし。で、ジョンストンが帰ってくれば、そっちに行って。とにかく、3月25日を機に全て変わりました。人生も変わるし、仕事の面でも変えるって決めてますから。変わった安田君を見に来てね。

――ハハハハハハ。

安田　全然変わってなかったりして。

――もう、楽しみにしています。■

▲相撲記者をサバ折りで極めてみせる安田！　173センチ、85キロの体を軽々と持ち上げる。本物の力士のサバ折りに息も絶え絶えになりながらも、感激が心の奥底からこみ上げてくる相撲記者。安田関、ごっちゃんしっ！

フランス「KARATE・BUSHIDO」誌提携

No.44 4・26号

CONTENTS

グレート・アントニオ
ついにオープン!

※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

表紙デザイン◎梅村あゆみ

編集長インタビュー

▲「プライド13」後にホテル前で藤田、安田、石澤と一緒のGK！　プライベートフォトなのに、石澤は「オレはマスクマンだから」と言って顔を隠したらしい。サダハルンバがうらやましがるほどの親密ぶりが伺える

猪木軍団を越える幅広い人脈作り！ マット界に君臨する "GK軍団"誕生っ！

『おい、金沢』出版記念！ マット界のオピニオン・リーダー 『週刊ゴング』金沢克彦編集長・登場

『プライド』でのプロレスラーの活躍、猪木軍団の結成、ZERO－ONEの大成功、そしてUFO小川直也に揺れる新日本プロレス。今後、プロレスはいったいどうなっていくのか？　マット界の新オピニオン・リーダー"GK"こと『週刊ゴング』金沢編集長に話をうかがった。

聞き手◎谷川貞治
写真協力◎『週刊ゴング』編集部

金沢さん、『プライド』の客はバカなんですか？

▲武藤の「アイ・ラブ・ミー」のポーズをするGK！　今回ものこのこと編集部へお邪魔して話をうかがった

――金沢さ～ん、いやぁ僕、凄く面白い話を聞いたんですけど、「プライド13」の安田VS佐竹戦を見た後に、金沢さん、「プライド」の客はバカですよ～」って、言ったんですって（笑）。

金沢　いやいや……（笑）。

――いや、教えてくださいよ。「プライド」の客は本当にバカなんですか？（笑）。

金沢　いや、ちょっと待ってください。正確に言うと、あそこで安田の試合でブーイングを飛ばしているお客に対し、僕は「何を見ているんだろう」って言ってたんですよ。プロレスを見たいんなら、プロレスの会場に行けばいいんだからね。その悪影響ってなんなのかなぁと言えば、僕は格闘技雑誌はあまり見ないんですけど、去年の「プライド12」ですか。あの時に結構、膠着の試合が多くて「膠着＝悪」というキャンペーンを、随分皆さんが張っていたようなところがあったじゃないですかぁ。

――す、す、すみません。それはウチです……。

金沢　ああ、そうですか（笑）。

――は、はい（笑）。で、でもですね、あの安田の試合は、僕はまったく膠着じゃないと思ってるんですけどね。

金沢　うん。膠着じゃないですよね。テレビでも、後でＰＰＶを見たら谷川さんも髙田選手も「この試合は凄く面白い」と言ってたじゃないですか。だから、べつに谷川さんが悪いとは思ってないんですけど……。

――ぼ、僕は面白かったです、ホントに。

金沢　やっぱりちゃんと試合を見ようとしている人には分かるわけですよ、当然。あの試合を見ていたプロレスラーはみんな面白かったって言うし。極端な話、猪木VSアリほどじゃないけど、後になって見たら、あの試合はもっと面白いと評価される試合じゃないですかね。

――要は、そこに安田忠夫の人生劇場というか、ドラマや人を見ていないと良さは分からないですよね。そ、それは僕も当然理解しているつもりですから、ホント面白かったですよ。

金沢　いや、だから格闘技のマスコミというか、格闘技の会場でよく感じるのは、みんな目の前で起こっている技術論しか見てないわけですよ。その部分に関してはね、僕も「何を見ているんだろう」って疑問を持つわけです。

――それは僕もまったく同感ですね。技術論だけ見てて、人間をまったく見てないし、伝えていないんですよ。格闘技のオタク的世界って、そういう傾向があるんです。だから、安田の人生劇場を知っててあの試合を見た人と、何も興味を持たないで現象だけしか見ようとしない人では、感じ方が違うんですよね。

金沢　藤田はその格闘技オタクが、大嫌いみたいですよ（笑）。

――僕も膠着する試合が全てダメなんて思ってないんです。選手のモチベーションの低い膠着は、やっぱり見る側にとって悪だと言ってたんですよ。たとえばグレイシーの膠着はそれ自体、色気があるし、モチベーションで言えば、あの時の安田選手のモチベーションほど高いものはなかったですからね。僕は作戦もとてもいいと思ったし。

金沢　そうですね。だから、そういうことをね、分かっていない人が試合後のインタビューなんかで「僕だったら、あそこで太股にヒザ蹴りを入れますけど」なんて言っちゃってね。怒ってましたよ、ウチの記者や東スポの記者が。だったら「お前が上がってやれっ！」ってね。

――石澤選手じゃなくても、そう言いたくなりますね（笑）。失礼だなぁー。

金沢　藤田だったら怒ると思いますけど、安田はそれにもちゃんと答えてるわけですよ。「技術がないもんで、すみません」って（笑）。

――泣かせるなぁ。でも、金沢さん。そうすると、そもそも「プライド」に来ているファンというのは、プロレスファンじゃあないんですか？

金沢　う～ん、佐竹選手への声援は多かったですね。安田人気っていうのはどうなのかな。コテコテのプロレスラーで元相撲取りが上がってきたということに対する物珍しさ、一般的な人気ってところでしょうかね。

――まぁ、マスコミがあまり安田の人間を伝えきってなかったですからね。でも、僕はプロレスファンなら当然そのくらいは知っているだろうと思ってましたから、「あれ、「プライド」はファンが違うのかな」と、今回は感じたんですけど。

金沢　だから、プロレスファンと言っても、特に新日本のファンは過激で、エゲツないところがあるんですけど、あの時の「プライド」のファンに比べるとあったかいですよね。

――そんなに「プライド」のファンは冷たい感じがしますぅ？

金沢　うん。冷たいし、容赦ないですよね。だから、プロレスファンというのは、やっぱりその人を見ようとしてますから。あの時の安田の試合も、プロレスファンなら、そこに安田の人生を見ようとしていたと思うんですよ。でも、これは格闘技全般に言えることなのかもしれないんですけど、ファンはリング上で起こっていることだけにしか反応してないわけですよね。でも、そこに上がってくるまでの覚悟とか、練習を知っていたらねぇ……。

――いや、そうなんですよ。結局、技術論しか見ようとしていない人が伝え手に多いんで、格闘技ってこれまで客が入らないジャンルだったんですよね。金沢さんなんかは当然、そういうタイプのマスコミじゃないですけど。

金沢　僕はもう、とにかく安田応援団ですよ（笑）。フフフフ。

――僕、いつも金沢さんが書かれている「プライド」のパンフの原稿が大好きなんですよ。

金沢　だって名前が出ますからね。そりゃあ、お金のためじゃない、名誉のためにね。変な話、他の媒体に出る時のほうが一生懸命仕事しているかも……。

ええええっ！

金沢　だって「ゴング」の看板とプロレスを背負ってるわけですからね。

――ほぉぉぉぉ～。見習わないとなぁ。じゃあ、ちょっとここで金沢さんがどれくらいの思い入れをもって安田を応援していたのか、教えてくださいよ。

金沢　う～ん、だからね、ヤスが日本にいる時は会場に行きゃあ会えるわけじゃないですか。だから、べつに親密に電話で話したりすることもなかったし、ごく普通の他の選手と同じ付き合いですよ。

格闘技オタクの人たちは、起こったことしか見てないから

▲『プライド13』での猪木劇場は、ズバリ言って「猪木さんの新日本への愛情」と言い切ったGK！

まぁ、会場で会えば、世間話もするし、試合の話もするし。で、彼がプライベートで借金したり、離婚したりして悩みだした頃は、いろいろ相談じゃないけど、そういう話をするわけですよ。「俺、『プライド』に上がりたいんだ」みたいな感じのね。

——金沢さん、まさか金貸してるわけじゃないですよね（笑）。

金沢　ん？　金は貸してない（笑）。それはヤスも分かってることだから（笑）。ヤスが「ちょっと話があるんだ」って言った時「金は貸せねーぞ」って言ったら、「オヤジから金借りようとは思わねぇよ」って（笑）。彼ね、ちょっと寂しがり屋なところがあるから、人に話を聞いてもらいたいところがあるんですよ。いろんな人に話を聞いてもらって、それで考えて、ようやく自分で決めるみたいなところがあるんで。

——安田選手はかわいらしい感じの人ですよね（笑）。

金沢　うん。で、一時期失踪じゃないけど、内臓疾患という理由で新日本のシリーズを休んだ時には「ああ、ちょっとヤバイかなぁ」と僕も心配したんだけど、そういう時に限ってプロレス界っていうのはね、優しい人が出てくるわけですよ。それが藤波さんであり、倍賞さんであり、また橋本選手でありね。

——猪木さんの名前が出てこなかったですね（笑）。

金沢　あっ、最終的には猪木さんですよね。でも、藤波さんや倍賞さんが会社に戻して、もう一回頑張ってみろということで試合ができるようになったんですよね。本人、もう一回合宿所に戻ってね。で、猪木さんのところへ直訴して、12月31日の猪木祭りがあって。その負け方が惨めだったから、余計にね。本気でやるなら「ロスに来い！」っていうことで動いたわけですよね。

——はいはいはい。

金沢　まぁ遡ればね、僕も試合2日前の金曜日にもヤスの泊まっているホテルの部屋に行って、3時間くらい話したのかな。

——ま一た、裏話がいっぱいありますねぇ（笑）。

金沢　やっぱり一人になると、不安になるみたいなんですよ、うん。それで夜、ホテルが会社から近いから電話が掛かってきて「遊びに来てよ」みたいな感じで。だから、僕ができることはせいぜい世間話をしたり、バカ話したりしてね、それでヤスがリラックスできればいいのかなぁというくらいなもんでね。

——いやぁ、金沢さん、活躍してますよねぇ（笑）。

金沢　いや、もうホントくだらない話ですよね。昔話とか。あとはバカ話をして2人で大笑いするんですよ。でも、ケラケラ笑ってるんだけども、パッと間が開いた瞬間、やっぱり目がもの凄く鋭いんですよね。それを見て「ああ、やっぱり凄い緊張してるんだなぁ」と思って。ときどき感じるんですよ。僕が携帯で電話している時も、ヤスの顔をパッと見ると、一点を見つめて鋭い目をしてんですよね。それで、『プライド』当日の朝6時くらいに携帯が鳴って。

——えっ？　朝6時にぃ？

金沢　僕はもう寝ようと思ってたんだけど、「誰だ、こんな時間に」と思って着信を見たら〝藤田〟なんですよ。あっ、藤田も眠れねぇんだなぁと思って。

——へぇ～、なんだか〝猪木軍団〟じゃなくて、〝GK軍団〟って感じなんですね（笑）。

金沢　いやいや（笑）。だから、藤田もヤスのことで頭がいっぱいだったんですよ、きっと。本人以上に緊張してるのかなぁと思ってね。まぁ、留守電も入ってないからいいやって、ほっといたんですけどね。もし、留守電に「安田さんがいなくなったんです」ってことになったらね、これは一緒に探さなきゃいけないと思って、僕もあわてて留守電を聞いたんですけどね（笑）。

——あっ、いなくなる可能性もありますからねぇ。

金沢　うん。やっぱりこればっかりは、やった人間じゃなきゃ分からないから。ヤスが言ってたことで印象に残ったのは、「藤田君の気持ちが初めて分かった」ってことですよね。で、ヤスの場合は、藤田やジョンストンがフォローしてくれたけれども、藤田はフォローしてくれる人間が誰もいなかったですからね。それを一人でやってきたところが、やっぱり藤田は凄ぇなぁと改めて思いましたけどね。

——いい話ですねぇ。それにしても、金沢さんのところには、みんな電話してくるんですねぇ。凄い人望だなぁ。僕のところなんか、石井館長しか電話がかかってこないもんなぁ……。

金沢　グフフフフ、まぁ、それはみんなプロレスを始めた、新弟子の頃から知ってるからですよ。彼らの新弟子の頃からずっと見ているから。プロレスでは、どんな素質のある選手でも、下から入るじゃないですか。付き人やって、洗濯している時も見るし、地方に行けばコインランドリー探して洗濯しているところも見る。やっぱりそういう頃から知っているから、安心感があるんでしょうね。ヤスなんか、相撲でちょっと失敗して、こっちに入ってきた頃から知ってるわけですからね。

——じゃあ、本当に金沢さんは、ハラハラしながら安田の試合を見ていたんでしょうね。

金沢　僕はだから、勝つんならば秒殺じゃないけど、早い勝負だと思ってましたからね。だから、最初にコーナーに詰めた時はね、「ああ、いけるな。大丈夫だ、大丈夫だ。まあ、練習どおりなんだろうな」って思ったんですけど、佐竹選手のコンディションもめちゃくちゃ良かったですからね。しかも、防御もよく分かってるから。

——佐竹の腰の強さにもビックリしましたね。

金沢　そうですね。まして、安田サイドのセコンドの声は全部聞こえてますからね。で、ああいう試合になると、あとはもうスタミナだけですよね。僕もそこを注意して見ていたんですけど、コーナーでブレイクになって、再開になるじゃないですか。その時にヤスがもうダメだとか、シンドイっていう顔を見せたら負けだなぁと思ってたんですよ。そうしたら、それがないんですよね。それがね、見ていて一番驚きましたね。

——ああ、よく見てますねぇ。技術論じゃなく、そういうところなんですよね。

新日本帝国にヒビが入ったんだとすれば、その原因は藤田にあると思うんですよ

僕もあれには感動しました。

金沢 だって、プロレスだって15分くらいしか試合をしたことがない男ですよ。それが最後までいい顔を保ってね、佐竹選手の打撃を恐れずに向かっていったのは驚きであり、嬉しかったですよねぇ。

――はいはいはい。

金沢 たしかに膠着してからの次の手はなかったけど、それは技術がなかっただけの話で、ヤスは決して負けたくないからああいう攻め方をしていたんじゃないと思うんですよ。あれは、常に勝とうとしてやってたんだけど、それ以上の技術がまだなかっただけのことですよね。

――それは十分伝わってきましたよ、僕にも。

金沢 それでも、咄嗟にヒザ蹴りを出したりね、やっぱり休むところでは休んでいるんですよね。だから僕は、この人は昔から頭がいいなぁと思ってたんですけど「あっ、やっぱ頭いいじゃん」って見てて思いましたねぇ。

――いや、僕も安田のインタビューなんか聞いてると、ウカツなところもあるけど、「頭のいい人だなぁ」ってのは感じますねぇ。

金沢 だから、インタビュールームで初めてヤスの話を聞く人は、あんなによくしゃべって、明るくて、言ってることに筋が通っててビックリしたと思うけど、彼は昔からしゃべりもうまいんですよ。まあ勝てて、ああいう時は、僕もテレ臭いんで後ろのほうで話を聞いてましたけどねぇ（笑）。

――試合後、なんかしゃべったんですか？

金沢 ちょっと後ろのほうでインタビューを聞いていたら、なんかもの凄い怖い顔をして、突進してくるんですよ。ドスドスドスと、まるで佐竹選手をコーナーに追い詰める勢いで（笑）。それで、抱きしめられて、「ありがとっ」って言うんですよ（笑）。いや、だからね、その時の迫力といったら、佐竹選手は苦しかったんだろうなぁって思いましたよ（笑）。凄い圧力でしたからね。

――ダッハハハハハハハー

金沢 ホントに（笑）。なんかね、熊かなんかに襲われたらこういう感じかなってね。プロレスラーはやっぱ凄ぇなぁって改めて思いましたもん（笑）。その後ちゃんと本人言ってましたよ。「ありがとっ」って。僕が「よく頑張ったなぁ」って言ったら、「KOじゃなくてゴメンネ」ってね。

――いやぁ、そんな素敵な「GK劇場」があったなんて知りませんでした（笑）。でも、あの時はリング上でいろんな「猪木劇場」がありましたよね。それについては、金沢さんはどう思ってるんですか？ あのー、あれについては猪木さんは出過ぎとか、いや「プライド」を面白くしているとか、いろんな意見があるじゃないですかぁ。

金沢 あれは猪木さんの新日本プロレスへの愛情ですよ。

――愛情！ ほ〜ん。

金沢 猪木さんがここんところ、なんのために新日本に介入しているかと言うと、やっぱり新日本の人気が落ちて、興行成績が落ちてもらっちゃ困るからであってね。嫌がらせとか、目立ちたくて新日本に介入しているわけじゃないと思うんですよね。だから、「プライド」っていう2万人以上が集まる会場で、まあ新日本の大阪ドームの宣伝をしてくれたわけですよね。

――ああ……。

金沢 だから、やっぱり猪木さんは新日本が好きなんだなぁっていう感じですよね。

――なるほど。その猪木さんがやっている一連の行動というのは、いったいどういう意味があるんですか？ 僕のような者にも分かるようにちょっとプロレス講座として教えていただきたいんですけど……。

金沢 今の状況？ その話はだから凄く長くなるようで、単純でもあるような…。

――その中間あたりでお願いします（笑）。

金沢 いや、たぶん僕がいろいろ話すと、いっぱい波風が立つからなぁ。

――じゃあ、それもちょっと波風が立つくらいのお話を（笑）。

金沢 まぁ、凄く簡単なことは、まず猪木さんが新日本プロレスに対していろいろ言ってることは、新日本が落ちてきては困るからですよね。その落ちて困るというのは、興行成績であったり、世間の評価であったりね、そういう部分が落ちてしまったら困ると。で、新日本をここまでずっと引っ張ってきた人は誰かというと、長州力という人なんですよ。この長州さんがマッチメーカーとして、Uインターとの対決をやったり、いろんなことを仕掛けてきたわけです。だから、今の対立構造は「猪木VS長州」だとか言われてますけど、それは確かにそうなんですよ。やっぱり従来の新日本を保ってきたのは長州さんで、それに対して「そうじゃねぇだろっ」って言ったのは猪木さんなわけだから。じゃあ、実際に新日本の内部がどうなっているかというと、これがまた複雑で（笑）。新日本というのは、船頭がいっぱいいる会社ですからね。だからいつも話題には事欠かないし、そこが面白いとも言えるわけですけど。

――ですねぇ。

金沢 じゃあ、これは僕の考えなんですけど、長州力という人はこの10年間で、新日本プロレスを猪木さんの時以上に巨大企業というか、ひとつの帝国に築き上げてきましたよね。それにもし何かヒビが入ったんだとすれば、その原因は僕は藤田にあると思うんですよぉ。

――えぇっー ふ、藤田ぁぁぁ！

金沢 いや、これは小川直也でも、橋本でもない。僕は藤田だと思うんですよ。

――いやぁ、それは面白そうな話だなぁ。

金沢 と言うのも、長州さんというのは、プロレスこそが最高のプロ格闘技、プロスポーツだと考えていた人なんですね。だから、アルティメットとかバーリ・トゥードというものは全部亜流のものだし、

◀藤田のリラックスしている表情が、GKとの親密な仲を感じさせるいいショット！ サダハルンバだったらこうはいかない！

猪木軍団と呼ばれる人たちは
虎の威を借りてる人たちなんですよ

街のケンカと一緒じゃないかという考えをずっと守ってきた人なんですよ。ところが、長州さん自身が徐々にヒクソンを気にしだしたんですよね。

——それはいつ頃の話なんですかぁ？

金沢　いや、だから髙田VSヒクソン戦の前の話ですよね。やっぱり、長州さん自身がプロデューサーの感覚なのか、本当に叩き潰してやろうと思ったのか、僕は両方の意味があったと思うんですけど。ヒクソンを気にしはじめたというのが大きいと思うんですよ。

——へぇ〜。

金沢　それでご存知のように、新日本が本気でヒクソンを招聘しようと、もう何年も前にギャラの交渉をしたことまであるんですよね。その時に長州さんがヒクソンの相手として考えたのが、中西と藤田だったわけですよ。

——ほぉ〜。

金沢　火種はそこにあったと思うんですよ。もちろん、中西はあくまでプロレスの世界で生きていく人間ですよ。けれども、当時、その中西が今ひとつブレイクしない。あれだけの素材を持っていて、オリンピック代表だった男がもったいないわけですよ。プロレスは、それほど難しい世界ですからね。じゃあ、ヒクソン戦で一発当ててやろうという思惑があった。藤田に関しては、その頃はまだグリーンボーイでしたからね。負けても、藤田自身そんなに失うものはないし、新日本にも大きな影響はない。それで、藤田もいいんじゃないかって。

▲この写真を見て、サダハルンバは一言。「う、うらやましいなぁぁぁぁ」

——はぁ〜ん。

金沢　それで藤田というのは、考え方も他の選手と違うわけですよ。俺は下積みを長い間積んで上がっていくのはイヤだ、俺は一発当ててのし上がりたいんだってね。だから、藤田のほうがその気になったわけですよ。けど、ヒクソン戦は結局なくなった。でも、藤田にとってはそれがもの凄く大きな刺激になっちゃったわけです。

——なるほどねぇ。

金沢　藤田は即断即決みたいなところがあるし、非常にクレバーな男ですからね。自分が何年もこのまま新日本で地道にやってても、武藤や蝶野のようにはなれないことをよく分かっていたんですよ。「俺はあんなにかっこよくない。スマートでもない。じゃあ、俺は強さだけで上がっていける世界でのし上がるしかないんだ」ってね。そして、彼は本当に新日本を出ようとしたわけです。

——はは〜ん。

金沢　しかも、最初はリングスに行こうとしたわけですよね。自分で前田社長と話をして。それがひょんなことから猪木さんの耳に入ってね、「お前、どういうことなんだ。俺に一言もないのか」と言われて（笑）。藤田にしてみれば「とんでもありません」と。じゃあ1回話そうということで、最終的に前田社長に断りを入れて猪木さんの元に戻ったわけです。でも、そこはまだ小さなヒビだったかもしれませんよ。でも、藤田は去年一年で新日本が今まで持っていた価値観とは別の価値観を作っちゃったわけですよ。

——そ、それはそんなに大きかったんですか？

金沢　大きいですね。新日本にいれば、その価値観はそのまま認められないわけですよ。いくらバーリ・トゥードが強かろうが、それは正義じゃない、と。従来の新日本の価値観では、藤田はすぐには認められない存在だったんですよ、本当は。でもそんな藤田が今、伝統のＩＷＧＰのタイトルを獲ろうというところまで来ちゃったわけじゃないですか。

——じゃあ、猪木さんにしても、はじめに「プライド」ありきじゃなくて、はじめに藤田ありきだったわけですかぁ？

金沢　本気になりましたよね、猪木さんも。だから、猪木さんにしても、藤田にしても、お互いに利用し合うだけの力を持っていることを認め合ってるんだと思いますよ。

——そこに、石澤とか、安田とかも加わって、どんどん『プライド』に出ていってますよね。

金沢　そうですね。だから、藤田がきっかけとなって、新日本に今までなかった価値観が、内部にも生まれてしまったわけですよ。そういう〝猪木軍団〟と呼ばれる人たちは何かというと、ある意味で虎の威を借りてる人たちなんですよ、うん。その虎というのは、アントニオ猪木ですよね。でも、その虎の猪木さんも、彼らのことを商品価値があるって認めているんですよ。もう箸にも棒にも掛かんない人間だったら、猪木さんも相手にしませんからね。

——そうですねぇ。

金沢　うん。だから蝶野なんかは「猪木軍団ってなんだ。一人ずつ見てみろよ。客呼べる力あんのかっ」って。「俺はこの世界のビジネスとして、お前らをトップとして認めないよ」と言ってますけど、蝶野たちの価値観からすれば、そうなる。それもまたプロレス側からいけば、真っ当な反論なんです。

——猪木軍団って客呼べるんじゃないですか？　今一番。

金沢　呼べますね。ただ、彼らが単品になってプロレスのリングに上がった時にどれだけの集客力があるかというと、また別の問題なのかなと思うんですけど。

——ふ〜ん。でも、巨大な新日本帝国が揺れはじめたのは、やっぱり格闘技というか、「プライド」だと金沢さんも見ているわけですね。

金沢　というより、新日本から藤田のような選手が出てきたということが大きいんだと思いますね。

——はぁはぁ、じゃあ猪木さんがまた『プライド』とか、猪木軍団を持って、勢

ZERO―ONE?
一言で言おうと思えば言えなくもない……

いをつけているわけじゃないですか。これについては、金沢さん的には万々歳なんですか？

金沢　これはねぇ、だからぁ……一言で言うのは難しいなぁ……。

――えっ？　二言でも三言でもいいですから言えませんか？（笑）。

金沢　いやぁ、僕にしてみれば、やっているのはやっぱり現場の選手なんですよね。でも、現場の選手のレベルというのは、昔の新日本と比べても上がっているわけですよ。だけど、彼らのジレンマというのは、新日本のトップになったとしても、世間的には決してトップというわけではない。昔のゴールデンタイムを取ってた頃の選手と比べれば、名前が売れてないんですよ。結局、今のプロレスラーでも、僕は凄いと思うし、身体も使っているし、努力もしている。でも、結局猪木さんや長州さんに適わないのは知名度なんですよね。

――だから「プライド」のような飛び級の場が、新日本にも必要になってきているということですね。

金沢　ええ。それに新日本っていうのは、まず器を最初に揃えますよね。何月にドームやろう、年何回ドームやろうという形で押さえて、そういうスケジュールが決まってから、いつもこう頭をひねるわけですよ。だから、そういう現場の苦労も僕は十分知ってますからねぇ。

――金沢さんは現場主義ですもんねぇ（笑）。

金沢　でもまぁ、その材料が少なくなってきているのは確かなんですよ。たとえば去年なんか考えたら、大仁田っていう男がいたから救われたわけですよね。じゃあ今年、そういう爆弾的な材料になるものがあるかと言えば、まあ去年から続けている全日本との対抗戦がある、と。でも如何せん、全日本のほうはちょっとコマが少ないわけですからねぇ。

――大仁田に、全日本ですか……（笑）。猪木さんは長州に「ガンはお前だ」って言ったらしいんですけど、長州さんたちはどういう気持ちなんですか、今。

金沢　いや、長州さんは実際に今、細かいマッチメークまでしてませんからねぇ。本人はむしろ、一選手に戻った気持ちだろうから、逆に気にしてないんじゃないですか。現場責任者としてっていうよりも、一選手としてどうやって最後に自分の光を出してやろうかってね、そっちのほうに気がいってると思うんですよ。

――結局また猪木さんかって、ムカついてないんですか？

金沢　そりゃあ決して嬉しくはないと思うんですけど、猪木さんの力を借りれる部分もあるわけですからね。それは藤波社長にしても。たとえば、新日本と袂を分かった橋本真也に関しても、その間に猪木さんが入らなければ、話は進まないわけですよ。僕もやっぱり、面白いから猪木軍団は取り上げますし。

――でも、意外だったのは、金沢さんの目には、火種は小川やZERO―ONEじゃなく、藤田だと映っていたことですね。

金沢　ZERO―ONE？　ZERO―ONEはねぇ……ウ～ン。

――えっ？　なんですか？　ZERO―ONEって、やっぱり一番面白いんじゃないですか？

金沢　ZERO―ONEっていうのは、一言で言おうと思えば言えなくもないんですけどね。

――な、なんですか、それ？（笑）。

金沢　たぶん、ZERO―ONEって何かって言ったら、みんな分からないと思うんですよ。一生懸命、ZERO―ONEのことを取材している人でも分からないと思う。でも、僕はなんとなく分かりますよ、ZERO―ONEがなんなのかって。

――え、それはどういうことですか。教えてほしいなぁ（笑）。新日本の子会社とか、そういうことですか？

金沢　いや、そういうことじゃないんですよねぇ。

――金沢さん、プロレスラーですねぇ（笑）。

金沢　だからZERO―ONEって、もともとはこうなるものじゃなかったと思うんですよね。

――どうなってるんでしたっけ？

金沢　おそらく、関わった全ての人がそう思ってんじゃないですか？　だけど、今みたいになったのは、やっぱり橋本真也が頑張ったってことなんですよ。

――橋本が頑張った！　なんか人に好かれる凄くいいキャラクターですよね。

金沢　うん。橋本がもの凄くエネルギーを出して彼の情熱というか頑張った結果が、いい方向に動いていったんですよね。

――ZERO―ONEっていうのは今後、どうなっていくんですか？

金沢　う～ん、その答えが難しいですよね。というのは、ZERO―ONE自体の所属選手が少ないじゃないですか。橋本が望むものかどうかは分からないけど、今はZERO―ONEのリングがオールスター戦の舞台になっているんですよ。だから、それをずっとやっていけるんであれば、それは凄いと思うんですよ。

――それは可能なんですか？

金沢　やり方によってはね。ただ、長く続けるとなったら疑問はありますよね。で、ZERO―ONEに所属している人間中心に地道にやっていたら、それはまた違うものになっちゃうし。ただ、なんだかんだと言って、橋本と三沢社長は分かり合ってますからね。そこが今のZERO―ONEの強味ですよね。所属選手が少ないこともあって、毎回ゼロからのスタートになってしまうという危なさもありますけど、今のところ三沢社長とは最終的に分かり合ってますからね。

――ポイントは〝NOAH〟ですよね。

金沢　だからね、やっぱり日本テレビがついたことは非常に大きいですよね。ZERO―ONEがなぜあそこまで考えられないことができたかというと、これは簡単に言ってしまえば橋本―三沢の友情なんですよ。お金なんかよりもね。でもそこにテレビがついたってことは大きいですよね。テレビがついちゃうと拘束はありますからね。せっかく秋山と永田っていう流れができたんですけど、これもテレ朝の新日本と日テレのNOAHということで、そんなに簡単にはいかないでしょうね。でも、もしテレビがついてなかったら、意外にもできちゃうものだと思うんですよ。

――はぁ～ん、なるほどなぁ……。で、

▲GK＆サダハルンバ共演によるBOSSのCMパクリ！藤田選手、どうですかぁぁぁぁっ！

最終的にこの混沌とした状況の中で、誰が最後に一番勝つんですか？

金沢　この状態でですか？　それは頭のいい人で、地道に頑張る気持ちがありつつ、チャンスにめざとい人ですね（笑）。

――それはみんな当てはまるじゃないですか（笑）。

金沢　当てはまるし、それぞれ欠けているところもありますよね。でも、プロレスの世界っていうのは、自分一人じゃあ成り立たない世界だから、そこが難しいんですよ。

――でも、最終的に誰かって決めるのは、金沢さんですよねぇ（笑）。

金沢　ウフフフフフ、とんでもない。

――お前の勝ちだっ！　って決めてるんじゃないですか、本当は（笑）。それでもやっぱり長州派？

金沢　いやいや。まあ、一時期にそのぉ、結構、べつに長州さん寄りとかじゃなくて、やっぱり小川のことをよく書いてなかったから。元を正せば橋本VS小川の流れの時に、はっきり言って小川は間違っていると書いたわけだし、猪木さんも間違っていると書いて、橋本選手を全面的に擁護する姿勢を打ち出したんですよね。当然、猪木さんはインターネットを良く見るから、ゴングの批判が多いわけですよ。たまたまウチの記者が猪木さんの取材に行った時に「凄いなぁ、ゴングは嫌われて」って言われたらしいけど（笑）。でも、かといって長州さんと特別に仲が良いとかでもないし、ムトちゃんと接している時も、ライガーと接している時も一緒ですからね。

――でも、今度『ゴング』で金沢さんがやってきた長州インタビューを一冊の本にして出版するんですって。このタイトル『おい、金沢』はいいですねぇ（笑）。

金沢　ええ。売りは『ファイト』時代のヤツらしいですね。一番最初にやった14年くらい前のものなんですけど、長州さんが全日本に上がって、ジャパンプロレスが解散になって、新日本に戻ってきたという一番マスコミ不信の頃のインタビューですよね。全部取材を拒否していた頃にやったものなんですよ。

――あぁー、そういうのがぜーんぶ入ってるんだ。

金沢　そうですね。だからこれはウチの竹内社長が編集してくださったんですけど、その時代時代の節目が見えてくるから面白いらしいですよ。このインタビューのあと、長州さんはこう動いたというのが分かるらしいんです。

――これは爆発的に売れますよぉ！　ところで金沢さんＺＥＲＯ―ＯＮＥってなんですか？

金沢　だから、それは10年経ったら教えてあげますよ（笑）。■

NEXT ISSUE

嗚呼、早く『おい、金沢』が読みたい……けど

4・15　K－1ジャパン熊本大会

本誌ではやっぱり"武蔵"が一番好き！
ところで、モハメド・アリは
「アリ・ボンバイエ」で
入場するのだろうか――？

4・11～13　アブダビ・コンバット

アブダビの王子様の年に一度の大道楽！
ところで王子様のインタビューを和訳すると、
語尾は「～ダジョ」なのだろうか……？

4・15　極真祭＆ウェイト制大会

松坂大輔は開幕2連敗したけど、
同級生の田中健太郎には、
2Mの大男を一撃で倒してもらいたい！

4・29　K－1ワールドGP 開幕戦の読み方

バンナ劇場だけじゃなくて、
ユルゲン・クルトの楽しみ方、お教えします！

4月26日（木）発売！

SRS DX

スペシャルリングサイド

毎月第2・第4木曜日発売　定価680円　No.45

4・18ZERO－ONE武道館大会……ところで、金沢編集長と「週プロ」佐藤正行編集長は、どっちが解説がうまいのか、そこが一番気になる！

4/12THU～4/26THU

CALENDAR

日付	曜日	予定
4/12	THU	★「SRS･DX」44号発売日
4/13	FRI	●フジテレビ系『SRS』（26:15～26:45）放送⬅p69
4/14	SAT	■極真祭＆第18回全日本ウェイト制空手道選手権大会・1日目/東京・代々木第二体育館（10:00～）⬅p50 ◆SHOOTO GIG EAST Vol.3/チケット発売⬅p47
4/15	SUN	■極真祭＆第18回全日本ウェイト制空手道選手権大会・2日目/東京・代々木第二体育館（10:00～）⬅p50 ■シュートボクシング/愛知・名古屋市公会堂4Fホール（14:00～）⬅p49 ■K-1 BURNING 2001/アクアドームくまもと（15:00～）⬅p46 ■ニュージャパンキック連盟/東京・Cassスポーツクラブ（16:00～）⬅p48 ◆PRIDE.14/特別先行発売⬅p47
4/16	MON	
4/17	TUE	
4/18	WED	
4/19	THU	
4/20	FRI	●フジテレビ系『SRS』（26:15～26:45）放送⬅p69
4/21	SAT	◆JUST BRING IT!/チケット発売⬅p49
4/22	SUN	◆PRIDE.14/チケット一般発売⬅p47
4/23	MON	
4/24	TUE	
4/25	WED	
4/26	THU	★「SRS･DX」45号発売日

GUIDE & TICKET
大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

パンクラス

NEO BLOOD TOURNAMENT予選会
5月5日（土・祝）　東京・大田区体育館

◆開場/16:00　試合開始/16:30
◆入場料/2,500円（ファンクラブ会員とP'sLAB会員は1,500円）　当日券3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、e+（イープラス　http://eee.eplus.co.jp）、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館、アイドール新宿、ファイター、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1、パンクラス
◆会場アクセス/JR京浜東北根岸線、東急池上線・目蒲線蒲田駅より徒歩15分、京急本線梅屋敷駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2001 PROOF TOUR ～山田学　引退記念興行～
5月13日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/11:30　試合開始/12:00
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　D席3,000円　立見3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、e+（イープラス　http://eee.eplus.co.jp）、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館、アイドール新宿、ファイター、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1、パンクラス
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2001 PROOF TOUR
6月26日（火）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:30
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　D席3,000円　立見3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット先行発売/5月13日（日）後楽園大会会場内にて
◆チケット発売/5月20日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、e+（イープラス　http://eee.eplus.co.jp）、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館、アイドール新宿、ファイター、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1、パンクラス
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2001 PROOF TOUR NEO BLOOD TOURNAMENT DAY
7月29日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/12:30　試合開始/13:30
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　D席3,000円　立見3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット先行発売/5月13日（日）後楽園大会会場内にて
◆チケット発売/6月10日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、e+（イープラス　http://eee.eplus.co.jp）、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館、アイドール新宿、ファイター、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1、パンクラス
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

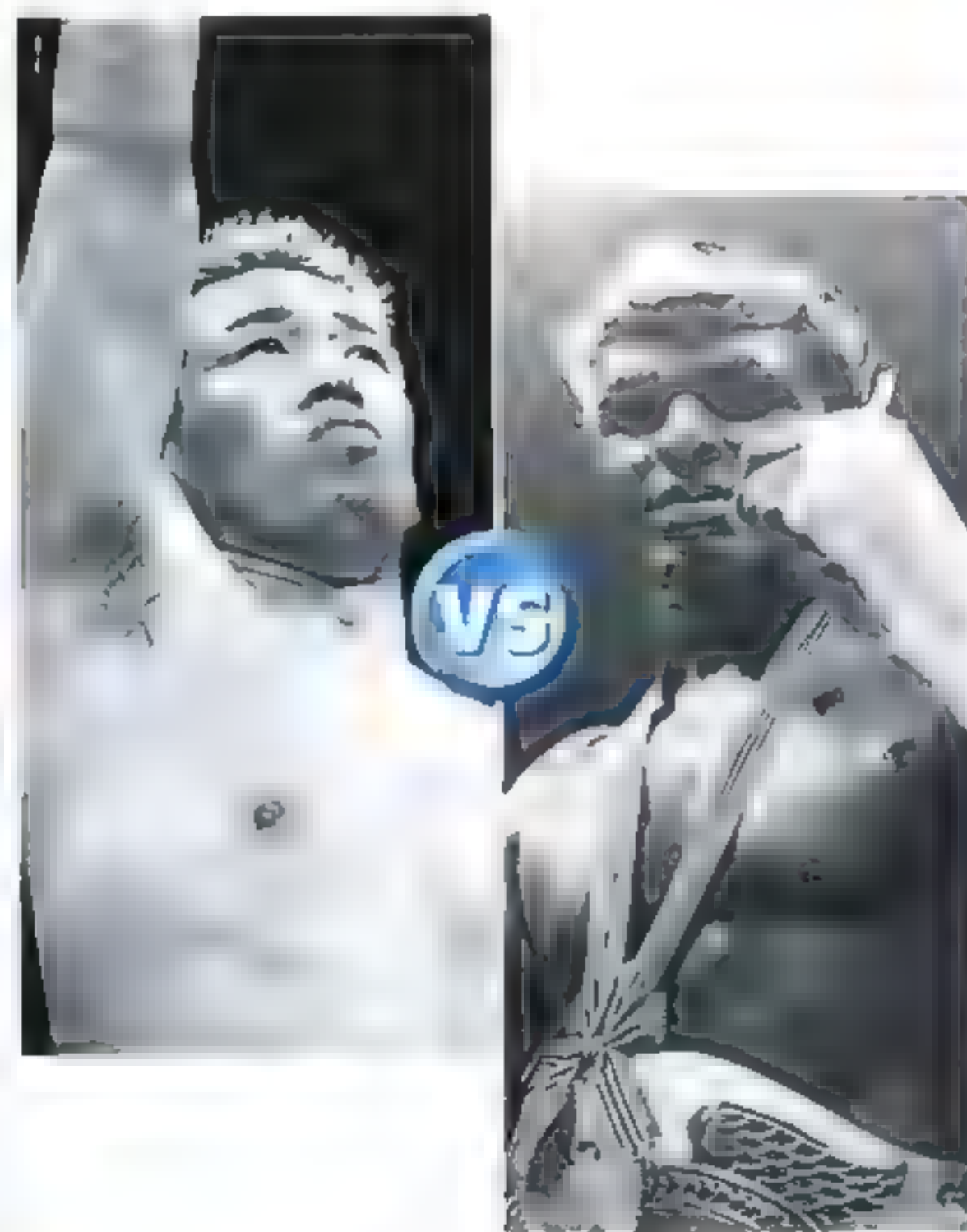
PANCRASE 2001 PROOF TOUR NEO BLOOD TOURNAMENT NIGHT
7月29日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:30
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　D席3,000円　立見3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット先行発売/5月13日（日）後楽園大会会場内にて
◆チケット発売/6月10日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、e+（イープラス　http://eee.eplus.co.jp）、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、後楽園ホール、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館、アイドール新宿、ファイター、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1、パンクラス
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

K-1

K-1ジャパン・シリーズ

4・15熊本大会で日本vs世界5vs5マッチ決定！魔裟斗もスペシャルマッチに出場！

4月15日（日）に行われる、「K-1 BURNING 2001」の対戦カードが決定した。昨年のグランプリでの敗戦以来、再起の時を狙っていた武蔵が、満を持してメインで登場！　K-1ジャパン勢の大将として、昨年度王者のホーストという難敵に挑む。この5vs5マッチに参戦するのは、武蔵のほかノブ・ハヤシ、大石亨、子安慎悟、富平辰文らの5名。いずれも世界の一流どころとの対戦となるため、ジャパン勢には意地を見せて闘ってほしいところだ。またスペシャルマッチとして魔裟斗vsパトリック・エリクソン戦も決定。相手のエリクソンはドージョー・チャクリキに所属する現WMTA世界王者の猛者。タイトル戦になるかどうかは未定だが、2度目のK-1参戦となる魔裟斗、今回もまた鮮やかなKO劇を披露してくれるのか!?

K-1 BURNING 2001 ～火の国熊本初上陸～
4月15日（日）アクアドームくまもと

◆開場/13:30　試合開始/15:00
◆入場料/SRS席20,000円　RS席14,000円　S席8,000円　A席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ローソンチケット
◆会場アクセス/JR熊本駅よりバス川口行き土河原下車（15分）
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

決定対戦カード
〈日本vs世界 5vs5マッチ〉

武蔵（正道会館）	vs	アーネスト・ホースト（オランダ/[illegible]）
ノブ・ハヤシ（[illegible]）	vs	ピーター・アーツ（[illegible]）
大石亨（正道会館）	vs	ロイド・ヴァン・ダム（[illegible]）
子安慎悟（正道会館）	vs	ブルカン・オズカン（[illegible]）
富平辰文（正道会館）	vs	[illegible]
魔裟斗（[illegible]）	vs	パトリック・エリクソン（[illegible]）
中井一成（正道会館）	vs	TSUYOSHI（[illegible]）
[illegible]（正道会館）	vs	安部[illegible]（[illegible]）

K-1ワールドGP・シリーズ

K-1ワールドGP 2001 in 大阪
4月29日（日）　大阪城ホール

◆開場/15:00　試合開始/16:30
◆入場料/SRS席25,000円　S席12,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中
◆会場アクセス/JR大阪環状線大阪城公園駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977
◆チケットに関するお問い合わせ/ステージア☎06-6344-4441

キングダム・エルガイツ

キングダム・エルガイツ東京大会 —ライト級チャンピオントーナメント—
5月2日（水）　東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　アマ試合開始/17:30　プロ試合開始/18:00
◆入場料/RS席7,000円　指定席4,000円　※当日は500円増し　自由席4,000（当日のみ）
◆出場予定選手/入江秀忠、和知正仁、龍ヶ崎五郎、小見川和隆、町田生五月
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、チケット&トラベルT-1、後楽園ホール、きんとき中央林間店、総合格闘技道場U・W・F他
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/キングダム・エルガイツ☎042-331-2797

バトラーツ

～バトラーツ旗揚げ5周年記念スペシャル～ uno
4月13日（金）東京・後楽園ホール

～バトラーツ旗揚げ5周年記念スペシャル～ dos
4月15日（日）宮城・Zepp Sendai

～バトラーツ旗揚げ5周年記念スペシャル～ tres
4月17日（火）北海道・Zepp Sapporo

STARTING-B（仮）
5月4日（金・休）TOKYO FMホール

グラップリング-B 第4回全日本選手権オープントーナメント
5月5日（土・祝）TOKYO FMホール

～バトラーツ旗揚げ5周年記念スペシャルFINAL～ 格闘ロード
5月10日（木）東京・駒沢オリンピック公園屋内球技場

土方隆司 凱旋興行2 ～つばさ広げて新世紀 ところざわへ！～
6月3日（日）所沢・くすのきホール

未来を担う子どもたちのために ～愛してます♥こしがや～
6月23日（土）埼玉・越谷桂スタジオ

◆お問い合わせ/バトラーツ☎0489-63-0005

NEO

女子総合格闘技ReMix ～GOLDEN GATE 2001～
5月3日（木・祝）東京・国立代々木競技場第二体育館

◆開場/16:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席20,000円　RSA席10,000円　RSB席8,000円　アリーナスタンド席10,000円　1FA席7,000円　1FB席5,000円　1FC席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット販売所/全国のプレイガイド、プロレスショップ
◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ReMix実行委員会☎03-3263-6965

渋谷系女子格闘技 SMACK GIRL
5月24日（木）東京・渋谷clubATOM

◆開場/18:30　試合開始/19:00
◆入場料/2,500円　※当日は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット販売所/プロレスショップ
◆会場アクセス/JR渋谷駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/（株）エヌ・イー・オー☎03-3796-7461

修斗

5・1後楽園大会で、王者・ノゲイラに昨年から絶好調の勝田が挑む！

5・1後楽園大会の対戦カードが一部発表された。ライト級王者としての地位を確立してきた感のあるノゲイラが、快進撃を続けている勝田の挑戦を受ける。勝田は1月にもバレット・ヨシダを破る大金星を挙げており、今回はノンタイトル戦だが、その勢いに乗って王者の首も討ち取りたいところだ。しかし、何人もの挑戦者を葬ってきたノゲイラのギロチンはまさしく脅威。果たして勝田はこの難敵を破ることができるのか？

SHOOTO GIG EAST Vol.1
4月28日（土）東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/S席6,000円　A席4,000円　〈Vol.1～5ボックスシート5興行通し券〉S席27,000円　A席18,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/パレストラ東京、デジタラジア(http://DIGITALAZIA.com)
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

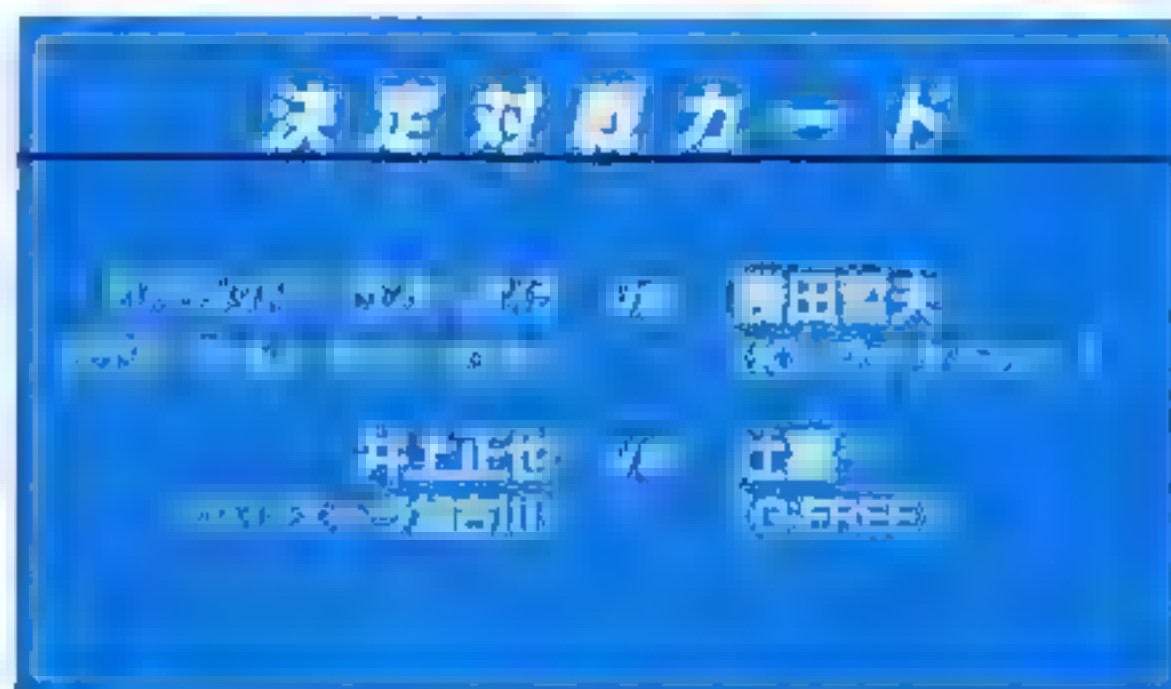
決定対戦カード

[illegible]（[illegible]）vs [illegible]（[illegible]）
[illegible]（総合格闘技TOPS）vs [illegible]（[illegible]）
[illegible]（[illegible]）vs [illegible]（[illegible]）
[illegible]（[illegible]）vs [illegible]（[illegible]）

SHOOTO TO THE TOP
5月1日（火）東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/SRS席12,000円　SS席10,000円　S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円　C席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ファイター、書泉ブックマート、後楽園ホール、フィットネスショップ、KEEL、GUTSMAN・修斗道場
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/GUTSMAN・修斗道場☎03-3325-1500

決定対戦カード

[illegible]（[illegible]）vs [illegible]（[illegible]）
[illegible]（[illegible]）vs [illegible]（C-FREE）

SHOOTO GIG EAST Vol.2
5月22日（火）東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/S席6,000円　A席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/パレストラ東京、デジタラジア(http://DIGITALAZIA.com)
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

決定対戦カード

[illegible]（[illegible]）vs [illegible]（[illegible]）

SHOOTO GIG EAST Vol.3
6月14日（木）東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/S席6,000円　A席4,000円
◆チケット発売/4月14日（土）
◆チケット発売所/パレストラ東京、デジタラジア(http://DIGITALAZIA.com)
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

PRIDE

PRIDEルール改正は是か非か!? どうなる『PRIDE.14』!!

本誌の特集でも取り上げているとおり、膠着打破を目的に『PRIDE.13』から改正されたルール問題が、広く波紋を投げかけている。このルール改正によって膠着は確実に減ったものの、4点ポジションでの打撃が可能になったことによって、残酷なKOシーンも続出したからだ。次回の『PRIDE.14』では、このルール問題にDSEがどう応えるのかも焦点となってくるだろう。さらなる改正に踏み切るのか？　それともこのまま突っ切るのか？　また、PRIDEといえばもうひとつ忘れちゃいけないのが「PRIDE猪木劇場」。猪木プロデューサーが今度は何をやってくれるのか!?　こちらもメチャクチャ楽しみだ！

PRIDE.14
5月27日（日）神奈川・横浜アリーナ

◆開場/13:00　試合開始/15:00（予定）
◆入場料/RRS席23,000円　スタンドS席13,000円　スタンドA席7,000円
◆チケット発売/【特別先行発売】4月15日（日）11:00～「グレート・アントニオ」（詳細は106ページを参照）　【一斉発売】4月22日（日）～
◆チケット発売所/ドリームステージエンターテインメント他
◆会場アクセス/JR東海道新幹線、横浜線新横浜駅、地下鉄新横浜駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

MA日本キックボクシング連盟

ODYSSEY-2

5月4日（金・休）　東京・北沢タウンホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/前売券4,000円　当日券5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/山木ジム
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/山木ジム☎03-3485-7060

決定対戦カード

5回戦

[illegible]（山木ジム） vs [illegible]（タイ）

[illegible] vs ※

辻直樹（山木ジム） vs [illegible]（東金ジム）

田中信一（山木ジム） vs [illegible]

3回戦

[illegible]（山木ジム） vs ※

飯塚英史（山木ジム） vs [illegible]

ランボー（東金ジム） vs ※

ニュージャパンキックボクシング連盟

CHALLENGE TO MUAYTHAI 5

4月15日（日）　東京・Cassスポーツクラブ

◆開場/15:30　試合開始/16:00
◆入場料/指定席5,000円　自由席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/小国ジム、Cassスポーツクラブ
◆会場アクセス/東武東上線上板橋駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/小国ジム☎03-3989-0368

主な対戦カード

5回戦

[illegible]（八王子FSG） vs [illegible]（小国ジム）

松本竜太（名古屋JKF） vs AVIS D（小国ジム）

3回戦

[illegible] vs [illegible]

志村[illegible]（小国ジム） vs キャリー宇佐美

[illegible]（小国ジム） vs [illegible]

『最強を求めて！　世界制覇』

5月20日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　SS席10,000円　指定A席7,000円　指定B席5,000円　立見3,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、チャンピオン、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンケイプロモーション☎03-5971-2165

決定対戦カード

〈MA日本スーパーライト級王座決定戦〉

山崎道明（東金ジム） vs 中林勇人（ビクトリージム）

〈MA日本スーパーフェザー級タイトルマッチ〉

天野哲成（マイウェイジム） vs [illegible]（土浦ジム）

〈MA・全日本キック対抗戦〉

井上哲（山木ジム） vs 金沢久幸（TEAM [illegible]）

[illegible] vs [illegible]

土井広之 vs [illegible]

佐藤[illegible] vs ヌンサヤーム・ヤマキ

[illegible]（東金ジム） vs ※

東金ジャガー（東金ジム） vs ※

東金ランボー（東金ジム） vs ※

MAキック『闘い続ける男たち』パート2

6月15日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　SS席10,000円　指定A席7,000円　指定B席5,000円　立見3,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、チャンピオン、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンケイプロモーション☎03-5971-2165

Result　3.30MAキック『ODYSSEY-1』後楽園ホール大会・試合結果

（試合結果）

○グライガンワーン・オースイーブワローイ（5R判定2-0）木村允●
〈タイ〉　〈土浦〉

○井上哲（5R判定3-0）小次郎●
〈山木〉　〈東金〉

○ヌンサヤーム・ヤマキ（2R1分55秒、KO勝ち）五十嵐ヨシユキ●
〈タイ〉　〈J-NET/アクティブJ〉

○森岡タカシ（不戦勝）長瀬悟●
〈王者/武勇会〉　〈挑戦者/習志野〉

△マグナム酒井（5R判定1-0、ドロー）TOGANEジャガー△
〈士道館〉　〈東金〉

○梅下湧暉（5R判定3-0）きんぞー●
〈谷山〉　〈新潟山木〉

○田中信一（5R判定3-0）高橋拓也●
〈山木〉　〈習志野〉

△山田健博（5R判定0-0）室崎剛将△
〈八街〉　〈真樹〉

○井手本高司（4R2分24秒、TKO勝ち）森楕●
〈八街ジム〉　〈谷山ジム〉

○辻直樹（1R2分15秒、KO勝ち）奥津伊久磨●
〈山木〉　〈東金〉

○飯塚英史（3R判定3-0）ランボー●
〈山木〉　〈東金〉

J-NETWORK

MAKING THE ROAD-Ⅲ

5月31日（木）　東京・北沢タウンホール

◆開場/17:30　試合開始/18:00
◆入場料/A指定席6,000円、B自由席4,000円　※当日は1,000円増し　当日券4,500円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、アクティブJ、サバーイ町田、ソーチタラダ渋谷・池袋ジム
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

出場予定選手

[illegible]

THE CRUSADE-Ⅱ

7月17日（火）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席9,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　※当日は1,000円増し　立見3,500円（当日のみ）
◆チケット発売/5月1日（火）
◆チケット発売所/チケットぴあ、アクティブJ、サバーイ町田、ソーチタラダ渋谷・池袋ジム
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

出場予定選手

[illegible]

Result　3・23『THE CRUSADE -聖戦-』J-NETWORK北沢タウンホール大会結果

（試合結果）

★5回戦

△蔵満誠（ドロー）泉ユーサク△
〈JMTC〉　〈MA/山木ジム〉

★3回戦

○浦林幹（判定3-0）辻直樹●
〈JMTC〉　〈MA/山木ジム〉

○中村玄志（判定2-0）吉本光志●
〈MA/山木ジム〉　〈アクティブJ〉

○黒田道廣（判定3-0）石井武広●
〈アクティブJ〉　〈MA/山木ジム〉

○井上真吾（1R1分51秒、KO勝ち）高橋智寛●
〈谷山ジム〉　〈ソーチタラダ〉

○村松三之（判定3-0）シャーク長田●
〈アクティブJ〉　〈MA/マイウェイ〉

○牧裕三（2R0分23秒、TKO勝ち）八幡圭一郎●
〈ソーチタラダ〉　〈アクティブJ〉

△栗山武（ドロー）深沢栄三郎△
〈サバーイ町田〉　〈MA/山木ジム〉

※メインの試合結果は83ページを参照

新日本キックボクシング協会

市原大会

5月6日（日）　千葉・市原臨海体育館

◆開場/15:30　試合開始/16:00
◆入場料/RS席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見3000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、協会公式ホームページ、協会各ジム、市原ジム
◆会場アクセス/JR房総西線五井駅より車で10分
◆お問い合わせ/市原ジム☎0436-25-1909

主な対戦カード

5回戦

〈日本フェザー級タイトルマッチ〉

〈日本ミドル級王座決定戦〉

THE STAR FREET

5月27日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見4000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、協会各ジム、協会公式ホームページ
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/治政館☎0489-53-1880

決定対戦カード

〈日本フライ級タイトルマッチ〉

日本キックボクシング連盟

2001激動シリーズ

4月28日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　指定A席5,000円　指定B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ファイター、日本キックボクシング連盟、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

主な対戦カード

5回戦

全日本キックボクシング連盟

JUST BRING IT!

5月17日（木）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席9,500円　S席6,500円　A席4,500円　B席2,500円　立見3,000円（当日のみ）　※当日は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック電話予約
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キック☎03-3365-1171

シルバーウルフ

魔裟斗vs武田幸三戦が浮上!?
第3回ウルフレボリューション開催！

WOLF REVOLUTION ~Third Wave~

6月22日（金）　東京・Zepp Tokyo

◆詳細未定
◆会場アクセス/ゆりかもめ青梅駅より徒歩5分、東京臨海高速鉄道東京テレポート駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/シルバーウルフ☎03-3498-7979

シュートボクシング

迎撃覇者

4月15日（日）愛知・名古屋市公会堂4Fホール

◆開場/13:30　試合開始/14:00
◆入場料/S席10,000円　A席5,000円　B席4,000円　自由席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、IVY Books、風吹ジム☎0568-88-7333
◆会場アクセス/JR中央本線、名古屋市営鶴舞線鶴舞駅より徒歩4分（鶴舞公園内）
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

主な対戦カード

Be A Champ 2nd Stage

4月30日（月・休）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席8,000円　SS席6,000円　A席5,000円　B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、渋谷東急文化チケットセンター、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、板橋大山アメリカン、チャンピオン、書泉ブックマート、後楽園ホール、ワールドスポーツプラザKINGS、シュートボクシング協会
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

対戦カード

出場予定選手

第20回アマチュアシュートボクシング大会

6月10日（日）　神奈川県立体育センター本館

◆選手集合/8:30　試合開始/9:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/小田急線善行駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/湘南シュートボクシングジム☎0462-64-9867

空手

極真会館（松井派）

第4回極真祭：2001オープントーナメント 第18回全日本ウェイト制空手道選手権大会 インターナショナルチャレンジマッチ

4月14日（土）、15日（日）　東京・国立代々木第二体育館

◆開場 10:00
◆入場料/【4月14日】2階自由席3,000円　【4月15日】1階アリーナ指定席5,000円　2階自由席3,000円　※入場券は、当日9:30より会場チケット売場で販売
◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/国際空手道連盟 極真会館☎03-5992-9900

第7回全日本青少年空手道選手権大会

5月3日（木・祝）、4日（金・休）　埼玉・戸田市スポーツセンター

◆開場 未定
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR埼京線戸田駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/大会事務局　極真会館埼玉支部盧山道場☎048-256-8255

第14回オープントーナメント全九州空手道選手権大会

5月13日（日）　鹿児島アリーナ

◆開場/8:30～
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR西鹿児島駅よりバスで約15分
◆お問い合わせ/国際空手道連盟 極真会館鹿児島支部☎099-266-3621

2001全世界ウェイト制空手道選手権大会

6月9日（土）、10日（日）　大阪府立体育会館

◆詳細未定
◆会場アクセス/南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/国際空手道連盟 極真会館☎03-5992-9900

新空手

第9回新空手道千葉大会

6月10日（日）　千葉・船橋武道センター2F・第1武道場

◆試合開始/12:00
◆入場料 無料
◆会場アクセス JR船橋駅より徒歩15分、京成大神宮駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/新空手本部☎03-3239-4994

正道会館

第3回オープントーナメント 全日本ジュニア空手道選手権大会

6月23日（土）　大阪市中央体育館メインアリーナ

◆試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス 地下鉄中央線朝潮橋駅2番出口より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本ジュニア大会事務局☎06-6357-1654

日本拳法講武会館

総合格闘技/日本拳法オープントーナメント大会 天下布武

4月30日（月・休）　東京・立川錬成館柔剣道場

◆開場/13:30　試合開始/14:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス JR立川駅より徒歩7分（諏訪神社内）
◆お問い合わせ 日本拳法講武会館・大会事務局☎042-544-9228

サブミッション・アーツ・レスリング

第6回全日本体重別選手権大会IN大阪 2001年

5月3日（木・祝）　大阪府立体育会館 B2柔道場

◆開場/9:30　試合開始/10:30
◆入場料 無料
◆会場アクセス/南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/SAW総本部☎048-465-3362（土曜日以外の12:30～18:00）、関西本部・小林☎090-9113-4232

日本国際テコンドー協会

第12回全日本テコンドー選手権大会

5月6日（日）　東京・国立代々木競技場第二体育館

◆試合開始/9:00
◆入場料/1,500円　※当日は2,000円（小中学生以下は無料）
◆チケット発売 発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、久保アートプロデュース、全日本テコンドー大会事務局
◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/全日本テコンドー大会事務局☎042-360-1289

T.A.M.A.（トータル・アスレチック・マーシャル・アーツ）

格闘技サミット交流戦

4月29日（日）　東京・ニューシティーホール国立特設コート

◆開場/11:00　試合開始/11:30
◆入場料/2,000円（当日3,000円）
◆会場アクセス/JR中央線国立駅南口より徒歩2分
◆お問い合わせ/TAMA代表　長瀬正和☎042-572-6795
☎090-4829-3773

決定対戦カード

長瀬正和 vs [illegible]

その他

ホークエンターテイメント

第3回TITAN FIGHT

4月30日（月・休）　東京・アールンホール

◆試合開始 14:00
◆入場料/3,000円　※当日は500円増し
◆チケット発売/未定
◆チケット発売所 チケットぴあ
◆会場アクセス/東京モノレール東京流通センター駅より徒歩2分
◆お問い合わせ/ホークエンターテイメント☎03-5734-5354

アマチュア

合気道SA

オープントーナメント 実戦・リアル合気道選手権大会3

4月15日（日）　東京・八王子クリエイトホール

◆試合開始 13:00
◆入場料/3,000円
◆会場アクセス/JR中央線八王子駅、京王線京王八王子駅より徒歩4分
◆お問い合わせ/合気道SA　櫻井文夫　〒193-0821 東京都八王子市川町128-280☎0426-51-8418☎090-3807-2205

パレストラ

第4回東日本アマチュア修斗オープントーナメント

4月15日（日）　東京・台東リバーサイドスポーツセンター3F第1武道場

◆試合開始/10:30
◆入場料 無料
◆会場アクセス/地下鉄銀座線、都営浅草線、東武伊勢崎線浅草駅から徒歩10分
◆お問い合わせ/日本修斗協会アマチュア普及委員会☎03-5912-6455

札幌フリーファイト

4月22日（日）　北海道・札幌市白石区体育館柔道場

◆試合開始 11:00
◆入場料 無料
◆会場アクセス/地下鉄東西線南郷7丁目駅1番出口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ札幌☎011-733-5301　パレストラ東京☎03-5984-3209

COPA PARAESTRA EAST JAPAN B.J.J. TOURNAMENT 2001

4月29日（日）　東京・台東リバーサイドスポーツセンター3F第1武道場

◆選手集合/9:10　試合開始/10:30
◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄銀座線、都営浅草線、東武伊勢崎線浅草駅から徒歩10分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

プロ団体連絡リスト

K－1事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

修斗コミッション
〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8 若山ビル201
☎03-5824-1324

リングス
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町13-1 サトウビル2階202号
☎03-3461-0257

ワールドパンクラスクリエイト
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

格闘探偵団バトラーツ
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
☎0489-63-0005

高田道場
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

UFO
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

ドリームステージエンターテインメント
〒107-0052 港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

掣圏道協会(SA)事務局
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14恵比寿スカイハイツ607
☎03-5456-7333

マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

全日本キックボクシング連盟
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

日本キックボクシング連盟
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

新日本キックボクシング協会
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3718-8696

ニュージャパンキックボクシング連盟
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

J－NETWORK
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12二元ビル5F
☎03-3419-0536

K－U(キック・ユニオン)
〒144-0052 東京都大田区蒲田4-40-10グレースワン603
☎03-5713-8061

シュートボクシング協会
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1,2F
☎03-3843-1212

BACK NUMBER INFORMATION
バックナンバーインフォメーション

〈8・12　創刊3号〉
●インタビュー/フランク・シャムロック、マーク・ケアー、小川直也インタビュー
●SRS・DX特集★第3弾/佐山聡の掣圏道とは何か？

〈8・26　4号〉
●インタビュー/ホイス・グレイシー、佐竹雅昭、桜庭和志、田村潔司、ビル・ロビンソン
●SRS・DX特集★第4弾/沖縄の夏　美女と達人に出会う旅

〈9・9　5号〉
●インタビュー/石井和義、高田延彦、アレクサンダー大塚、魔裟斗、郷田勇三、田中健太郎
●SRS・DX特集★第5弾/最強！　俺の格闘お宝アイテム

〈9・23　6号〉
●インタビュー/高田延彦、前田日明、エンセン井上、佐山聡、高阪剛、武蔵、ノブ・ハヤシ
●SRS・DX特集★第6弾/大山倍達を悩ませた最後の格闘技「中国拳法の謎」

〈10・14&28　合併号　7号〉
●本誌独走スクープ！/猪木&小川　闘魂師弟、モンゴル相撲に殴り込み！！
●SRS・DX特集★第7弾/桜庭和志の「バーリ・トゥードはプロレス技で勝て！」

〈11・11　9号〉
●歴史的対談実現！　石井和義VS松井章圭
●SRS・DX特集★第8弾/微笑みの国タイの国技ムエタイとは何か？

〈11・25　10号〉
●完全速報/11・5〜7「第7回極真世界大会」
●詳報/10・28「リングスKOK」代々木大会
●11・21「プライド8」有明大会直前情報/高田、ゴエス インタビュー

〈1・13　13号〉
●インタビュー/佐竹雅昭、桜庭和志、フランシスコ・フィリォ、アーネスト・ホースト、アレクサンダー大塚×ターザン山本対談
●「SRS・DX」が選んだ1999年格闘技界10大ニュース
●詳報/バーリ・トゥード・ジャパン'99

〈1・27　14号〉
●1・30東京ドーム「PRIDE GP 2000」大会情報 高田、桜庭、エンセン井上、大刀光インタビュー、佐竹雅昭×ターザン山本対談
●本誌初登場！　船木誠勝インタビュー
●SRS・DX特集★第9弾/まだある大山倍達　世界ケンカ旅行の謎

〈2・10&24　15号〉
●PRIDE GP 2000直前大特集/佐竹&藤田のシアトル衝撃スパーをレポート◎佐竹のシアトル絵日記◎藤田インタビュー◎ホイス&ホリオンインタビュー
●熱烈応援！　2・26リングスKOK/田村潔司インタビュー、アイブル　インタビュー

〈3・9　臨時増刊号　16号〉
●完全速報/1・30東京ドーム「PRIDE GP 2000開幕戦」
●熱烈応援！ 2・26「リングスKOK」★編集長インタビュー/前田日明、ヘンゾ・グレイシーインタビュー
●緊急バナナ大食い鼎談！　「なんと！　「プライドGP」は、ターザンの遺産だった！？」

〈3・9　17号〉
●5・1東京ドームへ「PRIDE GP 2000」その波紋の行方/藤波辰爾、永田裕志、桜庭和志、佐竹雅昭、エンセン井上インタビュー、ボブチャンチン×ターザン対談、アレク×ターザン対談
●熱烈応援！　2・26「リングスKOK」★編集長インタビュー/前田日明　ほか

〈3・23　18号〉
●徹底検証&完全詳報「リングスKOK」/KOK緊急大総括、田村、ヘンゾ、ヘンダーソン、ハンインタビュー、試合レポート
●佐竹、掣圏道に弟子入り
●SRS・DXの注目！/ついに新日本のG1王者中西学初登場！

〈4・13　19号〉
●5・1「PRIDE GP 2000決勝戦」情報/藤田パラオでA猪木と猛特訓！、ホイス・グレイシーインタビュー&緊急会見、桜庭和志大激怒の反論会見
●緊急勝利宣言！　ターザンの長い闘いの成果か！？　「俺はこの言葉がほしかった！」

〈6・22　24号〉
●完全速報！　6・4「プライド9」
●大会詳報　6・28「K-1 SURVIVAL 2000」札幌大会
●その後の「コロシアム2000」/近藤有己&吉村直明プロデューサーインタビュー

〈9・28　臨時増刊号　29号〉
●緊急追悼特集/8・24アンディ・フグ逝く
●大会速報/8・27「プライド10」
●海外レポート/桜庭戦後のホイス・グレイシーをロスの自宅でキャッチ

〈10・12&26　合併号　31号〉
●巻頭ストーク特集 第2弾！ 検証・まだまだ続く石澤問題!!/山本小鉄、辻義就インタビュー
●海外レポート/9・22「UFC 29」パンクラス・近藤、UFC初見参！
●石井館長と語ろう！ 10・9「K-1 WORLD GP 2000」福岡大会の見どころ！
●10・31「プライド11」特集/高田延彦、藤田和之、桜庭和志（後編）インタビュー

〈11・23　34号〉
●完全詳報&特別企画/10・31「プライド11」大阪城ホール大会、緊急「プライド」座談会
●完全詳報/11・1「K-1 J・MAX」後楽園ホール大会/魔裟斗&小比類巻、メジャーリーガーの証明
●「SRS・DX」の注目！/大仁田厚が「プライド」森下社長に猪木戦直訴！、12・17修斗NKホール大会で宇野薫VS佐藤ルミナ戦 決定！、11・26「バトラーツ駒沢大会」直前情報
●大会レポート/10・31「パンクラス」後楽園ホール大会、10・29「アルティメット・ボクシング」有明大会、11・4〜5 極真全日本空手道選手権 大会速報、10・21ニュージャパンキック名古屋大会、10・28 新日本キック後楽園大会
●ついに発売！！サクラバマシンフィギュア&アントンTシャツ情報！

〈12・14　35号〉
●世紀末大特集・20世紀と格闘技/プロレス&格闘技年表、力道山、新日本プロレス、極真、UWF、K-1、UFC、「プライド」、平成のデルフィン、東スポ伝説、私の選んだ名勝負BEST5
●インタビュー大特集/バンナ、武蔵、谷津嘉章、高橋義生、アレク、魔裟斗、武田幸三、12・3ラジャ興行に出場する新日本キック王者たち
●ターザン座談会/2000年のMVPは誰だ！
●大会レポート/11・12「クラブファイト」、11・12修斗後楽園大会、11・11MAキック後楽園大会
●噂の三面記事/12・31、猪木イベントの正体はワンナイト・タッグトーナメント！　新イベント「DEEP 2001」に未知のグレイシー来襲か！？　打倒ムエタイのロマンとは何か？　ほか

〈1・11　37号〉
●大会速報！　12・23「プライド12」さいたまスーパーアリーナ大会
●大会詳報/12・16「UFC-J」ディファ有明大会、12・17修斗NKホール大会
●噂の三面記事拡大版/12・12桜庭とヒクソンがフジテレビのトーク番組で夢の顔合わせ　ほか
●SRS・DXの注目/12・31「猪木ボンバイエ」最新情報！　ヘンゾ・グレイシーインタビュー、アンディ・フグ納骨式、高田道場、未来のファイターにレスリングを指導、リングス12・22大阪大会　ターザン山本潜入観戦記、1・4全日本キック後楽園決戦へ！
●大会レポート/12・9パンクラス青森大会、12・17アルティメット・ボクシング有明大会、12・9日本キック後楽園大会、12・12女子ボクシング下北大会

〈1・25　38号〉
●徹底検証！　12・31「猪木ボンバイエ」大阪ドーム大会
●新春スペシャル対談　3連発！/高田延彦vsターザン山本（前編）、アントニオ猪木VSシュガー・レイ・レナード、シリル・アビディVSはせキョー
●本誌スタッフより格闘家の皆様へ21世紀の大提言！
●「プライド12」徹底検証インタビュー/桜庭和志、藤田和之、12・26猪木成田会見
●新春フライング天国座談会「21世紀のエンターテインメント」
●祝ラジャダムナンスタジアムJrミドル級タイトル奪取/伊原信一&小笠原仁インタビュー
●大会レポート/12・22全日本キック後楽園ホール大会

〈2・8　39号〉
●SRS・DX特集/No More Deadlock 膠着を打破せよ！　徹底検証座談会、特別対談☆桜庭和志vsターザン山本、ガイ・メッツアーインタビュー、エンセン井上インタビュー、ボクシングの膠着、やる側の理論家の膠着分析、ターザン山本膠着を総括
●噂の三面記事/格闘技界に激震走る！　UFCが身売り！
●新春スペシャル開運対談（後編）/高田延彦VSターザン山本
●大会詳報/1・8「DEEP2001」名古屋大会、1・12「ウルフレボリューション」Zepp Tokyo大会
●ターザン山本炎上コラム「21世紀のプロレスとは？」
●大会レポート/1・21新日本キック後楽園大会、1・4全日本キック後楽園大会

〈2・22　40号〉
●SRS・DX特集/NO MORE バッタもん！　巻頭座談会（A面）、ブランドを賭けた名勝負10選、柔道・古賀稔彦インタビュー、新日本プロレス、グレイシー柔術、極真空手、リングス、古武道・「格闘Kマガジン」山田編集長インタビュー
●SRS・DXの注目/アレク、魔裟斗、小比類巻インタビュー
●飛び出せニューヒーロー/今村雄介、大山利幸インタビュー
●大会詳報/1・30「K-1 RISING 2001」松山大会、2・4パンクラス後楽園ホール大会
●レポート/1・26NJKF後楽園ホール大会、1・28MAキック後楽園ホール大会、1・27クラブファイト&1・21タイタンファイト、猪木成田劇場「アントンとゆかいな仲間たち」

〈3・8　41号〉
●噂の三面記事拡大版/ヒクソン大ショック！　最愛の息子ハクソンさんがバイク事故死！
●「プライド13」さいたまスーパーアリーナ大会情報/安田忠夫、北の富士、桜庭和志、シウバインタビュー
●パンクラス近藤"「プライド」出陣宣言"の行方/近藤有己、尾崎社長インタビュー
●「K-1GLADIATORS横浜大会情報」/バンナ、アビディ、ヴァンナ"ト"・レンギン"インタビュー、クロアチアで見たミルコ
●K-1オランダ大会詳報/サダハルンバ編集長、格闘技王国オランダを行く
●SRS・DX特選インタビュー/伊藤隆・引退、エンセン井上&加藤鉄史&KID、村浜武洋、港太郎
●大会レポート&トピックス/2・12猪木成田会見、2・12アルティメット・ボクシング有明大会
●インフォメーション/格闘ショップ「グレートアントニオ」オープン

〈3・22&4・12　合併号　42号〉
●徹底取材/ZERO-ONEよ、マット界をかき回せ！　タイソンのジムに突撃取材！石井館長の主張、アントニオ猪木の主張、ボクシング側から見たタイソンVS小川戦
●SRS・DXの注目/桜庭VSティト実現へ、新生UFC社長ダナ・ホワイトインタビュー、2・24リングスKOKグランドファイナル
●SRS・DX特選インタビュー/安田（後編）、高山、大山、アレク（島田裕二の爆弾発言）
●海外大会レポート/2・24KING OF THE CAGE7、2・24K-1 Oceania Championship、2・23UFC30
●徹底検証/2・17畑山隆則VSリック吉村
●大会レポート/3・2修斗後楽園大会、2・26J-NET北沢大会、2・17NJKF&日本キック合同興行

〈4・26　臨時増刊号　43号〉
●大会速報/3・25「プライド13」さいたまスーパーアリーナ大会、3・17「K-1 GLADIATORS 2001」横浜アリーナ大会
●編集長インタビュー/ヘンゾ・グレイシー
●SRS・DXの注目！/3・20アントニオ猪木トークショー、藤田によって明かされる「PRIDEの世界」、4・14〜15極真ウェイト制大会情報、「アブダビ・コンバット2001」日本代表メンバー決定
●大会レポート/3・18「2H2H」オランダ大会、3・20コンバットレスリング全日本選手権、3・11アルティメット・ボクシングディファ有明大会
●いよいよオープン間近！　「グレート・アントニオ」情報

売り切れが続出しております。お買い求めの際には完売状況をお確かめのうえ、ご注文ください。

バックナンバー・通信販売方法
定価／各680円　送料／1冊＝310円、2冊＝340円、3冊以上＝500円。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1〜2週間ほどかかりますのでご了承ください。
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　「SRS・DX バックナンバー係」まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

※このページに紹介のない号は完売です。ご了承願います

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

桜庭まさかの惨敗！
入場時の白衣は病状を暗示していた!?

◎浅草キッドHP「キッドリターン」
http://www.kidchan.com

博士 びっくりしたなぁ、モ〜!! 3・25「プライド13」で桜庭がまさかの敗退。

玉袋 ついに負けた、桜庭は「即引退スペシャル」です。

博士 勝手に引退させるな！

玉袋 でも、東スポによると、なんでも桜庭の両親が怒って法廷闘争も辞さず、このまま引退との報道までありましたよ。

博士 そりゃあ、鈴木あみだよ！ 東スポには桜庭が酒の飲み過ぎ、煙草の吸い過ぎで内臓疾患、選手生命の危機だって、あまりに幼稚な話になっていたよ。

玉袋 でも、桜庭は入場コスチュームも白衣の医者スタイルで自分の病状を試合前から暗示してましたよ。

博士 そこまで、深読みするなよ。今回の敗因はシウバの打撃に付き合ってしまったことにつきる。

玉袋 桜庭もグラウンドにもっていけば、新技「腕ひしぎミドリ十字固め」を極められそうだったのに。

博士 あの白衣は裁判で無罪になった帝京大の安部英を意識したわけじゃないよ。しかし桜庭はシウバに蹴っ飛ばされて無惨にも顔面をボコボコにされた。

玉袋 このあまりに非人道的な仕打ちにリングサイドにいた松浪健四郎議員が抗議のため、旅立ったそうです。

博士 アフガニスタンのタリバン政権じゃないよ。

玉袋 でも桜庭は試合後に気丈にも「自宅の階段で転んでケガしただけ」と潔いコメント。

博士 それはケガで芝居をキャンセルした上原さくらだよ！

玉袋 彼女もいち早く、さくらが散りました。でも上原さくらもシウバにやられたに違いない。

博士 なんでやられるんだよ！

玉袋 じゃあ、神田うのの顔面を襲撃したのはシウバでしょ。

博士 神田うのの顔面骨折も勝手に転んだだけだろ！

玉袋 いや、あれは、サッチーの陰謀ですよ。長年の確執があるからサッチーならシウバを雇いかねないですよ。

博士 たしかにダン野村が交渉人として暗躍しそうな気はするな。

玉袋 しかし桜庭の腫れた顔面を見た宍戸錠は「俺みたいにシリコンを抜け！」とアドバイス……。

博士 するかよ！ とにかく桜庭はこのまましばらく療養してほしいね。

玉袋 そして休養明けに高田道場の恒例として向井亜紀と一緒に朝の番組を始めるそうです。

博士 それは高田道場の恒例行事じゃない！ しかし今回の「プライド」は我らが猪木様も大活躍だったな。

玉袋 あまりの活躍にリングサイドにいたペンギンがぶっ倒れてましたよ。

博士 そりゃコーヒーのCMだよ！ しかし、ブラジルのコーヒー農園出身の猪木様だけに、これほどピッタリの配役はないよ！

玉袋 他社の「明日があるさ」吉本オールスターズを猪木＆藤田のタッグでぶっ飛ばしますよ！

博士 なんの話してるんだよ！ 今回、「プライド」のリングに猪木様は歴史ある二本のベルトを持参した。

玉袋 UNとNWFのベルトですよ！

博士 いつの時代のベルトだよ！ あれはグレーテスト18クラブのベルトと初代IWGPのベルトだよ！

玉袋 ああ、新日本がまだ面白かった頃のIWGPのベルトね。

博士 面白かった頃ってのは余計だよ！

玉袋 猪木様は恒例のパラオでワンギャル2人にサンオイルを塗られてニッコリでしたよ。俺は猪木アイランドへのテレビ取材をワンギャルに出し抜かれたのが、悔しいですよおおお！

博士 それよりパラオ行きを〝Show〟大谷に先を越された大谷晋二郎の立場はどうなるんだ！ しかし、ワンギャルと島で何が有ったか心配だよ。なにしろ、あのワンギャルってのは、いつ何時、誰の挑戦でも受けるタイプのレスラーだからな。

玉袋 こうなりゃ、東幹久とバトルロワイヤルですよ！

博士 やかましい！

玉袋 猪木様はあの2人にベルトを託せばよかったって言ってるそうですよ！

博士 ワンギャルになんてベルトを託すな！

玉袋 下手すると東幹久に流出しかねないですもんね。

博士 女悪徳マネジャー役は立河宜子にぴったりだよ。

玉袋 原千晶と因縁の一戦はReMIXの第2弾で決定ですよ！

博士 篠代表はそれぐらいやっちゃうかもしれないな。

玉袋 そして注目の安田は、今回、借金返済マッチに勝利しました。

博士 そんなタイトルついてないよ！

玉袋 これに続いて、羽賀研二も「プライド」参戦！

博士 「プライド」は悪質な債務者の集まる興行じゃないんだよ！

玉袋 明星の「一平ちゃん」がプレゼンツする試合もあるんだし、いいじゃん。

博士 明星の「一平ちゃん」1年分だからな。

玉袋 今ごろシウバは♪いっぺん食べたらやめられな〜い♪って歌ってますよ！

博士 歌わないよ！

玉袋 だから今度の安田の試合はサラ金のプロミスとかアイフルがプレゼンするそうですよ！

博士 勝者には金利が引き下げかよ！ 安田は試合後号泣、あのシーンにはジーンとくるものがあった。

玉袋 その安田の試合の観戦レポートを馳浩が書きましたよ！

博士 そりゃ昔の週プロに載ったデビュー試合だろ。それにしても、大のオトナの、あの涙はたまらんよな。

玉袋 自分の勝利に張っていて勝ったから泣いたんですよね。

博士 自分の勝敗まで賭けるな！ 安田の試合後のドレッシングルームにも凄いドラマがあった。

玉袋 真鍋〜!!

博士 大仁田じゃないんだよ！ 逃げた女房と娘との対面だよ！

玉袋 会いたかったよ〜仁香ちゃん環ちゃん！

博士 なんで逃げたターザン山本の女房子供と対面してるんだよ！

玉袋 今回の安田の試合を見た「プライド」が次回から新ルールを採用！

博士 またルールを変えるのかよ！

玉袋 四角いリングを丸くして、足以外の部位が地べたについたり、体がリングから出たほうが負け。

博士 それ単なる相撲だろ！ そうすりゃ安田が最強になるよ！

玉袋 北尾も復活！

博士 しないよ！

玉袋 とにかく安田選手おめでとう！

博士 ごっちゃんでした！ ■

キッドの最新単行本（×2）を愛響執筆陣がプチ書評っ！

#1「お笑い男の星座」中村カタブツ君

「プロレスLOVE論」
東邦出版
本体価格1333円

「お笑い男の星座」
文藝春秋
本体価格1429円

この本に登場する男たちはガッツさんに城南電気の故・宮路社長、自己破産した岸部四郎氏に、ターザン山本など、ひとくせもふたくせもある男ばかり。ボク的にはキッドさんの仕掛けによって有頂天になり、お笑いライブにまで出演。舞台でフルチンを見事にさらしたターザン山本（52歳）の姿がバカで大好き。また、キッドさんが深夜番組内で仕掛けたガッツさんと水野晴郎さんの喧嘩はキッドさんの思惑すら飛び越えてエスカレートする一方でスリリング。ついつい真剣になる男たちってやっぱいい！（プチ）

パラオの岩の下から島を見つめてお送りします byShow

これがホントの岩下志麻、なんつって byアントン

今年も猪木が南国パラオにやってきた！大自然、灼熱の太陽、幾重にも色が連なる空と海……、パラオではあの猪木と言えども違った一面を見せる。そこで今回も私、Showが取材に行ってきました（通算4度目の[illegible]のこもった闘魂伝書をお届けします！

Showの闘魂伝書

〜猪木アイランド編・2001年春〜

聞き手&撮影◎"Show"大谷泰顕（もはやパラオフェチ？）
協力◎猪木事務所、ＴＢＳ「ワンダフル」

桜庭の敗退？ 自然界か宇宙か神様かなんかに与えられた使命を自分で感じ取る、気付きだと思う

―はい、ということで、ここ猪木アイランドで猪木さんに話を聞きたいと思います。

猪木　はい。

―あの〜、猪木さん、この間「プライド13」が行われて、結果的に桜庭選手が早い段階で負けてしまったんですけど、まずその辺から話を聞かせてもらいたいんですけども。

猪木　なんかつまんねえ質問だなあ。せっかくこんな今、ヤシの実とキレイな景色があるのに、なんで日本の話を持ってくるのかなぁと思って。ンムフフッ。

―すいません（苦笑）。一応そういうこともちょっと、聞いておかないとな〜と思って。

猪木　うん、そうね。（桜庭が）出てきた時のオーラとでも言うのかな、選手の感じでフッと分かることがあるんだ。これは直感だから、カラダつきがどうとか今回練習したとかしないとかじゃなくて、フッと立った瞬間に見えるもの、感じるものがあってね。うん、まあしょうがないなって感じかな。勢いが違ったし。だから組み付く暇がなかったっていう。それはもう、なるべくしてなってしまったっていう。

　リング上に並んだ時のシウバの目も凄かったですよね。

猪木　うん。たまたまコールマンとリングサイドで座って見ててさ、「あんのヤローはケンカが好きなんだなー」って。もうケンカがメシより好きってタイプじゃない？　でもね、（シウバは）リング降りるとすんごい紳士なのよ。ブラジルの選手ってみんなね、結構俺のこと知っててくれて、ホントに慕ってくれるっていうかね。その点では両面持ってるね。逆に言えば、そのオーラみたいなものがリングに上がった時にガーっと出たんだろうね。

―そんな感じでしたよね。

猪木　この間は勢いみたいなものが出てたね。あっ、こりゃヤバいなと思ったら、案の定、負けちゃったけど。まあ、あとで聞いたとこでは、桜庭もアメリカ行って風邪を引いたとかって体調悪かったようですけど、それは別としてね。

―はい。

猪木　まあ、その時は病状のこととか聞いてなかったけどね。まあ、少しゆっくり休んだら、と。今までやってきたのは、「プライド」を背負ってというか、そういう部分でちょっと頑張りすぎたかな、と。

―休め、と。

猪木　うん。安田みたいになんにもするな、と（笑）。

―安田選手みたいに（笑）。でも今までずっと勝ってきて、みんなが「桜庭、桜庭」みたいな感じで、僕らも含めてみんなが桜庭選手を追い込んじゃった部分もあるような気もするんです。

猪木　だけど、まあ、研究されたというか。たぶん彼にとって一番ヤバい相手っていうのかな、打撃系の速い選手で。（グラウンドになって）くっつけりゃ別だけど、やっぱりそりゃ、まあいろんな理由があって、体調が悪かったとかね。でもみんな活かされてるよっていう感じが最近はするね。

―というと？

猪木　勝ったとか負けたとかってのは、小さいことっていう。まあ、現実にはみんな活きてるわけだけど、結果としてね。俺たちは長いスパンで見ていくと、全部が活かされてるなあという感じでね。

　そうかそうかそうか。

猪木　そっから今度はどういうふうに人生のドラマを作るか、みたいな。だから、「絶対負けちゃいけない」という意識と同時に、「負けた。でもしょうがないよね、勝負だから」って。で、負けてしまった後にどういうドラマを作るかっていうことをね。

　はい、自分でいいイメージで持っておかないとダメですもんねえ？　でも、猪木さんの場合も、あんな感じで衝撃的に負けた時に小さいことだっていうふうには思ったわけですか？

猪木　いやあ、そんなことは思ってないし、もちろん勝とうと必死なんだけどね。それよりも俺たちは若い時からプロデューサーというか興行主という責任を背負っちゃってたから、選手との両面で、自分が勝たなきゃいけなかったから。ある時には、もう練習できなくて、どうにもなんなくて、ただ興行が成功することを優先してたりしてね。あのオリンピック選手のショータ・チョチョシビリが来た時なんてね。

―ああ、初めて東京ドームに進出した時（88年4月24日）ですよね。

猪木　うん。その前の晩からロシアから大変な偉い人が来てくれてね。試合の当日には帰っちゃったんだけど、その時の歓迎の意味で、ウォッカのこんなデッカいガロン瓶を持ってきてさ、それを乾杯してとにかく飲んで、もう試合どころの意識じゃなくてね。二日酔いというより三日酔いくらいになってリングに上がってね、ンムッフフフ。

―アッハッハッハ。じゃあ、あの時初めて東京ドームで試合をしなきゃいけなかったのに、酔っぱらっていたというか（苦笑）。

猪木　いやあ、もうリング上がってて、普段と汗のかき方が違うのね。ジトーッとした汗が流れてきてね、ンムッフッフッフ。

―アッハッハ。そうだったんですかあ。で、先ほどの桜庭選手なんですけども、猪木さんからすると、「休め」っていう以外にアドバイスみたいなものがあれば、教えていただけないでしょうか？

猪木　うん、まあ彼の場合あんまり外国に出るのが好きなタイプじゃないらしいね。で、練習も外国ではしないと。今回どういうわけかねぇ、外国に出てったという、アメリカへね。だからその辺も不思議な感じがするよね。自分でずーっと貫き通してきたものを、今度はその自分のパターンを変えてみたようなね。まぁ、だからこれからのテーマはたぶん、そういう意味ではこの間負けちゃった災いが転じてっていうので、外国に出ていくチャンスを作ったらいいかもしれないね。

―そうですよね、実際次に試合をする時には凄く注目されると思うので、そこをうまく活かせばいいわけですもんね。

猪木　うんうんうん。

―ふ〜ん、そっかぁ。猪木さんなんか、そういう大一番に「負けた」って時に、次の復活試合で凄い注目されたことが何度かあったと思うんですけど、そういう時に気を付けるようなことって何かありましたか？

猪木　う〜ん、なんだろうなあ。俺らは無我夢中だったから、言われても分かんないんだよ、理屈がないから。その時そう思ったからやっただけの話というかね。非常に単純な話になっちゃうんだけど。ただやっぱり目標というのかな？　絶体絶命の状況がずーっと続いてるから、勝とうが負けようが、次へ進むしかないっていう。まあ、だから桜庭に限って言えば、絶体絶命っていうところに追い詰められる、という形になるのかなあ。そういう意味では、精神的な成長？　ホントの意味の強さ。だから、ファンがいたり、マスコミがいたり、いろんなものがあるんだけど、そうじゃなくて自分自身の一番求めてるもの。もっと言えば、自然界か宇宙か神様かなんかに与えられた使命を自分で感じ取る、気付きだと思うよ、これは。

　はあ〜、宇宙に与えられた使命を感じられるかどうかかあ……。なるほどなあ。で、この間の「プライド13」ではルール改正があって、4点ポジションでの蹴りも全部OKになったんですけど、それって猪木さんから見てどういうふうに思われましたか？　結構きわどい感じでしたけど。

猪木　うん、事故が起きなきゃいいなと思うけどね。だから、レフェリーが非常に神経を使わないとね。かつてローマの遺跡のパンクラチオンの話をもう10年も前にしてね、今は「グラジエーター」って映画が出てきたけども。20年くらいの歴史の中でね、最初は負けても許されてね、いい試合をしたら今度は、市民権を得るっていう。ところがだんだん過激になってきて、そうすると今日は首を1個落とします、今日は2個落としますとかね。そうなっていくから、これはどっかで歯止めをかけていかないと、際限なくなっていくから。アメリカのほうはその点、州によっては、あるいは一般のテレビでは絶対見せないから。プロレスもそうですけど、血が出たら放送をそこで止めるとかね、契約がありますからね。

―はい、そうですよね。あ、なんだか"汗"が出てきたなあ。

猪木　"アセ"ってますねえ、ちょっと。アッハッハッハ、ハッハッハ、ンムッフ

▲カヤックを乗りこなす猪木。う〜ん、絵になる！

フフ。
——いや〜、こういうのが聞けるからここに来たくなるんだよなあ（笑）。やっぱり猪木さんは、パラオに来ると、断然ギャグ率が高くなりますよね（笑）。
猪木　あの〜、そうね、やっぱり食事には笑いがね。アメリカではみんないつも笑って食事してたりとか。だから笑いって結構必要なんだよね。だから、まあ面白いか面白くないかはあ、それを聞いて笑える感性っていうかな。ホント笑わない人いるじゃない、何言っても。だから、そういう意味では天才だな、人をおだてるのの。
——いやいやいや（苦笑）。
猪木　だってつまんない笑いも、「ウワッハッハッハ」ってホントに、もう笑ってくれるっていう。

——いやいやいや、もう、そういう思考回路になってますからね、僕は。猪木さんがなんか言ったら笑えっていう。それによって僕に幸せが訪れるんですもん！
猪木　いやいやホント、あの〜、やっぱり人間関係でね、認めるとか受け入れるとか、それがやっぱりこだわりの強い人っていうのは、なっかなか受け入れられない。そこで、悩むわけだ。
（ここで、突然の雨が襲う）
——あ、猪木さん、雨が降ってきましたね。
猪木　いいんだってこんなん。な〜に言ってんだよ。昔さあ、プールで泳いでて雨が降ってきたら急いでさあ、陸に上がるんだよね。バカじゃねえかと思うんだよ、ンフッンフッ、水に浸かってるのにね、ンムフフ。

“汗”が出てきた？
“アセ”ってますねえ

▲突然、雨が降り出して、岩の下に避難。そこでもまたアントンのダジャレが……

——たしかに、それは意味ないですよね。
猪木　スコールだったらもっとホント凄い本格的なのが、ザァーっとなるけどさ。でもこのくらいのがちょうどいいね。みんな暑いだろうなって、さっき汗かいてたからさ、天がちょっと涼しくしてやろうかって。
——ああ、天が味方してくれたわけだ（笑）。これもなんかの意味があると。
猪木　これもそう、みんな意味がある。汗かいたから。
猪木　そんなアセって木陰に入る必要ないのに。だって気持ちいいじゃん、ここ。
——ホント気持ちいい。
猪木　ちょっとヒヤっとして、焼けた肌にねぇ。
——でもあの、さっきの猪木さんの復活試合で昔聞いたことがあるのが、何カ月かお休みしてリングに上がるとアスファルトをこう普通に走っていて、今度は砂浜に上がったような。そのくらいの違いがあるんだっていうふうに聞いたことがあるんですけども。
猪木　それは誰か作ったんじゃないかな？
——あ、そうなんですか。
猪木　俺は覚えないなぁ。
——あらま（苦笑）。
猪木　俺がブラジルに行く時に45日間の船旅してさ、で、船から上がったらホント陸が揺れてるような感じだったよ。
（雨足がだんだん強くなる）
——なんか凄い雨になってきましたねえ。
猪木　お前、ケチなこと考えてんなよ。テープレコーダーが濡れちゃうとか思って。
——いやっ、濡れるのはいいんですけど、壊れて動かなくなっちゃったらちょっとなあ〜と思って。
猪木　中断する？　岩の下に入ればいいよ。こんなの毎日降ってるんだから。

——毎日降るんですか？
猪木　うん。
（岩の下に移動してインタビューを続ける）
猪木　なんかさぁ、地べたに座ったら砂がつくからとか気になるの、あるじゃない。そういうのがだんだん気になってこなくなるよ。
——ああ、そうかもしれない。
猪木　濡れててもさあ。
（砂の上に向こうに見える島のスケッチをはじめる）
——猪木さんは絵とかも描くんですか？
猪木　いや描かない。恥はかくけど。
——恥はかくけど！（苦笑）。ということで、岩の下から（向こうの島を見ながら）お届けします。
猪木　岩下志麻（笑）。
——ガハハハハハハー（笑）。
（砂の上をヤドカリが動き回る）
——あっ、ヤドカリだ。凄いですねえ、ここはやっぱり！
猪木　満月の夜にはね、これがわんさか出てくるんだ。
——へえ〜。
猪木　この辺の岩にね、いっぱいいるんじゃない。
——……で、小川VSタイソン戦の話がどうなるのか、その辺はどうなんですか？
猪木　ん？　今やってますよ。今日あたり返事が来るんじゃない？　もう、やるという方向にはなってんだけど、今向こう側の調整やってんだ。
——ほ〜。
猪木　それから、レノックス・ルイスとのギャラが高すぎてね、スポンサーがつかないという現状があるでしょ？　で、タイソンの試合が結局行われないわけだから。「5月にやる」とかって話も出たけど、昔のナントカっていう選手と。でももうそれは、ないしね。だから、向こうサイドで今やってますから。
——でも、6月17日とかっていうふうに猪木さんが……。

猪木　それはもう今日が3月も30日だからね。たぶん日にちの変更があるかもしれないしね。
——で、あの……。
猪木　どうでもいいじゃんそんなの。
——エッヘッヘッヘ。
猪木　やりたきゃやりゃいいし。
——でも、猪木さん、そのルールとかがどうなるのかによって変わってくると思うんですけども……。
猪木　いいんだってそんなもの。うん。
——はい……。
猪木　だってそんな小賢しいこと言ってたらできないじゃん。
　やっぱり猪木さんが25年前にモハメッド・アリと闘った時とは少し状況が違うとは思うんですけど。
猪木　当時、アリはもうチャンピオンになってたんですね。
——その点がやっぱり違いますよね。で、もう一人、これを機会に聞いておきたいのが、ヒクソン・グレイシーは次に誰と闘うのかっていう点なんですけど、猪木さんはそれに関してはどんなふうに思われてますか？
猪木　ヒクソンは素晴らしいんですけどね、ただやっぱり小川とやった場合には体重差とか体力差の部分では、小川のほうがいいんだろうけど。これはもう絶対的にね。いくら凄い技を持っていても、それはなかなかね。だから自分の目線で倒せる相手しかやらない、これもひとつの凄いもので。負ける相手とわざわざやる必要ない。勝てる相手を必ず選んでやるっていうね。
——当然、そうなった場合は、小川選手のほうが有利ですか？
猪木　まあ、小川でも藤田でも、体力的なものが違うからすっ飛んじゃうでしょう。
——そうかあ……。
猪木　なんかでも……、お祭りをやりたいね！
——お祭りですか？

『プライド』のルール変更？　事故がなきゃいいなと　レフェリーが非常に神経を使わないとね

小川VSタイソンのルール？　いいんだってそんなもん　そんな小賢しいこと言ってたらできないじゃん

猪木　昔、全日本と新日本がね、馬場と猪木がタッグ組んでね、ジェットシン、ブッチャー組っていうのがこれ幻の、これテレビで撮ってないんだよね。またそんなものをね、企画したら面白いのになあ。

――ホントそうですよねえ。

猪木　面白くすりゃあいいんだよ。俺がいつも思うのは、プロ野球だとかサッカーだとか、企業がみんな後ろに付いて、それを批判するんじゃなくて、そういう商業ベースとしてあるスポーツ。俺たちはそうじゃないわけだから。ホント裸一貫の中で、だから逆に今のこの時代にマッチするんだよ、生き様とか。ね？

――分かります、分かります。

猪木　よくいろんなガイジンのヒーローと比較されたりするけど、そういう比較するしないという問題よりも、個性が違うっていう。俺たちは起業家っていう立ち上げていくほうだから。それは組織のある中に作られた人気と、それはまた違うものがあるじゃない。俺がそんな自分で言うのはおかしいけども、全部分かっちゃうから。あえてそう言えば、ね。だからこそプロレスラーは、プライドを持って。社会的な扱いがどうであろうと、そうじゃない。コアなファンが支えてる部分ってあるじゃない。「俺らが」っていう。だからインターネットで商売にしたら野球よりも何よりもプロレスが一番の商売になるじゃん。PPVでも格闘技系が一番ファンは見てくれるわけでしょ？　野球ってPPVで見る人はいねえと思うよ。まあ、いるかもしんないけど（苦笑）。だからその意味で世界中のコンテンツがプロレスとか格闘技系に集中しているわけだからね。一番コアな部分では「プライド」という、みんなが切磋琢磨して出てくる面白さだよね。

――IT部門では格闘技系はコンテンツ不足というか、探してますもんね。

猪木　そう。

ただ、そのためには試合数というか、やっぱりコンテンツ不足なんですよね。

猪木　そうねえ……。だから、俺らはケガしようが指折れようが、翌日リングに立ってたよね。今の選手はそれできないだろうけど。だから小川も去年の福岡ドームに出るって時に「肩ケガしてるんで休ませてください」って、「馬鹿野郎！　出ろ!!」って出て行ったけど。だからそういうことが分かってない。白覆面が応援に駆け付けたけど、それをおちゃらけで見るのか。だって小川って人間が敵陣に乗り込んで行くんだから、裸一貫で出て行くかよ！　って。東映の映画じゃあるまいし、裸で行くかよっ！　白覆面は誰だか知らねえよ、中味は（苦笑）。だけど「あれなんなんですか？」っていうヤツがいるんだよ。

――あれなんなんですか？（苦笑）。

猪木　だから、そういう感性だったら、それでいいじゃない。一個のレスラーとしてやりゃあいいし、その感性が分かるようなヤツがね。でも外の連中はみんな分かってるんだよ、肝心の内部が分かんなかったってだけでね。

――もうひとつ聞きたかったんですけど、そういった意味では、猪木さんの理想とする猪木軍団っていうのはどういった意味を持つのかなあって。

猪木　要するに対立構造っていうのは、世の中必要なんだよね。やっぱりライバルというか。対立構造の中から、色がハッキリ見えてくるわけだから。白か黒か、強いか弱いかとか。やっぱりファンのほうも見てて、その対立構造が強いほど、人気が高まるわけだから。まあ、今俺んとこ来てるガイジン選手が「ぜひ猪木軍団に入れてくれ」ってね。まずドン・フライが名乗り挙げてますけどね、なんとか入れてくれよと。それからジョンストンは、藤田からはじまっていろんな選手に、結構アドバイスをしてくれたり。だから佐竹もこの間、挨拶に来たんでね、場合によっては佐竹も入って来いよと。もうそういう小さいことじゃなくて、今そういう世界にホントの意味で羽ばたいていくためには、どうしてもいろんな力が結集しないといけない時なんで。

――佐竹選手も入ってくると。

猪木　それは彼が希望すればね。まあ、そういう話はしてますから。

――藤田選手はどうなんですか？

猪木　まぁ、藤田はマイペースでやってるから、もう1回「プライド」であといくつか勝負しないといけないだろうし。

――コールマン戦は絶対に見たいですもんねえ……。あとは年末の「イノキ・ボンバイエ」で猪木さんとエキシビジョンマッチを闘ったヘンゾ・グレイシーも、前から接点はあったわけだし。

猪木　まあ、この間の「プライド13」だとヘンゾ・グレイシーもね、あっけなく負けちゃったから。ちょっとしたハプニングだと思うんですけどね。まあ、逆に藤田の場合は今まではマーク・ケアーやなんかをターゲットにしてきたんだけれども、逆転しちゃって今は藤田がターゲットになってる。外国でも藤田とやりたいという声があるしね。ドン・フライなんかも本音を言えば絶対やりたいと思うんだけど、でも今までの経緯があるんでね、それは言いませんけどね。もしかしたらある時期において、そういうのが夢のカードになってくるんでしょうけどね。

――噂されているゴールドバーグ選手とかは？　調整がうまくいけば、それがそのまま猪木さんの描く団体になっていくんじゃないですか？

猪木　いいんじゃないですか。あんまりそういうとまたゴールドバーグに集中するから。それよりも、ある意味では俺もよく見てないからゴールドバーグ分かんないんでね、オバケジムとかどっかでやってたくらいしか知らないから。今の藤田の実力ならいけるんじゃない、全然。

――逆に言ったら、ゴールドバーグ戦ができれば、夢がありますよね。

猪木　夢はありますね。たぶんファンもそうじゃないかなあ。いろんな名前が出てきてさ、例えば武藤とゴールドバーグやらせたいと、例えば蝶野だとか、そこで長州とこういう試合見たいとか、小川とやってみたいとか、もう1回橋本とこうだとかっていうふうになるじゃないですか。すると逆に言うと藤田と組ませたらドン・フライも面白いなあ、ジョンストンも面白いし、今言うようにゴールドバーグだとかね、こういうカードも面白いねと。だから藤田という存在が、今回の大阪ドーム（4月9日）でどういう結果を出すか、それによってはもうひとつ違った幅の広い藤田のイメージができるんじゃないか。

――マーク・ケアーにしろ、グッドリッジにしろ、いろいろいますもんねえ？

猪木　彼らもいずれプロレスにね、こうアレしてあげたら、プロレスに対する自信も付くだろうから。まあ、面白いあ……。彼なんかホントにね、プロレスラー的な要素を持ってるし。まあキャラクターとしてはグッドリッジかな「プライド」との兼ね合いもあって。俺が呼ぶ分にはいいけど、そうじゃない場合はなかなかね。ギャランティも高くなってますからね。

――やっぱり対立構造を作るという意味で、その猪木軍団には外国人選手を投入したほうがいいというか。

猪木　いやあ、インターナショナルって考えた場合に、要するに日本人だとかじゃなくてね。だから「社名変更」なんて話も出たけど、結局、「新日本」という名前で世界に通用するかっていうと、通りが悪いじゃないですか。世界戦略がもうそこまで来てるわけだから、動き出す時には、もっと違ったものでお色直しをして出てかなきゃいけないってこともあり得るだろうなと。そういう意味では、何遍も言うけど、今度のドーム（4月9日、大阪ドーム）にこだわるわけですよ、俺は。1回でもつまんない興行はしてもらいたくないな、と。

その「社名変更」というのは、やっぱりワールドワイドな感じになるんですか？

猪木　まだ今んとこ考えてない（笑）。UFOはそのつもりでやったんだけどね。一番通りがいいし、誰が聞いたって1回聞いたら覚えちゃうじゃん。なんだかエスエムなんとかなんて名前、1回聞いても分からねぇじゃん。UFOって聞いたら1回で覚えちゃうから。

――じゃ、1回聞いたら分かるような、そういう世界に通用するような名前を付けたいな、と？

猪木　でもまぁ、それは未来の話ですよ。今すぐにどうこうってことじゃない。ま～たみんな混乱するからさあ。俺が言うと混乱するらしいから、ちょっと気を付けて言わないといけない。

――逆にパラオっていう距離が影響力を増すのかもしれないですもんね。

猪木　うん。俺も女の子と戯れてるわけじゃないけど、映像見りゃ戯れてるように見えちゃうからな、ンムッフッフ。

――アッハッハッハ。

猪木　「会長、そんなんでいいんですか？」って、アッハッハッハッハ。

――すみません（苦笑）。

猪木　ンムッフッフッフッフ。いや俺はパラオに来てね、女の子と接してるって場面は1回もないよ。そういう写真もね。

――今まで男の選手ばっかりですもんね。

猪木　神聖な場所だったからさ。

―じゃあ、汚しちゃいましたか、TBSが（苦笑）。

猪木　うん、なんだか分かんないさあ、怪しいヤツに乗っけられちゃってさあ（苦笑）。

――いや、ホントにすみません（苦笑）。

（そうは言いながらも、ワンギャル2人に挟まれて、まんざらではない様子の猪木だった）

『SRS』に先駆けて、『ワンダフル』が“聖域”猪木アイランドに進出！

「今回は怪しいヤツ（＝私、Ｓｈｏｗのこと）の掌の上に乗ってみたよ」（猪木談）

▲なんとも言えない表情を浮かべる猪木。パラオでは「闘魂」もひと味違った一面を見せる

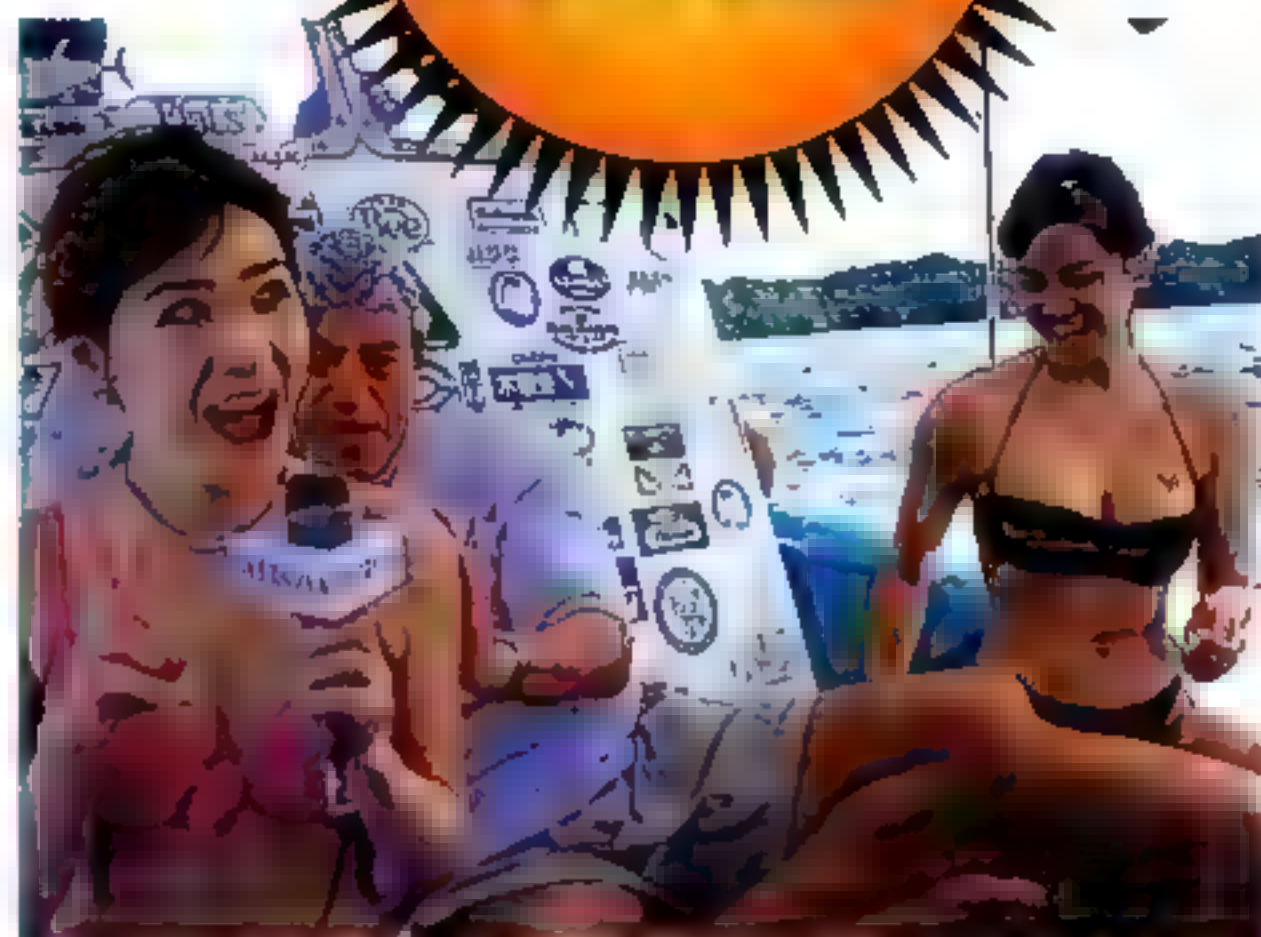
毎週月曜日の深夜に放送中の『ワンダフル』の「格闘新世紀」が「ＳＲＳ」に先駆けてパラオ共和国の“聖域”猪木アイランドに進出！　つまりは相沢真紀＆アリーネのワンギャル２人が、大胆にも猪木に変則タッグマッチを申し入れたわけだ。

かくして「闘魂VSワンギャル」という夢のカードが南国パラオで実現したわけだが、今回はこの２人の勢いに押されてか、猪木も終始上機嫌。

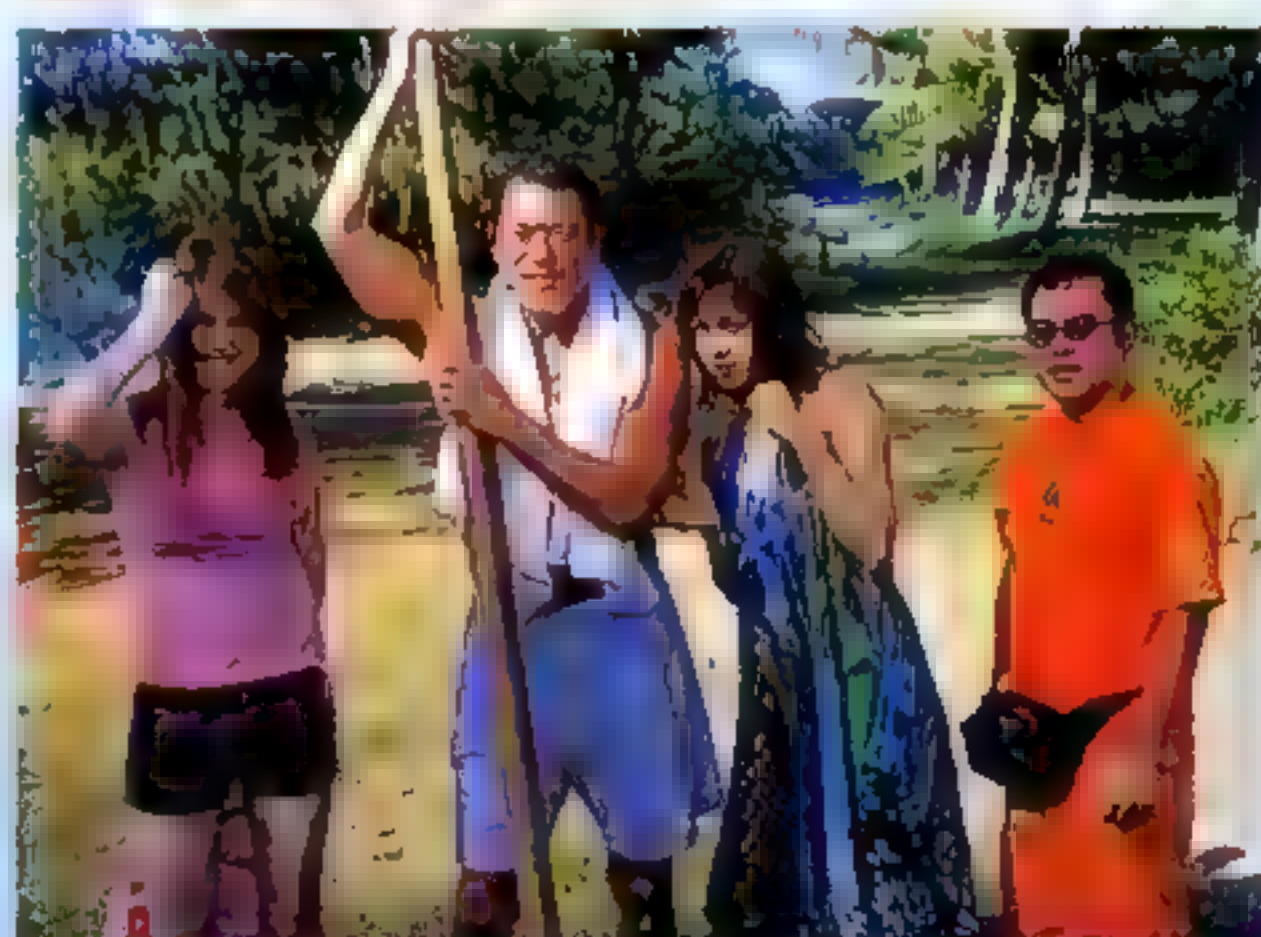
２人乗りのカヤックでアリーネと猪木島を探索したかと思えば、博物館やワニ園で見聞も広めつつ、夜はカラオケで猪木が尾崎紀世彦の『また逢う日まで』を熱唱。もちろん猪木のダジャレも絶好調で、ワンギャルの２人にそのダジャレが分からないとなると、ダジャレの説明までしてくれたりもしたのである！

猪木曰く「今回は怪しいヤツ（＝私、Ｓｈｏｗのこと）の掌の上に乗ってみたよ」とのことだが、どこまで放送されるのかは余談を許さないものの、放送されれば、スクープ映像タップリなのだ！

ちなみに放送は４月16・23・30日３週に渡ってのオンエアーの予定。ズバリ言って必見の内容です！

4月16・23・30日の

▲猪木に日焼け止めを塗ってもらうワンギャル・相沢（左端）「この幸せ者！」（猪木信者談）

▲お返しにワンギャルから日焼けオイルの洗礼を受ける猪木。思わず私、Ｓｈｏｗも間近でそれを確認した。「東京スポーツ」（４月１日付）には「猪木不覚、美女のローション攻撃に失神寸前」の文字が踊ったが……

▲フランス育ちのアリーネをヘッドロックに取る猪木。やはり猪木とは馬が合うのか？

▲朝方、恒例の鍛錬棒トレーニングを終えた猪木と。私は無礼講（？）ということで、いつもの黒すくめを止め、オレンジ色の「ＳＯＵＬ」Ｔシャツ＆短パンを着てみました。ちなみにワンギャルはスッピンです

K−1ファイターで気になる超寡黙な脱力系！

ユルゲン・クルトって何者？

3・17K−1横浜大会で、ステファン・レコをKOしてその名を知らしめたユルゲン・クルト。実はこの男、独特な間で話すおとぼけぶりで初来日の時からマスコミの間ではちょっとした話題になっていたのだ。レコをKOしたことで今年の活躍が期待できるクルトに初接近！　クルトは期待どおりの寡黙な脱力系ファイターだった（笑）。

聞き手◎石黒由佳子
撮影◎中島ミノル

—今日は、クルトさんの魅力に迫るようなインタビューをしますので、よろしくお願いしますね。

クルト ………フフッ。………オーケー……。

—あっ、絶妙な間でお話されるんですね（笑）。あのぉ〜、今年はクルトさんをK−1でスターにしますから。

クルト ………オーケー。………サンキュー。

—スターになりたいって思ってますかぁぁぁぁぁっ！

クルト ………うん。ぜった〜い。

—かったるそうに言いますね（笑）。クルトさんは子供の頃からそういうかったるい感じだったんですか？

クルト ……えっ……子供の頃？　普通の子供で、普通の家庭に育って、普通の人生……。

—はぁ〜、普通づくしですねぇ。ちなみに家族構成は？

クルト 20歳の弟がいる。

—性格はクルトさんに似てるんですか？

クルト ………まあ、性格は似てるけどぉ、ファイターじゃない。

—クルト家は基本的にのんびりしてる人たちなんですか？

クルト うん。パパもママもそんな感じい……。

—子供の頃、得意だった教科はありましたか？

クルト ……う〜ん、勉強大嫌〜い。ハイスクールはほとんど行かなかった。もっと他に楽しいことがあったから。

—へぇ〜、そこはぜひ聞きたいですね。

クルト オートバイを運転したりとか…いろいろ……う〜ん……。

—………ってそれだけ？

クルト いろいろやったんだけど、冬はスキーで、夏は釣り。

—ちゃんとあるじゃないですか（笑）。クルトさんは学校では人気者だったんですか？

クルト ………ノー。人気者でも、不良でもなくて、ノーマル。

▲全身入れ墨だらけのクルト。何か意味があって彫り続けているのかと思いきや、「なんとなく」（クルト）。そんなぁ……

なぜ入れ墨を入れてるかって？　分かんない……

—当たり障りのない子だったんですねぇ（笑）。

クルト ………イエス。

—あっ、そうですか。学校で問題起こしたりしなかったんですか？

クルト ……普通の人と同じくらいケンカは起こったよ。

—起こった？　ケンカはしたって言いません？

クルト だって、自分から仕掛けたケンカはないから………。

—あ〜、なるほど。ふっかけられるほうだったんですね。

クルト ほとんどがそうだけど、自分からやったこともある。

—温厚なクルトさんがなんで、ケンカふっかけちゃったんですか？

クルト う〜ん、きっと何かに怒ってたんだろうなぁ………。

—何に怒ってたかは分からないんですね（笑）。

クルト 理由があればいいけど覚えてないし、きっと誰かに怒ってたんだろうなぁ……。

—そんな状況の中で一番凄かったケンカはなんですか？

クルト ………そんな大きなケンカをした覚えがないから、分からない。

—格闘家の人って、こんなケンカしたよっていう俺自慢が一つくらいあると思うんですけど（笑）、それもないですか？

クルト ……ノー。とりあえず、そんな自慢話は何もない。リングの外でケンカをすることは誇りを持てないから。それは恥ずかしいことだと思う。リングの中で闘うことが好きだから……。

—紳士だなぁ……。

クルト ………うん、みんなにそう思ってほしいねぇ……。

—そう思ってほしい！　子供の頃に自分が人よりも秀でてたものってなんでしたか？

クルト ………え〜っと……………なんだろう？

—はっ？

クルト ……勉強でないことは間違いないから……取り柄はないなぁ。

—取り柄がない（笑）。そもそも、格闘技を始めようと思ったきっかけは？

クルト 小さい頃から柔道や、柔術、テコンドーをかじってたんだ。

—か、かじってた！

クルト 本格的に始めたのは14歳の時にムエタイをやって、15歳の時に初めて試合をしたんだよ。スウェーデンはプロの試合が認められてないから、アマチュアの試合だったんだけどね。

—プロは認められてないんですか。プロになる前は、何か仕事をしてたんですか？

クルト 肉体労働とか、警備員とか。あとはレンガ積む係りだった。

—レ、レンガ積み！　なんかぴったりだなぁ（笑）。趣味は？

クルト ………夏は釣りに行ったり、森に行ったり。冬は寒いからトレーニングがメインになっちゃうかな。

—ちなみに好きな食べ物と嫌いな食べ物は？

クルト タイフード、ヤキニク！　嫌いなのはシーフード。

—今は一人暮らしですか？

クルト ………今はストックホルムの郊外で一人暮らしをしてる。

—一軒家ですか？

クルト ………賃貸で一軒家を借りてる。

—外国の家って大きいじゃないですか。

クルト ………でも、そんなに大きくないよ。2LDKくらいかな。

――家賃高そうですよね。

クルト ………そ、そんなに高くないよ。400ドルくらいかな。

――クルトさんは結婚してるんですか？

クルト ………ノー。

――彼女は？

クルト ………ノー・ハブ（今はいない）。

――タイプは？

クルト （顔を赤らめながら）なんでもいい。

――嘘だ！（笑）。

クルト ………第一印象が大切だね（笑）。

――それって、顔が良くなきゃいやだってことでしょ？

クルト ち、違う、違う。第一印象は大事だと思わない？

――クルトさんの言っている意味はちょっと違うと思うけどなぁ（笑）。しかも、それだけ？

クルト ………自分が試合であちこち行くことが多くて、あまり家にいないから、ずっと家にいる人じゃなくて自分で働いてるような人がいい。

――クルトさんは自分の性格をどう思いますか？

クルト ………周りの人に聞いたほうが正確なことが分かると思うけど、特にシャイということではないんだよ。言葉が少ないだけ。あんまりしゃべらないし。

――ところで、なんで、そんなに入れ墨入れてるんですか？

クルト ………分かんない。

――期待どおりの答えだなぁ（笑）。

クルト 16歳の時に初めて入れ墨をしたんだけど、デザインがいいからやっただけ。それからもなんとなく入れちゃったんだよね。だから、深い意味はない。

――でも、そんなに入れてますけど、入れ墨って痛いって言われてるじゃないですか。

クルト ………痛いねぇ……。

――またまた、期待どおりの答えですねぇ（笑）。痛いの好きなんでしょ？

クルト 痛みは2、3時間ですむから。

――そ、そういう問題かぁ！ でも、日本だとこれだけ見事に入っていると、いくらクルトさんがいい人でも、サウナとか入れないんですよ。

クルト そうそう、知ってる。前に北海道でオンセンに入ろうとしたら、断られたよ。

――こんなに性格はおとなしいのに。

クルト そうなんだよぉ。きっと、ヨーロッパだと普通に入れ墨をしている人は多いんだけど、日本だとヤクザの関係でダメなんでしょ。

――ヤクザって言葉知ってるんですね。

クルト フフフフフッ。

――話がかなり脱線しちゃったんですけど、クルトさんは、なぜ格闘技をやろうと思ったんですか？

クルト ちっちゃい頃から普通の男の子と同じようにプロレスごっこみたいにじゃれあったりしてたんだ。その延長戦で格闘技は好きだった。それで、ボクシングだと手しか使えないし、テコンドーだと足技がメインになってしまうから、両方バランス良く使えるムエタイを始めたんだよ。

――それは殴るのも、蹴るのもいっぺんにやりたかったってことですか？

クルト ………イエ～ス。そうすると、わざわざいろいろなジムに行かなくてすむしね。

K－1に出たくて体重を増やしたんだ～……

――ああ、ただ単に面倒臭かったんですね（笑）。

クルト （ニコニコ）。

――そうなんですか（笑）。自分で格闘家に向いてると思ったのはなぜですか？

クルト ……え～っと……タイでやったアマチュアムエタイの大会で、95年に準優勝して、96年に優勝したんだよ。その時に、「あっ、これが自分のやりたいことだぁ」って思ったから。

――ああっ、ちゃんと理由があったじゃないですか（笑）。試合前の個別会見で「なんでキックボクサーになったんですか？」って聞かれた時に「そんな前のこと覚えてない」って言って、マスコミ陣は「そんなバカな」って大ウケだったんですよ（笑）。

クルト ………だって………。特別な理由がなかったからなんとも言えなかったんだよ。例えば誰かのためにやってるとか、そういう明確なターニングポイントもなかったし、ただ、まあなんとなく始めちゃったから。

――あちゃ～、なんとなく（笑）。

クルト 小さい頃は格闘技以外にもサッカーやホッケーなどもやってたんだよ。その中で格闘技が一番好きだったっていう感じなんだよね……。

▲[illegible]・17K－1横浜大会では、昨年のグランプリベスト[illegible]ファイター、ステファン・レコを見事KO！ リング上では獰猛なファイターに変身っ！

21世紀のK−1を面白くさせるのは
この男たちだっ！

▲ごはんを食べてるところを撮ろうとしたら……ジ〜ッと見つめられてしまった。この表情が脱力系でいいっ！

——こうやってお話を伺っていると、クルトさんは寡黙系じゃないですか。でも、リング上はまったく逆ですもんね。

クルト ………試合をしてる時にこんなテンポだったら勝てないよぉ。

——まあ、そうですよね（笑）。

クルト リングの外ではこんな感じで、リングの中ではあんな感じぃ……。

——また、簡単に説明が終わっちゃいますね（笑）。あのぉ〜、クルトさんはファイタータイプですよね。失礼ですけど、動きも速いし（笑）。

クルト ………うん。自分でもそう思うよ。

——しかも、クルトさんは1個の技に秀でてるというよりは、全ての技をこなせるという感じですよね。

クルト そう。それがボクのセールスポイントだからね。相手がいいボクシングテクニックを持っていれば蹴りを出すようにしたり、どんな相手にでも対応できるのがウリなんだぁ。

——なるほどぉ。そもそもクルトさんは何でK—1を知ったんですか？

クルト 93年にブランコ・シカティックが優勝した時から知ってたんだ。でも、その時はボクの体重が81キロしかなかった。3、4年前からプロの選手としてやっていこうと思ったんだけど、K—1じゃない他の団体だと、どうしても生活が成り立たなかったんだ。ボクの希望としてはファイター一本で生活していきたいと思ってたけど、しっかりした団体が少なくてね。例えばファイトマネーがちゃんと払われなかったりとか、航空券が届かなかったりとかがあったから。それがK—1だときちんと収入が約束されたものが入ってくるし、管理がちゃんとされているからK—1で試合をしたいなぁと思ってたんだ。でも、K—1はヘビー級でしょ？ さっきも話したけど、ボクはもともとライトヘビー級の体格だったんだよ。でも、どうしてもK—1に参加したくて体重を増やしたんだ。もし、K—1のウェイトがライトヘビー級だったら、それが一番自分に向いていると思うけど、K—1に出たかったから増やした。

ジェロムに勝つことがK−1のシンボルになれる近道だね

——寡黙系なのに、えらい長くしゃべりましたね（笑）。

クルト ………疲れちゃった（笑）。

——でしょ（笑）。

クルト ヨーロッパやタイでこれまで試合をしてきたけど、初めてK—1で試合をした時（昨年の福岡大会）驚いたのが、16時に試合が始まると言ったら、ホントに16時に始まったんだよ（笑）。今までそんなことは一度もなかったんだ。きちんとスケジュール表ももらえて、そのとおりに進行していくんだよ。いや〜、いいことだなぁ。

——アハハハ。なんかえらい感動してますね（笑）。これまで日本で2試合闘ったわけですけど、関係者の間では評価が高いようですよ。

クルト ………ムフフ、それはファニーだ。

——ファ、ファニー？

クルト ………あっ、ノット・ファニー、ノット・ファニー。そう言われると、嬉しい（ニコニコ）。

——「嬉しい」っていうつもりが、なぜだか「ファニー」って言っちゃったんですね（笑）。

クルト ………間違えちゃった（クスッ）。

——ホント、クルトさんはいい味出してるなぁ。さっき、クルトさんは93年からK—1を知っていたと話してましたよね。私も、93年からずっとK—1を取材してきてるので、同じK—1ウォッチャーとして（笑）、今、最も気になるファイターは誰ですか？

クルト ………キミもそうなんだぁ。誰かなぁ………難しいなぁ。2日前だったら、ジェロムだったんだけど。でも、マイクが勝っちゃったから、ヘビー級の試合はどっちが勝つか分からないからね。誰が一番強いかというのはコロコロ変わってしまう気がするし。アーツも戻ってきたしい、ミルコも強いしぃ……、セフォーも強い選手だしぃ……。

——これだけなめらかに選手の名前が出てくるのは、さすがK—1ウォッチャーですね（笑）。

クルト フフフ。だから、誰かとは言えないんだけど、やっぱりジェロムかな。

——いや、さすがK—1ウォッチャー、お目が高い！ 私も同じですよ。

クルト あっ、当たってた？（笑）。それがK—1のシンボルになれる一番の近道だと思うよ。

——クルトさんには、たとえK—1チャンピオンになってお金持ちになっても、このまんまの性格でいてほしいですねぇ。

クルト ………うん。ボクもこのままでいたいよ。

——いやぁ、今日お話を伺って、ますますウチの雑誌としては、クルトさんを一押しファイターとしてガンガン紹介していきますよ。

クルト ………グッド・アイディア。

——あらっ、最後は寡黙系に戻っちゃった。

クルト （ニコニコ）。■

PROFILE

ユルゲン・クルト◎1974年5月8日生まれ、26歳。スウェーデン出身。身長189センチ、体重98キロ。所属／ヴァレンテュナ・ボクシング・キャンプ。主な獲得タイトル／IAMTFアマチュアムエタイ王者、WKA世界ムエタイクルーザー級王者、WKAアマチュア世界キックボクシング81キロ級王者

お酒もタバコもやらないなんて、どっちも大好きな私のほうが悪いヤツ!?

人情味あふれる“悪童”
シリル・アビディ

聞き手◎日比香苗
撮影◎中島ミノル

3・17『K－1 GLADIATORS 2001』の翌日、都内のホテルでアビディをキャッチ。判定勝利を挙げたグレート草津戦のこと、プライベートのことなどを聞いてみた。日本では“マルセイユの悪童”と呼ばれているアビディ。しかし実際は正義感が強く、義理と人情に厚い“悪童”だったのだ！

▲カメラを向けると、すぐにニコニコ顔になってしまうアビディ。とびっきりのアビディ・スマイルに、もうメロメロ～♥

――今日はアビディさんにいろいろお話を聞こうと思って、編集部で一番のアビディファンの私が来ました！

アビディ　ハ～イ！　アリガト～！

――おねがいしまーす！　では、横浜大会のことからお聞きします。グレート草津選手に判定勝ちされたんですけど、内容的には満足していなかったようですね。

アビディ　うん、そうなんだ。まず、彼とは闘いのスタイルがまったく正反対だったってことが、うまくできなかった理由のひとつだと思う。僕は前に前に向かっていくタイプだけど、彼は後ろに引いて待つタイプ。2人のファイトスタイルがまったく噛み合わなかったんだよ。

――ファンとしては、アビディさんのいつものアグレッシブなファイトが見られなくて残念だったんです。

アビディ　そうだね。2人とも攻撃的な選手だったら、もうちょっと試合の内容は変わっていたかもしれないけど。あと僕自身、風邪気味で鼻も詰まってて、いつものコンディションじゃなかったんだ。でも、「試合に出る！」と言ったその日からは、あんまり言い訳したくないんだよ。どういう状態だろうと試合に出るって決めてるからね。

――いつもは「相手がケンカ相手に見えた」なんて言っちゃうアビディさんですけど、昨日はそんな感じじゃなかったんですか？

アビディ　うんうん、やっぱり自分が攻撃してても打ち返してこない防御型の選手だと、力と力のぶつかり合いになりにくいんだ。それに相手の動きに自分も合わせていかなきゃいけないし、防御もしなきゃいけない。だから試合がダレちゃったかもしれない。もちろん、ボクサーにはそれぞれスタイルがあるから、僕とし

てはクサツを批判してるつもりは全然ないんだ。ただ、あの試合に関しては、見てるほうは見応えに欠けた試合だったかもしれないね。

—そうですか〜。試合後に草津選手は、「アビディは気持ちで闘う選手だから、自分はアビディの気持ちに押されて負けたんだ」って言ってました。

そう感じたんならそうかもしれないね。僕もいつもどおりの攻撃性はなかったかもしれないけど、打たれたら打ち返すってことは最後までやってたよ。

—草津選手のローキックが効いてたようだったんですけど、ダメージは?

アビディ　全然!（足を動かして）。問題ないよ。いつも試合の最中は痛みを感じなくて、試合後にだんだん痛み出してくるんだけど、今回はべつになかったな。目の上がちょっと切れてたのにあとで気付いたけど、たしかにパンチの威力はあったね。

—今回の大会で印象に残った選手はいますか?

アビディ　……う〜ん、やっぱり自分自身がファイターだからそういうのは言いにくいなぁ。どの選手にも良いところと悪いところはあるし、全体としてどの選手が凄くいいかって言うのは……難しいなぁ。

そうですか。私はこの間の大会で、メインのベルナルドVSバンナの試合なんかは、大歓声でゴングが聞こえないほどお客さんも盛り上がったし、凄く興奮したんです。アビディさんがベルナルド選手とかバンナ選手とやったら凄くいい試合になると思うんですけどぉ?

う〜ん、そうかもね。2人とも凄くいいボクサーだと思うよ。K—1でのキャリアも長いし、実力も人気もあるしね。結果も残しているし。

—だからここで今、人気ナンバー1のアビディさんが、もしバンナ選手と闘って勝てれば、実力でも人気でもトップになれるんじゃないですか?

そうかな〜。たとえ闘って倒せたとしても、たった1回だけで自分が一番になれるなんて思わないよ。例えば、前にK—1で一番のピーター・アーツを倒して、たしかに評価は得たけど、だからって簡単に一番だってことにはならなかったよ。もちろん、勝つために努力はするけど、やっぱりいろんな試合をして積み重ねていって、トータルで「やっぱりコイツが一番だな」っていうふうにお客さんは見るんじゃないかな。

—そうですか〜。アビディさんって以前はホントに「本能むきだしのケンカファイト」という感じで、それがまた魅力的なんですけど、K—1のルールにはだんだん慣れてきましたか?

アビディ　うん、そういう意味では常に進化しているし、上達も心がけているからね。僕が持っている攻撃性ももちろん大切なんだけども、それゆえに、形にこだわらないなんでも有りのボクシングだと見られがちなんだ。でも、それは試合をする上では危険なんだ。

—なるほど〜。アビディさんがK—1に出るようになって、精神的には変化ありますか?

アビディ　そんなことはないよ。むしろ、K—1に参戦し始めた頃のほうがストレスは溜まってたね。試合に勝てるかなとか、みんなに評価してもらえるかなとかっていう心配があったから。でも、だんだんみんなに評価してもらえるようになって、これでいいんだって思ったらストレスは減ったね。もちろん、勝たなきゃとか、内容が悪くちゃいけないとか、そういう気遣いはあるけどね。

僕だって最低限のルールは守るよ(笑)「勝つ」っていう目標も達成できなくなっちゃうしね

—へ〜。だんだんルールにも慣れてきたように見えますけど、やっぱりルールは守るものですか?

アビディ　もちろん。

—「ルールなんかいらねぇ!」みたいな、そんなファイトは見られないんですか?

アビディ　ハッハッハ!　そんなことしてたら失格になっちゃうだろ!　僕だって最低限のルールは守るよ。「勝つ」っていう目標も達成できなくなっちゃうしね。それにルールを守るってことは、相手に対する尊敬の念を表すってことでもあるからね。

—アッハッハ、ごめんなさーい!

アビディ　うん。もっともっとトレーニングを積んで強くなるよ。

—K　1ファイターで、仲のいい選手はいますか?

アビディ　特にはいないけど、みんなリングを離れると凄く和気あいあいとしてるよ。だって仲悪くする必要もないしね。もちろん、プロだからリング上では倒すために闘うけど。

—今、新聞などでも、K—1にマイク・タイソンが出るって噂もあるんですが、アビディさんもやってみたいですか?

アビディ　うん、タイソンがキックボクシングをやれるんだったら。それにファイトマネーがもの凄くよければ考えてもいいかな。でも、ボクシングルールでやるんだったら、僕はあそこまでクレイジーじゃないからできないな。

そうですか。今はもうK—1一本の生活なんですよね?

アビディ　うん、バイトも辞めたしね。コロンビアからヘロインを運べばもっと儲かるかもしれないけど（笑）。

—ヒャ〜（笑）。じゃあ、ちょっとプライベートなことを聞いてもいいですか。休日とかはどうしてるんですか?

アビディ　土日の朝は走ってるな。午後は、晴れてればお散歩してる（笑）。

—アビディがお散歩〜!

▲草津戦は、残念ながら不満の残る内容となってしまったが、その激しい闘争本能がある限り、21世紀もたくさんの名勝負を演じてくれるだろう!

アビディ　週末によってやることはもちろん違うけど、いつもはそんな感じ。あとはちょっとプライベートすぎて答えられないな〜（笑）。

——ウフフフーッ、そうですか。趣味はなんですか？

アビディ　映画を見ること。アクション映画が好きなんだ。

——じゃあ、ゆくゆくはアクションスターになりたい？

アビディ　それもいいね。そういうオファーがあれば（笑）。

——アッハハー　それもステキだと思いますよ。日本の映画は何か見たことありますか？

アビディ　映像は見たことあるけど、言葉が分かんなかったから。僕は香港の映画でジョン・ウー監督の、マフィアが出てきてバンバン撃ち合うようなやつが好きだな。

——あぁ〜、アビディさんがもしやるとしたら、マフィアの役なんてハマると思いますよ〜。

アビディ　いいね〜。

——最後にバンバン撃たれて死んじゃう、って役はどうですか？

アビディ　どうせ出るんだったら、死なない役のほうがいいなぁ（笑）。

——じゃあ、いっそのことお巡りさんの役とかは？

アビディ　警察はぜーったいイヤだ（笑）。マフィアで、バンバン撃ち殺す役ー

——やっぱり警察は嫌いなんだ（笑）。テレビゲームで遊んだりはしませんか？

アビディ　子供たちとよくニンテンドーのゲームでポケモンとかマリオとかやってるよ。まだ3歳と4歳だけど、たまに負けるよ。4歳の子は自分が負けるとゲーム機をバーンと投げちゃうんだ。

——アッハハー　そのへんは親譲りですかね〜。

アビディ　うん（笑）。あとプレステ2で早く子供たちと遊びたいから、フランスでの発売が待ち遠しいよ。

——お子さんたちは、アビディさんみたいにケンカしますか？（笑）。

アビディ　兄弟ケンカは毎日のようにしてるね。でも外に出ると2人でチーム組んで、ほかの子たちにケンカを仕掛けてるよ。

▲「（映画に出るなら）警察の役はぜーったいイヤだ（笑）」と言って笑うアビディ。そんなにイヤな思い出があったのね……

「こんなものやったら、人間ダメになるぞ！」って言って、目の前で薬の袋を破って踏んづけてやったよ

——ウッフフフー　アビディさんの子供の頃と比べてどうですか？

アビディ　もちろん、僕のちっちゃい頃にソックリ（笑）。

——子供たちのケンカの仲裁したりするんですか？

アビディ　たしかに僕は大人だから、けしかけたりはしないけど（笑）。でも、ケンカを通して人生を学ぶってこともあるし、ある程度はケンカも必要じゃないかと思うよ。体も強くなるしね。

——アビディさんも毎日ケンカばっかしてたんですよね。

アビディ　ああ、よくやったなぁ。でも僕の場合は仲間がやられているのを見て、それを助けていたのが多かったな。それで警察のお世話にもなったし（笑）。

——ホント仲間思いですよね〜。普通の男の子だったら見て見ぬフリですよー

アビディ　そうなの？　僕の育った街では、困ったことがあったらみんなで助け合うのが当たり前だったよ。あんまり裕福な街ではなかったし、そうするのが当然だと思ってた。

——あぁ〜、義理と人情に厚い、下町っぽいところなんですよね〜。

アビディ　うん。僕の友達の中には悪いヤツもいっぱいいたけどね。たまに彼らから薬とかが回ってきたけど、僕は「こんなものやったら、人間ダメになるぞ！」って言って、目の前で薬の袋を破って踏んづけてやったよ。

——あぁッ……（ステキ♥）。日本では"悪童"なんて呼ばれてますけど、ホントのアビディは正義のヒーローだったんですね。

アビディ　そんなふうに言われると恥ずかしいけど……エヘッ。でも僕は今でも悪ガキっぽく見られてるけど、お酒もタバコも一切やらないんだよ。

——エエッ！　どっちも大好きな私のほうが、よっぽど悪いヤツですね……。

アビディ　タバコなんて吸っても、体のためにいいことなんてひとつもないのに。

——そ、そうなんですけど……。アビディさんにそんなこと言われるなんて……。心にしみました。今日からなるべく控えるようにします！　と、ところで、アビディさん、学生時代は何かスポーツやってました？

アビディ　うん、砲丸投げ。

——ほ、砲丸投げ？　またまた意外ですね〜。

アビディ　そうかな〜？　地区の大会ではそこそこの成績だったんだよ。でも砲丸投げだけで生活していくことはできないから、ボクシングにしたんだ。

——そうだったんですか〜。お子さんもキックボクサーにしたいですか。

アビディ　やりたいって言うならもちろんやらせるけど、キックボクシングだけが人生じゃないしね。まぁ、一人前になるまでは手助けしたいけど。

——アビディもお父さんなんですね〜。

アビディ　よく子供っぽく見られるけど、僕には父親としての責任もあるし、ちゃんとしなきゃいけない時とかは、ちゃんと大人としてやってるよ。

——もうガキじゃないってことですねーまた今日も意外なお話が聞けました。どうもありがとうございました！

アビディ　アリガトウゴザイマシタ！　あっ、ちょっと待って！　僕のオフィシャルサイトがオープンするんだ（URL：http://www.cyrilabidi.com/）。日本語版も作る予定だから、みんな見てね！■

K－1ジャパン史上最高の日本VS世界5対5マッチ！ されど、ジャパン勢全敗の危機……？

2001年K－1ジャパンシリーズ第2弾「K－1バーニング2001」が、4月15日、アクアドームくまもとで開催される。

今回は日本VS世界5対5マッチとして行われるが、全カードをズラリ並べても分かるように、ジャパンシリーズ過去最高のラインナップとなった。

なんといっても注目は大将戦に出てくる武蔵。あれだけマスコミから叩かれてきた武蔵は、昨年のK－1GP決勝戦敗退後、テレビ、雑誌の取材を全てキャンセルし、この試合に向けて練習に打ち込んできた。

相手のアーネスト・ホーストは、いわずとしれた昨年のK－1GP王者。だが、ホーストがジェロムでもベルナルドでもなく警戒しているファイターが実は武蔵だというのだ。

それは「スピードがあるから」ということらしいが、武蔵の一番の持ち味であるスピードでホーストをどこまで追い詰めることができるか？

両者は98年7月に1度対戦したことがある。その時はホーストのジャブで武蔵は眼下底を骨折し、ローキックでダウンするなど実力差をまざまざと見せつけられた。

あれから約3年。ホーストが警戒するほどのファイターに成長し、この4カ月間沈黙を守ってきた武蔵。今度こそ内容のあるファイトをし、ファンに再び夢を抱かせてほしい。

副将戦のノブVSアーツ戦は、チャクリキVSアーツという興味深いテーマが隠されている。ハーリック会長は「ノブが勝てる確率は4割だが、その4割に全力を賭ける」とやる気マンマン。

ミルコ戦では消化不良のファイトとなったアーツにとっては、ここでノブをきっちり倒してGPトーナメントへの景気づけといきたいところだ。

この他3試合も見所が多いが、その中で気になるのが、先鋒戦で富平と対戦する本名モハメド・アリ。アリはシドニーオリンピック金メダリストのサボンをKOした実績がある。南アフリカのベルナルドの元でボクシング修行に励んできた富平とのパンチ対決が楽しみだ。

日本勢にとっては、相手に不足なしと言えるほどの強豪揃い。逆に日本勢が全敗する可能性も大いにある。彼らの奮起を期待しよう！

さらに、スペシャルマッチで魔裟斗が出場。K－1中量級イベント以外での出場は初めてとなる魔裟斗は「一番が好きなので「一番面白かった」と言われる試合をしたい」と闘志を燃やしている。

誰が主役の座を奪うのか？ K－1初進出の熊本は、目が離せない大会となりそうだ。■

▶3月30日に行われた記者会見にて。一番右は日本テレビ・松本達夫プロデューサー

日本VS世界5対5マッチ

大将戦
武蔵 ＜日本／正道会館＞ VS アーネスト・ホースト ＜オランダ／ボス・ジム＞

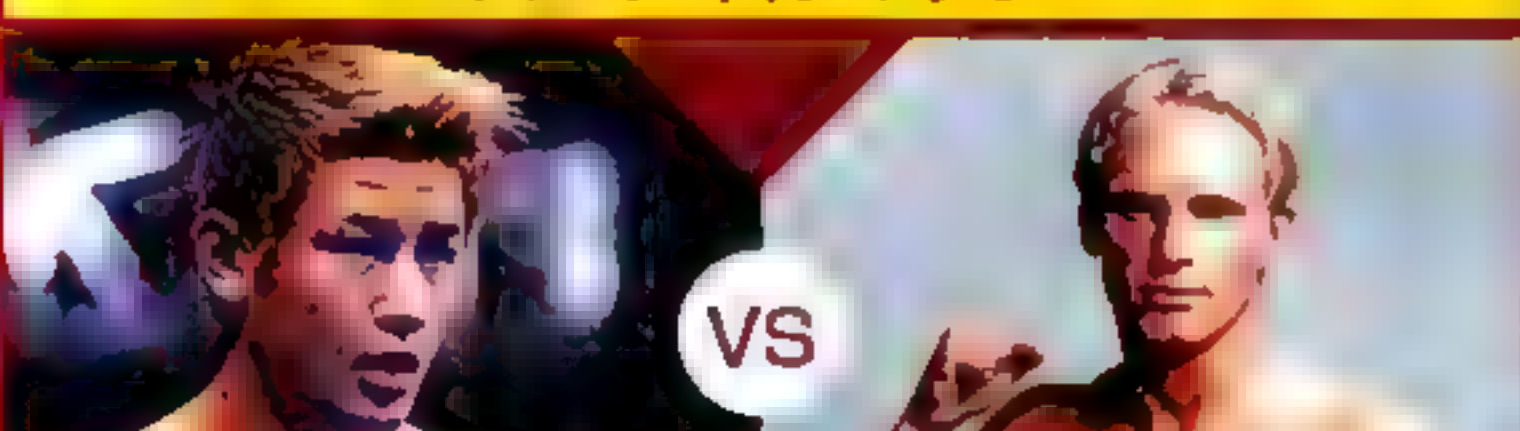
副将戦
ノブ・ハヤシ ＜日本／ドージョー・チャクリキ＞ VS ピーター・アーツ ＜オランダ／メジロ・ジム＞

中堅戦
子安慎悟 ＜日本／正道会館＞ VS グルカン・オスカン ＜オーストラリア／ブレーブハートアカデミー＞

次鋒戦
大石亨 ＜日本／日進会館＞ VS ロイド・ヴァン・ダム ＜オランダ／ドージョー・チャクリキ＞

先鋒戦
富平辰文 ＜日本／正道会館＞ VS モハメド・アリ ＜オーストラリア／ブレーブハートアカデミー＞

スペシャルマッチ

魔裟斗 ＜日本／シルバーウルフ＞ VS パトリック・エリクソン ＜オランダ／ドージョー・チャクリキ＞

JAPANトーナメントチャレンジマッチ

中井一成 ＜日本／日進会館＞ VS TSUYOSHI ＜日本／ボス・ジム＞
藤本祐介 ＜日本／正道会館＞ VS 安部康博 ＜日本／建武館＞

テレビ放送情報！

4・14（土）16：00～16：55
K－1JAPAN世界最強決定 明日ゴング！（事前番組）
日本テレビ関東地区のみ放送

4・15（日）22：30～23：55
K－1BURNING2001
日本テレビ系列全国ネット

K－1ジャパンシリーズ日程

6・24（日）
K－1JAPANGP2001 開幕戦
仙台グランディ21

8・19（日）
K－1JAPANGP2001 決勝トーナメント
さいたまスーパーアリーナ

第4回極真祭・ワンマッチで仰天対戦実現!
なんと体重差40キロ! 身長差20センチ!

極真の若武者・田中健太郎が アミラン・ビターゼと果たし合い!!!!

リングスKOK出場

昨年の世界大会にも出場した、弱冠20歳の若武者・田中健太郎が4月15日、「第4回極真祭・インターナショナルチャレンジマッチ」で大勝負に挑む！　身長2メートル、体重125キロのアミラン・ビターゼとワンマッチを行うのだ。なんと身長差20センチ、体重差にして40キロ！　だが、この大試練に対して、健太郎は「面白そうです」と発言しているから驚きだ。未来の極真を背負って立つ若者の意気込みを聞いてほしい。

聞き手◎中村カタブツ君
撮影◎中島ミノル

▲第7回世界大会でベスト16に入ったアミラン。これは4回戦で市村直樹と対戦した時のもの。市村の身長は175センチで田中とそんなに変わらないので、実際にこれくらいの体格差の中で闘うことになるのだろう

——今度アミラン・ビターゼとワンマッチで試合するんですよね。あのデッカイ人と（笑）。

田中　はい（笑）。

——しかも、なんか楽しみなんですよね（笑）。

田中　楽しみというか、面白いなぁというか。はい（笑）。

——面白いのかぁ（笑）。アミランってリングスのKOKにも出場してるんですけど、見たことあります？

田中　ありません。

——1回戦で山本憲尚とやって負けたんですけど、やっぱり立ってる時の迫力は凄かったですよ。じゃあ、去年の極真の世界大会のビデオは見直してますよね。

田中　はい。

——兄のタリエルも出てましたけど、アミランのほうが明らかにスタミナも勢いもあるんですよね。タリエルはリングスの無差別級のチャンピオンにもなってるんですけど。だから、かなりの強敵を相手にしてると思うんですよね。

田中　そうなんですよね。それは凄く分かってます。

——だけど、面白そうなんですね（笑）。

田中　そうですね（ニッコリ）。

——アミランについてはどんな印象がありますか？

田中　（必死に言葉を探す田中）う〜ん……。

——凄そうというか、怖そうというか、圧力があるというか。

田中　う〜ん、確かに強いと思うんですけど。なんか、なんの根拠もないんですけど、そんなに恐怖心っていうのがないんですよ（笑）。

——へぇ〜、そうなんですか！　凄いなぁ。だけど、それが一番ですよね（笑）。

田中　べつにこうすれば勝てるっていうのもないんですけど。

そんなに恐怖心っていうのがないんですよ

——なんとなく自信があると（笑）。

田中　はい（ニッコリ）。

——頼もしいなぁ（笑）。じゃあ、試合の話を聞いた時は嬉しかったんですか？

田中　最初は、試合があるってことは聞いてたんですけど、相手は誰だか分からなかったんです。たぶんアミランだと思うよという話は聞いてました。

——「アミランかぁ、勘弁してくれよ」っていう気持ちは湧かなかったんですね。

田中　はい（笑）。

——相手は2メートル、125キロですよね。

田中　自分は180センチあるかないかぐらいです。体重は80キロ後半です。

——体重差40キロ、身長差20センチ！　全然違いますよね（笑）。

田中　はい。だけど、デカイから凄いっていうわけでもないと思うんですよ（笑）。

——ただ、向こうは世界大会のベスト16にも入ってますよ。

田中　自分は3回戦で負けたんで順位はちょっと分からないです。

——向こうのほうが上ですよね。

田中　はい。

——身長も体重も成績も全て上ですよね（笑）。

田中　そうですね。だけど、1年以上前のことですから（笑）。

——そうするとこの1年間で学んだことがあるんですね。

田中　これまでやってきたことを継続してやってきただけなんですけど、成長してると思います。基本稽古をやってミットをやってスパーリングをやってという基本的に同じことを繰り返してやってきてるんですけど。

——だけど、その繰り返しの日々があるからこそ、アミラン戦にはなんだか分からないけど恐怖心が湧かないわけですね。

田中　そうです。

——実力的にも上がってるっていうのは実感してるんですね。

田中　はい、それはもう（笑）。スピードと威力、攻撃に対する反応っていうのが今までと比べたら、少しずつですけど伸びてると思うんです。まだまだ甘いんですけど、1年前のあの頃に比べたら少しなんですけど良くなってると思いますね。だから、アミラン選手に対しては絶対にナメてはいないんですけど、そんなに気負いなくっていうのがあるんだと思います。

——ワンマッチっていうことで、やりやすい部分もあるんですか？

田中　あんまり余計なことを考えなくてすむと思うんですね。だから、逆に2メートルの人と試合ができることが楽しみなんだと思います。ホントに相手と相手の一対一の闘いだから、なんていうんですか、……果たし状って感じです（笑）。

——ん？　それを言うなら果たし合いですね（笑）。

田中　（恥ずかしそうに）あっ!?　そうですね……（笑）。

——ただ、そういう決闘に臨むような意気込みでいくわけですね（笑）。

田中　はい。そんな大きな人と試合するのも、ワンマッチも全て初めてのことなのでワクワクするというのも変ですけど（笑）。

——新しいことに挑む面白さですね（笑）。特別ルールについてはどうですか？

田中　今回は通常ルールでやるみたいです。

——ラウンド制じゃないんですか。じゃあ、スタミナ切れを狙うやり方はできな

いですね。

田中　そうですね。だけど、自分としてはいつもやってることなのでこっちのルールのほうがやりやすいですね。

——ところでレール付きのサンドバッグがありますけど、これはアミラン用なんですか。

田中　いえ、これは前からあるものです。

——何キロぐらいあるんですか。

田中　100キロぐらいですね。

——なんかフィリォの特訓みたいですね（笑）。

田中　師範に押していただいて自分はそれを一度受け止めて、それから技を出すんです。試合の時はこんなもんじゃないと思ってやってます。

——なんか攻略法って考えてますか。

田中　横に回ったり、さばいたりです。当たり前のことなんですけど、その当たり前のことがなかなかできなくて。

——田中選手って数見選手みたいにどっしりした組手をするじゃないですか。だから、機敏な姿っていうのが想像できないんですよ（笑）。

田中　ああ、そうですね（笑）。だから、今度の試合は技術的に新しいものに取り組めるということで、絶対にプラスになると思うんですね。やはり目指してるのは次の世界大会ですから。

——そうですよね。今の時期にこれだけデカイ人とやるのはいい勉強になりますもんね。

田中　はい！

——ガラッとスタイルを変えちゃったりはしないんですか？

田中　いや、そんなには。今までの組手をさらに進化させたものを目指していきます。

▲アミランとの対戦を楽しみにしている田中。今回の試合が2年後の世界大会で活かされるような経験になることを期待したい

目指しているのは次の世界大会ですから

——ところで、田中選手は今、どんな生活をしてるんですか？

田中　今は道場にずっといますね。稽古して事務の仕事をしたりしてます。

——寝るのも道場？

田中　寝るのは家に帰ります（笑）。朝は10時ぐらいに来て、夜は11時過ぎまでですね。

——練習メニューはどんな感じですか。

田中　朝は一般稽古をやって、その後、ウェイトトレーニングをやって指導してダッシュして、そのあとはサンドバッグを叩いたりしてます。

——ダッシュってどこでやるんですか？

田中　すぐそこに結構、急な坂があるんでそこで。長さは200メートルぐらいあります。

——そこを一気に。

田中　はい。

——ウェイトは何キロぐらいですか。

田中　だいたい●●●キロぐらいでセットを組んでやってます。だけど、これは載せないください、恥ずかしいんで（笑）。

——普通の人で●●●キロっていうのは到底上がらない重量ですけど、それでもダメですか（笑）。

田中　う～ん、恥ずかしくて（笑）。800キロが上がるようになったら書いてください（笑）。

——分かりました（笑）。じゃあ、スクワットはどのくらいのウェイトを上げてます？

田中　それは200キロぐらいです。調子イイ時ですけど（笑）。

——これは載せてもいいですか？

田中　う～ん、たぶん。ただ、もっと上げられるよう頑張ります（笑）。

——あと3週間ですけど、どういうような感じか？

田中　これからドンドン自分を追い込んでいくだけです。

——疲れのピークはどれぐらいに来る予定ですか。

田中　1週間前ですね。1週間から2週間の間ですね。

——疲れのピークってどんな状態になるんですか。

田中　もうダルくてしょうがないですね。

——立てなくなるなんてことはないんですよね。

田中　それは大丈夫ですけど、朝は足がつったりしますね。だから、本当に食事とかも気をつかってないとすぐに動かなくなっちゃうんで（笑）。

——食事は自分で気を付けてるんですか。

田中　母親に勉強していただいて（笑）。

——お母さんも一緒に闘ってくれてる感じなんですね（笑）。

田中　家族揃って応援してくれてるんで、とても（笑）。

——じゃあ、お母さんはカロリー計算とかもしてくれてるんですか。

田中　そこまではやってないんですけど、テレビとか本とかを見て、これがいいんじゃないかとか。

——「あるある大辞典」とかを見て、リンゴ酢がいいとかって（笑）。

田中　はい、ホントにそんな感じです（笑）。

——いいな、それ（笑）。最近は何が身体にいいって言ってました、お母さんは。

田中　ヒジキとか貝類です。

——では、ヒジキと貝類を食べてあと3週間、ケガのないよう頑張って、そして勝ってください（笑）。

田中　はい、頑張ります！　■

番組インフォメーション

4/13、4/20の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によっては放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは4月4日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

注目！

SRSは引き続き4月以降も金曜日の26時15分からの放送です！

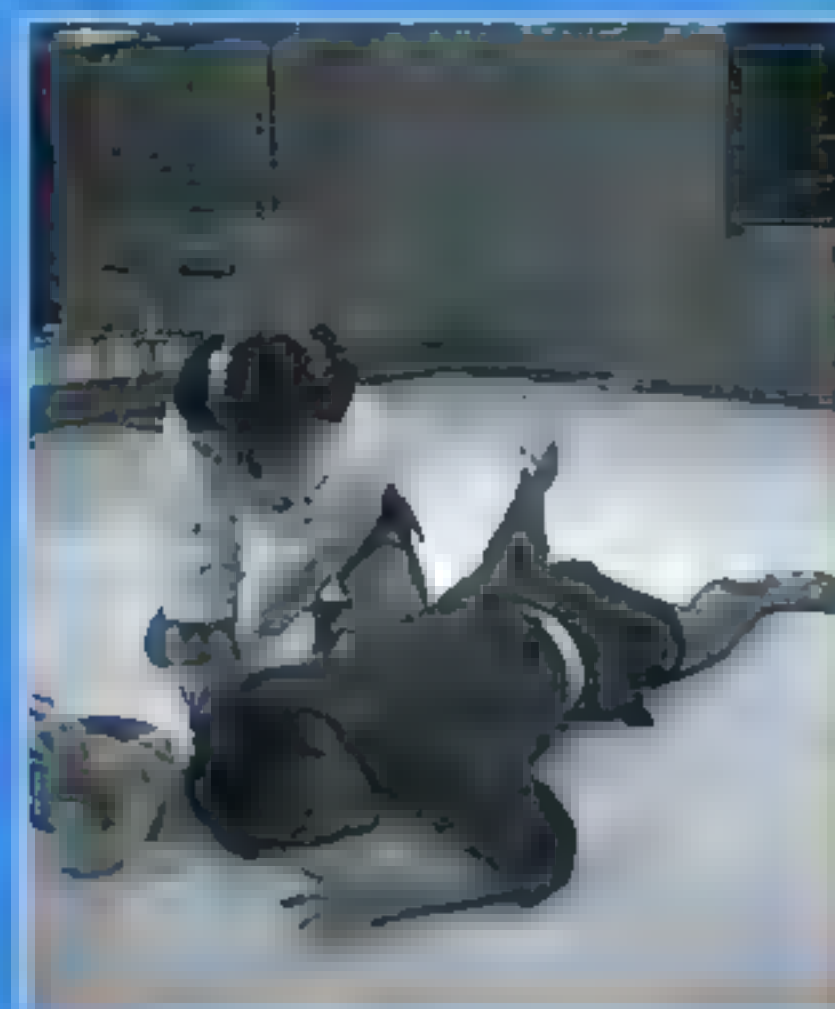
みなさん、SRSは4月からも放送日時がそのまま変わらずに放送することになりました。金曜日の深夜はSRSでお楽しみください。

4/13

改編期も乗り切って、SRSは6年目に突入！

2000年度下半期総集編！

4月13日（金）26:15～26:45

深夜の格闘技番組の地位を守り続けてきたSRSも、遂に6年目に突入！　これでSRSも長寿番組の仲間入りを果たしたわけですね！？　ところで、その記念すべき6年目最初の放送は、昨年の10月から今年の3月までの2000年度下半期の総集編をお届けします。昨年の10月から今年の3月まで、格闘技界では様々なことがありました。そんな激動の格闘技界を追っていたSRSで、この半年間を振り返ってもらいましょう！　打撃系あり、総合系あり、そしてKOも膠着もありと様々な2000年度の名場面を、下半期を中心に一挙にお茶の間へお送りします。また、SRSの高視聴率順のランキングも放送予定！　時間が26時台と遅くなってしまって、見逃してしまった方はこれが最後のチャンス！　今回こそは眠い目をバッチリ開けて、SRSを見逃さないようにしましょう。

▲これは必殺技研究所の一場面。これも人気の高いシリーズだ

4/20

世界に挑む男たちに注目！

4・14～15第4回極真祭中継

4月20日（金）26:15～26:45

21世紀、いよいよ極真が動き出します。4月の14日と15日の両日、「2001第4回極真祭・第18回ウェイト制全日本空手道選手権大会」が代々木第2体育館で開催されます。この大会は6月に開催される「第2回全世界ウェイト制空手道選手権大会」への出場選手の選考も兼ねているので、熾烈な闘いが繰り広げられることは間違いなし！　SRSではこの大会の模様はもちろんのこと、同時に行われる『インターナショナル・チャレンジマッチ』も注目してお届けします。この『インターナショナル・チャレンジマッチ』は、トーナメントではなくワンマッチ形式で行われるもので、田中健太郎VSアミラン・ビターゼ他5試合が行われるのでこちらも要チェック！　そして、極真といえばこの人！　6月の世界大会に向けて動き出した、エース数見肇の近況を直撃レポートしちゃいます。とにかく30分まるごと極真特集です。お楽しみに！

▲久々に登場する数見。いったいどんな言葉が聞けるのか

SRSホームページのアドレスはこちら
http://www.fujitv.co.jp/

SRSホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、「ロケ現場潜入日記」など内容満載です。また、人気コーナー「SRS FIGHT CLUB」では皆さんからの原稿を募集中です。あなたが書いたエッセイや観戦記、その他マニア情報、プチ情報などで作るコーナーです。あなたの熱い魂の叫びを書いて、どしどしお寄せくださ～い。それから、はせキョーのページもあるのでこちらも必見！

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
4/12（木）	GAORA	角田信朗の格闘魂	9：00〜 9：30 18：00〜18：30	正道会館の角田信朗がパーソナリティーを務める、毎日放送ラジオとのメディアミックス企画番組。自ら格闘魂を語り、毎回格闘家のゲストを迎える　再放送4/13・12：00〜、4/14・23：30〜
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10：00〜11：30	2000.3.7にハワイで開催された『SUPER BROWL16』を再放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	16：00〜17：00	これまで放送分の『ワールドコンバットファイト』からの再放送シリーズ。『フリースタイルボクシング』（96.4.27/オランダ・アムステルダムフェーン）から5試合　同内容放送4/16・4：00〜、4/20・11：00〜、4/23・16：00〜
	GAORA	週刊格闘JAM！	18：35〜18：[illegible]	毎回、K-1、PRIDEなどから活躍が期待される選手など、格闘技界の旬な話題をピックアップして放送。選手個人の特集など格闘技界の様々な話題を取り上げる　再放送4/16・19：05〜
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	19：00〜20：00	第61回新空手道交流大会を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00〜21：00	3.30後楽園ホールで開催のMAキック連盟『ODYSSEY-1』を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21：00〜22：00	98.11.14オランダ・アムステルダムで開催の『WPKLムエタイチャンピオンリーグ』から3試合
	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	22：00〜24：00	船木ストーリー2
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22：00〜23：00 25：00〜26：00	さまざまな格闘技の最新情報を紹介する番組。毎回格闘家のゲストも登場し、ファイターの等身大の魅力に迫る
4/13（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7：00〜 8：00 12：00〜13：00 18：00〜19：00	4/12を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	11：00〜12：00	4/12を参照。『ユーロキックボクシングクラシック』（90.5.27/オランダ・アムステルダム）から5試合　同内容放送4/19・16：00〜
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	13：00〜14：00	4/12と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	14：00〜16：00	4/12と同内容
	日本テレビ	プロレス・ノア中継	25：55〜26：25	4.11広島大会を放送。GHCトーナメント準決勝
	フジテレビ	SRS	26：15〜26：45	⬅P69
4/14（土）	GAORA	LADY GO!　女子ボクシング中継	8：00〜 9：00	日本女子ボクシング協会主催で3.2に東京・北沢タウンホールで開催された『ファイティング・エンジェルス〜PART1〜』を放送。試合のほかに女子ボクサーの日常生活や試合当日の様子などとインタビューをまじえて紹介
	BS朝日	パンクラスハイブリッドアワー	14：00〜16：00	⬅Pick Up①
	日本テレビ	K-1JAPAN世界最強決定戦明日ゴング！	16：00〜16：55	4.15『K-1BURNING2001』の事前番組。関東地区のみで放送
	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング	24：30〜27：25	第27回エクストリームチャレンジ・ヘビー級トーナメント、第29回エクストリームチャレンジ・ライト級トーナメントを3時間スペシャルで放送
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26：05〜27：05	4.9大阪ドーム大会を放送
4/15（日）	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	8：00〜 9：00	4/12と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	9：00〜10：00	4/12を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	10：00〜12：00	4/12と同内容
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版スペシャル	13：00〜17：25	⬅Pick Up②
	BS朝日	パンクラスハイブリッド	18：00〜20：00	4/14と同内容
	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング	20：30〜21：30	カルガリー・スタンピード・レスリング日本人特集パート1
	日本テレビ	『K-1BURNING2001』	22：30〜23：55	全国ネットで4.15『K-1BURNING2001』アクアドームくまもと大会を放送
4/16（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	16：00〜17：00	4/12を参照。『ユーロキックボクシングクラシック』（90.5.27/オランダ・アムステルダム）から4試合。同内容放送4/23・4：00〜、4/24・16：00〜
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50〜24：50	今回の『格闘新世紀』は3週連続で行われるパラオ特集の第1弾
	日本テレビ	超K-1宣言	26：47〜27：17	4.15『K-1 BURNING 2001』の特集
	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング	27：00〜28：00	4/15のJスカイスポーツ3と同内容
4/17（火）	GAORA	週刊格闘JAM！	12：20〜12：25	4/12を参照　再放送4/19・18：35〜
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	16：00〜17：00	3/30を参照。『ユーロキックボクシングクラシック』（90.2.18/オランダ・アムステルダム）から5試合　同内容放送4/26・16：00〜
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00〜21：00 23：00〜25：00	3.31にTokyo FMホールで開催された格闘探偵団バトラーツの『T.F.M.dos』大会の模様を放送
	東海テレビ	PRIDE王	24：40〜25：10	『プレ・プライド』初代王者江宗勲のプロデビュー戦に密着。佐藤江梨子の『プライド』ガールズ控[illegible]
4/18（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	14：00〜16：00	4/17と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト（再）	16：00〜17：00	4/12を参照。『ユーロキックボクシング・クラシック』（89.11.19/オランダ・アムステルダム）から4試合　同内容放送4/25・16：00〜
	GAORA	全日本キックボクシング	20：00〜22：00	3.16『CROSS FIRE-1』後楽園ホール大会を放送
	テレビ東京	Gパラ　コロシアム	23：55〜24：35	ゲストにザ・グレート・サスケ登場予定
	フジテレビ	すぽると	23：50〜24：30	⬅Pick Up③
4/19（木）	GAORA	角田信朗の格闘魂	9：00〜 9：30	4/12を参照　再放送4/22・17：30〜
	GAORA	LADY GO!　女子ボクシング中継	19：00〜20：00	4/14と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00〜21：00 23：00〜25：00	3.21に東京・北沢タウンホールで開催の修斗『SHOOTO TO THE TOP』を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21：00〜22：00 26：00〜27：00	『ADCC US TRIALS-77キロ〜87キロ級トーナメント』パート1（99.7.24）から5試合を放送
	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	22：00〜24：00	1.8愛知県体育館大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22：00〜23：00 25：00〜26：00	4/12を参照
	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング	24：00〜25：00	4/15と同内容
4/20（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7：00〜 8：00 12：00〜13：00 18：00〜19：00	4/12を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	13：00〜14：00	4/19と同内容

ON THE AIR 4/12～4/26

格闘技番組ガイド　TV&RADIO

Pick Up 1 「パンクラスハイブリッドアワー」
BS朝日
4月14日（土）/14:00～16:00　ほか

3月31日（土）に行われた、パンクラスの大阪なみはやドーム大会の模様を放送。メインイベントの美濃輪育久VSパウロ・フィリョの白熱の一戦や、セミファイナルの近藤有己の秒殺劇と見応えのある試合が豊富に揃った。大阪に観戦に行けなかった人には、もってこいの番組と言える。ちなみに鈴木みのると髙橋義生が解説だ。

Pick Up 2 「ワールドプロレスリング完全版スペシャル」
BS朝日
4月15日（日）/13:00～17:25

猪木の強権発動によってカードが変更。俄然興味深くなった新日本プロレスの4・9大阪ドーム大会を全試合ノーカットでお届けする。メインイベントは、藤田和之VSスコット・ノートンで、変更されたカードの一つだ。その他にも興味深いカードが目白押し。当日、観戦できなかった人もこの番組があれば、安心だ。

Pick Up 3 「すぽると」
フジテレビ
4月18日（水）/23:50～24:30　ほか

プロ野球ニュースに替わるスポーツ情報番組として始まった「すぽると」。この「すぽると」の水曜日は格闘技のコーナーとなり、キャスターは高田延彦と角田信朗である。週ごとに交代でキャスターを務めていくが、初回の放送は2人が揃う豪華版だ。18日の放送は、高田がキャスター。「プライド」や極真祭の特集を行う予定だ。

TV（右ページから続く）

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
4/20（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	14：00～16：00	4/19と同内容
	日本テレビ	プロレス・ノア中継	25：55～26：25	4.15有明コロシアム大会を放送。GHCトーナメント決勝戦
	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	⬅P69
4/21（土）	BS朝日	パンクラスハイブリッド	14：00～16：00	船木誠勝が語るパンクラス・ヒストリー～～95.1.26 & 4.8愛知県武道館大会
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	23：00～24：00	4/12と同内容
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	25：30～26：30	4/15のＪスカイスポーツ3と同内容
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26：35～27：35	4/14と同内容
4/22（日）	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	8：00～9：00	4/19と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	9：00～10：00	4/12を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	10：00～12：00	4/19と同内容
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	3.20代々木第二体育館大会
4/23（月）	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	22：00～24：00	4/19と同内容
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	先週に引き続いてのパラオ特集第2弾
	日本テレビ	超K-1宣言	25：45～26：15	4/16と同内容
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	27：00～28：00	4/15のＪスカイスポーツ3と同内容
4/24（火）	GAORA	週刊格闘JAM！	12：20～12：25	4/12を参照　4/24・21：05～、4/26・12：50～
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	「プレ・プライド3」オーディション（前編）
4/25（水）	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	19：00～21：00	3.31大阪・なみはやドーム大会
	テレビ東京	Gパラ　コロシアム	23：55～24：30	4/18と同内容
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	4/18を参照
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	25：00～26：00	4/12を同内容
4/26（木）	GAORA	角田信朗の格闘魂	9：00～9：30	4/12を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10：00～12：00	2000.7.27～30にブラジル・リオで行われた「ブラジリアン柔術世界選手権」再放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 23：00～25：00	3.31後楽園ホールで開催の新日本キック協会「Real Champion Appearance」を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21：00～22：00 26：00～27：00	「ADCC US TRIALS-77キロ～87キロ級トーナメント」パート2（99.7.24）から9試合を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22：00～23：00 25：00～26：00	4/12を参照
	Ｊスカイスポーツ3	ワールドファイティング	26：00～27：00	4/15と同内容

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888　☎03-5802-5550
（10：00～20：00）

■スポーツ・アイ・ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5280-1104／☎06-6374-0002
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5351-4055
（16：00～21：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00　土日祝除く）

■J SKY SPORTS
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（月～金10：00～18：00）

VIDEO & DVD
注目作品＆NEWリリース情報

《新作紹介①》 It's HOT!

『桜庭和志スペシャル ～プロレスラー最強伝説～』

パイオニアLDC/203分
5,800円/発売中

あの伝説のホイス戦もノーカット収録！

遂にファンが待ち望んでいたDVDが発売された。桜庭和志の昨年の闘いをまとめた『桜庭和志スペシャル～プロレスラー最強伝説～』の登場だ。この作品は、『プライドGP』開幕戦でのガイ・メッツァー戦から、『プライド12』でのハイアン・グレイシー戦までの桜庭が『プライド』で行った試合を、全てノーカットで収録しており、当然あのホイス戦もノーカットでの収録となんともお得な1枚だ。しかも、桜庭本人の特別解説も入っているので、あの数々の激闘の中にいったいどんな舞台裏があったのかということも、明らかにされている。売り切れる前に、早めに購入すべし！

《新作紹介③》 It's HOT!

『K-1最強伝説1993～2000総集編 Vol.1～グランプリ王者の奇跡～』

TDKコア/197分
6,800円/発売中

K-1グランプリが丸ごと楽しめる1枚！

1993年から2000年に行われたグランプリトーナメントの予選から決勝までの154試合を、ダイジェストで完全収録したDVDの登場だ。年々、規模が大きくなっていくK-1の様子が手に取るように分かるのが、このDVDのいいポイントだ。今まで、見逃していた試合やもう1度見たい試合など、とにかく全154試合が収録されているので、たっぷり満足できること間違いなし。また、特別映像として1993～2000年のグランプリトーナメント表や、98年と99年の出場権獲得トーナメントそして、昨年の世界予選と出場権獲得トーナメントまでも収録されているのだ。K-1ファンなら絶対に手に入れておきたい1枚だ。

《新作紹介②》 It's HOT!

『女子総合格闘技 ReMix WORLD CUP 2000』

スパイク/110分
2,800円/発売中

最強の女王をこの目で確かめろ！

昨年の12月に行われた、女子の総合格闘技イベント『ReMix WORLD CUP 2000』のDVD化だ。世界の強豪選手を集めて開催されたこの大会は、女子プロレスラーの薮下めぐみがグンダレンコ・スベトラーナと大激闘の末これを破り、大ブレイクした大会である。また、この大会の目玉といえば、セクシータレント・桜庭あつ子の参戦である。柔道の強豪選手を相手に、最後までギブアップしなかったのはお見事の一言である。そして、DVDならではの特典として選手へのインタビューや、控室や入退場時の会話なども収録されているので、当日の出来事がよりリアルに分かる。値段も安いので、おすすめの1枚だ。

RENTAL RANKING（3/12～3/26調べ）

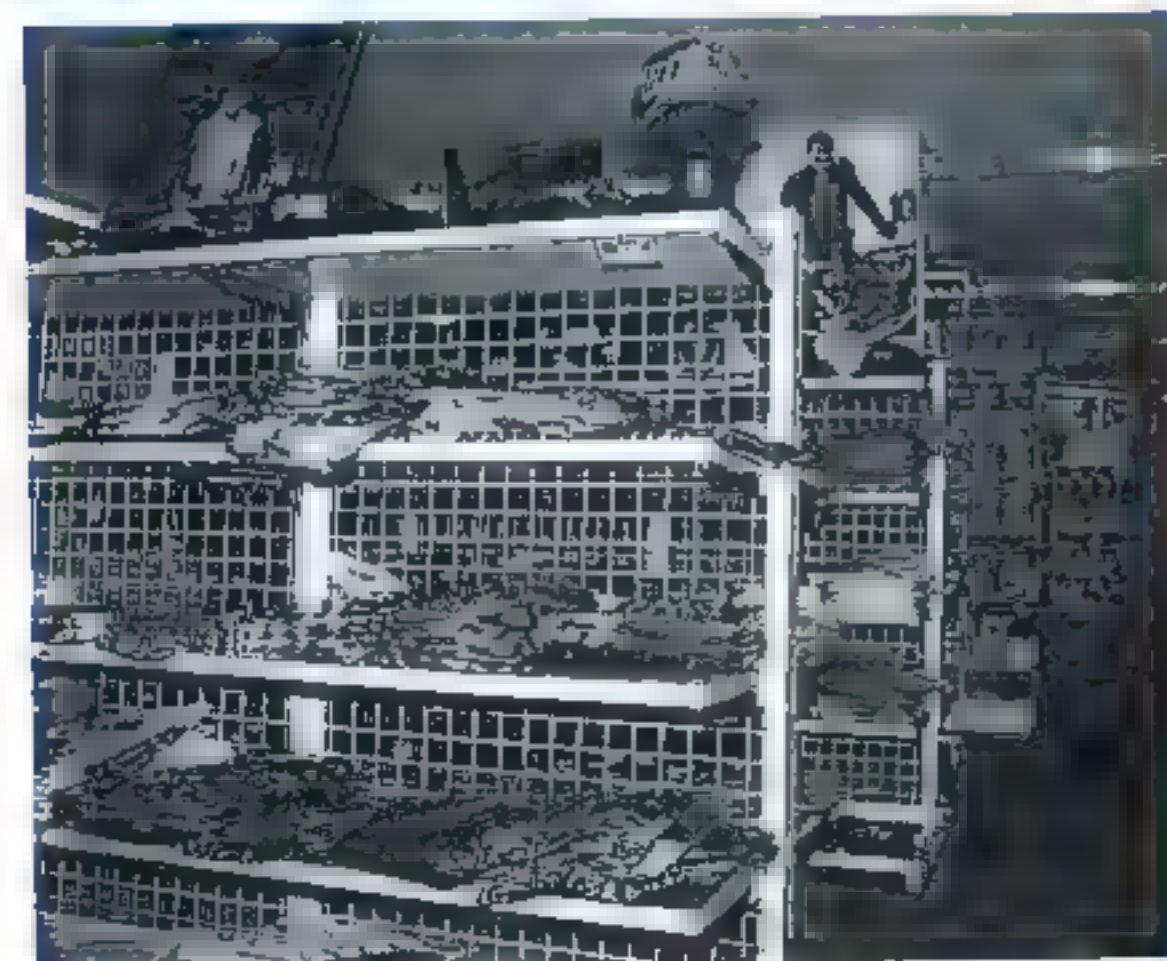
1. 『Millennium Fighting Arts INOKI BOM-BA-YE』 パイオニアLDC/122分
2. 『ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP JAPAN 2000 FINAL』 スパイク/100分
3. 『ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP #27 BAD BOYZ 2000.9.22』 スパイク/105分
4. 『船木誠勝 マッスル編 ハイブリッド肉体改造法Ⅱ』 スパイク/43分
5. 『MACH SAKURAI HAYATO』 クエスト/110分

1位 『Millennium Fighting Arts INOKI BOM-BA-YE』

これこそ永久保存版！

2000年の12月31日、大阪ドームで行われた『Millennium Fighting Arts INOKI BOM-BA-YE』のビデオが今回の1位だ。普段『プライド』に出場している選手がプロレスをやったこのイベントは、まさに猪木でなければできないイベントだった。試合の他にも、世紀越えの「ダーッ！」や百八つビンタなど、とにかく面白いものだらけのビデオだ。

プロレス＆格闘技専門ビデオショップ『チャンピオン』

東京都千代田区三崎町3-8-1 西田ビル6F
☎03-3221-6237

▲毎回、ランキングにご協力いただいてる『チャンピオン』。プロレス・格闘技のグッズも多数販売されている

チャンピオン 丸野大樹マネージャー

「4月中は毎週月・水曜日に限り、レンタルビデオサービスキャンペーンとして、2本以上レンタルすると更にもう1本サービスしております。ぜひ、この機会にチャンピオンをご利用ください。ご来店お待ちしております」

SELL RANKING（3/12～3/26調べ）

1. 『ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP JAPAN 2000 FINAL』 スパイク/100分 6,600円
2. 『ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP #27 BAD BOYZ 2000.9.22』 スパイク/105分 6,600円
3. 『Professional SHOOTO 2000 8th 修斗ウェルター級選手権試合 宇野薫VS佐藤ルミナ』 クエスト/90分 6,600円
4. 『THE EXCITING Professional SHOOTO 2000 7th』 クエスト/116分 6,600円
5. 『K-1最強伝説 1993-2000 総集編VOL.1「グランプリ王者の軌跡」(DVD)』 TDKコア/197分 7,140円

3位 『Professional SHOOTO 2000 8th 修斗ウェルター級選手権試合 宇野薫VS佐藤ルミナ』

宇野VSルミナ、衝撃の結末を見よ！

昨年の12月17日に東京ベイNKホールで行われた大会を収録したビデオが、遂に登場した。なんといっても見どころはメインの宇野薫VS佐藤ルミナの修斗ウェルター級選手権試合だ。ファンが待ち望んでいたこのタイトルマッチは、衝撃的な決着を見せる。何度見ても興奮することは請け合いだ。

※表示価格は全て税別価格

GOODS
最新＆売れスジグッズをご紹介！

〈新作紹介〉 It's HOT!

『エンセンフレイムTシャツ』
イーフォース/4,000円（税別）

炎で燃える大和魂がバックプリントされたTシャツ

　黒地に鮮やかなオレンジ色の炎が文句なしに格好いい、エンセンのニューTシャツが登場だ。いまだに死なないエンセンの不屈の大和魂を背中に感じながら、クールに着こなしてみてはいかが？

〈おすすめグッズ〉 Recommend

『グラバカTシャツ』
パンクラス/3,500円（税別）

チーム・グラバカのニューTシャツ！

　パンクラスや修斗のマット上で大暴れをしている、菊田早苗率いるチーム・グラバカ。そのグラバカの新しいTシャツの登場だ！　白地に青の文字もシンプルで素敵だが、KINGS限定のカラーもあるので、そちらもゲット！

ワールドスポーツプラザKINGS
[illegible]

「春といえばTシャツの季節。というわけでKINGSでは、春の新作Tシャツが続々入荷中です。また、4月14日には水戸店が、28日には上野店がそれぞれオープンします。ぜひ足をお運びください」

ワールドスポーツプラザKINGS
東京都渋谷区神南1-9-5 ワールドスポーツプラザWEST 1F（渋谷消防署前）
☎03-3462-1001
通信販売受付☎03-3462-7775
営業時間/11:00～20:00　通信販売受付/11:00～19:00

GOODS RANKING（3/22～4/5調べ）

1. **TABLETS ALEX（ホワイト）**
   デスバレー/3,900円
2. **桜庭 version5 Tシャツ**
   高田道場/3,800円
3. **KING OF SPORTS Tシャツ（レッド）**
   新日本プロレス/2,500円
4. **W.U Tシャツ（ホワイト）**
   KINGS/3,500円
5. **桜庭バーコードキャップ**
   高田道場/3,500円

1位　TABLETS ALEX（ホワイト）

大好評のアレクのお菓子シリーズTシャツ！

　シャレのきいたデザインが女の子にも大ウケの『TABLETS ALEX』Tシャツ。デザインは可愛いのにアレクの顔が凶悪なのが、お菓子シリーズの中でも一番人気の秘密なのか？

GAME INFORMATION

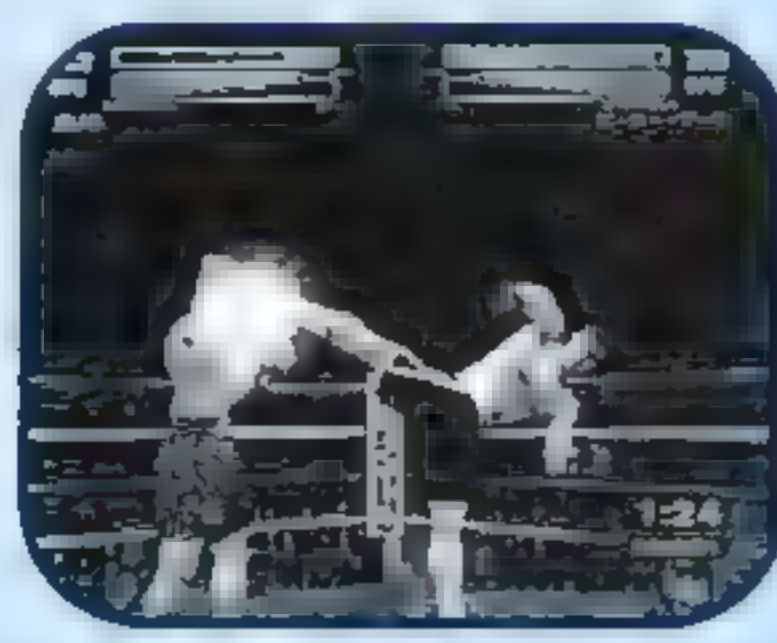
K-1ゲームの最新版が登場！ 『K-1ワールドグランプリ2001開幕byXING』、コナミより絶賛発売中！

◆タイトル／『K-1ワールドグランプリ2001開幕版byXING』
◆対応ゲーム機／プレイステーション
◆価格／オープン価格
◆お問い合わせ／コナミマーケティング株式会社（☎03-3342-0575）

K-1のオールスター勢揃い！　アーツが、ホーストがそしてバンナが君の操作で自由自在に画面狭しと暴れまくる。

　大阪での『K-1ワールドGP2001』開幕を前にして、K-1ファンに朗報が届いた。K-1ゲームの最新版『K-1ワールドグランプリ2001開幕版byXING』が3月29日（木）に遂に発売されたのだ。このゲームの特徴は、これまでK-1を彩ってきた新旧スターが揃っていることはもちろん、昨年の『K-1ワールドGP2000決勝戦』に出場した選手も全てカバー。昨年大活躍したシリル・アビディも当然登場しているぞ。お楽しみはそれだけではない。今までも好評だった育成モードが更にバージョンアップされたのだ。簡単に選手を作成できる『MONSTER FACTORY』モードに、本格的な育成モード『K-1 CHALLENGE』という二つの育成モードで、君のオリジナルのK-1ファイターが育成できる。また、入場時のエフェクトやコスチュームをはじめとして、演出部分を大幅に強化！　K-1の醍醐味を存分に味わうことができるぞ。グランプリの開幕が待ちきれないキミは、さっそく『K-1ワールドグランプリ2001開幕版byXING』を手に入れて、自分のグランプリを作っちゃおう！

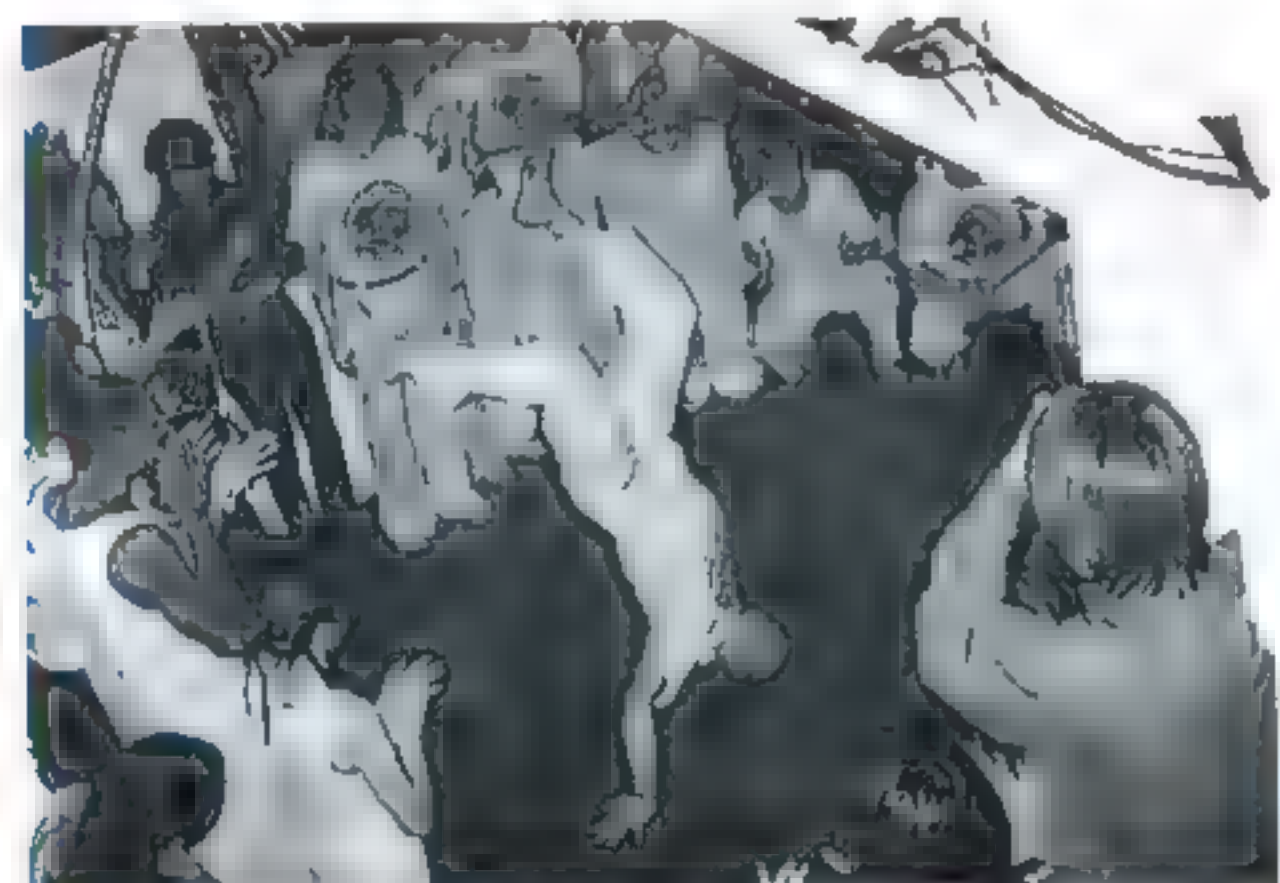
▲こんな激闘が、キミの部屋で再現できるぞ！

Et cetra

中村頼永の「大阪ブルース・リーズ ジークンドー＆カリ・シラット セミナー」開講！

来る4月22日、大阪で中村頼永がジークンドーのセミナーを開く。あのブルース・リーが起こした格闘技、ジークンドーを生で体感するチャンス！ また、カリ・シラットのセミナーも同時に行われるとのこと。ブルース・リーのように強くなりたい人はこのチャンスを逃すな！

◆日時/4月22日（日） 12:00〜16:30（11:00より受付開始）
◆場所/堺市立大浜体育館（剣道場） 大阪府堺市大浜北町5-7-1（南海本線堺駅下車 南口出口徒歩10分） ☎0722-21-2080
◆受講料/IUMAメンバー 10,000円 一般 12,000円 PHASE-Ⅰ 9,500円 PHASE-Ⅱ 9,000円 PHASE-Ⅲ 8,500円 PHASE-Ⅳ 8,000円 インストラクター6,000円
◆HPアドレス/http：//www.bruceleejkd.com/
◆お問い合わせ/日本JUNFANクラブ大阪本部 ☎090-8539-8293

ボディブラントプレゼンツ "鉄拳 NIGHT"、盛大に開催！

去る3月16日（金）、格闘技のおもちゃ箱ボディブラントの足立HIKARUプロデュースによるクラブイベント、"鉄拳NIGHT"が六本木の名門クラブRiNGで開催された。このイベントは格闘技と音楽の融合をテーマにしており、カポエイラ・パフォーマンス、ジークンドー・ライトスパーリング、極真空手・試し割、ボディビルディング・ポージングと4つのプログラムが行われた。格闘技のパフォーマンスと、音楽が作り出した異空間で、観客達は大いに盛り上がったとのことである。

▲独特な足技が特徴のブラジルの格闘技、カポエイラ。楽器に合わせたパフォーマンスを披露した。

パンクラス謙吾が、池袋でサイン会！

パンクラスの謙吾がイメージキャラクターとなっているファッションブランド『KARMA』。その『KARMA』の初のオフィシャルショップ『K COMPLETE』のオープンを記念して、謙吾が同店でサイン会を行うことになった。謙吾のサインが欲しい人は、池袋に走るべし！

◆日時/4月14日（土） 15:00〜18:00
◆場所/池袋メトロポリタンプラザビル6F『K COMPLETE』
◆対象/『K COMPLETE』で商品購入の方
◆お問い合わせ/『K COMPLETE』☎03-5954-8255

塩田"GOZO"歩が講師を務める、出張パレストラ〜GOZO編〜

パレストラ所属の塩田"GOZO"歩が、ブラジリアン柔術の出張講座を開いている。全8回のセミナーだが、初心者・初級者向けなので、これから始めようとしている人には最適の講座だ。第1回が4月1日から始まっており、これから参加する人は15日の第3回からとなる。興味のある人は早めに申し込もう！

◆日時/4月15日、22日、28日 第6回からは5月以降の予定 13:00〜15:00（細かい日程等はお問い合わせにて）
◆場所/千葉県市川市国府台スポーツセンター（京成線国府台駅より徒歩10分、JR市川駅北口から松戸車庫行きバス和洋女子大学前下車）
◆参加費/1,500円（パレストラ会員は会員証提示で1,000円割引）
◆申込方法/名前、連絡先、格闘技経験の有無等をGOZOまで
◆HPアドレス/http://www.gozo503.com
◆お問い合わせ/パレストラ東京 ☎03-5984-3209

合気道S.A.が、大道塾総本部に新講座＆新稽古場所開設！

合気道S.Aが、国際格闘空手道連盟大道塾の東孝塾長の依頼により、大道塾の総本部に新しい講座と稽古場所を開設することになった。新講座は合気道S.A.特別講座として、大道塾のビジネスマンクラスの中で、隔週で行われる。また、6月からはその総本部道場を稽古場所とする、合気道S.A.池袋を開設するとのこと。これにあわせて稽古生も募集しているので、池袋の近くに住んでいる人はさっそくチャレンジしてみよう！

◆開始日/特別講座は3月24日（土）よりすでに開始 合気道S.A.池袋は6月2日（土）
◆場所/大道塾総本部 東京都豊島区南池袋2-32-5 イースタンビル内（JR池袋駅 徒歩7分）
◆稽古時間/〈特別講座〉第2、第4土曜日 ビジネスマンクラス 16:30〜18:30 〈合気道S.A.池袋〉毎週土曜日 19:30〜20:45
◆お問い合わせ/合気道S.A.代表師範 櫻井文夫 ☎0426-51-8418 090-3807-2205

正道会館で空手の無料体験コースを実施 指導には全日本チャンピオンの子安慎悟が！

正道会館が5月7日（月）に新設する空手教室セントラルスイムクラブ浦安で、空手の無料体験コースを実施する。そしてその指導にはナント、正道空手の全日本チャンピオンである子安慎悟があたることになったぞ！ 5才から学生、成人、女性、誰でも参加可能なので、日頃の運動不足で悩んでいる人や、せっかくのゴールデンウィークに暇を持て余している人はこの機会を逃さず参加すべし。チャンピオン子安の指導を受けられるチャンスはなかなかないぞ。これを機に浦安教室への入門も考えてみては？

◆日時/4月28日（土） 【少年コース】（5才〜12才）16:30〜17:30 【一般コース】（13才〜）18:30〜19:30
◆場所/セントラルスイムクラブ浦安 千葉県浦安市北栄4-20-26（東西線浦安駅より徒歩10分）
◆お問い合わせ/正道会館東京本部 ☎03-5285-1966

「禅道会第32期中部地区交流試合」結果

3月11日（日）、飯田市武道館で総合格闘技空手道禅道会の「第32期中部地区交流試合」が行われた。結果は以下のとおりとなった。

◆青年4級以上の部／優勝：下平慎志［松本支部信大道場］
準優勝：久保輝彦［長野県本部］
◆青年5級以下の部／優勝：白幡陽一［松本支部］
準優勝：加藤修一［長野支部］
◆女子の部／優勝：伊藤真子［諏訪支部］
準優勝：片桐美紀［飯田レディース道場］
◆マスターズクラブ／優勝：木村則重［秀明館総本部］
準優勝：奥山繁一［秀明館総本部］
◆特別賞／優勝：金子真理［長野県本部］（女子ワンマッチ）尾上佳子［松本支部伊那信大道場］（女子ワンマッチ）

▲スーパーセーフを着用して、激しい闘いを繰り広げる禅道会の選手達

バトラーツがアマチュアの総合格闘技の大会「STARTING-B（仮）」を開催！

バトラーツが5月4日にTOKYO FMホールで、アマチュアの総合格闘技大会『STARTING-B（仮）』を開催、そしてその大会への参加選手を募集している。バトラーツとしてはこの大会を、総合格闘技の登竜門的な大会にしたいと考えており、アレクサンダー大塚や慧舟會の西良典などの有名格闘家たちが、協力している。腕試しにはもってこいの大会になりそうだ。

◆日時/5月4日（金・祝） 11:00開始
◆場所/TOKYO FMホール
◆大会参加費/3000円
◆観戦料/自由席2,000円
◆資格/18歳以上の健康なアマチュア選手
◆階級/65キロ未満級 65キロ以上〜70キロ未満級 70キロ以上級〜75キロ未満級 75キロ以上〜80キロ未満級 80キロ以上級〜85キロ未満級 85キロ以上〜90キロ未満級 無差別級
◆応募方法/事務所に電話で申し込みをし、100円切手同封の上郵送。改めて、バトラーツより参加申込書を郵送。
◆応募締め切り/4月22日（日）まで
◆あて先/〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43 バトラーツ『STARTING-B』まで
◆お問い合わせ/バトラーツ ☎0489-63-0005

格闘技オフィシャルホームページ

K-1 http://www.k-1.co.jp/
UFO http://www.ufojp.co.jp/
極真会館（松井派） http://www.kyokushin.co.jp/
リングス http://www.rings.co.jp/
アントニオ猪木 http://www.antonio-inoki.com/
大道塾 http://www.daidojuku.com/
パンクラス http://www.so-net.ne.jp/pancrase/
UFC http://www.seg.com/ufc/
格闘探偵団バトラーツ http://www.ops.dti.ne.jp/~batbat/
シュートボクシング http://www.shootboxing.org/
日本武道伝骨法會 http://www9.big.or.jp/~koppo/
修斗 http://www.alles.or.jp/~shooto/index.html
新日本キックボクシング協会 http://www1.neweb.ne.jp/wa/kick/
全日本キックボクシング連盟 http://www.aj-kick.co.jp/
J-NETWORK http://www.kickboxing.co.jp/
PRIDE http://www.jside.com/pride/
高田道場 http://www.takada-dojo.com/
http://www.takada-dojo.com/i/（iモード用）
聖拳道 http://www.seiken-do.com/
全日本新空手道連盟 http://www.shinkarate.net/

牡羊座 3/21～4/20

全体運 運気アップ！ 持ち前のチャレンジ精神を存分に発揮できるとき。新年度になったことだし、新しい風を巻き起こそう。突破できなかった目標も今ならリベンジのチャンス！ 恋愛はオシが強くなっているとき。ターゲットに向かってオシまくろう！ 今年の新入生を狙ってみては？ カップルは恋人以外の人とハプニングの予感。

勝負運 目の前にある勝負はチャレンジする価値あり。

健康運 一瞬のスキがケガにつながるとき。慎重に。

金運 試合や懸賞でちょっとしたラッキーの暗示。

ラッキーアイテム：**アクセサリー**

ラッキーカラー：**ラベンダー**

牡牛座 4/21～5/21

全体運 安定しているとき。持ち前の五感を研ぎ澄ますことによって、魅力が輝いて見えるので、あなたをアシストしようとする人が出現する暗示。特に有能なトレーナーとの出会いの期待がありそう。恋愛運では、告白のチャンスあり！ 思いきって飲み会の後や仕事帰りに送り狼になっちゃえば？ ただし、タイミングが重要なポイント。

勝負運 足技が勝負のポイントになるとき。

健康運 ムリな減量は体力ダウンの原因に。

金運 ギャンブル運アップ。totoなどやってみては？

ラッキーアイテム：**パンツ**

ラッキーカラー：**ライトブルー**

双子座 5/22～6/21

全体運 春の穏やかなシーズンはあなたに味方。運気が絶好調なので、何にでもチャレンジしてみては？ 試合の話や昇段審査はやるだけやってみよう。また、海外運があるので、出張予定がある人は、大きな海外取引がキマったりしそう。恋愛は、未知へのアプローチがグッド。出会い系のサイトや合コンなど、初めての出会いがラッキー。

勝負運 モバイルグッズを駆使しての情報がキメ手に。

健康運 風邪と花粉症のハイブリッドで大変。

金運 ＩＴ関連で、金運アップの情報がありそう。

ラッキーアイテム：**モバイルグッズ**

ラッキーカラー：**エメラルドグリーン**

蟹座 6/22～7/23

全体運 春なので、体を動かして初めてのカテゴリーにもどんどんチャレンジしよう。空手をしていたなら、テコンドーや関節系を始めてみたり、体の統率を考えていくとグッド。イヤなことや不慣れなこともあるけども、結果的に良いほうに導かれる暗示。恋愛は、頭を使って恋のゲームを仕掛けてみよう。あの人の気になる存在になれるかも。

勝負運 パートナー次第で勝運が分かれるとき。

健康運 痛めた部分のケアをしていくことは大切。

金運 デフレや貯蓄の研究をしていくとグッド。

ラッキーアイテム：**スポーツグッズ**

ラッキーカラー：**ベージュ**

魚座 2/20～3/20

全体運 家庭や対人関係でのトラブルに要注意。なるべく波風を立てないように心掛けて。ちょっと早めに帰宅したり、ご機嫌をとる言葉を言ってあげたりすることは大切。あなたの態度次第で、環境は大きく変わるハズ。恋愛では、恋の病にかかりそう。恋人のことが気になって、上の空になったり、フリーの人は片思いで思い詰めることも。

勝負運 アドレナリンの有効活用が勝敗のキメ手。

健康運 顎関節症など顎あたりのチェックをしてみて。

金運 ネットでプレゼント情報が。応募してみては？

ラッキーアイテム：**システム手帳**

ラッキーカラー：**スカイブルー**

宇月田麻裕
mahiro utsukita

プロフィール ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、タロットを始め、西洋、東洋の占いをオールマイティに使う。現在、TBS「ワンダフル」月曜レギュラー出演を始め、雑誌、映像などで活躍中。URL http://www.happiness-f.com/

獅子座 7/24～8/23

全体運 運気はうなぎ登り。有言実行をするように自分に仕向けよう。親しい人に夢や目標を話していくとグッド。そうすると自然に周囲の人がアシストしてくれそう。あとは、あなたの努力次第で、夢の実現に一歩近づけるハズ。恋愛は、風格を漂わせると、あなたに相談を持ちかけて来る人がいるかも。その時がカップリングのチャンス。

勝負運 気負いすぎるとマイナスになることも。

健康運 ちょっと過労気味。体を癒すことも大切。

金運 時計や財布はその辺に置かないで。盗難に注意！

ラッキーアイテム：**プランニング**

ラッキーカラー：**ライトピンク**

水瓶座 1/21～2/19

全体運 一気に運気が躍進する暗示。レジャー運がアップしていて、日頃から鍛えてある体を自慢できそう。仲間とアウトドアに繰り出してみて！ 重い荷物を持ってあげたり、裸になって割れた腹筋を披露できたりしそう。恋愛では、そんな肉体派のあなたに好感を抱く人が現れそう。カップルは、春の太陽の下で爽やかデートがオススメ。

勝負運 体調のキープが試合に大きな影響を。

健康運 自分よりも家族や周囲の人などがダウンしそう。

金運 投資にツキあり。デフレをうまく利用して。

ラッキーアイテム：**アウトドアグッズ**

ラッキーカラー：**オレンジ**

乙女座 8/24～9/23

全体運 幸運の女神が微笑むとき。公式試合や仕事のプレゼンなど、外部との接点が増え、人に認められやすいとき。うまくいったら、ヘッドハンティングの可能性も。恋愛はリベンジ運あり。別れた人やふられた人に、再度接近してみて反応を確かめてみよう。脈アリなら、アプローチを仕掛けて。カップルは怪しい世界にハマりそう。

勝負運 ここぞ！ というときの勝負強さを身に付けて。

健康運 段差などでコケやすいとき。足下に要注意。

金運 ゴチ運あり。先輩や上司がゴチしてくれそう。

ラッキーアイテム：**タオル**

ラッキーカラー：**モノトーンカラー**

山羊座 12/23～1/20

全体運 ビッグチャンスに恵まれるとき。パワー全開でイケるので、気になっていたことや大きな賭けを実行してみるとグッド。結果はどうあれ、悔いを残すことはなくなりそう。試合は、グリコーゲンローリングやインターバルがキメ手になるとき。恋愛は海外に要注意。フリーセックスになり、後から浮気や病気が発覚して大変なことに。

勝負運 一点集中がうまくいくとき。幅広くはＮＧ。

健康運 エッチにハマってても体力温存は怠らずに。

金運 臨時収入や昇給のチャンスは見逃さないで。

ラッキーアイテム：**ＣＤ**

ラッキーカラー：**クリーム**

射手座 11/23～12/22

全体運 エネルギーが循環してくるとき。さらに、格闘漫画、特に昔夢中になったヒーローモノを読み返してみると、パワーは倍増。怖いモノがなくなってしまうくらい。吸収力があるときなので、スキルもぐ～んとアップが望めるハズ。恋愛は、GWに向けて、結婚話や同棲話が浮上するカップルが。フリーは熱烈なアプローチを試みては？

勝負運 起きた出来事を分析すると勝運アップの鍵が。

健康運 スポーツや格闘技で良い汗を流し、健康キープ。

金運 ディスカウントショップを活用するとグッド。

ラッキーアイテム：**ヘアケアグッズ**

ラッキーカラー：**レッド**

蠍座 10/24～11/22

全体運 吉凶混合の運気。ラッキーだったり、アンラッキーだったり、ハプニングが起きたり、次々と忙しくなりそう。でも、それは運気が活性化されている証拠。上手にクリアしていけたら、運気はだんだんとアップしていくハズ！ 恋愛は、心の中に葛藤が起きるとき。仕事か恋愛か、試合か恋人か…。そんなときは、ハートに素直に従うとグッド。

勝負運 西の方角から東の方角に攻めるとグッド。

健康運 性病のチェックを。生殖器関係の病気に注意。

金運 デフレの研究をして資産キープを心がけて。

ラッキーアイテム：**フィギュア**

ラッキーカラー：**サーモンピンク**

天秤座 9/24～10/23

全体運 出会いが多いとき。「これだ！」と直感したら、仲良くなっておいたり、チャレンジしていくとグッド。あなたのキャパが広がると共に、スキルアップも間違いなし。恋愛でも同様、一目惚れのような電流があなたの中に走りそう。出会いのスポットにはどんどん参加してみよう。カップルは、スリリングなデートを楽しめそう。

勝負運 出会いが勝負強さにも関連してくるとき。

健康運 居眠り運転は絶対にダメ。眠いときは休憩を。

金運 ネットオークションを探すとラッキーあり。

ラッキーアイテム：**ジャケット**

ラッキーカラー：**イエローグリーン**

鉄砲撃コラム 連載第44回

安田の勝利が証明した、全ての格闘家が相撲を学ぶ時代の到来！

読者の方々からはすっかりひんしゅくを買っているが、私は相撲出身の記者である。例え、世間様から座布団を投げつけられようとも、格闘技雑誌の読者たちにも相撲の凄さを頭に植え付けなければならない宿命がある。

そんな相撲の凄さをまざまざと見せつけてくれた、出来事があった。安田忠夫の「プライド」デビュー戦での初勝利である。

3月25日、大相撲大阪場所が千秋楽を迎えた日、安田は「プライド」という別の土俵で、大一番を迎えていた。佐竹雅昭との一番である。

バーリ・トゥードは相撲の一部であると散々言っていたが、今は相撲取りが「プライド」などに出場し、その実力を示さなくてはいけないという、なんともやっかいな世の中になってしまった。そんな中には正直言って不安もあった。今までのバーリ・トゥードに出てきた力士たちの敗北が、頭のどこかにあったからである。

しかし、こんなやっかいな状況をたった一度の勝利で、ひっくり返してしまったのが安田だった。

借金、離婚という人生の重荷を背負い込んだ彼が頼れるのは、若い時分に五体に叩き込まれた相撲だった。例え、髷を切り落としても、まわしを締めなくても、彼の体の中に眠っている相撲の遺伝子は、闘いという舞台に引きずり出された時、自然と覚醒してしまうのだ。

安田は借金のために角界から離れざるを得なかった。心ならずも中途で挫折してしまったのである。それが逆に彼の中に眠っていた相撲を呼び起こしてしまったのではないだろうか？ 身体が相撲をしたくて、したくてたまらなかった。うかつな安田に相撲を隠そうとしても、隠しきれるわけがないのだ。

その結果が佐竹戦での勝利だ。これは紛れもなく、相撲での勝利だと断言していい！

安田の闘いぶりは相撲に徹していた。とにかく前へ出るのみ。この前に出るという動作は相撲の基本中の基本である。これによって勝利をもぎとったのだから、文句なしの勝利である。

本人は相撲を代表して出たなどと思ってはいないだろう。しかし、彼以外の相撲出身の選手で、ここまで相撲に徹していられた選手がいただろうか。

かつて、バーリ・トゥードに出場した力士は一様に前に突進し、打撃の前に敗れるという失態を演じてきた。ところが、安田はその突進力で打撃をかいくぐり、組み技に持ち込むことに成功した。

あれこそ、力士のバーリ・トゥードにおける勝利を掴むための必殺パターンと言ってもいい。安田はあそこで膠着してしまったために大ブーイングを浴びてしまったが、膠着大いに結構である。だいたい、あれはロープやコーナーポストがあるのが悪い。

とにもかくにも、安田が素晴らしい熱闘の末に勝利したことによって、私は久しぶりに至福の瞬間を味わうことができた。

ところで、今回から「プライド」はルールが変わり、グラウンドにおける4点ポジションでの打撃が認められるようになった。これが適用されて、すぐさま犠牲になってしまったのが、桜庭とヘンゾ・グレイシーである。彼らの低空のタックルはことごとく潰されてしまい、その相手の打撃の餌食になってしまったのだ。

この状況を見て、やっとある一つの結論に達した。

やっぱり相撲は正しかったのだと。

今までのバーリ・トゥードでは、タックルのできる選手が有利だと言われていた。相撲の場合、レスリングのようなタックルはない。低空でいけば、はたき込まれてしまうからである。

最近、大相撲では大関クラスの力士がよく立ち合いで、はたき込みをして批判の的になっている。観客論でいえば、それは正しいのだが、勝負論でいえば、何が悪いのだということになる。

そのはたき込みの技術が、ルールの改正された「プライド」で役に立ってくるとは皮肉な話である。

力士たちは、はたき込まれるのが嫌だったら、立ち合いを必要以上に低くしてはいけない。これは当然、4点ポジションでの打撃を食わないことに通じる。逆の場合もしかりだ。はたくという技術は、相手の低いタックルをかわす技術といっていいだろう。

つまりは、相撲をすることによって、現在の「プライド」の新ルールに対して、簡単に対応できるということである。それを実戦で証明してみせたのが、安田の闘い方だったのだ。

安田のように巨体では当然低空のタックルができない。しかも相手は打撃のエキスパート佐竹である。だからああいった、相撲流のぶちかましで、相手をコーナーに詰めるという戦法になる。あれなら、決定的なダメージを食うこともないのだ。

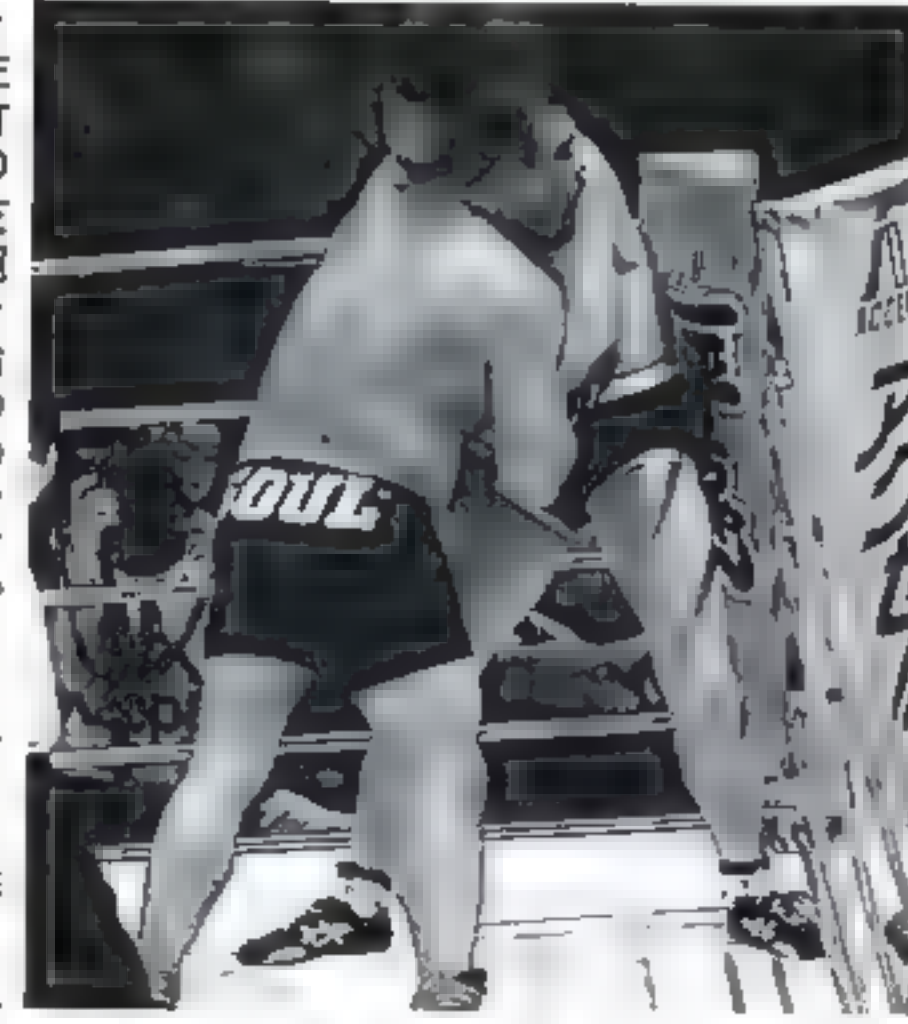
今まで、北尾や大刀光に代表されるプロ出身の元力士も、ヤーブロウのようなアマチュアの力士も、みんな揃いも揃って、今回の安田のような闘い方ができなかった。それはもう、はっきり言って驕りとしか言いようがない。

だが、これからは違う。安田が力士のバーリ・トゥードにおける必勝法を確立してしまったからである。

よく、プロレスや格闘技の会場で、髷を付けた力士が観戦しているのを見かけることがある。彼らはただ観戦しているだけと言いつつも、腹の中では「相撲は通用するのか」不安だったかもしれない。しかし、これの逆転現象が起きるのもそう遠くはないはずだ。

K—1や「プライド」に出場している選手が、砂かぶりで観戦する。そして、全ての格闘家が相撲から学ぶ時代が遂にやって来たのだ。

今回の安田の勝利は瞬く間に、相撲の天下を証明した。やはり、バーリ・トゥードは相撲の一部であったのだと確信した次第である。

（小松）

▶佐竹の左腕をおっつけて、コーナーに押し込む安田。これこそ新しいバーリ・トゥードのセオリーとなる戦法だ

このページが読者コーナーだとは、うっかり忘れてました。

クンフー・マクダニエル

編酋長◎井上きびだんご

VOL.29

燃える闘魂

TROPICAL
DANDY

ワンフー・マクダニエル

『ジェットコースターロマンス』

東京都北区・杉田八郎・49歳

「ピ〜ヒャラ、ピ〜ヒャラ踊る審判部長〜」

といった替え歌を先日、社内で発表したところ部下に大受け、上司に大受け。

翌日、家には生卵が投げ込まれ、妻はノイローゼに。娘のケータイにはチェーンメールが。私のヅラがブロンドになっていました。

ヴァンダレイ・シウバの攻略法を考える毎日なので、不眠症になってしまいました。ユニバーサル・プロレスリングに相談したところ、グラン浜田さんを紹介されました。でも、本当にそれで治るのかなぁ。

北尾のオネショは治るのかなぁ。

娘はいつも私に反抗してきます。まるでコンドル斉藤です。なにか俺が悪いことしたか。俺はただの全日のテスト生だよ。トップロープからのダイビング・エルボードロップがしたいだけだYO。世界タッグが欲しいYO。三冠チャンプになりたいYO。明日は、石川で試合だYO。ドス恋。

相模原チグモン3歳

『髙田にサクの仇を討ってもらいたい計画』

東京都北区・アゴ三郎・32歳

「プライド13」の会場で、サクの負けに対して「レフェリーストップが早すぎる!」とかブーイングたれてたおバカども! 何言ってんの、あんたら? それ言っちゃったら、あんたらホイラーやヒクソンの難癖ブラザーズと同類になっちゃうよ。

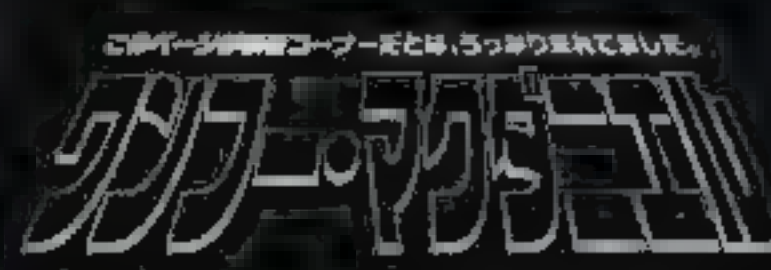
だけどボクだって、サクの敗戦は大ショックで認めたくないあまりに、あんたらと同じような気持ちになっちゃったよ。そしてその時はじめてヒクソンサイドの気持ちが良く理解できたよ。

もし一人の人間が無敗伝説を築こうとするならば、どんなちっぽけなルールにだっていちいちイチャモンをつけ、少しでも自分の有利なルールに仕立て上げておいて試合するしかないってことだ。でもこれは真の「最強」じゃないや。たしかに「なんでシウバと闘う前にルールなんか変えたんだよ!」と、グレイシーばりに文句をつけたくなったけど、サクにはヒクソンみたいなことをしてまで、ああいう人為的な最強になってほしくない。

「プライド」って昔から結構ルールが変わってきたじゃん? それを甘んじて受けてれば自分が有利な時もあれば不利な時も出てくるって。ていうか、「勝負は時の運」で、負ける時があって当たり前じゃん。だって、昔サクはゴエスと闘って引き分けたけどさあ、あれだって「判定決着ルール」だったら、負けてたでしょ? きっと。

ボクが言いたいのは、とどのつまり、サクが今回負けたからって、ちっとも地位や名誉に傷がつくことはないってこと。K—1のアーツは何回も負けてたって、やっぱりトータル的に見たら誰もが認める「20世紀最強のキックボクサー」だったわけじゃん? こういう形こそ真の最強じゃん。自分が最初から勝てるように仕組まれたルールでしか闘わないような絵空事の最強であるヒクソンは、やっぱ人工的っていうか不自然だよ。「プライド」(におけるサク)も、K—1のように勝ったり負けたりするのが、むしろ正常な状態なんだよ。

サクも「不敗神話」などと祭り上げられる寸前に、負けてくれてむしろタイムリーだったと思うよ。やっぱ、最近のサクは少なからず色々背負いすぎちゃってたよ。今回もファンサービスの試合展開がアダとなったわけだし。自然体が売りのサクが結構不自然になってきてたもん。これでまた自然なままの戦闘モードに戻れるでしょ。だけどやっぱサクの無惨な負け方はショックだわ。もう生きる支えを失った感じで立ち直れなかった…。

でもひとつの考えが閃いたら、さらに希望がわいてきてワクワクしてきた。サクは、師である髙田の仇を討つことでビッグになっていった。プロレス界の救世主としてさ。今度は弟子であるサクの仇を師の髙田が討つ番じゃないの!? どうですか皆さん! ぜひ「プライド14」で髙田に仇討ちをしてもらうようにDSEに嘆願書を出しましょう!! 髙田の「プライド」ラストファイトが弟子の仇討ち&恩返しなんて、これ以上のロマン、これ以上の花道はないじゃん。これ以上の「闘う理由」ってないじゃん。やっぱ日本人は浪花節が一番だ。髙田さん! 忘れ物が何なのか知らないけど、試合は「ナマモノ」だからさあ、そん時の一番の必然性でぜひともリングに立ってください。ボクは髙田さんが大好きだ! でも負けちゃったら次には藤田がいるさ…。日本人がまず一番にシウバをボコボコにしないと気が済まないけど、まあボブチャンチンだってヒーリングだってゴエスだっているしさ。■

埼玉県坂戸市・中川雅博・23歳

東京都世田谷区・シンペイ・?歳

■作品募集

『ワンフー・マクダニエル』では、読者の皆様からのロマンチックな作品をお待ちしています。簡単なお便りは、『たつ万』の応募ハガキに書いてくれてもかまいません。

あて先は、
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12
神田NSビル8F
SRS・DX編集部
『ワンフー・マクダニエル』係

※なお、作品は一切返却しません。

久保勇人師範・本誌初登場！

撮影◎山口比佐夫

過激な実戦拳法 太気拳の強さに迫る！

—しかし、久保先生は身体デカイですねぇ、いわゆる中国拳法をやってる人の体型じゃないですよね（笑）。

久保 自分の兄弟子の中には自分よりもデカイ人がいましたからね、もう時代が違いますからね。

—頭も坊主だし、いい柄のシャツを着てらっしゃいますし、ヤクザかと思いました（笑）。

久保 これは中国で買ってきたんですよ。ベルサーチのニセモノです（笑）。ただ、中国ではこれはヤクザには見えないんですよ。流行の先端なんですよ（笑）。

—そうだったんですか（笑）。ちなみにパンツのブランドは……Y・S。ん？ ヤクルト・スワローズですか？？？

久保 ワハハハ！ Y・S・R！ イヴ・サン・ローランですよ、あなた！ これもニセモノだけど（笑）。

—あ！ホントだ。恥ずかしいな、オレ（笑）。でですね、今日は強さに関して伝説的に評判が高い太気拳についていろいろお聞きしたいんですが、太気拳というと極真空手と縁があるじゃないですか。

久保 私自身も大学受験前までは極真をやってましたからね。

—澤井先生（太気拳・宗師）自身も大山道場によく出入りしてましたしね。

久保 昔、大山先生と澤井先生は近所に住んでたんです。お互いに練習相手になったり、家族付き合いしてたんですよ。

—そうだったんですか。太気拳と極真のつながりだと数見選手が立禅とか這とかを取り入れてますが、かつては何度か交流会みたいこともしてたんですよね。

久保 全部で3回やってるんですけど、私はみんな出てますよ。今の松井館長や緑健児さん、八巻建弐さんとか、のちの世界チャンピオンになる方々が出てましたよね。一回につき、だいたい1時間か、2時間ぐらいやりましたね。

—ボクの見たものは10秒ぐらいのものだったんですけど。

久保 ノーカット版を見たほうがいいですね。それを見たらお互いにいい技術交流をしたことが分かります。ただ、澤井先生にしたら歯がゆかったと思いますよ。シャモの喧嘩みたいになってましたから。

—シャモの喧嘩（笑）。

久保 組手の稽古でしたから熱くなったりした場面もあったのは確かですね。お互いにいい勉強になりましたよ、本当に。

—それはいくつぐらいの時でした？

久保 たしか、20歳ぐらいの時ですね。

—ということは太気拳を始めて2年ぐらいですよね。その交流会で久保先生は極真の技術を使いました？

久保 いや、私は極真では1級でしたから。極真の技術でやったら緑さんたちにはひとたまりもないでしょう（笑）。

—ということは太気の技術で。

久保 もちろんです。習ってから半年ぐらいで身体が変わりましたからね。当時澤井先生は明治神宮で教えてましたが、私はいつも血まみれになってましたから。先生は私が組手でやられるのを喜んでましたから（笑）。

—そういう人だったんですか（笑）。

久保 「何やってんだ、バカ野郎」って言いながら喜んでましたから（笑）。

—学校とかは行けたんですか（笑）。

久保 行けませんよ。練習の後は一時的に健忘症になったりしましたから。自分で言ったことを覚えてなかったりしてましたからね（笑）。

—凄まじかったんですね。なんか一般の人が拳法をイメージするとゆったりした動きを想像すると思うんですよ。

久保 鋭利ですよ。山岡鉄舟先生とか宮本武蔵にしても禅を組んだりするわけじゃないですか。私から言わせれば静かな中からしか鋭利なものは生まれないんですよ。だから、我々は走ったりとか、鍛えたりしません。

松井館長、緑さんたちとも闘ってました

——それってしなくていいんですか？

久保　だって、必要ないじゃないですか。私は否定します、それを。

——ウェイトとかもですか。

久保　やりません、そんなことは本質的なものではないですね。いらない作業で、なんの意味もないですね。

——なんの意味もない！　言い切りますね（笑）。例えば立禅とかを乱暴に言っちゃうと補強運動の延長だと思ってたんですが。

久保　いや、内面を追究するものです。物を持ち上げたら強いとか、走るのが速ければ強いというのは西洋化の思想ですよね。我々が向かったのは自分の中だったんです。この拳法の歴史というのはともすれば1500年といわれますよね。その時代の中国は三国志の時代ですけど、当時の日本はまだ邪馬台国とかの時代でしょ。彼ら中国人はそれ以前から文化を築き、どうしたら人間が強くなるかを追究してきたんですよ。だから、物を持ち上げるとか走るとかいうものは既に通り過ぎてるわけですよ、我々の武術は。

▲左が太気拳の創始者・澤井健一。大山倍達とも交流があった伝説の武道家だ

——ワクワクしますね、そんな話を聞いてると。まさに中国拳法のあるべき姿ですよ、それは！（笑）。

久保　本当の一撃とは何かを突き詰めた結果が気を静めるということですよ。

　ただ、それって言葉じゃ分かりにくいですよね。とかく人間はウェイトとか目に映るものに飛びつくじゃないですか。なんで久保先生はそんな分かりにくいものを選んだんですか。

久保　それはセンスですね。センス以外には言いようがないですね。だから、先生は「学生時代は太気拳だけを信じて辛抱しろ」と言われてましたね。「そうしたらいつか花が咲くから」と。そんなこと言ったって私は毎週、明治神宮で血だらけになってましたからね。花が咲くどころか、毎週鼻血ばかりですよ（笑）。

——うまいですね（笑）。

久保　なんでも有りですから。相手によっては拳骨で顔面を殴ってきますからね、カッとなったりすると。そこで生き残った人間を先生は好んだんですね。

——何人ぐらいいたんですか？

久保　最盛期は50人ぐらいいましたけど、先生の晩年は5人とか、ひどい時には2人とかって時はありましたから。

——じゃあ、50人でボコボコに殴り合ってる時もあったんですね、明治神宮で（笑）。

久保　2時間ぐらいやってましたね。先生がやめって言うまで。脳しんとうを起こしたり、便所でゲロ吐いてるヤツもいましたね。血だらけですよ、当時の神宮のトイレは（笑）。

▲極真史上に残る伝説の外人選手カレンバッハは、澤井健一の強さに感動して入門。のちにオランダで「心武拳」という道場を設立

——神社を血に染めてたわけですね（笑）。

久保　神域でねぇ（笑）。

——悪いですねぇ（笑）。ともかく練習になったら武闘派だったというところで口先だけじゃないものを、本物を感じたんでしょうね。

久保　そうでしょう。また、先生も年老いてらしたので早く本質を伝えたかったんでしょう。そしたら組手しかないですからね。ただ、私が教える時には絶対にそんなことはないですよ（笑）。あとは先生の組手好きの性格。じゃなきゃ、カレンバッハと60歳過ぎて闘ったりしないでしょ（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。カレンバッハって極真史上の中でも伝説的に強かったということで有名ですからね。

久保　だけど、60歳過ぎた澤井先生がカレンバッハを倒しましたから、見事にね。

——あの、それはホントなんですか？

久保　カレンバッハから聞きましたから、澤井先生には勝てなかったって。それを奇跡ととるか、嘘ととるかですよ。だって、カレンバッハが勝てるわけないですよ、澤井先生に。

——勝てるわけがないんですか？

久保　勝てませんよ。だって、その時はそういう稽古をしてないんですから。勝つための本当の稽古を。

——それはカレンバッハが60歳の先生に対して、気を遣ったというか。

久保　それはないです。私はヨーロッパで直接、彼に聞きましたから。それに彼が遠慮なんかするわけないし。

——そういう男なんですか。

久保　そういう男です。だって、強さだけを求めて日本にやって来たんですから、遠慮する意味がないじゃないですか。

——確かにそうですけど、にわかには信じられない感じがあるんですよね。ただ、カレンバッハはオランダで太気拳の道場を開いてるわけですからね。

久保　だから嘘ととるか、奇跡ととるかですよ。

——久保先生もカレンバッハの道場に行ったんですよね。

久保　最初は私のことを五段錬士だって信用しなかったですね。日本語で「あなたはホントに錬士ですか」って聞かれましたから（笑）。それで彼の弟子たちを全員倒したら目の色が変わりましたね。「ミスター・クボ、カモン！　フリーファイト！」って言われて。で、前に立ったら驚きました、その迫力に。ただ、こっちは動きが速いから一発バンって入っ

PROFILE

久保勇人（くぼ・いさと）

1963年生まれ。19歳で太気拳に入門し、宗師＝澤井健一先生の薫陶を受ける。修練の後、門下生最年少で免状（錬士五段）を許可され、23歳で渡欧。兄弟子ヤン・カレンバッハ氏のもとで実戦組手を中心に修行に励む。89年から度々訪中し、意拳継承者＝姚承光、姚承栄両氏のもとで意拳（大成拳）の神髄を学ぶ。98年太気拳発展のために日本太気拳協会を設立し、太気拳の指導と普及にあたっている。

内面を鍛える静の文化が太気流です

たんですよ。だけどその後組み付いちゃったんですね。太気拳やってたら、普通の柔道家に投げられることなんてありえないんですけど、向こうは太気をやってるから足払いで倒されて、顔面に正拳を入れられて完敗ですよ。

──寸止めしてくれないんですね（笑）。

久保　だから、カレンバッハはそういう人間じゃないんですよ（笑）。もともと柔道五段で、ウィリアム・ルスカの次と言われてたんですから。「アリでも誰でもやってやる」って言ってましたからね（笑）。猪木がローランボックと試合をした時には挑戦しに行ったんですから、「猪木やるか」って。そんな人間に勝てないですよ。こっちの武道歴はたかだか7、8年でしたから。

──だけど、それって悔しいですよね。

久保　悔しいどころか、圧倒されましたからね。絶対に勝てないと思いましたから。澤井先生が雲なら、カレンバッハは巨大な岩という感じでしたね（笑）。

──とりあえず、ぶつかってはいけると（笑）。

久保　ぶつかっていきましたよ（笑）。ただ、彼の組手は妥協しないですからね。とことん追いつめるから。それから何回かやりましたけど、全然でしたね。勝てないです。ネコがライオンに遊ばれてるようなものでしたよ（笑）。

──結局、どのくらい行ってたんですか。

久保　2カ月ぐらいです。

──その後はどうしたんですか。

久保　先生が亡くなったあとは兄弟子たちと練習してたわけですよ。仕事は横浜市の職員をやってましたね。

──公務員だったんですか（笑）。

久保　そう、ガラ悪いけど（笑）。そのあとは中国に行く機会がありまして、大きな転機になるわけですね。太気拳の源流になる意拳の正当派と交流することになるわけです。

──現在、中国修行中ですもんね。どうだったんですか、意拳は。

久保　いやぁ、強いですね。まったく歯が立たなかったですね。だけど、今はもう中国には相手になる人間はいないですよ（笑）。

──で、そこで質問があるんですよ。やっぱりイチ武芸者とすれば強い相手が欲しいですよね。「プライド」とかご覧になったことはありますか。

久保　あります。

──マーク・コールマンとかグレイシー柔術とかとやってみたいと思いませんか。

久保　思いませんね。それは立場が違う。ただ、相手が太気拳なにするものぞと来たら必ず受けます。宿命ですから。

──じゃあ、もし出るとしたらどうします？

久保　それは日頃の成果が出るだけですよ。それが正しければ勝つし、正しくなければ負けるだけですよ。

──例えばタックルが来たらどう対応しますか。

久保　それは身体の中心を掴ませないってことですよ。あとは気がどういう風に変化するかそれは自分でも分からないですよ。相手のタックルのスピードも何も分からないから。だから、身体を練ってる中で自然にどう反応するかだけです。

──タックルする相手と闘ったことはありますか。

久保　それはありますよ、何度も。ヨーロッパで闘ってますよ。ただ、タックルで倒されたら終わりですよ。その前に一撃で倒せるかどうかですから。

──寝技で来る相手には？

久保　柔道とも闘ってます。だから、関節技を取られたらダメですよ。いかに取られないかだから。中心の取り合いなんですよ。虎が獲物を捕るのにどうしますかとは聞かないでしょ。それと同じでどうするかと言われても答えようがない。内面を鍛える静の文化です。それが太気流です。だから、グレイシーが来て太気拳と闘うとなっても私が勝つとはまったく言えないです。時の運ですよね。

──じゃあ、その時になってみないと分からないと。

久保　分からないですね。その人、その時になってみないと。だから、有形無形なんです。だから対応できるんですよ。

──う〜ん、凄い伝えにくいですね（笑）。ともかく強いという噂はよく聞くんですよ、太気拳は。だから、「プライド」に出たら面白そうなことは確かですね。

久保　見るほうにとってはそうでしょう（笑）。私も普及するということを考え始めたばかりでまだ答えが出ていない。だから、今はなんとも言えないですね。

──出るのを凄く期待してます（笑）。■

カタブツ君、驚異の拳法を実体験！

相手がタックルに来た場合はそれをさばいて首筋に打撃を入れる。写真的にはまったく絵にならないことはなはだしいが、有形無形の技である太気拳はその場その時に合わせて変化は千変万化。だからこそ、逆に『プライド』での勇姿を見てみたい。また左は、太気拳の力の一端を少しでいいから見せてほしいとお願いしたら、なんだかよく分かんないけど、ぶっ飛ばされてしまったの図。軽くやってくれって言ったのに

もっと太気拳のことを知りたければ、『一撃必倒』を読めっ！

もっと太気拳、意拳のことを知りたければ、気天舎発行の『一撃必倒』を読め。これは、久保先生と意拳継承者の姚承光氏が書いた技術書で、ビデオも発売されている。また、7月には新しい技術書も発売される予定だ！
問い合わせ☎03-5976-0621
（有）気天舎

J-NETWORK
THE CRUSADE―聖戦―
3.23★北沢タウンホール

VSムエタイ5連勝！ この男にシモキタは狭すぎる
増田博正を、このまま終わらせるな！

増田のコメント

「ローでいけるかと思ったんですけどねぇ。蹴ろうとすると体ごと突っ込んでくるんで、蹴りづらかった。ああいう相手はしっかり崩しとかないと、後が続かないですね。倒して終わらなきゃいけない。ラビット戦？　一緒に練習したこともあるんでやりづらいですね。バンタムだし。チャモアペットもやる気マンマンみたいですけど、フェザー級の日本人とやりたいですね。できれば、K-1で前田憲作選手と。小野寺選手ともやりたいんですけど、ムリですかね。急に相手が変わったんで、モチベーションが上がらなかった。こんな試合して言うのもアレですけど、ホンモノとやりたいですよね」

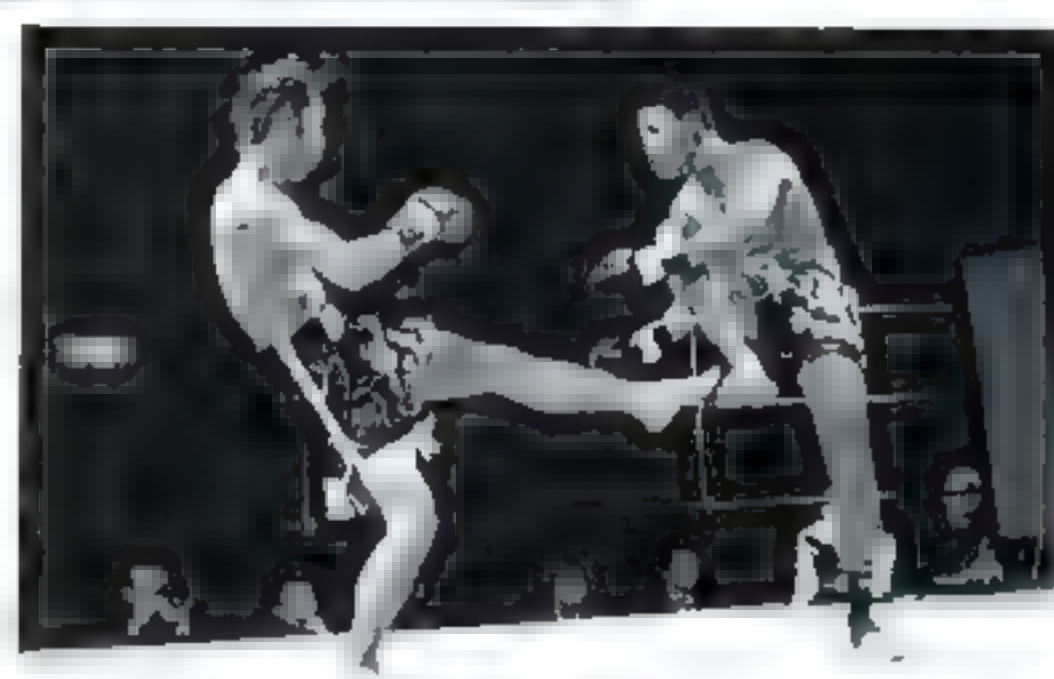
▶ジャッジの採点は文句なしに増田を支持したものの、「倒して終わらなきゃいけなかった」と増田は納得のいかない表情。試合終了のゴングの後、何度も首を傾げていた

◀今大会のメインに登場したJ-NETのエース・増田博正。かつては全日本キック・フェザー級のタイトルを手にしたこともある実力派だ

★第9試合/メインイベント（3分5R）
○増田博正（5R判定3-0）リティチャイ・パヤナン●
〈ソーチタラダジム〉　〈タイ〉
※採点…49-48、50-46、50-48

▶中盤～後半になると、リティチャイもタイ人らしいしぶとさを発揮してきた。ローのタイミングを外し、増田のボディを狙う。終始押し気味の展開ながら、ヒザを何度ももらううち、増田は攻め手が鈍ってしまった

▶1Rから増田のローが冴える。対戦相手、リティチャイの体を何度も泳がせていた

	増田博正	リティチャイ
モチベーション（闘志・気迫）	6	3
技術・戦略	6	5
KOスピリット	7	2
勝ちっぷり負けっぷり	4	1
全体的な印象・インパクト	6	1
合　計	29	12

「手応えのある選手とやったことがない。自分がどれくらい強いのか、それが知りたい」（増田）

選手層の面でも興行規模の面でも、現在のJ―NETWORKにはインディー団体というイメージがある。ただ、実力的にもインディーなのかと言うと、これがそうじゃない。特にエースの増田博正は、一昨年からタイ人を相手に4連勝中だ（その中にはアラビアン長谷川、グライガンワーンといった"日本人キラー"と言われる選手たちも含まれている）。

この日も、増田はメインでタイからの刺客・リティチャイと対戦した。当初予定されていた相手、ルンピニー10位のニューセーンチャイが欠場となり「モチベーションが下がってしまった」と言う増田だが、それでも文句のない判定勝ちを奪えるのだから立派なものだ。たとえ一線級じゃなくても、タイ人は一様にしたたかでしぶとい。それを考えれば、増田の5連勝はかなりの実績と言える。

にもかかわらず、増田は「自分が強いのか弱いのか、よく分からない。自分がどれくらい強いのか、それが知りたい」と言う。北沢タウンホールという小さな会場でマニア以外には名前を知られていない選手に勝っても、ファンからの注目度や評価も限られたものになってしまう。それが彼には不満であり、不安なのだろう。もっと確かな手応えを欲しているのだ。

増田は前田憲作や小野寺力との対戦を希望している。日本人対決は団体にとってリスクの大きいものだが（まして彼はJ―NETの看板選手だ）、それでもやってみる価値はあると思う。増田のような逸材をこのまま終わらせるのは、あまりにももったいない。（橋本）

SRS·DX Editor's Talk
編集部トーク 裏事情

K—1大阪のチケットが凄い売れ行き

A　4・9新日本の大阪ドーム大会の話題は、ウチでは今号でまったく間に合わないんだけど。
B　たぶん藤田が勝って、IWGPのベルトを巻いて、プロレス界でもステータスを上げてんだろうな。で、4・18ZERO—ONE武道館大会で、小川と三沢が初めてリング上でカラミ合いそう。ZERO—ONEのほうは、また凄く盛り上がるのは間違いない。
C　一方、4月といえば、K—1も大きな大会が二つありますよね。ひとつが4・15K—1ジャパン熊本大会。そして、もうひとつが4・29K—1ワールドGP開幕戦の大阪城ホール大会。これがどっちも日曜のゴールデンタイムで放送するから、K—1は凄いですよ。しかも、熊本はもちろん初上陸だからチケットが売れるのはよく分かるんですけど、今度の大阪大会も凄く売れているらしいんですよ。
A　う〜ん、それはやっぱりバンナ効果だろうな。というのも、K—1はシステムの魅力でこれまで視聴率や観客動員数を伸ばしてきたじゃない。そのシステムの大きな特徴というのが、トーナメント制ということ。バンナがトーナメントは最強を決めるのにふさわしくないシステムだって言ってるけど、逆に何が起こるか分からないし、波乱が起きやすいのがトーナメントのいいところじゃない。途中で誰かがケガをすることもあるし。そういう醍醐味が、特に視聴率なんかを上げてきたんだよね。
C　なるほど、なるほど。
A　でも、逆に言えばワンマッチの大会のほうが、いわゆるアングルが作りやすいし、トーナメントのゲーム性と比べて完全燃焼型の試合が見られる。で、この前のベルナルドVSバンナ戦みたいな凄い試合があると、急にライブでも見たいというファンが増えるわけ。
B　そうそう。しかも、ライブで見に行くファンというのは、どっちが強いかということより、ハプニング性を期待しているでしょ。だから、この前のベルナルドVSバンナ戦のような何かが破壊されちゃうと、次を絶対に期待しちゃうんだよ。
A　そうだね。スキャンダル的な手法で興行に注目を集める方法もあるんだけど、一番強烈なのは何かを破壊することなんだよ。その意味でベルナルドVSバンナみたいなノーコンテストになったり、「プライド」で桜庭が負けちゃうような興行のあとは絶対に入るという法則がある。だから、俺なんか次は石井館長に頼んで、バンナVSジェラルド・ゴルドー戦をやって、もっとK—1をブチ壊すような興行が見たい（笑）。
B　スキャンダル的に言えば、いきなり塚本徳臣VSバンナ戦をやるとかね（笑）。そういうんだったら、絶対に見に行くでしょう。
A　でもまぁ、それは極端な例として、やっぱりそういう意味で気になるのが4・15の武蔵と4・29のバンナだよな。武蔵というのは、ああやって大事なところで負けること自体が、本当は大きなアングルになってるはずなんだよ。でも、それがK—1という土壌では生かされていない。俺は断然、熊本の武蔵は面白いと思うけどなぁ。
C　そうですね。もしかしたらまたみっともなく負けちゃう可能性もあるんだけど、武蔵というのはいつかそれをひっくり返すだけの技量は持っている選手ですからね。そうじゃなかったら、誰も武蔵のこと叩いたりもしないですし。
B　うん。それで大阪のほうはやっぱりバンナだよ。出場するのは間違いないんだけど、ケガが治っていないのでトーナメントに出るのかワンマッチに出るのか分からない。でね、そのトーナメントのほうには、今や絶好調のレイ・セフォーが出るというんだ。
A　セフォーとバンナも因縁があるよなぁ。なんと言っても、バンナがあれほど打たれ弱くなってしまったのは、いまだにセフォーのブーメランフックでKOされた後遺症があるからだという声もあるくらいだからね。とにかく、今はバンナ劇場から目が離せないよ。■

▶K—1の中では珍しく批判をあび続けている武蔵。だからこそ、今度の熊本は面白い—

◎遂に我が社にプロレス・格闘技ショップができた。4月1日、午前11時「グレート・アントニオ」オープン！　プロデュースを手掛けた井上きびだんごが、まるでハイアン戦に臨む石澤のように緊張している中、朝から30人くらいの人が並んでくれた。その開店日に来てくれたお客は200人以上。本当に感謝感激である。格闘家の人たちも、本当に気軽に寄ってくれるし。自分たちのお店ができるというのは、こんなにも嬉しいものなのかと、私は久々に興奮した。たぶん、スタッフ全員がそんな気持ちだったと思う。特に我々の職種から考えると、店を持つという発想も経験もない。「いらっしゃいませ！」と言ったのは、学生時代のバイト以来のことである。いや、以前務めていた出版社でサラリーマンをやっていた頃は、とても店を持つという発想すら起こらなかった。その意味で、発案者の井上きびだんご君には感謝したい。店の前を歩いている一般の人たちは、必ず「グレート・アントニオ」の看板の前で足を止めて「オッー　アントニオ猪木の店ができたのか」と間違えて驚いている。50代くらいのオジサンが「これ、○○君に教えると喜ぶだろうな」と目を細めているのだ。しかも、そのあとに「ここだ、ここだ」と言って、本当に若い部下を連れて来てくれたりするから嬉しい。「グレート・アントニオ」の売りは、この店でしか買えないオリジナル商品がたくさんあることだ。ぜひ、読者の方も一度寄ってほしい。スタッフの間では、早くもロスに2号店を作ろうと燃えている—
（谷川）

SRS·DX

次号の発売日は4月26日(木)です。

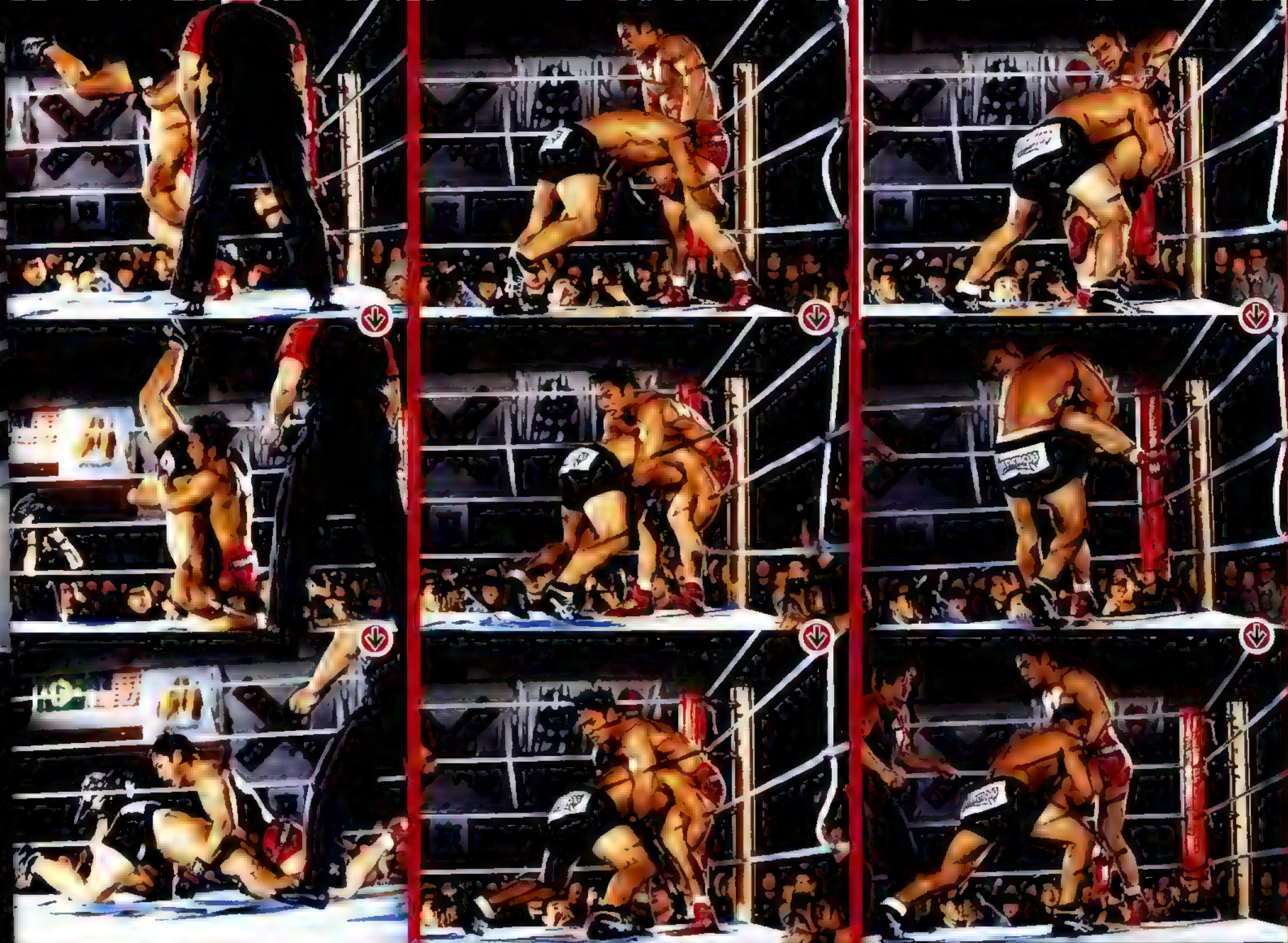
発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之　編集長：谷川貞治

DESIGNER：梅村あゆみ、小幡浩史、水町由美子、su·plex、岩村唯是、永吉速水、溝口真穂

パウロ・フィリョに判定負け？ それがどうした！ 胸を張れ！

	フィリョ	美濃輪育久
モチベーション（闘志・気迫）	7	10
技術・戦略	7	5
KOスピリット	4	10
勝ちっぷり負けっぷり	3	8
全体的な印象・インパクト	2	10
合 計	23	43

撮影◎吉澤 晃

美濃輪の気合いと底力は、いつかどデカい奇蹟をおこす！

柔術世界王者にパイルドライバー成功!

▲3R、残り試合時間が1分を切ったところで、ついにパイルドライバーが炸裂！ 自分より6キロ重い柔術の世界王者を、「ウガァッ！」と叫びつつ火事場のクソ力で見事に投げきった。この瞬間、会場は興奮の坩堝に

〝リアル1・2の三四郎〟は美濃輪、おまえだ!

美濃輪育久の試合を、僕は冷静に見ることができない。ドキドキして仕方がないのだ。スピードがあって力強くて、躍動感にあふれていて……。一言で言うと〝イキがいい〟ってことなんだけど、そんな言葉じゃとても追いつかない。いつも「これなんだよ、俺たちが見たかったのは！」と興奮されられ、今回に至っては記者席で大声を張り上げてしまった。

だって、総合の試合でパイルドライバー決めちゃうんだよ。それも、柔術の世界王者に5回もなったやつを相手に！

ガチンコでプロレス技と言えば桜庭だが、美濃輪は桜庭とはちょっと違う。桜庭のプロレス技は、寝技で上になっている、つまりある程度余裕がある時に出すサービスの場合が多い。けど、美濃輪の場合は余裕なんかまるでない状況で、しかもド本気のKO狙いでやってのけるのだ。

上の連続写真を見てほしい。ワキを差され、足を取られてコーナーに詰められるという、誰が見ても分かる窮地。そこから脳天杭打ちを決めたのだ。まるで、プロレスはもちろん格闘技戦でも、それどころか柔道やラグビーでもブレーンバスターを必殺技にしていた『1・2の三四郎』みたいに。

もう一つ、ある意味パイルドライバーより凄いのは、何度抑え込まれても暴れまくり、もがきまくって必ず跳ね返したことだ。でも、繰り返すけどフィリョは柔術の世界王者。なんでこんなことができるんだろうか。もしかして技術的根拠があるのかもと思い、菊田早苗に聞いてみた。

「いや、技術じゃないですね、あ

PANCRASE 2001 PROOF TOUR
3.31★なみはやドーム

分析不能の面白さ！
美濃輪の試合を“常識”で測ろうとするな！

フィリョのコメント

「リボーリオと試合をしたのを見て、ミノワはとても強い選手だと思っていたが、実際に闘ってそれがはっきりと分かった。一瞬でも気を抜いたらやられるという感じだった。最後、頭から落とされた時はヒヤッとした。あんなふうに投げられたのは初めてだ。次もパンクラスからオファーがあれば、誰とでも闘うよ」

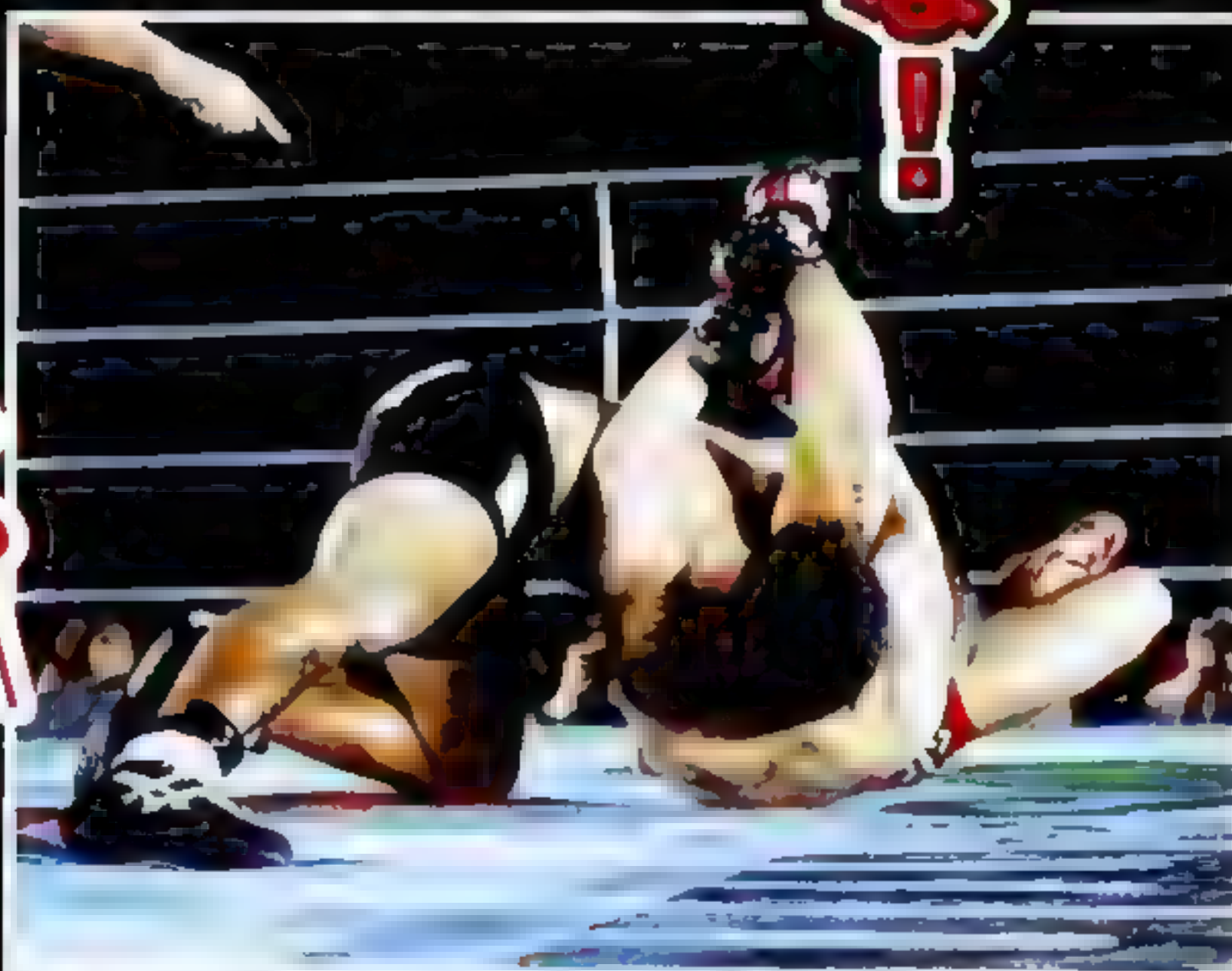
美濃輪のコメント

「負けた気はしないです。僕中心で試合が運ばれてたと思うし。お客さんを満足させた、プロとしての手応えはあります。（パイルドライバーは）“オレはプロレスラーなんだ！”っていう気持ちで投げました。次は相手が誰というより、熱い試合がしたいですね。今度は勝って、自分もお客さんももっと満足できるようにしたいです」

▲タックルで押してくるフィリョの腕を取り、クルッと後方に回転しながらアームロック。「腕ばっかり気にしてたんで（美濃輪）」抜けてしまったが、実に惜しかった

この体勢から――どうして立てるんだ!?

▲KEI山宮を長期欠場に追い込んだ危険なパンチ。美濃輪は「危ないのはなかった」と言うが、それは“この顔は俺の顔じゃない作戦”（©東三四郎）だろう！

▲▼サイドポジションを取られても、ひたすら暴れて脱出。スタンドの攻防に戻してしまう。美濃輪の闘いは、技術論では分析不能！

▲タックルで押してくるフィリョの腕を取り、クルッと後方に回転しながらアームロック。「腕ばっかり気にしてたんで（美濃輪）」抜けてしまったが、実に惜しかった

▶試合は判定となり、3－0でフィリョが勝利。だが観客の心を掴んだのは、間違いなく美濃輪だった

★第8試合/メインイベント（ライトヘビー級5分3R）
○パウロ・フィリョ（3R判定3-0）美濃輪育久●
〈ブラジリアン・トップチーム〉　〈パンクラス・横浜〉
※採点…30-29、30-28、30-27

「いや、技術じゃないですね、あれは。練習で培った根性としか言いようがない」

根性……。美濃輪はパンクラスの入門テストに、一度は失敗している。最初から能力が優れていたのではないのだ。体も決して大きくはなかった。それでも、リング屋をしながらチャンスを待ち（東京道場のリングを作ったのも美濃輪だ）、そして気合いと根性でメインまでノシ上がってきた。

美濃輪は某誌のインタビューで「フィリョは子供の頃から柔術をやってたみたいだけど、オレもちっちゃい頃からプロレスごっこをやってますからね。負けるワケないです」と言っていた。それって『三四郎』の“自慢じゃないがオレは四つの頃からプロレスをやってたんだ”作戦じゃないのか!? そうだ、柔術のチャンピオンだかなんだか知らないが、美濃輪にはプロレスがメシより好きだったというプライドがあるのだ。

はっきり言って、闘いで一番怖いのはこういう男が持つ底力だ。フィリョは試合後、勝利の喜びよりも先に「ミノワは強かった。最後まで気が抜けなかった」と、その脅威を語っている。

今回、美濃輪は判定負けを喫した。何度もテイクダウンされ、ポジションを奪われたのだから、VTの常識から言えばそれも道理だ。でも、ここはあえて“それがどうした！”と言いたい。美濃輪の気合いと根性、それに底力は、いつか必ず、常識を覆すどデカい奇蹟をおこすのだと信じさせてくれる。無理が通れば、道理なんか引っ込むんだよ―

（橋本）

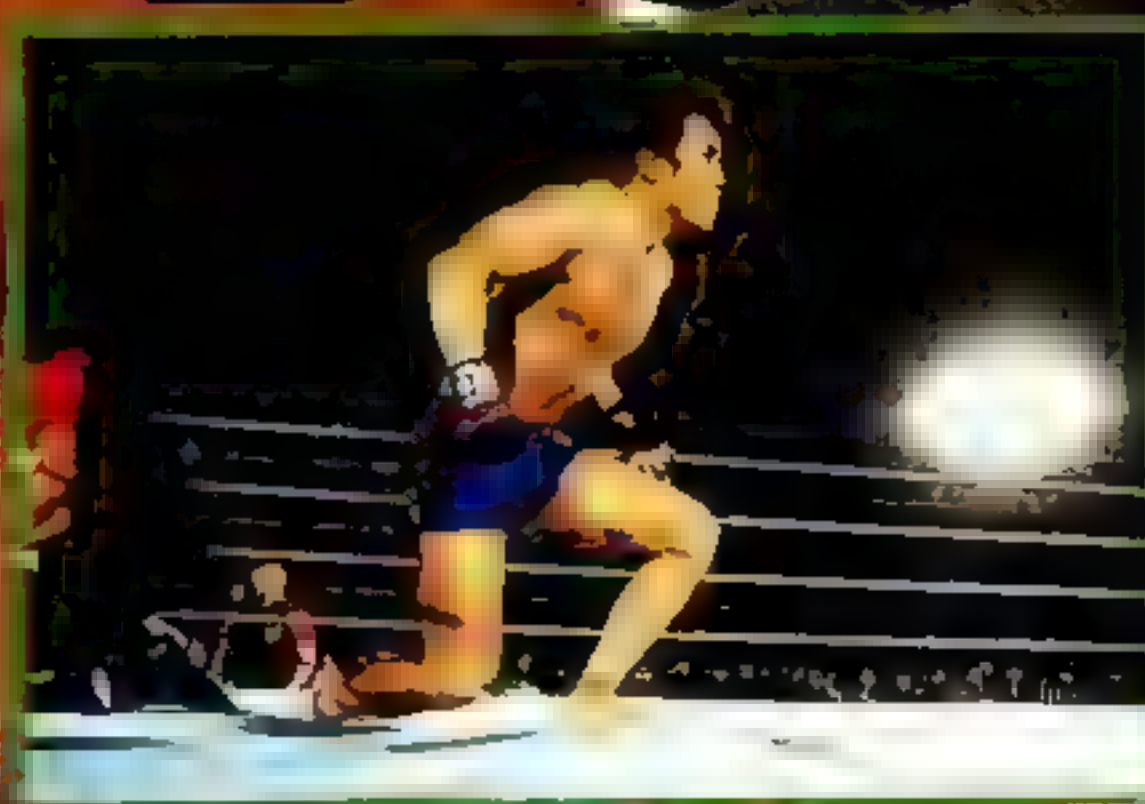
近藤有己がめざす"癒し系のファイト"って何？

尾崎社長の刺客をまったく寄せ付けず完勝！

▲課題となっている組み技の攻防を自分から仕掛けていった

近藤にとってはこの一戦は単なる通過点の一つに過ぎない。狙うはティトの首一つ―

▶久々に秒殺での勝利を収めた近藤。この程度の相手には余裕の勝利といったところか……

	近藤有己	ガサウェイ
モチベーション（闘志・気迫）	8	3
技術・戦略	7	2
KOスピリット	10	0
勝ちっぷり負けっぷり	5	2
全体的な印象・インパクト	6	1
合　計	36	8

朝起きて、みぞれが降っているのを見たら、大阪に行く気が萎え始めてしまった。

「はぁ〜っ」と溜息が出るような憂鬱な気持ちを吹き飛ばしてくれるようなファイトがパンクラスで見たい！　そんな気持ちで新幹線の中で過ごしていた。

で、会場に着いて配られたパンフレットを見て、いの一番に目を引いたのが、近藤のインタビューである。

「人を癒す試合をしたい」

これはいったいどういうことなのか？　だいたい、"人を癒す試合"という言葉自体、そう簡単に出てくるものではない。癒しというフレーズが流行っているから、適当に答えてしまったのか。はたまた、もっと奥深い意味があるのだろうか？　とにかくわけが分からない。分からないが、近藤の試合にガ然興味が沸いてきた。春だというのに、こんな寒々しい日には癒されるのが一番！　ここは一つ近藤に試合で癒してもらおう。

ところが、この日の相手はそういう呑気なことは言ってられないような強敵である。なんといってもブライアン・ガサウェイは、尾崎社長が近藤の実績を作るために用意した、最強の刺客だ。本当にファンを癒せるような試合をすることができるのか？

近藤は昨年の12月に敗れた、UFCのミドル級王者、ティト・オーティズにリベンジをし、対戦を希望している桜庭やヒクソンの目をこちらに振り向かせなければいけない身。「こんな時にどうしてこんな強敵を……」と近藤ならずとも思ってしまう。

これが、尾崎社長の千尋の谷に

PANCRASE 2001
PROOF TOUR
3.31 なみはやドーム

近藤のコメント

「今日は打撃をもらわなかったので、お酒が飲めます(笑)。「プライド」はタイミングを見て。僕は先のビジョンというものを持たないので、それはもう社長がやってくれますんで、任せてます。ティトとはもう1回闘いたいですね。このままでは終わりたくないという気持ちがありますから。列の後ろに並べというなら、並びたいです(笑)」

「ティトが列の後ろに並べというなら、並びたいです」(近藤)

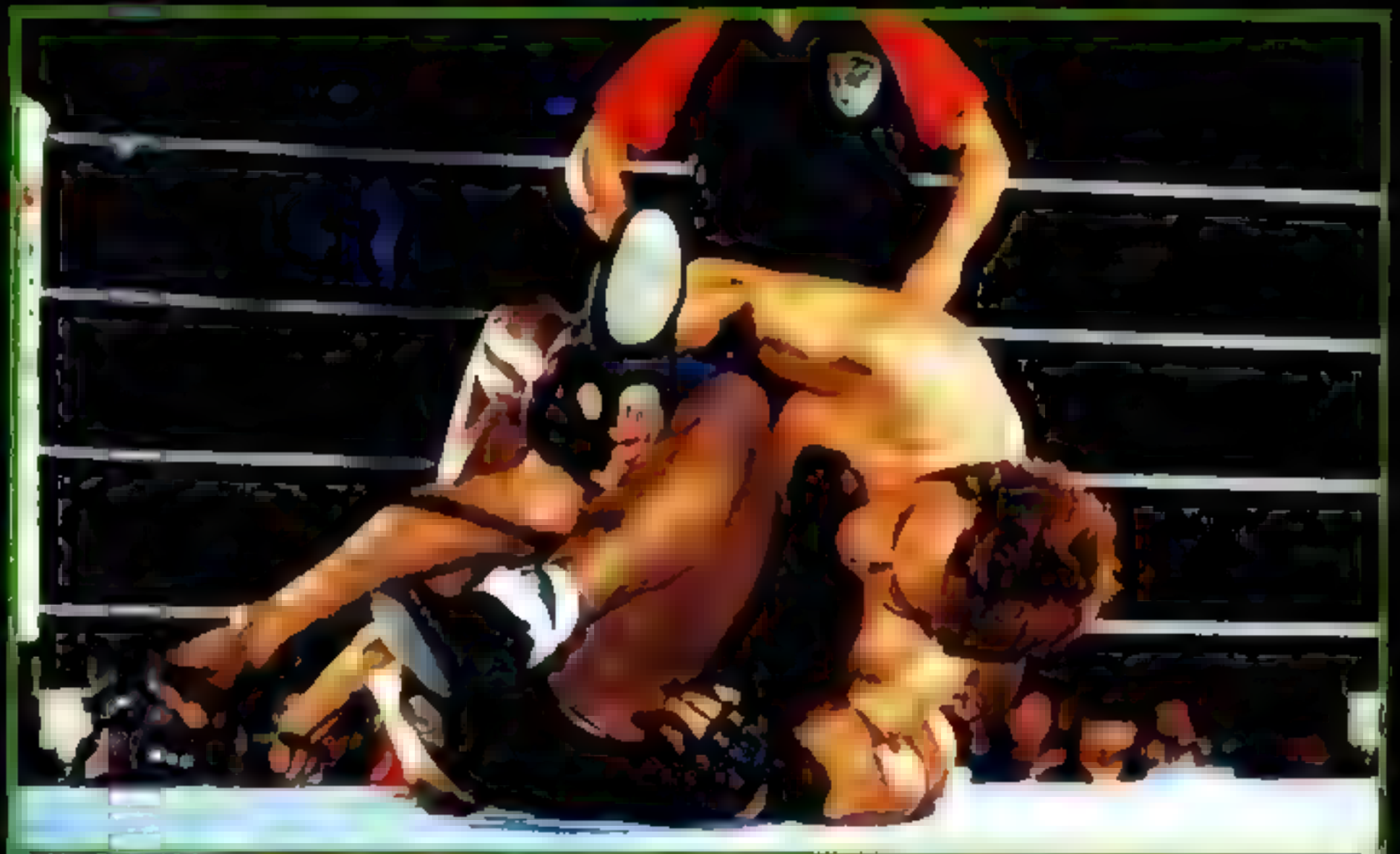
▲課題となっている組み技の攻防を自分から仕掛けていった

◀タックルにいったものの、体を入れ替えられてコーナーに詰められる近藤

◀尾崎社長もアメリカで試合をもう1度させたいと語っている。列に割り込んでもいいから、狙ってみぃい！

▼テイクダウンに[illegible]ず足を取りにいく。このあたりの動きは素早かった

▲これでガサウェイは万事休す！ もはやこれまでとギブアップするのみ……

★第7試合/セミファイナル(ライトヘビー級5分3R)
○近藤有己(1R2分45秒、アンクルホールド)ブライアン・ガサウェイ●
〈パンクラス・東京〉 〈AIKIトレーニングホール〉

これが、尾崎社長の千尋の谷に突き落とすような親心なのか？　それとも単なる嫌がらせか？　真意は尾崎社長にしか分からない。

とはいえ、めざす舞台が大きいのだから、ここでモタモタしているわけにはいかない。

しかし、近藤はそんな尾崎社長のきつい親心にも応えてみせた。強敵・ガサウェイを3分弱であっさり料理してみせたのだ。

しかもグラウンドの攻防に難のある近藤が、積極的にそれに挑みアンクルホールドでギブアップの言葉を吐かせたのである。

偉いぞ、近藤！

尾崎社長もこの勝利にはことのほかご満悦で、ティト戦の実現に向けて、とりあえずアメリカで試合をさせたいと明言した。

やはり、今回の試合は尾崎社長がくれた試練だったのだ。この星一徹のような鬼の試練をよくぞ乗り越えた。

試合後の近藤も俄然調子づいてくる。近藤が今一番報復の機会を狙っているのは、ティトである。そのティトは昨年近藤を破った際に、こんな言葉を残している。「近藤が再戦をしたければ、列の後ろに並べ」と……。今回、近藤はこの言葉に対して、「列の後ろに並びたいです」と言ってのけた。

この言葉を聞けば、安心して帰れるというものだ。見に来たお客さんもすっかり癒されていることだろう。なにしろ尾崎社長が用意した刺客を秒殺したのだ。この結果で癒されないと言ったら嘘になる……。

って、本当？　「人を癒す試合」って何？　(小松)

荒れるパンクラス大阪場所!

謙吾、猫だましにあって失神KO負け!

▶レイシックはフェイントのタックルを仕掛け、ガードが下がった謙吾に右ストレートを一閃!　倒れ込んだ謙吾にレイシックはサイドからパンチを、しこたま叩き込みKO勝ち!

レイシックのコメント

「最後はフェイクのテイクダウンで、それにつられて謙吾のガードが下がったところにパンチを入れた。右のストレートだったような気がするなあ。自分が得意なのはテイクダウンだが、予備知識として謙吾が非常に打撃が強いということが分かっていたので、もし謙吾が打撃でくるのだったら、自分も打撃でKO勝ちした経験もあるので、打ち合いでも負ける気がしなかった」

▲過去全米レスリング選手権で2度優勝した経験を持つレイシックは、得意のタックルをズバッと決めた。このタックルがフィニッシュへの伏線となってしまうとは……

	レイシック	謙吾
モチベーション(闘志・気迫)	7	6
技術・戦略	7	2
KOスピリット	10	3
勝ちっぷり負けっぷり	10	7
全体的な印象・インパクト	10	6
合計	44	24

★第5試合/無差別級5分3R
○ティム・レイシック(1R3分23秒、KO勝ち)謙吾●
〈グラジエーターズ・トレーニング・アカデミー〉　〈パンクラス・東京〉
※右ストレート→グラウンドパンチ連打

▲序盤、謙吾は重いローキックを打ち込み牽制していたのだが……

▶中量級が多いパンクラスの中で、ヘビー級の謙吾は実に貴重な存在だ。大男二人の対峙した姿は、惚れ惚れするばかり

大相撲の大阪場所が終わってはや1週間近く過ぎたこの日、パンクラスも負けじと大阪場所を開いた。

相撲の大阪場所は常に荒れると言われるが、この日のパンクラスは大番狂わせこそなかったものの、実にいい春の嵐をハートにぶち込んでくれた。

こんなにも相撲好きの僕の心を震わせたのは、謙吾とレイシックの試合である。この試合は、レイシックのKO勝ちという衝撃度抜群の決着であったのだが、そんなことで心が震えたのではない。

レイシックがフィニッシュ前に見せたフェイントの右ストレートが僕の心を震わせたのである。

フェイント。そう、それは相撲でいうところの猫だましである。猫だましとは、「はっけよい、のこった!」の瞬間に、手をパチンと叩いて相手を怯ませ、その隙に攻撃をするという極めてせせこましい技のことだ。

たしかに、猫だましとフェイントは厳密に言えば違う。しかしここで言いたいのは、こういった技を使うには、心の余裕と自分のテクニックの自信がなければできないということなのである。

言ってみればキャリアの差が出てしまったということになるのだろう。1月に元幕内力士の大刀光相手に秒殺劇を演じた謙吾であったが、この日は老獪なテクニックの前に土を噛むしかなかった。

丸い土俵の中にはなんでも詰まっている。行き詰まったら、相撲を見ろ！　闘いのヒントはいくらでも隠されているぞ。

ご静聴、ごっちゃんし！(小松)

はみだしレイシック

謙吾にKO勝ちしたレイシックの、5.13後楽園ホール大会への参戦が決定!　[illegible]ナント、[illegible]無差別級6位の渋谷に勝てば、一気にタイトル戦線浮上もあるぞ!

相手の流れに身をまかせて、

PANCRASE 2001 PROOF TOUR

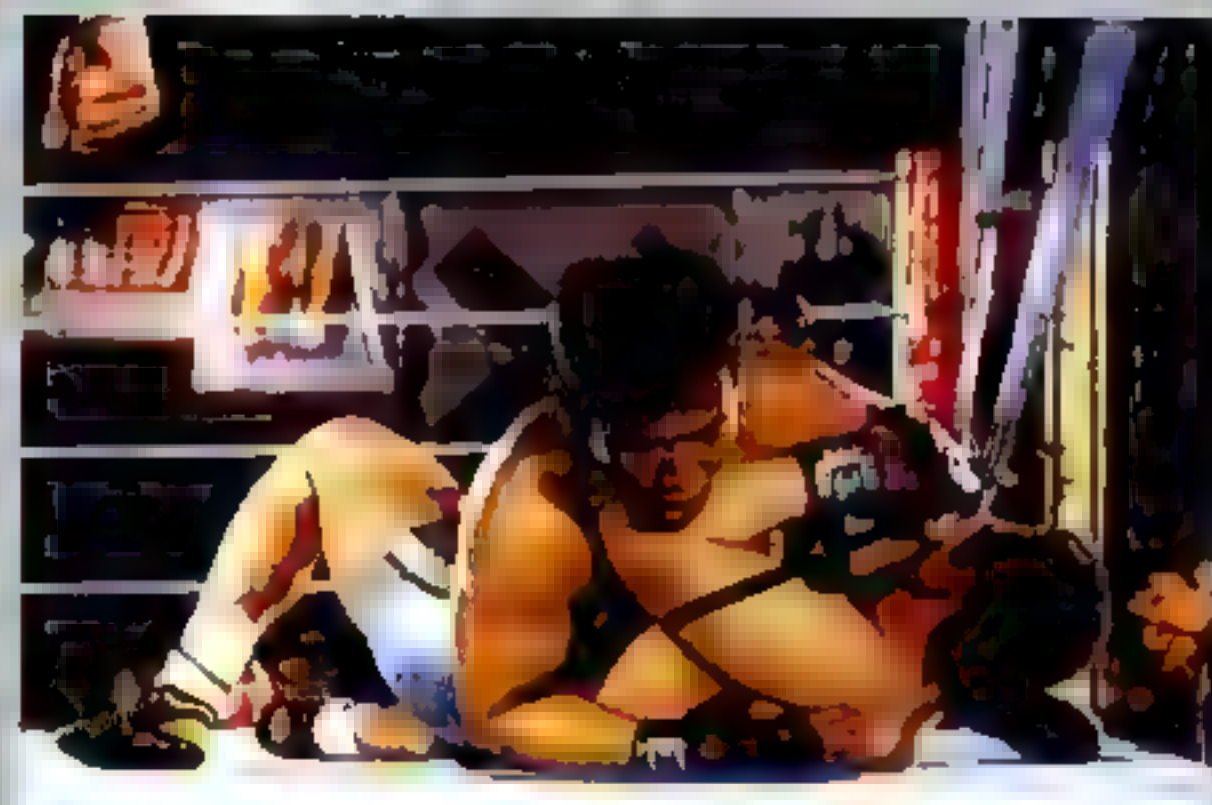
3.31 なみはやドーム

グラバカ、またも領土拡大！
若手の佐藤がランカー・石井を破る

▶今やTシャツの売り上げもパンクラスでナンバー1、人気面でも着々と勢力を拡大しているグラバカだが、今大会では佐藤光芳（左）がライトヘビー級7位の石井大輔を破る金星をあげた。佐藤はタックルから"差し"、そしてテイクダウンと、しつこい組み技で石井の打撃を抑えた

▼サイドポジションを奪う場面もあった佐藤だが、なかなかセコンドの指示どおりに動けず試合後は反省。「まだまだキャリアが足りなくって。グラバカはコーナーでの"差し"が得意と思われてるけど、ホントは嫌いなんです。もっと鮮やかに勝ちたいんですが……」（佐藤）

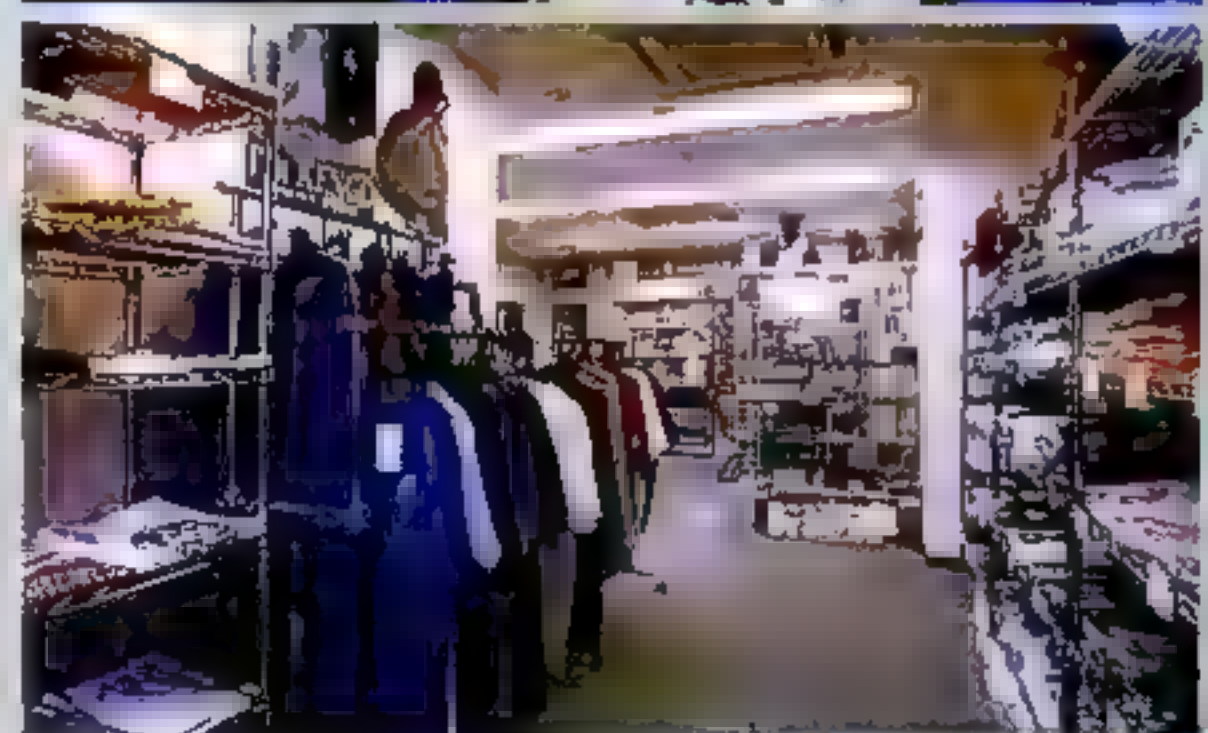
★第4試合/ライトヘビー級5分3R
○佐藤光芳（3R判定2-0）石井大輔●
〈パンクラス・GRABAKA〉　〈パンクラス・東京〉
※採点…30-29、30-30、30-29

相手の流れに身をまかせて、マーコート圧勝！

▶第3試合に登場した初代ミドル級キング・オブ・パンクラシストのネイサン・マーコート。佐藤光留の腰投げをくらったものの、うまく相手に絡みつき、1分53秒、チョークスリーパーで佐藤からギブアップを奪った

▶ミドル級のベルトを誇らしげに肩から下げるマーコート。マーコートはブラジリアン柔術をベースにしており、来年のアブダビコンバットへの出場へも意欲を示している。現在は菊田とトレーニングしているとのことなので、将来が楽しみな選手の一人である

★第3試合/ミドル級5分2R
○ネイサン・マーコート（1R1分53秒、チョークスリーパー）佐藤光留●
〈コロラド・スターズ〉　〈パンクラス・横浜〉

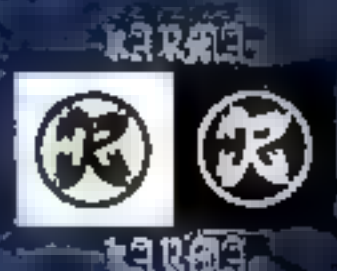
パンクラス大阪道場がオープン！

▼パンクラスの大阪道場「P's LAB-OSAKA」がオープン（地下鉄御堂筋線大国町駅より徒歩1分）。4月1日の道場開きには所属選手をはじめ、前日の大会に出場した外国人選手、大阪プロレスのスペル・デルフィンや村浜武洋も出席した「DEEP2001」の佐伯代表との共同経営となるこの道場では、現在一般会員を大募集中。現役パンクラシストも、交代で指導に訪れるとのことだ。お問い合わせは☎06-6649-8530（12:00〜22:00）までお気軽にどうぞ！

▲道場の1階はグッズショップ「HYBRID SPORTS PLAZA」。パンクラスだけでなく新日本プロレスや高田道場、バンバンビガロなどの商品も絶賛販売中だあっ！

▶第6試合は國奥麒樹真（横浜道場）と高瀬大樹（慧舟會）の対戦。両者とも実力は認められているが、このところいい結果が出せていない。今回も猪木vsアリ状態が続き、観客はダレ気味。高瀬は3R、下から足を刈って國奥を倒し「つかまえた！ 逃がさねぇぞ！」と吠えたものの、そこでタイムアップ。上になる場面の多かった國奥が判定2－0で勝利した

▲伊藤崇文（横浜道場）とRJWの星野勇二の第2試合は、キャッチレスリングルールで行われ、伊藤が見事にチョークスリーパーを極め、3分02秒、星野から勝利をもぎ取った

▶第1試合は横浜道場の窪田幸生（左）と東京道場の北岡悟が激突！ 試合は上から攻める窪田と、下から攻める北岡という展開になったが、両者とも決め手を欠きドロー

でもとっても話題になっていたし、私も

三代目格闘ビジュアルクイーン

長谷川京子(はせキョー)の超SRS宣言！

第13回

3・17 K-1 GLADIATORS 2001 横浜大会＆ 3・25 PRIDE.13 埼玉大会

ビッグイベントが続いた3月は、はせキョーも連日の取材で大忙し。今回は、はせキョー"興奮と大ショック"の、K-1横浜アリーナ大会と『プライド13』さいたまスーパーアリーナ大会をレポートしてもらったゾ！

頭が真っ白になったバンナ戦 桜庭戦は不安があたって大ショック

2001年、初めてのK−1ワールドGPシリーズ『K−1 GLADIATORS 2001』。

今回、私はかなりバンナ選手に振り回されたって感じでした。去年のK−1ワールドGP決勝大会では急に欠場となってしまってみんなをがっかりさせたバンナ選手の待ちに待った試合!! しかも相手はあのベルナルド選手!! ということでとっても楽しみにしていた矢先、今度は足にケガをしてしまい、しかもかなりヒドいなんてニュースが入ってきたもんだから、またまたがっかり……。でも、結局は試合ができたから良かったんですけど……。

今回、私はバンナ選手を追いかけて、大会2日前の共同取材に行ったんです。スネを14針も縫うほどのケガを負っているんだから、いくらバンナ選手でもさすがに元気がないんじゃないかな、なんて思っていたけど、バンナ節は相変わらず健在で、さすが!! って感じでした。やっぱりバンナ選手はこうでなくっちゃ！

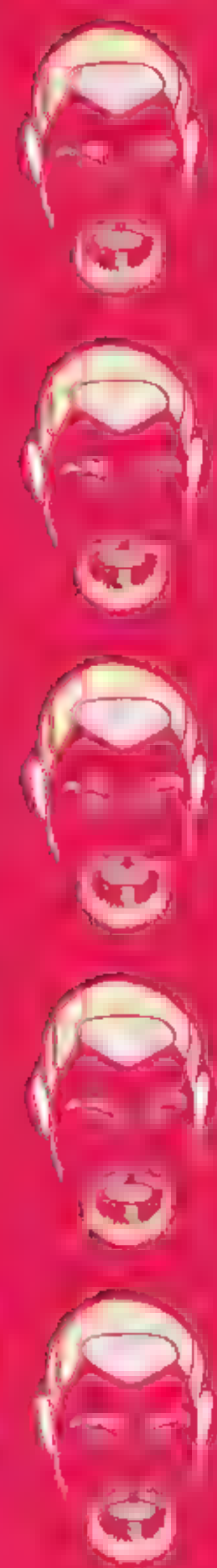
そして、試合当日。私はバンナ選手の控室でレポートをさせてもらったんですが、実はバンナ選手とこんなに近くで接したことって今までなかったんで、正直言って結構緊張しました。それに闘う前のバンナ選手の放つオーラは、それはもう、今までに見たこともないくらいに凄くて、怖ささえも感じるほどで、圧倒されてしまいました。入場の時の、誰も寄せ付けない迫力、そして、ベルナルド選手とリング上で向かい合った時の緊張感には、もう心臓ドキドキ。こういう緊張感ってホントにたまらないですよネ。

試合が始まっても、ホントに息もできない、まばたきもできないという状態で。こんな試合はちょうど1年くらい前のバンナ選手VSフィリォ選手戦以来のような気がします。1R終了間際のベルナルド選手の攻撃の時は、ホントに頭が真っ白になってしまって、ゴングも聞こえなかったし、"いったい何が起きたの？"って感じでした。結局、この試合はノーコンテストになってしまい、いろいろな意見もあると思うけど、私としては、もうあんなに興奮して我を忘れてしまうくらい凄い試合を見れただけでOK！ って感じです。試合後のバンナ選手の言い訳(17)はどうなの？ って思うところもあるけど、バンナ選手らしいなとも思うし、2人の再戦が見れるのかと思うと、とっても楽しみ♥デス！

そして、その1週間後に行われた『プライド13』。これも、今年初の『プライド』で、凄く楽しみだったんです。メインの桜庭選手VSシウバ選手戦は私の周りでもとっても話題になっていたし、私も今回ばかりはホントに桜庭選手、危ないんじゃないかと心配でした。試合2日前に会った時、シウバ選手はとっても調子良さそうで、緊張している様子もなかったし。そうそう、普段のシウバ選手ってリング上でのシウバ選手とは180度違って、明るくて優しい人なんです。どうしたら、あの対戦モードになれるんだろう？ そのギャップが面白いですよネ。

そんなシウバ選手に対して桜庭選手、カゼをひいていてあまり調子が良さそうではなくて、心配。しかも桜庭選手が、シウバ選手と闘っている夢を見た話をしてくれたんですが、普段はそんな夢は見ないと言っていたんで、今回は何か起きるんじゃないかと余計に心配になってしまって。でも、夢の中の試合では桜庭選手が判定で勝ったと言っていたので、それを信じよう!! って思ってました。

この試合の結果は、正直言って私にはとってもショックでした（皆さんもそうだと思うけど）。桜庭選手が負けてしまう姿って想像できなかったし、心は複雑ですけど、でも、今回のことも含めて桜庭選手の全てが大好きなので、もちろん、これからも全力で応援していきます。桜庭さん、頑張ってくださいネ!! ■

はみだしはせキョー 長谷川京子（はせがわ・きょうこ）1978年7月22日生まれ。22歳。千葉県出身。B型。身長166センチ。特技/水泳。趣味/ピアノ。雑誌/Cancam（小学館）専属モデル。CM/エルセーヌ、アテニア化粧品

『プライド』期待のテキサスの凄玉！ヒース・ヒーリングに初接近！

「プライド9」で初来日して以来、破竹の4連勝とヴァンダレイ・シウバ同様に全勝街道驀進中のヒース・ヒーリング。まだ23歳とこれから伸び盛りなヒーリングは、コールマンやボブチャンチンなどトップファイターたちを脅かす存在として期待されている。リング上でのヒーリングはテキサスの荒馬のごとく激しいファイトを見せるが、素顔は意外や意外にシャイだった

聞き手◎石黒由佳子

――本誌では初めての[illegible]ります[illegible]お願いします。

ヒーリング どんどん、聞いてよ！

――では、さっそくですが、ヒーリングさんの生まれは、テキサス州ですよね？

ヒーリング イエ～ス！ テキサスのアマリロで生まれ育ったんだ。

――家族構成は？

ヒーリング ボクのファミリー？ みんなテキサスに住んでるよ。おじいちゃんもいとこもテキサスにいるんだ。だいたいダラスにいるんだよ。ファミリーはパパ、ママ、妹の[illegible]が20歳で、弟のハンジャーが18歳さ。

――ヒーリングさんは長男なんだ。

ヒーリング そうそう。

――日本では、長男は非常に期待を掛けられて育てられるんですけど、アメリカでもそうなんですか？

ヒーリング うん。特に小さい時は厳しく育てられたよ。ママは特に厳しくて、彼女のいいつけは必ず守らなければならなかったんだ。だけど、大学に通わせてくれたり、ボクのやりたいことは、なんでもやらせてくれる両親だよ。今の自分があるのは[illegible]

――子供の頃はお母様が厳しいということですが、[illegible]か？

ヒーリング アハハ。やってた、やって[illegible]供の頃にやってた程度のいたずらだよ。

――格闘技をやっている人は、ケンカ好きだったりする人が多いじゃないですか。ヒーリングさんは？

ヒーリング ノー、ノー、ノー！ ケン[illegible]

るべきことじゃないとボクは思ってるんだっ！

――リング上とは好対照な発言（笑）。じゃあ、優等生タイプだったんですね。

ヒーリング う〜ん、大学の時は体育会系のタイプだったんだよね。フットボールとかレスリングをやってたし。まあ、人よりも少しワイルドなところはあったかもしれないけど（笑）、他の学生と同じようにグレードのことを気にしたりとか、彼女がいるとかいないとかってことも気にしたりしてたよ。

――大学もテキサスなんですか？

ヒーリング 1年目の時は家の近くの大学に通っていて、その時はフットボールをやっていたんだ。その後にペンシルバニアのほうの大学に移ったんだけど数カ月いて、オランダに行っちゃったんだよ。

――どうやらテキサスでは真面目にやってたようですけど、そのスタイルを見ていると、もしかしてオランダに行ってハチャケちゃいました？（笑）。

ヒーリング アハハ。あのね、いつもこんな格好してるわけじゃないっ（笑）。

相手を殺してやりたいという殺伐とした気持ちはない。

――えっ？ そ、そうなの？

ヒーリング いつもは染めたりしてないし、これはあくまでも試合をする時だけなんだから。最初に自分のスタイルを変えたら勝てたんだ。それからはゲンをかついでやるようになったんだよ。

――でも、来るたびに染めてるところは増えてるし（笑）、過激になってるというか……。

ヒーリング そうすると、みんな気になるから注目してくれるでしょ？

――なるほどね。それはオランダでやってるんですよね。

ヒーリング うん、試合の直前に「アレクサンドルバスティアン」っていう知り合いの美容院でやってもらってるんだよ。

――凄く凝ってるから高くないですか？

ヒーリング なんかね、面白がってやってくれてるんだけど、タダでいいって言われるんだ。今はボクが勝ってるから、いいプロモーションになってるみたい。

――次はどうなっちゃうんでしょうね。

ヒーリング そうやって気になるでしょ？ それが狙いなんだよ（笑）。

――私、狙いどおりのリアクションしちゃってたんだ（笑）。ヒーリングさんはもともと、格闘技は好きだったんですか？

ヒーリング 最初は18歳の時にアマチュアのシュートファイティングの大会に出たんだ。テキサスではシュートファイティングの大会が結構開かれているんだよ。パパとママはボクが負けると思ってたみたいで、気楽に「やってみれば」なんて言ってたんだけど、いざ試合で勝ったら今度は「続けてみたら」って言ってくれたんだ。

――ヒーリングさんのバックボーンはレスリングですよね？

ヒーリング そう。高校の時にレスリングをやってた。地元で有名なスティーブ・ネルソンとかポール・ジョンストンの試合をテレビで見て刺激を受けたんだ。ボクがレスリングの練習をしていた所に、彼らが来てサブミッションを教えてもらったことがあったんだよ。それで、これは面白いなぁと思ったんだ。

――アメリカだったら、ボクシングも盛んじゃないですか。それよりもレスリングやシュートファイティングのほうが影響が大きかったんですか？

ヒーリング イエ〜ス。もともと自分自身がレスラータイプだと思ってるし、最初に始めた格闘技もレスリングだったから。あまりキックやパンチのトレーニングをしてなかったし、どちらかというとサブミッションやグラウンドの練習を重視してたからね。今はオランダで立ち技の練習をしているけど……。

――18歳の時に初めてシュートファイティングの試合をして、その後というのはいろんな大会に出たんですか？

ヒーリング 世界各地で闘ったよ。アメリカでも全国を回ったし、南アメリカ、ロシア、オランダの大会にも出た。でも、ボクは日本で闘うのが一番好き。

――これらはプロの大会ですか？ アマチュアの大会ですか？

ヒーリング アメリカで出た大会は一応プロなんだけど、UFCや「プライド」みたいにたくさんの観客がいて、ファイトマネーも出る大会とはちょっと違うんだよね。例えばホテル代だけ出るという大会に出ていたんだ。でも、そういう大会に参加できたのは楽しかったよ。

――アメリカにいて、試合にも出てて、さらに大学生もやってたのに、なぜオランダに行こうと思ったんですか？

ヒーリング 神様がこういう方向性を与えてくれたんじゃないかと思う。ペンシルバニアの大学でレスリングやフットボールをやってた時に、今のマネージャーのロンに出会って、この時にオランダで修行をしてみないかと誘われたんだ。身の回りのことをやってくれるという話もあったし、これを機会にオランダに行ってみようと思った。

――オランダでの生活スケジュールはどんな感じなんですか？

ヒーリング 1日4、5時間練習してる。月曜日は午前中にタイボクシング、午後はレスリングと軽くテクニックの練習。火曜日の午前中は走り込み。午後からサブミッション。水曜日は午前中がタイボクシングで午後がサブミッション。木曜日は午前中が走り込みで、午後はタイボクシング、金曜日は午前中がタイボクシングで午後はオフの時もあれば練習になる時もある。土曜日はオフの時もあるし、練習の時もある。日曜日は完全にオフ。休みの日はだいたい寝て終わりだね。

勝！ヒーリング髪型変遷史

「プライド11」トム・エリクソン戦
両眉がゼブラ＆髪の中央がピンクに！

「プライド9」ウイリー・ピーターズ戦
右眉ゼブラ！

コールマンやボブチャンチンを倒せるような選手になるのが目標！

――うわぁ〜、練習漬けの日々ですね。

ヒーリング いつもこのフルスケジュールをやっているわけじゃなくて、試合前に集中的に練習する時はこういうメニューになるんだ。

――このハードな練習がリング上への爆発に結びついているんでしょうけど、ヒーリングさんの試合を見ているとハートの強さを凄く感じるんですよ。

ヒーリング 自分の闘いに対する姿勢は、例えば相手を殺してやりたいとかそういう殺伐とした気持ちよりは、一つの競技であり、自分が人と競り合っていくという感じなんだ。例えば、自分が強い相手と闘ったり、逆境に立たされる場合でも常にベストを尽くす。もし、負けたとしても試合に負けたというよりも、自分自身に負けたと思うようにしているんだ。「プライド」に出ることは、自分自身のチャレンジとして誇りに思っているんだよ。

――ああ、なるほど。でも今は4戦して4勝と、トップファイターを脅かす存在になってきているじゃないですか。

ヒーリング ボクはまだプロのファイターになったばかりだから、逆に自分の弱い部分もすぐにチェックされたりするからそれが怖いよ（笑）。「プライドGP」で優勝することが最大の目標ではあるんだよ。だけど、まだボクは23歳だし、時間がたくさんあるんで、来年に絶対優勝しなきゃっていう気持ちはないんだ。ただ、これまでエリクソンと闘ったように世界のトップファイター、ボブチャンチンやコールマンを倒せるような選手になることが自分の大きな目標だと思っているし、今はそれに向かって突き進んでいる感じだね。

――ファンはコールマンやボブチャンチンとの闘いを楽しみにしてますよ。

ヒーリング 自分でもそういうふうに感じることはある。昨日の試合は相手の選手の情報があまり分からなくて、そんなに自分のテンションを上げることができなかったんだ。前回のエリクソンなんかは相手のことを知っていたし、ぜひ倒したいという気持ちがあったから、凄く集中できた。闘いに対する意味を感じることができた。ボブチャンチンやコールマンと闘う時は、精神的に集中できるし、目標も見えてくる。その中で自分が勝てば、世界で最高の気分を味わえるんじゃないかということを考えると、ぜひ闘ってみたいと思うね。

――試合後にこうやって話を聞くのが初めてなんですけど、試合前に話を聞く時は、凄くオーラが出てるなぁと見えるんですよ。でも、今日はメチャクチャリラックスしてるなぁと思うんですけど、この切り替えのうまさが、リングではいい結果になっているんじゃないですか？

ヒーリング 自分としてはそんなにうまいとは思ってないよ（笑）。例えば闘いの時は自分の気持ちをスイッチするのは非常に大切なことで、そういうのがうまいなぁと思うのはシウバだね。切り替えが上手だよ。だって、リングの上に上がると急に人間が変わるもんなぁ（笑）。ちょっとクレイジーになるから怖いよね（笑）。ボクは彼とは違うけど、勝つということに関しては、リングでは勝ちたいっていう気持ちが凄く強くなるから、気持ちが切り替えられる。でも、関節技を極めて相手がなかなかタップをしない時は、生死をかけている闘いではないし、あくまでも競技だからそういう時は気の迷いが出てしまって極められなかったこともあったんだ。

――オランダで1年間過ごして、「プライド」にも出るようになって、自分自身で変わった部分はありますか？

ヒーリング うん、すっごく変わったよ（笑）。影響を受けた部分は髪型だね。

――やっぱり！

ヒーリング あとは自分の相手に対する態度かな。どうしてもテキサスのほうだと価値観というか、シャイでゆっくりのんびりして多くを語らずという感じがあったんだよ。でもオランダの人たちはよくしゃべるし、自分がしたいこととか要求をどんどん口に出すタイプなので、それは自分にとってカルチャーショックだった（笑）。オランダの選手は「次は、○○と闘いたい」って言うじゃない。でもボクは「今回の試合は楽しかった」ぐらいしか言えないんだよ（笑）。

――どんどん、オランダ人気質を取り入れてくださいね（笑）。

ヒーリング イエ〜ス！ 頑張ってトライしてみるよ（笑）。

――なかなか強気なことを言わないのは、もともとの性格だったんですね。

ヒーリング 自分ではやらなきゃって思ってるんだけどね……（しんみり）。

――試合スタイルは非常にオランダチックなんですけどね（笑）。

ヒーリング そうでしょ？（笑）。アイブルとか凄いもんね。

――そうそう、アイブルぐらいになったほうがいいですよ（笑）。

ヒーリング 今は一緒に練習をしてるんだけど、たまに「コイツおかしいなぁ」って思う時があるんだよね（笑）。突然ワア〜って騒ぐしさ。まあ、彼はいつも騒いでいるんだけど、ボクはどちらかというと寡黙系だから（笑）。

――アイブルにしてみれば、なんでヒーリングは大人しいんだろうって思ってるんじゃないですか？

ヒーリング そういうのもあるんだろうなぁ。いきなりガーッて来て「騒ごうぜ」ってやられることがあるから（笑）。

――そうなると、ヒーリングさんの課題はアイブルのハートですよ（笑）。

ゲンをかついで4連勝! ヒ

ヒーリング　ノー、ノー、ノー、ノー、ノー、ノー、ノー、ノー!(笑)。

——そんなに否定しなくても(笑)。でも、アイブルのハートが身に付けば、「プライド」でもトップファイターにすぐなれますよ(笑)。

ヒーリング　そ、そうだなぁ………。

——そんな、無理矢理そう思おうとしてるでしょ?

ヒーリング　だって、やっぱりアイブルのハートはさぁ……考えちゃうよね。

——アイブルのハートとファイトスタイルはいい感じだと思うんですけどね。目標の選手っていますか?

ヒーリング　サクラバにはいつも驚かされるよね(笑)。あとはシウバやボブチャンチンを倒したテリグマン。こういった選手たちと闘えたりするのは、誇りに思うし、嬉しい。

——シウバだとウェイトが合わないですよね。

ヒーリング　もしも闘うとしたら体格を優位にして、とにかく押し切る闘い方をするだろうね。チームメイトのアイブルはシウバに似たようなタイプだから分かるんだけど、闘うとしたらシウバは自分にどんどん攻撃を仕掛けてくるだろうから、ボクとしてはその攻撃を受ける気はなくて、ボクのほうもどんどん攻撃していけば倒せるんじゃないかと思ってる。

——なるほどなぁ。そうそう、ヒーリングさんに聞いてみたかったことがあったんですよ。入場する時のコスチュームなんですけど、あれもオランダスタイル?

ヒーリング　ノー、ノー、ノー!　テキサススタイルだよ!　テキサスの暴れ馬というか、カーボーイというところを目立たせたいし、あれはファンも喜んでくれてるみたいだし、やってる自分も楽しいんだよ。

——あのロングコートは自分で買ってるんですか?

ヒーリング　マネージャーと話している時に案が浮かんだんだ。ビデオで見たらいい感じだったし、自分をアピールするにはいい方法だと思うんだけど。どう?

スタン・ハンセンのテーマ曲を聴いてみたいね(笑)

「プライド13」ソボレフ・デニス戦
両眉半分ピンク&金髪&アゴ髭パープル!

「プライド12」エンセン井上戦
右眉ゼブラ&髪の中央がピンクの三角形に!

——あぁ、いいんですけど、日本でテキサスと言えば、有名なプロレスラーがいるんですよ。知ってます?

ヒーリング　うん?　スティーブ・オースチンだろ!

——わ、若いなぁ(笑)。スタン・ハンセンって知ってます?

ヒーリング　分からないなぁ……。

——あとはテリー・ファンクとかね。

ヒーリング　オ〜ッ!　テリー・ファンクっ!　ボクと同じ出身だから知ってる。

——テリーは知ってるんですね(笑)。スタン・ハンセンは、テキサスの暴れ馬ということで、カーボーイハットを被り、ブルロープをブルブル振り回して観客にバチバチ当てながら入場してきてたんですよ。

ヒーリング　エ〜ッッッッ?　そ、そんなことしていいの?

——やられたファンは「ハンセンにやられた」って逆に喜んでたんですよ。ヒーリングさんもやったらウケますよ!

ヒーリング　えっ?　ボクがやるのぉ?　アッハハハハハハハハハ。

——ハンセンのテーマ曲は、分かりやすく言えば、猪木さんのテーマ曲の時にみんなが乗ってしまうくらい、インパクトのある曲なんです。

ヒーリング　自分のイメージをみんなに知ってもらえるように努力しないといけないのは分かるんだけどさぁ……。

——ハンセンは引退したので、誰も使ってないからいいかなぁと思ったんです。

ヒーリング　いいかもしれないけど、その曲を聴いたことないからなぁ。

——ハンセンのハートはアイブルハートなんですよ(笑)。

ヒーリング　ホ、ホントにぃ?　もしも、その曲を聴けるんだったら、聴きたいな。

——オッ〜!　いいなぁ。

ヒーリング　それでハンセンが「プライド」に来てくれたら、一緒に花道を歩いてくれると嬉しいね(笑)。

——私もそれは嬉しいですぅ(笑)。もし、その時の対戦相手が藤田選手だったら、凄いだろうなぁ。だって、「プライド」のリングにハンセンと猪木さんの曲が流れるわけですから。

ヒーリング　ウィーッ!

——えっ!?　■

▲「プライド12」エンセン戦でアームロックを極めながらも、エンセンがタップしなかったため自ら外してしまったヒーリング。それはヒーリングが闘いとは生死をかけるものでなく競技として考えていたからだった

――10カ月ぶりの「プライド」ですが、

サポートでベルトを取れたようなものだ

出場は別の競技にシフトチェンジするよ

――スターになってください（笑）。猪木

ダーッハッハッハ

マット界騒然！

『PRIDE GP』覇者＆グレーテスト18クラブベルト保持者

マーク・コールマンが猪木軍団入りを宣言ダァー!!

『プライド13』の試合後、仰天ニュースが飛び出した！ 『プライドGP』覇者＆グレーテスト18クラブベルト保持者のマーク・コールマンが新日に参戦するというのだ！ だが、実は『プライド』前の本誌のインタビュー（3月22日）で彼は既にそのことを語っていた。猪木軍団入り目前のコールマンのプロレス・ラブぶりと、とにかくいい加減でゲンキンな発言の数々を楽しんでいただきたい。

聞き手◎中村カタブツ君
撮影◎吉澤晃（試合写真以外）

◀ホームレスの格好をした猪木の写真を見て茫然自失状態のコールマン。だが、「イノキは天才だからなぁ……」と自分を納得させていた

今、ニュージャパンから話も来てるしな……

——10カ月ぶりの「プライド」ですが、やっとベルト姿のコールマンさんが見られるってわけですね（笑）。

コールマン ん？　あぁ、ベルトかぁ。

——どうしたんですか？

コールマン ハァ〜、正直に話すが日本に来るのにとても急いでいて……。ちょっと置いてきてしまったんだよ。

——まさか忘れた？（笑）。

コールマン ノー！　忘れたんじゃない。置いてきてしまったんだ。

——だから、忘れたってことですよね（笑）。

コールマン まあ、そういう言い方もできるな（笑）。

——いい加減な人ですねぇ。チャンピオンになった時はあんなに喜んでたのに（笑）。

コールマン あの夜はあらゆる感情が湧き上がって、とても特別な夜だったよ（笑）。

——はしゃぎまくって客席にまでなだれ込んで、どこに行くのかと思いました（笑）。

コールマン オレもさ（笑）。オレはファンのところに行きたかったんだ。彼らのサポートでベルトを取れたようなものだからな（笑）。

——なのに忘れた？（笑）

コールマン もういいよ、その話は（笑）。

——はい（笑）。で、今回は猪木さんについて聞きたいと思ってるんです。

コールマン OK！　ミスター・イノキは生きる伝説で、非常に尊敬してる。彼の手の平に触れると身体が熱くなるし、古傷が治ったような気になるから不思議だ（笑）。

——〝信頼できる超能力者〟って感じですね（笑）。最初に会ったのはイノキ・ボンバイエ前のロサンゼルス特訓の時ですか？

コールマン そうだ。あの時はできるだけ多くのことを彼から学ぼうと思った。〝強くてパワフルであれ〟〝自分にできないことはやるな〟と言われた。技に関してはダイナミックに見えるようにより高く上げて思い切り叩きつけるということだね。ファンがよく見えるようにね。

——イノキ・ボンバイエの時は非常にいい動きで、日本でも評価はかなり高いですよ。

コールマン オレも凄く楽しかったな。もっと頻繁にやりたいね（笑）。

——ホント、「プライド」の選手があそこまで見事にプロレスができるとは思ってなくて、凄く驚きました。

コールマン オレはまったく驚いてないね。なぜなら、オレは生涯ずっとアスリートであり、パフォーマーであったからさ。プロレス出場は別の競技にシフトチェンジするようなものだからね。ただし、もの凄く違っているものでもあるんだ。

——違ってるっていうとどこですか？

コールマン パフォーマンスの部分というか……う〜ん、忘れた（笑）。

——忘れましたか（笑）。ボンバイエの時は猪木さんにビンタされてましたけど、あの張られっぷりも良かったですねぇ（笑）。

コールマン あれはちょっとやり過ぎだっただろ（笑）。

——いいえ、バッチリでした（笑）。今後も話があればプロレスの試合をしていきたいと思ってますか？

コールマン そうだね。今ニュージャパンから話が来てるしな（笑）。

——エェェ!?　新日に上がる可能性があるんですか！

コールマン 細かいところを今、ニュージャパンと「プライド」が詰めてるところだ。これについてはマネージャーが今やってるから待ってる段階だよ。

——じゃあ、5月か6月にも出る可能性はあるんですか。

コールマン それはミスター・イノキ次第さ。オレのほうは準備OKだよ（笑）。

——ぜひ闘ってほしいですね（笑）。今、猪木さんのもとには藤田選手など「プライド」とプロレスの両方できる人々が集まってますが、コールマンさんもその中の一人として活躍したら面白いですよ（笑）。

コールマン もちろん、そうなりたいさ！（笑）。契約があって頻繁にはできないが、オレ個人はいつでもプロレスの試合を行える準備をしている。そこで多くのことを学んでスターになりたいんだ（笑）。

——スターになってください（笑）。猪木さんのもとで活躍してる選手はみんな注目されてますから、目立ちたがり屋のコールマンさん的にはイイ選択だと思いますよ。

コールマン イエス！　ミスター・イノキは〝ザ・マン〟だ！　男の中の男さ！

——ベタボメだ（笑）。ところで猪木さんはとっても素晴らしい人ですが、リング上でこんな格好（2・18両国でのホームレス写真を見せながら）をする時もあるんですよ。それでもついていきますか？

（笑）。

コールマン （しばらく写真を見て）イノキは狂ったのか？　最近のことなのか？

——はい。ごく最近のことです（笑）。

コールマン 信じられないな……。う〜ん、だが、彼は天才だからなぁ……。

——まあ、その写真を簡単に説明すると、現在、猪木さんは新日本プロレスとシ烈な生存競争をしてるわけです。その流れの中で、新日のリングでわざわざそういう格好をすることで挑発しているんですね（笑）。

コールマン 彼はニュージャパンを潰そうとしてるのか？　そして新たな理想のリングを作ろうとしてるのか？

——そのとおりです。それが猪木軍団です！

コールマン OK！（ニヤリ）。ぜひ、その軍団に入れてくれ！　オレがカリスマとはどんなものかを見せてやるよ（笑）。

——素晴らしいですね、期待してますよ（笑）。ボンバイエで闘った新日の永田選手も、もう一度闘いたいと言ってましたし。

コールマン 彼とはシングルマッチでやってみたいね。いい試合になると思う。

3・25『プライド13』でアラン・ゴエスを破り、第3代グレーテスト18クラブ王者になったコールマン。初防衛戦の相手は誰だっ？

ぜひ、イノキ軍団に入れてくれ！

――『プライド』のリングで闘うのも面白いかもしれませんね。

コールマン　は？　それはいい選択じゃないだろう（笑）。オレは『プライド』のチャンピオンだぞ。まあ、ナガタがホントに闘いたいというならカモン!だ（笑）。

――オバケ・ジムの時には永田選手と一緒に練習されてましたからね。

コールマン　（突然）ノー、オバケ・ジム！　その名前はオレの前で出すなー！　ジムのオーナーは多くの選手たちを騙したんだ。オレはヤツをぶっ潰してやりたい！

――え!?　それは知りませんでした。じゃあ、もうオバケ・ジムでは練習してないんですか。

コールマン　そうだ。オバケ・ジムはもう閉鎖されている。オーナーはゴールドバーグ（崩壊したWCWのトッププレスラー。オバケ・ジムではコールマンのジムメイト）にもオレにも多くの嘘をついたからな。

――じゃあ、ゴールドバーグともう一緒に練習してないんですか。

コールマン　今は一緒に練習してない。

――へぇ～、それはホントに知りませんでした。ところで東スポにゴールドバーグが『プライド』で闘うって書いてあったんですけど知ってますか？

コールマン　知らないな。

――え～と、記事では猪木さんがゴールドバーグと接触しているようですが。

コールマン　まあ、それは可能だろうさ（苦笑）。ただ、『プライド』で闘ったら彼の評判を傷つけることになるだろう。彼はいいファイターだ。だが、『プライド』で闘いたいならそれ専用の練習をしないといけないだろう。昔、そんな相談を受けたこともあるがな。

――逆にゴールドバーグからプロレスのアドバイスをもらったことはありますか。

コールマン　彼からはたまにアドバイスをもらったことはあるけれど、彼と私はスタイルが違うからな。オレがやりたいのはジャパニーズ・スタイルのプロレスなんだ。

――ストロング・スタイルですね（笑）。

コールマン　ん？　そう、オレが目指しているのはそれさー（笑）。

――ところでストロング・スタイルって猪木さんが提唱しているプロレスだって知ってました？（笑）。

コールマン　ん？　知らない。だが、アスリート的なものだろ？　それがオレはやりたいんだ（笑）。

――いいですねぇ（笑）。で、話は戻りますが、ボンバイエの試合を見た武藤選手が「もっとスープレックスは大事に使ったほうがいい」と語ってましたが。

コールマン　ホォ、勉強になることを言ってくれるなぁ。なら、もっと練習して重いスープレックスでヤツを潰してやるさ！　オレのスープレックスは最高なんだ！

――いや、あの、だからコールマンさんのスープレックスが最高なのは当然です。ただ、何回も出さないで一発で決めたほうが良かったってことを言ってるんですよ。

コールマン　分かった、練習するよ。だが、オレはあの試合で1回しか投げてない。

――あれ、そうでしたっけ？

コールマン　オレはあの試合を何度もビデオで見てるけど1回しか投げてないぜ。ナガタはマーク・ケアーを6回も投げたんだ。信じられないことだよ。

――そうだったんですかぁ……。

コールマン　ビデオを見てほしいね。（ビデオで見直したところ、コールマンはやっぱり4回も投げており、一方、ケアーが投げられたのは6回じゃなくて4回。自分のことは少なめに、ライバルについては上積みして申告するこの男、実に恐るべし－）

――プロレスにしても『プライド』にしても、お客さんの前で闘うのは一緒ですよね。そういうプロとしての部分はコールマンさんは重要視してますか？

コールマン　イエス！　それはとても重要なことだ。オレの闘いは常にエキサイティングだ。退屈な試合なんかしたことはない。オレをマーク・ケアーと一緒に考えてほしくないね（笑）。

――元タッグパートナーなのに厳しいこというなぁ（笑）。

コールマン　勝つだけじゃなく観客を喜ばせなきゃダメだってことは理解してる。オレの試合を見れば分かるだろ？

――分かります。今後のコールマンさんには期待大ですね。ぜひ、頑張ってください（笑）。■

▲昨年の大晦日に行われた「イノキボンバイエ」で対戦した永田裕志については、「シングルでやってもいい試合になるだろう」と言うコールマン。この対決は実現するのか？

3.24★フランス・パリ
ベルシー総合体育館

なんと主催は格闘技雑誌！

格闘技の祭典inパリに 極真&パンクラスも参加！

◀▶フランスの格闘技雑誌『カラテ・ブシドー』が毎年、主催している格闘技の祭典。今年はパンクラスも参加し、船木誠勝がデモンストレーションを行った。鮮やかな関節技のコンビネーションにパリっ子も大喝采！ 船木は現地で、同誌の表紙モデルを務めたりパンクラスのセミナーを開いたりと大忙しだったとか

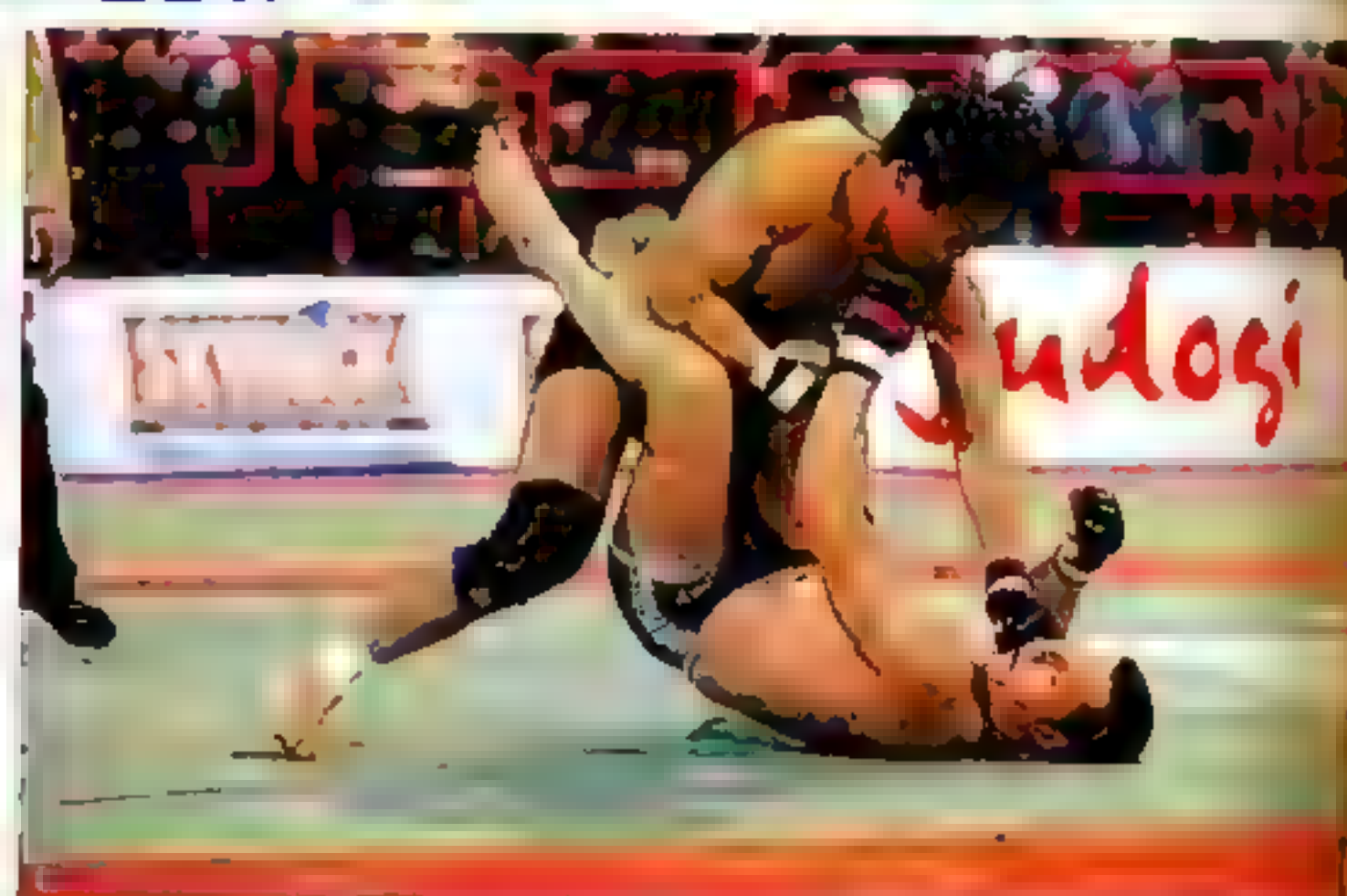
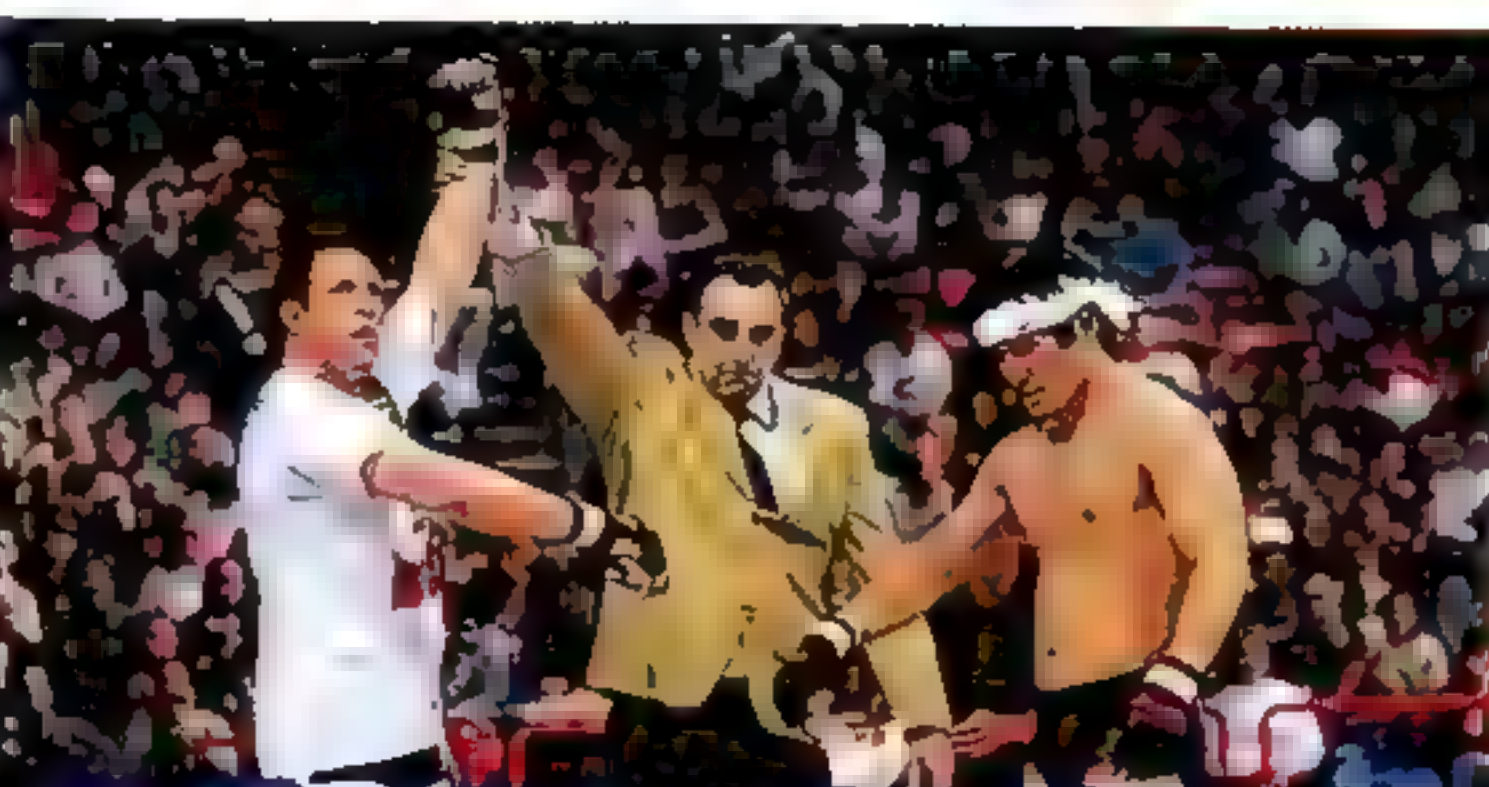
会場は超満員18000人！ 船木は雑誌の表紙も飾った！

フランス初のVT戦を制した、謎の格闘技"パンキドー"とは何か？

極真全日本王者も登場！

▲▼極真からは昨年の全日本王者・木山仁（写真上）と成嶋竜（写真下）、伊藤慎が地元選手を相手にエキシビジョンマッチを行った

Photo by Johann Vaynot/Karate-Bushido

▲まだプロデビューしていないが、荒井健志もパンクラスの選手。相手のジル・アルサンが柔術家ということで寝技の稽古を積んできたが、いざやってみるとアルサンは打撃勝負！ 結局、荒井はパンチでダウンし、最後はチョークでタップ

◀▲このイベントでは、フランスで初のバーリ・トゥード戦も行われ、パンクラスの選手2人が参戦。昨年の『ネオブラッド・トーナメント』準優勝者・渡辺大介（横浜道場）はアントニー・レイと対戦、押し気味に試合を進めたものの場外ブレイクに阻まれて極めきれず、パンチで流血してTKO負けとなった。レフェリーを務めたのは『カラテ・ブシドー』誌の編集長ロンバルド氏。レイはフランスの格闘技"パンキドー"の選手で、このパンキドーというのが（以下本文）

サダハルンバに強力ライバル出現か!?

本誌編集長のサダハルンバ谷川に「格K」の"ザンス"山田編集長、「ゴン格」のクマクマンボ企画部長など、日本の格闘技マスコミのトップはなぜかキャラの立った人ばかりだが、本誌と提携しているフランス「カラテ・ブシドー」誌の編集長・パトリック・ロンバルド氏も負けてはいない。

去る3月24日、パリで開催された「格闘技の祭典」。会場のベルシー総合体育館は3年前に極真のワールドカップ（国別団体戦）が開かれ、来年はヨーロッパ大会が大々的に行われるという。いわばフランスの格闘技の聖地で、今回も18000人の大観衆が詰めかけていた。で、そんなビッグイベントを主催したのが、なんとロンバルド氏率いる「カラテ・ブシドー」なのだから驚くばかり。

極真をはじめ様々な武道の試合、演武が行われたこのイベントでは、フランスで初のVTも実現した。パンクラスから渡辺大介と荒井健志が出場し、残念ながら2人とも敗れてしまったのだが、注目すべきは渡辺を下したアントニー・レイの操る"パンキドー"なる格闘技。空手と合気道をミックスしたようなものらしいが、このパンキドー、実はロンバルド氏自らが考案したのだという。

海の向こうに、アリーナ・クラスの会場を満員にするイベントを開き、格闘技の流派までおこしてしまう編集長がいる……。藤原紀香の最多共演タレントであり、ショップ経営も順調と怖いものなしのサダハルンバ編集長だが、ここにきて強力なライバルが出現したと言わねばなるまい！■

『プライド14』前に新たな試練！
4・29『キング・オブ・ザ・ケイジ8』に挑む、

バトルサイボーグ

大山峻護

『プライド14』を前に『キング・オブ・ザ・ケイジ8』への出場が決まった大山峻護。前回の『キング・オブ・ザ・ケイジ』では17秒KO勝ちというあまりにも鮮烈なプロデビューを飾った彼だが、本人的には凄いことした自覚がまるでない。総合格闘技にかける意気込みと、バカ正直で不器用だがそこがまたたまらなく愛しい彼の魅力に迫る。ああ、峻護、ボクは惚れました♥

オランダのバトルサイボーグ、ディック・フライの筋肉美を目指す大山は肉体改造に余念がない。トレーナーの宮野成夫氏はまだまだ筋肉がつくと太鼓判！(ゴールドジム・ノース東京☎03-3917-9434)

「吐くまで挙げます。ボク、不器用ですから」

聞き手◎中村カタブツ君
撮影◎山口比佐夫

ボクは「合コン王」じゃないですよ。全然おいしいことないですよぉ

——前回の『キング・オブ・ザ・ケイジ』は凄かったですね、120キロの大男を秒殺KO。結構反響があったんじゃないですか。

大山　反響はデカイですね。ありがとうございます。『プライド』の会場でも握手してくださいって人がいて。普段は全然そんなことないんですけど（笑）。

——握手の他には変わったことはあります？　マスコミの取材が増えたとか？

大山　それはあります。勝つとこんなにデカイんだなぁっていうのをつくづく感じましたね。

——「relax」では合コン王としても紹介されてましたけど（笑）。

大山　あ!?　いやいや違います違います違います（早口で）。ボクはセッティングを頼まれるんですよ。友達から「やってよ」って言われると、約束は守んなきゃいけないなと思っちゃうほうなんで、それでセッティングは。……だけど、ボクは全然おいしいことはないんですよ！

期待してるのに（笑）。

大山　いややや、違います違います（さらに早口で）！

——だって、70人も動員できるんでしょ（笑）。

大山　それはぁ……。もうやめましょうよ、この話はダメですよぉ！

——見た感じはホントに真面目そうなんですけどねぇ（笑）。

大山　真面目ですよぉ。もう、試合の話をお願いしますぅ。

——じゃあ、他の話をしましょう。先日、スチュワーデスの方々と楽しく飲まれたって聞いたんですが（笑）。

大山　あああああ！　違います違います！　あれはあるレフェリーの方から誘っていただいて。……もうやめましょうよぉ。

——分かりました（笑）。では前回の『キング・オブ・ザ・ケイジ』を振り返ってみるとどんな感じですか。

大山　なんか、入場する時にこれがボクの仕事なんだなって思えたんですよ。それが不思議な感覚で。言葉で言い表すのは難しいんですけど。

——緊張感じゃなくて、静かな気持ちで金網の中に入っていけたんですね。

大山　なんか、会社を辞めて試合に向けて練習している期間って一番曖昧じゃないですか。デビューしてないからまだプロでもないし。ボク自身、オレってなんなんだろうっていう宙ぶらりんな気持ちだったんですけど、それが初めてプロの格闘家として、仕事として一歩踏み出す喜びがあったんですね。不思議な感覚でしたね。

——で、試合の内容も良かったし。

大山　ホント、集中してましたね。

豪雨でマットがツルツル滑っても平気でした？

大山　足はもうツルツルで。だけど、落ちついてましたね、なんか。相手が飛び乗ってきた瞬間に「あ、こいつ寝技できないな」って分かりましたし、立ち上がったら顔があったんでバチンと殴ったら倒れました。

——デビュー戦なのにコンディションが最悪でパニックにはならなかったんですか？

大山　いい練習ができてて、今回は自信があったんで（笑）。

——いい心臓してますよね（笑）。

大山　いややややや（早口で）。

——いやいやいや（笑）。で、29日に『キング・オブ・ザ・ケイジ』で試合が決まりましたけど、相手がジェリー・ボーランダーって格通には出てましたけど。

大山　まだ、何も話は聞いてないんです。ただ、『プライド』に出る前にもっと試合を経験したいんで相手は誰でも。前の『キング・オブ・ザ・ケイジ』が終わってすぐに出してもらえることは聞いていたんで。

——準備はできていると。ところで、ちょっと昔の話を聞きたいんですけど、柔道の実績が結構凄いんですよね。

大山　や、全然全然ですよぉ！　強い方はいっぱいいますんで。ただ、実際にやってみて思うんですけど、柔道と総合格闘技はまったく別のものなんです。やっぱり、打撃があって道衣がない状態なんで。

寝技に関しては柔道の技術って使えると思うんですけど。

大山　でも裸だとまったく違いますね。だから、今まで使ってた技術が使えなくなっちゃうんで。

——へぇ～、基本的なことは一緒なんですよね。

大山　でも、寝技に関しても細かい技術が全然。例えばチョークの取り方とか、ホントに細かいことなんですけど、そういうのを覚えていかないと。

——だって、シドニー五輪柔道金メダリストの瀧本さんとは全日本学生体重別の決勝戦で闘ったこともある、そんな男じゃないですか、大山さんは。

大山　や、そんな男じゃないですよぉ！　何を言ってるんですかぁ！　それは彼に失礼なんで。

——5歳から柔道を始めて、柔道界の名門・講道学舎にも居てっていうのは凄いことでしょ。

大山　ん～、だから、ボクについてはもう論外なんですけど、柔道の実績は関係ないんですよ。この世界はそんなに甘いもんじゃないと痛感してます。

ということはもう少し柔道の技術が通用すると思っていたんですね。

大山　ある程度は柔道の技術は通用するかなって思って入ってきたんですけど、ほとんど使えなかったんで。

アマレスの選手は柔道の足技がイヤみたい。コールマンはボクの足払いをイヤがってました

――ほとんどですか。

大山　そうですねぇ。だから、打撃も裸の技術もちゃんと頭を下げて教えてもらって。そういう姿勢がないと。あと、これだけは言いたいんですけど、総合の試合はやればできるみたいに言う方がいるじゃないですか。でも、打撃っていうのをどこまで考えてるのかなって思うんですね。こういうこと言うのは失礼とは思いますけど、でも、そういうことをボクは絶対に言っちゃいけないと思うんですよ。だって、やってないんですから。やれるだろうっていうのとやってるっていうのはまったく別モノで。

――言うなら出て来いと（笑）。

大山　ややややー　そんなことは言わないですよォー　でも、実際にグローブを着けて裸でリングに上がってっていうのは凄い大変なことだし、スッゴイ怖いことなんですよ。やればできるよみたいなことを言うのは簡単ですけど、それは絶対に言っちゃいけないと思うんですよね。これは前から言いたくて。総合は柔道とは別モノです。だから、たしかに強くなる可能性は高いですけど、実際にリングに上がることだけでも凄い勇気ですから、やってる人に失礼ですよね。絶対に言っちゃいけないですよぉ。

――声を大にして言いたい（笑）。

大山　ここはボクは絶対に譲れないですよ。

――諸先輩方を相手にしても（笑）。

大山　あぁ、いやぁ、うぅぅぅ。ただ、絶対に言っちゃいけないものってあるじゃないですか、やったことのない人間が。小川さんは凄いですよ。あれだけ名前があるから逆にホントに凄いですよ。だから、発言力のある人がそういうことを絶対に言っちゃいけないですよぉ。

――だから、出てきてほしいですよね。やってみろとかそういうことではなくて、凄い技が見れると思うんですよ。ところで大山さんは髙田道場でも練習したんですよね。桜庭さんがとてもホメてたって聞いたんですけど。

大山　ホントですかー　うわぁ、嬉しいなぁ（笑）。

――どうでした、桜庭さんとのスパーは？

大山　やっぱもう、凄くて。底が見えない強さを感じましたね。なんか沼地を歩いてる感じですね。どこを狙ってるのか分からない怖さもあったし。抑え込んだつもりが下から足が出てきて三角絞めをピョコっとか。ボクも初めて掛けられて。

――柔道の人が三角を掛けられるのってタダゴトじゃないですよね。

大山　裸はまた別なんで。あとは足関節とかですね。もう凄いですよぉ。

――道衣がないとポジショニングも全然違うんですか。

大山　そうですね。アマレスの選手の方はいろいろと。ただ、逆に言えばアマレスの選手は柔道の足技が凄くイヤみたいですね。コールマンもイヤがってましたね、足払いみたいなものが。

――ロスでコールマンたちとも練習したんですよね。

大山　ホントに限られてくるんですけど、使える技術をうまく使いつつ。ただまだ模索中ですね。完成形にもっていくまではまだあと1年ぐらいかかりそうですね。

――打撃のほうはどのくらい勉強してるんですか。

大山　教えてもらって1年くらいですね。

――1年ですか。じゃあ、ハードパンチに関しては素質ですね。

大山　でも、まだまだですね。前よりはやっと動けるようになってきたかなぁって感じですね。

――今になって自分がハードパンチャーだって気付いたんですよね。それまで全然気付かなかったんですか。

大山　気付かなかったですね。

――奥襟つかんだら相手が気絶したとか（笑）。

大山　ないです、ないです（笑）。ただ、肩の筋肉が異常に発達してるんですね、ボク。なぜだか分からないんですけど。

――じゃ、そこなのかなぁ。

大山　ですかね。よく分からないです。

――例えば、野球とかで球投げたら凄い速かったりとか。

大山　だけど、ボク、球技が凄いヘタなんですよ。女の子投げになっちゃうんですよ。ホントにヘタなんですよぉ。

――球技がヘタって猪木さんみたいですね、格闘家向きっていうか（笑）。

大山　ホント、ダメですねぇ。ボーリングもダメですね。ボクが投げ始めると友達がだんだん引いちゃうんですよ。あまりにもヘタで（笑）。

――「嘘だろ？」っていう（笑）。

大山　だから、楽しくないんですよぉ。全然楽しくないですよぉ。

――とりあえず、ガーターは当然（笑）。

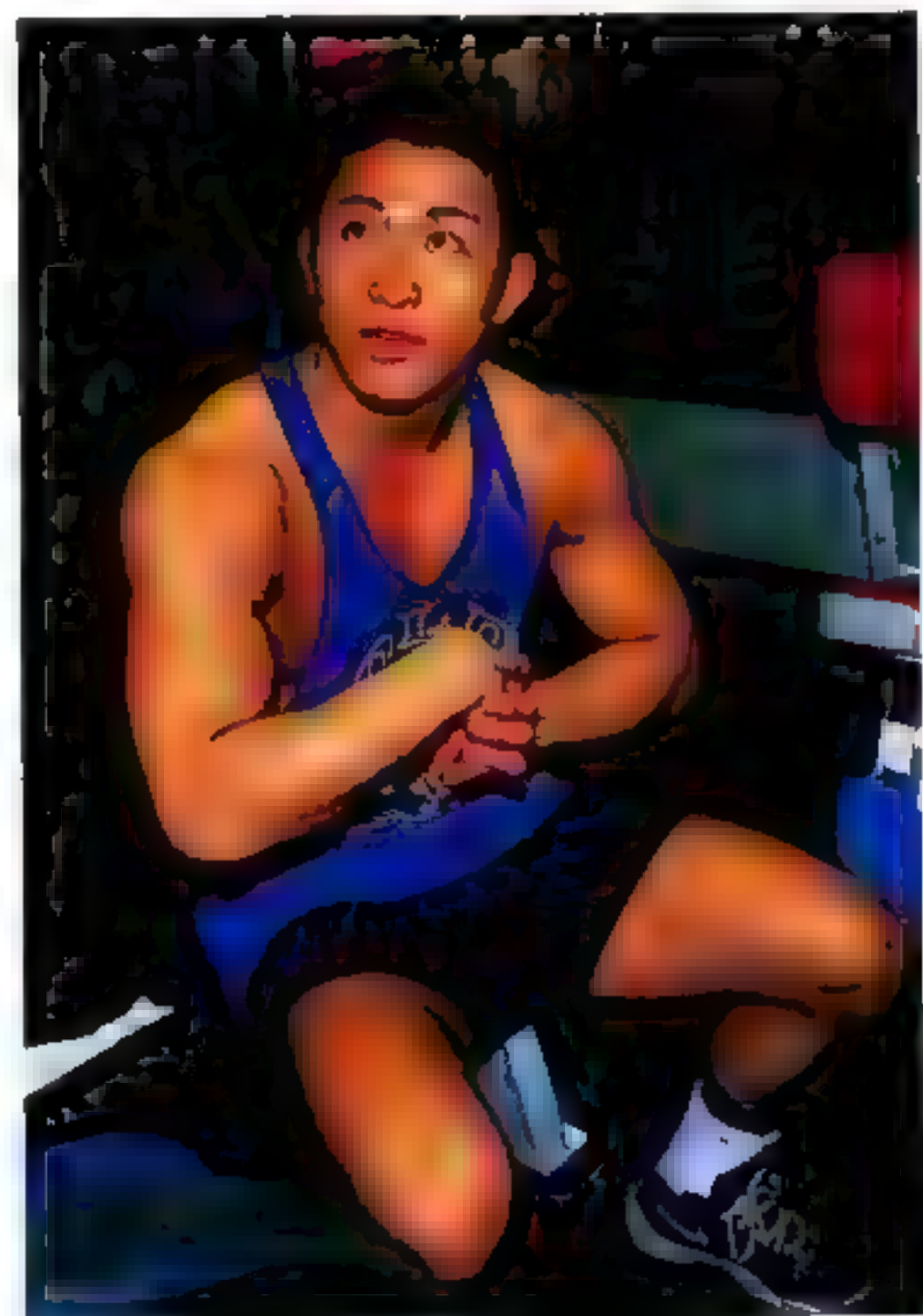
大山　そうなんですよぉ。あとは機械がピンを片づけてるのに投げたりとか。

――なぜですか（笑）。

大山　分かんないんですよぉ。

――でも、球の威力だけはあるんでしょ（笑）。

大山　はい（笑）。

◀1日5食食べる大山だが、トレーナーの宮野氏いわく「彼は新陳代謝がいいんで、まだ食べる量が少ないですね」とのこと。食え！

――それは引くなぁ（笑）。片づけるフレームみたいのに凄い威力でブチ当てたり、ガーターの溝をもの凄い勢いで転がしたりするんだ（笑）。

大山　はい（笑）。

――不器用なんですかね（笑）。

大山　基本的になんでも不器用なほうですね。格闘技も。

――だけど、サンボの全日本選手権4回優勝、アマ修斗で3連続KO、プロデビュー戦で秒殺KOでしょ？

大山　はい。

――不器用とは思えない結果ですけど。柔道でも全日本実業個人で優勝してますし。

大山　う～ん、なんでですかねぇ。

――誰が考えても驚くような、そんな天才肌に見える大山選手ですが（笑）。

大山　や、全然全然違いますよぉ。

――今後どんな選手になっていこうと考えてますか。

大山　やっぱ打撃なんか全然勉強中なんですけど、いずれはどんな選手とも打撃で渡り合えて、最後はやっぱサンボとかで習った派手な大技で。

――飛びつき十字とか。

大山　はい。ビクトル投げとかで。今ま

飛びつき十字とかビクトル投げで決められるようになりたいです

◀不器用な男・大山は筋トレも吐くまでやめない。そのあと、打撃の練習したりと休むってことを知らない様子

での日本人にないような選手になりたいですね。

──だから、技術的なものの蓄積っていうのはいま凄い勢いでしてると思うんですよね。それがいつ爆発するかっていうのが楽しみですよね。

大山 はい（笑）。

──しかも、どうも本番に強そうなんで、期待は高いですし、見せてもらいたいですよね。なんか、ファンに一言あれば。

大山 ファンにですか、う～ん……。

──合コンしましょうとか（笑）。

大山 ややややや、ないです！　そんなことないです、違います！　ん～、成長していく過程を見ていてください、がんばります。はい。

──成長するごとに合コンの質がグレードアップすることを祈ってます（笑）。

大山 これで終わるのはダメですよぉ！

──合コンキャラじゃダメですか（笑）。

大山 ダメですよ、そんなのぉ！

──じゃあ、不器用キャラ？（笑）

大山 それのがいいです。

──あ、一つ忘れてた。昨年のアブダビで一つ疑問があるんですけど、1回戦のヒカルド・リボーリオ戦でちょっと納得できないことがあったんですよね。

大山 そうですね。ちょっと中途半端な体勢になってドント・ムーブになったんですけど、その時に向こうが動いてきて首を絞めてきたんですね。その体勢のまま用意ドンになっちゃって負けました。

──それってアリですか（笑）。

大山 いやぁ。でもアブダビはなんでもアリですね。

──だけど、そんなの審判が見れば分かることじゃないですか。

大山 う～ん、ですよねぇ。

──それに大山さんもなんで黙って絞められたまんまになってるんですか。

大山 いや、ドント・ムーブだから。

──え？　ワハハハ！　だから抗議できなかったと（笑）。

大山 いやぁ、ボク、頑なにルールを忠実に守って（笑）。

──そりゃ、たしかに動いちゃいけないけど。素敵ですねぇ（笑）。

大山 関係者に真面目すぎるって言われて。「おっしゃるとおりです」と（笑）。

──だけど、リボーリオ相手に結構できたっていうのは自信つきますよね。

大山 はい。立ってる時は足をバンバン飛ばしていけたんで、向こうは戸惑ってましたね。それでリボーリオの指が折れちゃって、ちょっと中断したんですけど。また、始まった時にドント・ムーブの体勢になってっていう感じですね。だから、あの結果は落ち込みましたね。

──まあねぇ（笑）。ま、だから、打撃にしろ、グラウンドにしろ、いろんなモノが蓄積されてるわけですよね。

大山 ボクがですか？　全然ですよ、ホントに。それを総合のプロの世界に持っていけるまでの水準にはまだちょっと。

──達していない、と。

大山 そうですね。この前、ＲＪＷの阿部さんに寝技を教えてもらったんですけど、「オレ、こんなに寝技知らないんだ」って思って。ちょっとびっくりしちゃったんで、まだまだ勉強していかないと。だから、まだ不完全のまま試合に出ちゃうと思うんですけど、それはそれで足りない分はあとで補っていって。

──ただ、絶対に本番に強いタイプですよね。

大山 練習は弱いですねぇ。

──そんなに弱さを強調しなくてもいいじゃないですか（笑）。なんかほかにバカ正直なエピソードってありますか。

大山 ないです、ないです。

──あるでしょ？（笑）　ボーリングであれだけのことをしてるんですから（笑）。

大山 あれはボクも恥ずかしいです。

──学生時代とか、恥をかいたことってないんですか。

大山 あ！　昔、柔道の海外遠征でスチュワーデスさんがスッゴイ好きになっちゃって。で、ちょっとお手紙書いて渡したんです。

──お手紙を（笑）。

大山 はい（笑）。でも、飛行機降りたらその手紙がポケットに入ってたんですよ。なんか間違えて領収書を渡しちゃってたんですよ。凄い失礼なことをしてしまって。

──不器用ですから（笑）。あの、ドッジボールとかはどうでした？

大山 全部顔面で受けてましたね。

──そっちはドント・ムーブ（笑）。

大山 はぁ。

──水泳の時とかは。

大山 う～ん、肩が固いんでクロールすると隣りの人を殴っちゃうんですよ。ラリアットになっちゃうんですよ。

──水を向けるといくらでも出てくるなぁ（笑）。では、この辺で今日はありがとうございました（笑）。

大山 あぁぁ～。■

武田幸三よ、かくも重き、ラジャのベルトなのだ！

三日月ローがフル回転。初回のダウンを挽回し、ガオグライに判定勝ち

ダウンは喫したものの、文句なしの判定勝ち。それでも武田の表情はさえない。これがラジャのチャンプとしてのプライドだ

	武田	ガオグライ
モチベーション（闘志・気迫）	5	5
技術・戦略	8	3
KOスピリット	3	3
勝ちっぷり負けっぷり	5	5
全体的な印象・インパクト	5	5
合　計	26	21

撮影◎中島ミノル

これぞ三日月ローだ タイ人の左足が瞬く間に痛んでいくぞ

相変わらず強烈なロー。「ひねりを加えて食い込むようにして打つように練習してきた」と武田

★第10試合/3分5R
○武田幸三（5R判定3-0）ガオグライ・ゲーンノラシン●
〈治政館〉〈タイ〉
※採点…48-46、48-45、48-46。武田は1Rに右ハイキックで、ガオグライは3Rに右ローキックで、それぞれダウンを喫した

花冷えと言うのも、甘っちょろい。なにしろ、明日は4月、桜も満開という日に、東京には雪が降っているのである。だからってわけでもなかろうが、いつも激戦てんこ盛りの新日本キックのリングが、どこか冷え冷えしていた。期待の若手が勝てない。冴えない。会場も超満員とまではいかず、ワッとはじけるような歓声は、一度も聞くことがなかった。

もし、一番に盛り上がったとしたら、この男がリングに入場してきた時だ。武田幸三。ラジャダムナン・ウェルター級王座を、鮮烈KO劇で奪い取ったばかり。その存在感は圧倒的だったのだ。ところが、その武田さえもが、観客たちに冷たい予感を持ってくる。

1Rも残り20秒というところ。ガオグライの右ハイキックが、武田の丸坊主の側頭部を捉える。超合筋の体が一瞬こわばった。それからバッタリと大の字にマットに投げ出される。立ち上がっても、足もとはおぼつかない。

「なんともなかった。強がりじゃなく、打ち合ってやれと思った」

武田自身は強く否定したが、かなり効いていたはず。そう言わせたのは、チャンピオンベルトのプライドだったに違いない。

「王者の誇り」は、すかさず反撃を呼び込んだ。2Rからローキックを乱射する。タイミングもいい。角度もいい。ダウンを奪われたガオグライの右ハイが、大きく満月を描く『円月殺法』なら、こちらは小さく、鋭く、匕首のような『三日月蹴り』だ。「ただ蹴るのではなく、上からねじ込むように打ち込む練習をしてきた」（武田）か

「フラストレーションがいっぱい」それもチャンピオンだからこそ！（武田）

ローとともにパンチも武田の必殺の武器だ。しかし、この日はキックからのコンビネーションが今ひとつ。倒すことはできなかった

武田のコメント

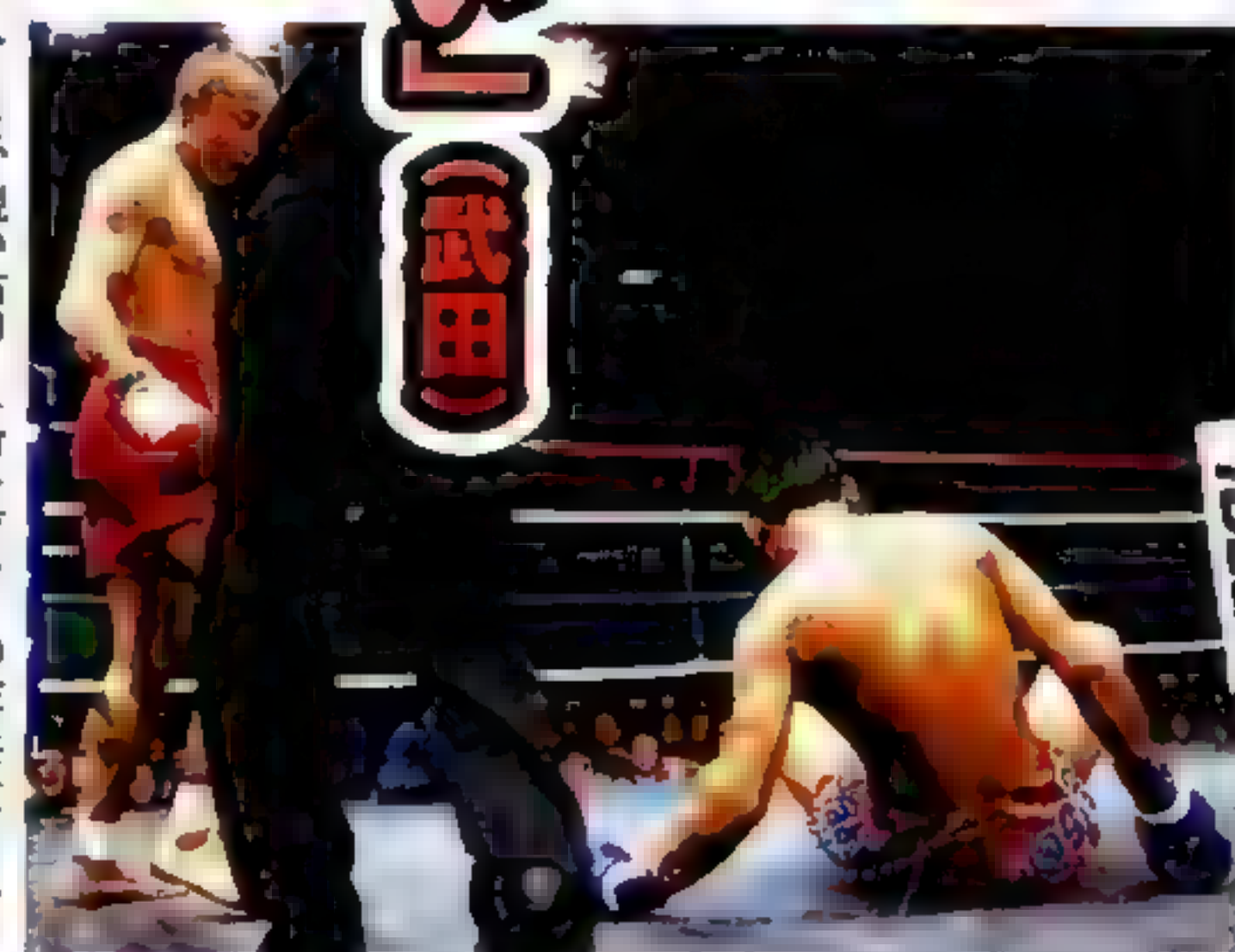
「すごくフラストレーションを感じている。べつになめていたわけではなく、狙いすぎてしまった。（ガオグライは）前蹴りが多いと聞いていたので、それを外してからと思っていたらハイキックをもらってしまった。ダウンも効いていないし、相手の技も軽かったから心配はしなかった。でも、さすが現役、イタ倒れしないね」

ガオグライのコメント

「武田は強かった。ローは重くて痛かった。ダウンを喫した時も、痛くて立てなかったんだ。１Ｒにハイでダウンを取った時にはＫＯできると思ったが、そう簡単にはいかなかったかもしれない。相手がチャンピオンだからといっても、気持ちはいつもと同じだった。タイトルマッチが決まっていたが、こんな足になってできなくなっちゃった」

▶３Ｒ、鋭い右ローをガオグライの左足にカウンターで決め、武田はダウンを奪い返した

▶ガオグライのハイキックには切れ味があった。最初は右ハイだったが、武田が巧みに軸足をローで狙ったために、後半は左しか蹴れなくなった

▶チャンピオンが相手なら、タイ人は常に本気だ。強烈なローで右往左往しながらも。ガオグライは最後まで闘った

▶試合内容はもの足らない。しかし、この苦闘を乗り越えたことが、またひとつ武田を上のステージへと押し上げてくれるのだろう

▲ビックリ、ヒンヤリのこのシーン。ガオグライの右ハイキックで武田はバッタリと倒れ込む

ら、威力もいよいよ図抜けてきた。これが立て続けにタイ人の左太腿を突き刺し、ミシミシと音を立てた。もう、１Ｒの不安は微塵も残っていない。

より展開が明白となるのは３Ｒの立ち上がりだ。ガオグライが右ハイを狙うところに、武田がカウンターの右ローで軸となる左足を払った。倒れ込んだタイ人に、レフェリーはダウンを宣した。

ガオグライのダメージはすでに大きい。もう左足を軸足には使えない。逆側の右足で体を支えて、左のハイキックをクルクルと旋回させるが、迫力はもうない。一転、右のパンチ、左ヒザと攻め立てても、もはや王者の分厚い体に損傷を与えることはできない。

ただし、ガオグライは決して倒れなかった。動くのも厳しそうなのに、たとえ力はなくなっていても、抵抗をやめようとしない。武田もそんなガオグライにとどめの一撃を決めることができなかった。試合はそのまま終了ゴングまで続くことになる。

「お客さんが満足できなかったのは、雰囲気で感じました」

武田は責任感を痛感していたが、それもチャンピオンなればこそ。その思いと同じ分量だけ、たくましさも感じた。初回のダウンを割り引いても、タイトル獲得第１戦としては決して悪いデキではない。もっとも、今後は、タイ人の目も変わってくる。今日のガオグライのように、どんなに苦しくても諦めないだろう。一発食えば、自分の名前が上げられるからだ。

ベルトというのは、かくも重いものなのだ。

（宮崎）

なに？ムエタイ王者が判定勝利!?

はせキョーの祝福を受けても小笠原の顔に喜びなし!!

試合後の控室では長谷川京子から祝福を受けるも、試合内容に満足できない小笠原の顔に笑みはない

▲ラジャの王者らしい試合ができず、判定勝利を得るも落胆する小笠原

★第11試合/3分5R
○小笠原仁（5R判定2-0）メッケンナー・ソー・キンスター●
（伊原道場）　（タイ）
※採点…50-49、49-49、50-47

▶1Rから積極的に出していったローキック。4Rになるころには相手の太股の色が黒ずむほどになるのだが、攻めきれず

▶こんな感じでいいパンチが何度も当たっていた。だが、メッケンナーはタフなのか、それでも攻めきれないのだ

▶最終ラウンドは強引に前に出ていく小笠原。だが、メッケンナーはすぐにクリンチをしたりで打ち合いに応じず

小笠原のコメント

「ダメでした。0点です。ボロクソに書いてください。何も言うことはないです。（次の試合に向けて改善する点は）全部です。全部やり直しです。すいません、今日は。もう一回イチからやり直します」

メッケンナーのコメント

「勝てたと思った。敵地であり、不利だとは思ってたけど、試合が終わった時には絶対に勝てたと思った。あんまり気分がいいことじゃないけど、スポーツには勝ち負けが付き物だからしょうがない。攻撃で効いたものもないし、怖さもなかった。チャンスがあればまた挑戦したい。（身長、体重とも小笠原のほうが上だったが）そういう面でやりにくさはなかった」

ミスター「こんな男に惚れてみろ」こと伊原会長も登場だ

▲1R終了と同時に、たまらずリングインしてきた伊原会長。やはり熱い！　惚れたぞ！

	小笠原仁	メッケンナー
モチベーション（闘志・気迫）	7	5
技術・戦略	5	5
KOスピリット	8	5
勝ちっぷり負けっぷり	1	5
全体的な印象・インパクト	5	5
合計	26	25

テレビ収録がないにもかかわらずキチンと会場に駆けつける前向きな姿勢が素晴らしいぞ、はせキョー！　ってことでそんな、はせキョーを使って人目を引くこのページは、キックファンが少ない本誌ならではの姑息なヤリ口なのでまずはあしからず。

でだ。キック界の新日である、新日本キックは武田＆小笠原という2人のムエタイチャンプを擁し、高いレベルで強さを競い合う、まさにストロング・スタイルな団体。加えて、いつ何時でもリングにダイブするミスター〝こんな男に惚れてみろ〟こと伊原〝会長〟の闘魂キャラがファンに認知されてるのも新日ばりか？

ともかく、立ち技格闘技の最高峰にして最強の証であるムエタイのベルトを巻く2人の日本人キックボクサーが、ノンタイトル戦とはいえベルト奪取後、初めてリングに立つわけだからファンの期待は高いし熱い！

しかし、その期待にメインの小笠原は応えることができなかったのが残念。中間距離では得意のパンチとローキックを結構入れているのに、どうにも詰めが甘い。相手のメッケンナーがタフでクリンチワークがうまかったとはいえ、ムエタイのベルトを巻く男ならここはキチンと始末しなけりゃ話にならない。で、何が腹立たしいって試合後、「勝っていたと思った」とかランカーでもないメッケンナーにほざかせたことである。いいのか、これでチャンプよ！

だが、それは本人が一番よく分かっていること。小笠原よ、苦しみの中から立ち上がれ！　（ブチ）

石井宏樹、深津飛成にまたもムエタイの壁。いつまで試練は続くのだ!?

▶石井はソンコムの鋭いミドルで、容易に近づくことができない。空転させせられるまま、ジリジリとポイントを失っていった

▶1R、右ハイで「生まれて初めて」のダウンを喫した石井。ダメージはなかったが、これで攻防がメタメタになってしまった

▶深津のローキック。序盤戦はこれから得意のパンチ攻撃につなげて、快勝を予感させたのだが

★第7試合/3分5R
○ソンコム・ギアッヌクン（5R判定3-0）石井宏樹●
〈タイ〉　〈藤本ジム〉
※採点…50-48、50-46、50-46。石井は1Rに右ハイキックでダウンを喫した

▶中盤戦以降、サックテーワンが前蹴りを多用し始めたとたん、深津の苦闘が始まった。あとはまったく思いどおりに闘わせてくれなかった

★第8試合/3分5R
△サックニラン・サックテーワン（5R判定1-0、ドロー）深津飛成△
〈タイ〉　〈伊原道場〉
※採点…49-49、49-48、48-48

この後、二人のラジャダムナン王者が登場するだけに、タイ人に一切手心はなかった。石井宏樹も深津飛成も厳しい試合を強いられる。まず石井は、ツルツル坊主のソンコムにいきなりダウンを奪われる。右ハイをカウンターで決められたのだ。ダメージはさほどではなかったが、これで石井の攻撃のメカニズムはガチャガチャになった。接近すれば左ヒザでレバーを串刺し、中間距離からはミドルでビシバシ。そんなソンコムの余裕の試合運びに、石井は得意のパンチからのコンビネーションを完封される。最後の最後まで何もできなかった。深津の立ち上がりは悪いようには見えなかった。遠い間合いから切り込むパンチがいい。特に左フックのボディブローが強烈だ。ところが、サックテーワンが前蹴りを多用し始める3Rあたりから何もできなくなった。4Rにはジャブ代わりの前蹴りでコントロールされ、右ストレートでぐらつく。深津もやっとこさの引き分けだった。（宮崎）

打撃戦に打ち勝つ！武田の後がまに米田克盛

▶亀谷の荒っぽい攻撃にさらされながら、米田は常に冷静に闘った。トーエルジムから生まれた初めてのチャンピオンだ

▶菊地剛介（伊原）は鬼貝文久（誠真）の長いリーチとトリッキーな間合いに苦しむ 2-1の判定で辛くも勝利し、日本バンタム級王座を守ったが、天才的とも言われるセンスは影を潜めたままだった

菊地剛介も厳しく勉強中 薄氷の判定勝ちで、やっと防衛

◀武田幸二が返上した日本ウェルター級タイトルは、米田克盛（トーエル）と亀谷雷也（伊原）が争い、激しい打撃戦の末、正確な攻撃が光った米田が判定勝ちした（第6試合）

21世紀へと受け継がれる

"されどキック"道

伊藤隆引退の日、魔裟斗、土井広之が強烈自己主張！ そして"メインを張った小比類巻は……

伊藤隆の引退セレモニーが行われた今大会。メインの大役を務めたのは小比類巻貴之だった

◀魔裟斗は伊藤の最後の試合（エキシビジョン）の相手として登場。「21世紀のキック界は僕に任せてください」と宣言した

◀魔裟斗の発言に異を唱えたのが、シュートボクシングの土井広之だ。「キック界を引っ張るのは、魔裟斗くんじゃなく僕です！」。土井は5月20日のMAキック後楽園大会で、昨年12月に魔裟斗を下したタイ人・スリヤーと対戦する

	小比類巻貴之	マキシム
モチベーション（闘志・気迫）	8	5
技術・戦略	3	5
KOスピリット	5	0
勝ちっぷり負けっぷり	0	0
全体的な印象・インパクト	2	1
合　計	18	11

それにしても、キックの世界にはどうしてこう〝選手がケガで欠場→代打選手が急きょ出場〟というパターンが多いんだろう？　練習中のケガは不可抗力という部分があるにしても、選手管理など、もうちょっとどうにかならないもんだろうか。まして事前の発表がなく、いざその試合になって初めてカード変更が発表されるなど論外。観客への背信行為じゃないかと思うのだが。

この日も、フライ級タイトルマッチの森岡タカシVS長瀬悟戦が中止（長瀬の欠場）となり、メインイベントも、小比類巻貴之の相手が鴨村哲昌からロシアのマキシムに（それも試合の前日に！）変更になった。

小比類巻自身も右の拳を負傷（骨がズレている状態）していたが、試合はキャンセルしなかった。「フリーなんで、そんなこと言ってられない」し、何より今大会は伊藤隆の引退記念興行だ。偉大な先達がリングを去るというのに、休んでなんかいられない。

モチベーションだって高かった。伊藤の引退セレモニーに出席するため、緒形健一、土井広之、魔裟斗、大野崇といった中量級の選手たちが、こぞって会場を訪れていたのだ。ライバルたちが見ている前で、ヘタな試合はできない。特に土井と魔裟斗は〝21世紀のキック界を引っ張るのはオレ〟とマイクを通じて強烈にアピールしていた。だから小比類巻は、なおのこと試合内容で存在をアピールしなければいけなかった。ケガはしたが、相当に自分を追い込んだ練習をしてきた自信はあったし、リングでも気合い充分だった。

ライバルたちの前でまさかの膠着
「これで満足してたら、日本のキックは終わりですよ」

◀▼魔裟斗、土井ら中量級のライバルたちが見つめる中、小比類巻はロシアのマキシムと対戦。勝利だけでなく、いい勝ち方も要求される試合だったが、ワンツーからクリンチ、そしてヒザというマキシムの戦法に持ち前の鮮やかな攻撃をほとんど封じられてしまった

★第10試合/メインイベント(3分5R)
○小比類巻貴之(5R判定3-0)マキシム・グレチキン●
〈チーム・ドラゴン〉　〈ロシア〉
※採点…50-4[illegible]、5[illegible]-49、50-4[illegible]

小比類巻のコメント

「相手が変わったからと言うのは言い訳になってしまうので。とにかく相手がやりづらかったです。噛み合わなかった。ローもそんなに当たってなかったですね。（パンチをほとんど出さなかったのは？）これも言い訳になるんですけど、右の拳を壊してました。でも試合をキャンセルしようとは思わなかったです。フリーなんで、そんなこと言ってられない。今日は特に練習して、気合い入れてやってきたつもりだったんですけど……。空回りしましたね。（内容には満足？）これで満足してたら、日本のキックは終わりです（苦笑）。自分に負けない練習をしてきて、精神的にも気合い充分でリングに上がったんですけど、こういうこともあるんだなと実感しまし　」

▶ローキックはダメージを与えたものの単発。得意のハイキックも何度か相手の頭をかすめたが、倒すまでには至らず。蹴りを空振りしたり、躊躇する場面も多かった。「狙いすぎ？　そんなつもりはなかったんですが……」（小比類巻）

▲結局、判定で勝利した小比類巻だが、本人も観客も満足にはほど遠い試合だった

▶団体の枠を越え、多くの選手、関係者が引退式に顔を見せていた。家族、山口元気、港太郎ら山木ジムの仲間たち、それに正道会館の大野崇やSBのシーザー武志会長、緒形健一の姿も

▲伊藤の引退セレモニーには、兄のデビッド伊東も出席。「第2の人生でもチャンピオンになってください」と声を詰まらせながらメッセージを送った。伊藤もこの時ばかりは涙……

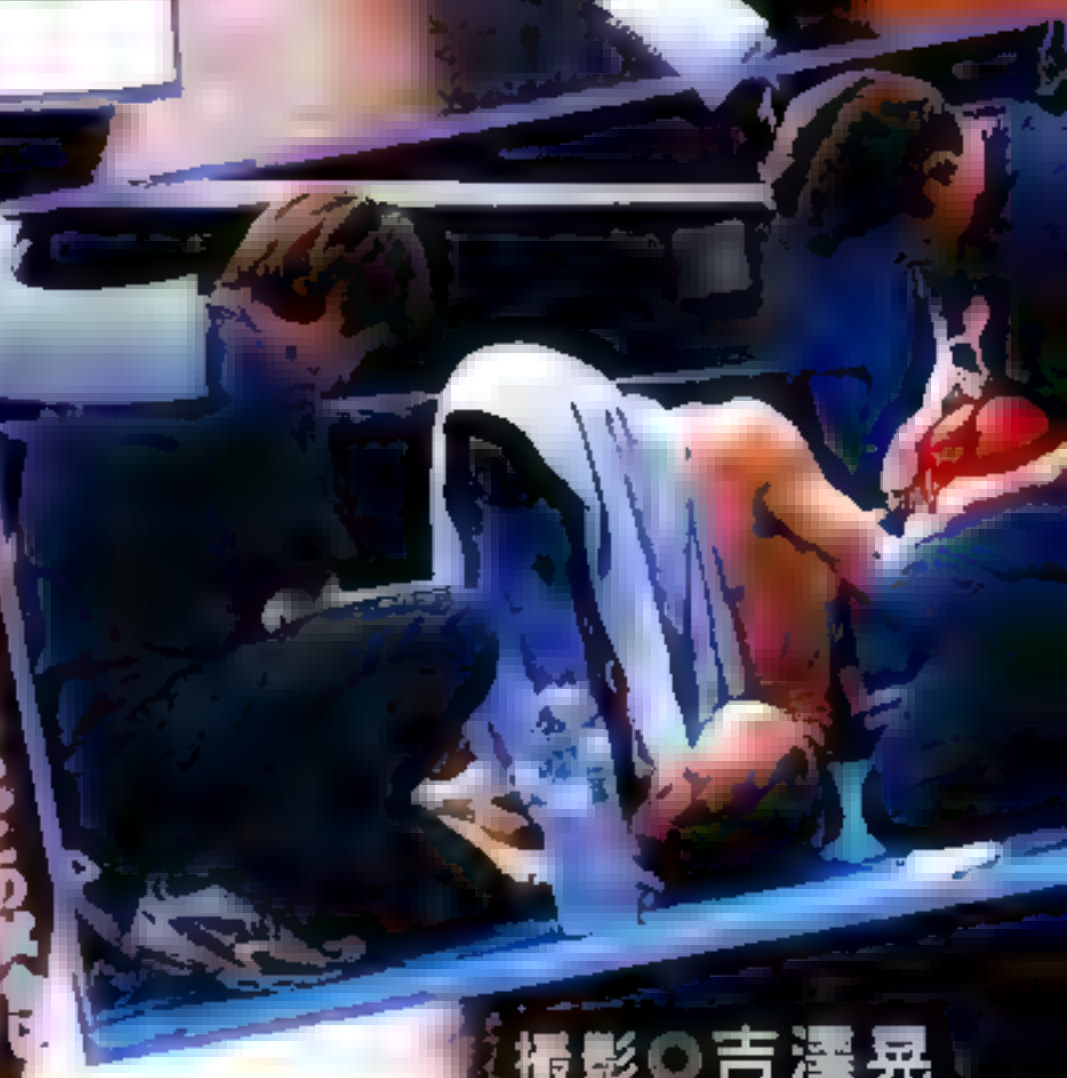
グ上でも気合い充分だった。

——と、これで小比類巻がKO勝ちでもすれば、全て丸く収まるところなんだが。肝心の試合はスカスカの凡戦。観客はイライラさせられっぱなしだった。

大きく距離を取って逃げるか、一気に詰めてクリンチするか。マキシムの極端な戦法に、小比類巻はいつまでもペースを掴めないままだった。右のパンチが使えない上に、頼みの蹴りも空振りが多い。勝因となったローキックも、ダメージは与えるがいかんせん単発だった。一番の問題は、前回、ダニエル・ドーソンに負けた時と似たような試合展開だったこと。敗北に学ぶのは、自分を成長させるための鉄則じゃないか！

今回の小比類巻の試合は〝X〟だ。どんなマイナス要因があっても、観客を満足させなければいけなかった。彼は試合後「（ケガや相手が変わったことを）言い訳にしたくない」と言ったが、言い訳をしないんじゃなく、言い訳の必要がない試合をしてほしかった。反省して済むようなレベルの選手じゃないだろ、君は？

急すぎるカード変更などは、たしかにキック界がマイナーであるが故の問題点。でもそれを力技でも乗り越えないことには、いつまでも未来は開けてこない。

伊藤が素晴らしい選手だったのは、キックのマイナーな体質にさんざん悩まされながらも、そこでクサらずに結果を残してきたからだ。若い選手たちに学んでほしいのは、伊藤の技術ではない。伊藤が歩んできた〝キック道〟、そのハートの在りようなのだ。（橋本）

▲「ありがとうございました」と、立嶋はそれだけ言い残してリングを去った。インタビュースペースでも「やっぱり今日は話すことはありません」とすぐに席を立った

酷いKOだった。無惨な敗北だった。そして、ファイターとして、これが決して避けて通ることのできない宿命である。

呆然とマットに座り込んだ立嶋篤史は、やっと立ち上がると、マイクを手に取った。なかなか言葉は見つからない。やっと探し当てたのは、この11の文字だ。

「ありがとうございました」

もともと表現はうまくないこのキックボクサーは、以下を全て省略した。そのかわりにリング四方に深々と頭を下げた。今、彼がどんな心境にあるのか、痛いほどに察することができた。

足取りはおぼつかない。しかし、介添えを申し出たセコンドを制すると、自分の足でしっかりと階段を下り、「その後の選択」へと向かう花道を歩いて去った。かつて、日本のキックボクシングのリーダーでもあった男の切ない矜持が見えた。

同じ頃、ドレッシングルームでは勝者がインタビューを受けていた。大月晴明は無傷の7連勝で6つ目のKOをマークしていた。その口調はどこまでも弾んでいた。

「立嶋さんは雲の上の人でした。まさか闘えるなんて思ってもいませんでした。勝てて嬉しいです」

残酷なまでの対照が、そこにはあった。繰り返しになる。これが闘うということなのだ。

勝負は最初から大月のものだった。大月のワイルドなパンチが支配した。ボディに打ち込んだ左フックが、大きな音を立てて後楽園ホールに響く。小柄ながら、バネのように柔軟な体を、めいっぱい使って放り込んでくる大月のパン

CROSS FIRE-Ⅱ

全日本キック
4·6★後楽園ホール

金沢、"大人の味わい"で新鋭・浜川を制す

▶話題のフランス人ムエタイ戦士スカボロスキーと対戦する権利を賭けた一戦、金沢久幸はより積極的に闘い、新鋭・浜川憲一を判定で退けた

▶ガードを固めて一発を狙った浜川だが、金沢は常に先手を奪い、ジリジリとポイントを奪った

▶全日本キック初登場の大野崇は2Rにパンチの連打で中村高明からダウンを奪う。終盤戦、中村の粘りに手こずったが、うまくそのまま逃げきって、判定勝ちを手に入れた

4連続1RKOのパンチは本物。この大月が立嶋に引導を渡した

▲5R、大月のパンチの連打に立嶋は崩れ落ちた。7戦7勝6KO、これで5連続KO勝ちの大月は、今後、全日本キックの顔になる。大月は、かつて立嶋が引導を渡した清水隆広の弟子。これも運命か…

▶大月の伸びのいい左パンチがカウンターで決まる。素晴らしいパンチング・パワーだ

▶立嶋の右ロー。なんとか大月の勢いを断ち切りたかったが、あまり効果は上がらなかった

▲最初のダウンシーンは3Rだった。大月の強烈な左アッパーで、立嶋の体はワンテンポ遅れてドッとマットに叩きつけられた

★■7試合/セミファイナル(3分5R)
○大月晴明(5R1分10秒、KO勝ち)立嶋篤史●
〈REX JAPAN〉 〈RIKIジム〉
※右フック。立嶋は3Rに左アッパーでもダウン

チは、洗練されてはいなくても強烈だった。1R、立嶋は左ミドルを一発突き立てただけだ。2Rもそのローはまるで役をなさない。

勝負が決定づけられたのは3Rだった。パンチの応酬のさなかに、大月の豪快な左アッパーカットが舞い上がる。アゴを強襲された立嶋の体から力が失われた。懸命に踏ん張って持ちこたえようとしたが、そのまままたたらを踏んで後ずさりし、バッタリと倒れ込んでしまう。大月が打ち疲れたためにKOは免れたものの、立嶋のダメージはすでに甚大だった。

最終R、立嶋は逆転に一縷の望みをかけて打って出る。大月は真正面から受け止める。そして立嶋は打ち負ける。左フックを浴びてぐらつき、右拳で後退する。半身になって避けるところに、強引な右フックをボディにねじ込まれた。最後は右フックで崩れ落ち、そのまま立てなかった。

試合後、インタビュースペースに一度は顔を出した立嶋だが、「すいません、やっぱり今日は話すことがありません」と言って、そのまま引き上げた。

これまで60度も闘ってきた。35の無上の喜び(勝利)があったかわりに、22の無念(敗戦)も味わった。整理しきれない、複雑な思いもあるはずだ。だが、長い闘いの間に、立嶋の心身はもう十分すぎるほどに痛んでいると思う。

メインでは立嶋と同じ日にデビューした金沢久幸が勝ち、話題の強豪スカボロスキーとの対戦を勝ち取った。試合後もずっと『明日』を語っていた。これもまた勝負の世界の宿命である。

(宮崎)

猪木×ハイロウズTシャツ、凄い人気です。

三代目魚武濱田成夫Tシャツもやっぱり大変です。

© DIET BUTCHER SLIM SKIN

誌上通販もスタート!
つぎのページです。

【(株) アートヴィレッジ提供】

謙吾がハードコアブランド『KARMA』のブランドキャラクターに!

●謙吾Tシャツ (サイズM/サイン入り) **5名様**

※LA生まれのハードコアブランド『KARMA』のブランドキャラクターにパンクラスの謙吾が起用された。この商品に関するお問い合わせは、(株) アートヴィレッジ ☎03-3624-9746まで

【ぴいぷる社提供】

泥酔、バスタイム、ダンシング…誰も知らないプライベート・アントン!!

●アントニオ猪木写真集『人生のHomeLess』

※撮影:橋本田鶴子、制作:モッツ・コーポレーション。定価¥5,000+税。この写真集に関するお問い合わせは、☎03-5232-6661

■応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう!

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、

① 郵便番号・住所・電話番号
② お名前
③ 年齢・ご職業
④ 希望プレゼント名
⑤ 今号で面白かった記事とその理由 (複数可)
⑥ 今号で面白くなかった記事とその理由 (複数可)
⑦ 本誌に対するご意見・ご感想

を書いて、ビシバシ応募してください! なお、このハガキのご意見を無断に『ワンフー・マクダニエル』で掲載させていただくことがあります。実名がマズイ人は、ペンネームも記載してください。

あて先…〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F SRS・DX編集部「たっつぁん万座ビーチ⑭」係まで

締め切り…4月26日(木)
当日消印有効

全国3千万のプロレス&ハイロウズファンの皆様、

お待たせしました。

グレートアントニオ

※4/1～8/31までの「グレート・アントニオ」限定販売

⬆アントンTシャツ
(白/サイズXL・L・M・S) ¥3,500(税別)

⬆アントニオ猪木×ザ・ハイロウズTシャツ
(白/サイズS・XS) ¥2,800(税別)

闘魂お守り⬆
(赤・ネイビー)
¥1,000(税別)

⬆INOKIキャップ
(黒・ライトグレー)
¥3,000(税別)

桜庭和志

FRONT　BACK

⬅SAKUキーホルダー
¥800(税別)

⬆猪木顔面Tシャツ(白/サイズXL・L・M・XS) ¥3,500(税別)

安田忠夫

⬆ヤスベガスTシャツ(白/サイズXL・L・M・XS) ¥3,000(税別)

工作キットSAKU➡
ベルト(本物と同じサイズ&段ボール製) ¥2,500(税別)

⬆AO/DC Tシャツ[ver.2]
(黒/サイズSのみ) ¥3,500
(税別) ※オレンジ部分はラメです。

髙田延彦

⬆アイ・アム・プロレスラーTシャツ
(白/サイズL・M・S)
¥3,800(税別)

小川直也

⬆オーチャンTシャツⒶ
(黒/サイズL・M)
¥3,500(税別)

⬆オーチャンTシャツⒷ
(ラグラン/サイズL・M・S) ¥3,500(税別)

⬅"ハロー・シドニー!!"Tシャツ
(ベージュ・オレンジ/サイズXL・L・M・S) ¥4,000(税別)
※オレンジはSサイズはありません。

ALEXANDER KARELIN

KARELIN

➡"カレリンズ・リフト"Tシャツ
(白/サイズXL・L・M・S)
¥4,000(税別)

アレクサンダー・カレリン

ご注文方法

01 ご注文は電話受付のみです。

『グレート・アントニオ』通販専用NAVIダイヤル

☎(0570)007800 ※携帯電話からは掛かりません。
☎(03)3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。
受付曜日・時間/月曜日～土曜日・AM10:00～PM6:00

02 商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

03 ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、ご注文を受け付けておりません。

第１章　日本人の３人に２人は包茎です。

●東京上野クリニックには、同様の性春の悩みを抱える男性から、年間3万件以上にものぼる相談電話が寄せられています。人気の秘密は年中無休、24時間体制で無料相談が受けられること。これなら周囲に気兼ねすることなく、いつでも、どこからでも好きな時に相談することが可能です。

第２章　包茎は百害あって一利なし。

●包茎の百害損した男たちのエピソードの数々
「包茎が原因で雑菌が溜まり性病をくり返した」（大阪市・29歳会社員Oさんのケース）
「包茎は早漏気味になりやすい」（浜松市・25歳会社員Kさんのケース）
●包茎治療の百利包茎治療で得した男たちのエピソードの数々
「ムスコが一皮むけたら人間も一皮むけた」（大阪市・36歳会社員Aさんのケース）
「いつでも「気持ちいい」セックスができる」（東京都・27歳会社員Fさんのケース）

第３章　最新の技術・無痛治療法。

●この不安を解消するために、東京上野クリニックが導入したのがバイオジェクター。これは麻酔薬をペニスの表面に噴霧して、その時のガスの圧力で皮の感覚を麻痺させます。
●そこで上野クリニックが採用したのが深部冷却法です。これは特殊な柔らかいジェルを半凍結するまで冷やし、それを直接ペニスに巻き付ける方法です。こうすることによって、皮膚の深部まで麻痺させることに成功しました。

第４章　ていねいな手作業「無傷」の仕上がり。

●上野クリニックは機械を用いず、すべて手作業で手術を行います。そして、超精密な手作業技術だからできる、自然な仕上がりを実現します。
●軽度の包茎の方にお勧めしているのが切らない手術法です。これは根元の部分で余った皮を集めて、特殊な組織繊維剤で軽くくっつける方法です。

第５章　男の性を尊重した「安心」の提供。

●スタッフは全員男性。受付から治療にいたるまで一貫して熟練した男性スタッフがあたっています。
●包茎治療で通院した事実を秘密にしたいという誰もが抱く思いを、東京上野クリニックは尊重します。それゆえ、当院では知り合いの人たちだけではなく、来院された他の患者さんとも顔を合わせることのないよう、完全予約制にて診療時間を調整しています。

第６章　早めの対応が肝心な性病治療。

●時々、亀頭周囲や陰茎を注意深く観察してみてください。もしツブツブを発見したら、一人で悩まず、早期治療することをお勧めします。というのも、特殊な機械を使って正しい治療を施さないと、コンジロームは再び増殖を開始する厄介な病気だからです。

第７章　男女とも快感をアップする法。

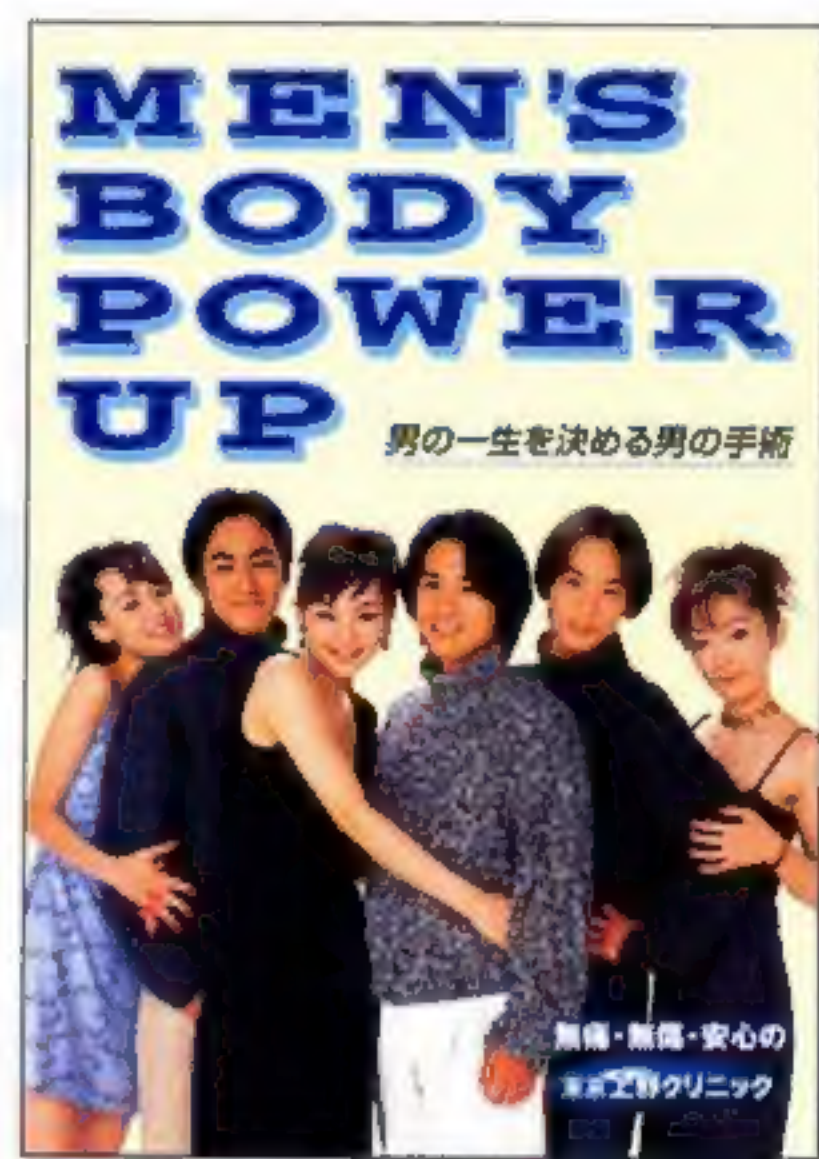
●包皮のだぶつきは、年齢が30代に突入すると徐々に性感を妨げるようになり、ひいては精力の低下につながっていくのです。

第８章　男をさらに磨く改造計画。

●東京上野クリニックでは、この過敏な亀頭を人体無害のコラーゲンを使った独自の特殊な注入方法で、早漏をある程度抑えることができるようになりました。

（以上：目次より）

男の人生を変える一冊。

キーワードは「無痛」「無傷」「安心」。
過去15万人の治療実績を誇る
上野クリニックの技術と安心が
一冊の本になりました。
あなたの下半身の悩みにしっかり、
まじめにお答えします。

「MEN'S BODY POWER UP」
定価648円（税別）
判型：A5判　ページ数：80頁

発行所／株式会社双葉社
〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3番28号

SRSDX 4・26 No.44
大検証！ PRIDE新ルールは是か非か？
プロレス・格闘技SHOP「グレート・アントニオ」開店
平成12年4月25日第3種郵便物認可 平成13年4月26日発行 第3巻・8号・通巻44号
編集人・谷川貞治 発行人・柳沢忠之 発行所・(株)フジテレビ出版／(株)ローデス 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F 電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号
定価680円 本体648円

雑誌 21584-4/26　T1121584040684　Printed in Japan